岐阜県吉城郡宮川村

杉原瑞穂遺跡
発掘調査報告書

山村都市交流環境総合整備モデル事業に伴う埋蔵文化財調査報告

1996年3月

岐　阜　県
宮川村教育委員会

序　　文

宮川村では、伝統を守り、教養を身につけ、文化の高い村をつくることを村民憲章に掲げて、豊かな自然環境にも恵まれ、悠久たる時の流れによって積み上げられた歴史をもつこの郷土において、さらによりよい文化を創りあげるべく、村民と一体になって努力をいたしております。

近年、埋蔵文化財に対する関心が、全国的と言ってよいほどの高まりを見せるなかで、宮川村におきましても埋蔵文化財の重要性を考え、宮ノ前遺跡をはじめ堂ノ前遺跡や家ノ下遺跡あるいは金清神社遺跡など、諸遺跡の発掘調査を手がけてまいりました。このなかで全国的な注目を集める発見が相次ぎ、埋蔵文化財に対する気運も盛り上がりを見せております。

その中で、国土庁指定の山村都市交流環境総合整備モデル事業として、『飛騨まんが王国』の建設とそれに関連する事業を実施するにあたり、瑞穂遺跡の発掘調査を行うこととなりました。

この発掘調査は平成５年度に行い、縄文時代中期の住居址をはじめ各種の遺物が出土しました。そして、北陸地方との交流が盛んであったことが明らかとなりました。また石棒の製作遺跡である金清神社遺跡から出土する石棒と同様の石棒が出土していることも、注目されることであります。

こうした膨大な量の遺物をまとめ、ここに瑞穂遺跡発掘調査報告書の刊行を見るに至りました。

この間、岐阜県教育委員会指導部文化課をはじめとする各位の暖かいご理解と、多大なるご協力をいただきました関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げる次第であります。

これが「飛騨みやがわ考古民俗館」に展示され、大いに活用されるとともに、今後の研究の一助となって、この地方の地域研究がさらに進むことを念じ、序文にかえさせていただきます。

平成８年３月

宮川村村長　　道下　則明

例　　言

1．本書は、岐阜県吉城郡宮川村杉原に所在する瑞穂遺跡の、山村都市交流環境総合整備モデル事業の実施に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、岐阜県教育委員会指導部文化課の指導により、宮川村教育委員会が実施したものである。

3．発掘調査は、平成5年4月14日から同年9月30日まで実施した。

4．調査は調査団と事務局で行い、事務局は宮川村教育委員会が担当した。

5．本書の執筆は、第2章第1節を石腰豊が担当したほかは、河野典夫が行った。

6．図版の作成は、河野典夫が行った。

7．遺物の実測・トレースおよび土器の拓本は、谷畑千春・山小瀬弘子・佐藤晴美・森下美千代・長瀬仁美・河野典夫が分担した。

8．本遺跡の資料は、宮川村教育委員会が保管する。

9．本書に記載した遺跡付近地形図は、国土地理院発行の2万5千分の1地形図（白木峰・有峰湖・飛騨古川・船津）を複製したものである。

10．本書の作成に当たっては、小島俊彰氏をはじめ多数の研究者の方々から貴重な指導や助言を、また調査に当たっては杉原区をはじめ地元の方々から多大な協力をいただいた。心から感謝申し上げる次第である。

凡　　例

1．水平基準線は、地盤高352ｍを０とした。よって層序や遺構の断面図などにある基準線の数値は、地盤高352ｍからのマイナスの数値である。

2．本書に掲載する遺構の実測図は、次の縮尺を基準とした。

住居址…１／40・１／60、土坑…１／40、埋設土器…１／15、炉址…１／15

3．本書に掲載する遺物の実測図は、次の縮尺を基準とした。

縄文土器…１／３、土製品…２／３、石器…２／３・１／３（一部１／２、１／６）、石製品…２／３

4．石器計測値一覧表にある遺物番号は、遺物台帳と同一の記載方法を採用した。

たとえば、ミ・９Ｎ－Ｃ１とあるのは、ミズホイセキ（本文中では「ミ・」と表記）の９Ｎ区における、石器（Ｃ）の第１を示す。

またアルファベットは、Ａ：土器、Ｂ：土製品、Ｃ：石器、Ｄ：石製品、Ｅ：石片およびその他の礫、Ｆ：金属製品、Ｇ：自然遺物を示す。

目　　次

序文…… I
例言…… Ⅲ
凡例…… Ⅳ

第1章　遺跡の環境
第1節　宮川村の環境…… 1
第2節　遺跡周辺の環境…… 3

第2章　調査経過
第1節　調査の経緯…… 4
第2節　調査の概要…… 5

第3章　層　序
第1節　基本層序…… 10
第2節　各層の分布状態…… 13

第4章　遺　構
第1節　住居址…… 14
第2節　土坑…… 23
第3節　埋設土器…… 26

第5章　人工遺物
第1節　縄文土器…… 27
第2節　土製品…… 94
第3節　石器…… 98
第4節　石製品…… 156

挿 図 目 次

第1図　瑞穂遺跡付近地形図…… 2
第2図　遺跡周辺地形図およびグリッド配置図…… 6
第3図　調査区域図…… 7
第4図　セクション図（1）…… 11
第5図　セクション図（2）…… 12
第6図　遺構分布図・地形測量図（1）…… 15
第7図　遺構分布図・地形測量図（2）…… 16
第8図　第1号住居址炉址実測図…… 17
第9図　第2号住居址炉址実測図…… 17
第10図　第3・4号住居址実測図…… 18
第11図　第3号住居址炉址実測図…… 19
第12図　第4号住居址炉址実測図…… 20
第13図　第5号住居址実測図…… 21
第14図　第5号住居址炉址実測図…… 21
第15図　第6号住居址炉址実測図…… 21
第16図　土坑実測図…… 24
第17図　埋設土器実測図…… 25
第18図　縄文土器拓影1　Ⅰ期深鉢第1群土器（1）…… 28
第19図　縄文土器拓影2　Ⅰ期深鉢第1群土器（2）…… 29
第20図　縄文土器拓影3　Ⅰ期深鉢第1群土器（3）…… 30
第21図　縄文土器拓影4　Ⅰ期深鉢第1群土器（4）…… 31
第22図　縄文土器拓影5　Ⅰ期深鉢第2群土器（1）…… 33
第23図　縄文土器拓影および実測図6　Ⅰ期深鉢第1群土器（5）第2群土器（2）
有孔鍔付土器・鉢…… 34
第24図　縄文土器拓影および実測図7　Ⅰ期深鉢第3群土器（1）…… 35
第25図　縄文土器拓影および実測図8　Ⅰ期深鉢第3群土器（2）…… 36
第26図　縄文土器拓影および実測図9　Ⅱ期深鉢第1群土器（1）…… 38
第27図　縄文土器拓影10　Ⅱ期深鉢第1群土器（2）…… 39
第28図　縄文土器拓影11　Ⅱ期深鉢第2群土器（1）…… 40
第29図　縄文土器拓影12　Ⅱ期深鉢第2群土器（2）…… 41
第30図　縄文土器拓影13　Ⅱ期深鉢第3・4群土器…… 43
第31図　縄文土器拓影および実測図14　Ⅱ期深鉢第5群土器（1）…… 44

第32図　縄文土器拓影および実測図15　Ⅱ期深鉢第5群土器（2）…… 45
第33図　縄文土器拓影16　Ⅱ期深鉢第5群土器（3）…… 46
第34図　縄文土器拓影および実測図17　Ⅱ期深鉢第6群土器（1）…… 47
第35図　縄文土器拓影および実測図18　Ⅱ期深鉢第6群土器（2）…… 48
第36図　縄文土器拓影および実測図19　Ⅱ期浅鉢第1～3群土器…… 49
第37図　縄文土器拓影および実測図20　Ⅱ期台付土器・鉢類…… 50
第38図　縄文土器拓影21　Ⅲ期深鉢第1群土器…… 52
第39図　縄文土器拓影および実測図22　Ⅲ期深鉢第2群土器（1）…… 53
第40図　縄文土器拓影および実測図23　Ⅲ期深鉢第2群土器（2）…… 54
第41図　縄文土器拓影24　Ⅲ期深鉢第2群土器（3）…… 55
第42図　縄文土器拓影および実測図25　Ⅲ期深鉢第2群土器（4）…… 56
第43図　縄文土器拓影26　Ⅲ期深鉢第2群土器（5）…… 57
第44図　縄文土器拓影27　Ⅲ期深鉢第2群土器（6）…… 58
第45図　縄文土器拓影28　Ⅲ期深鉢第3群土器（1）…… 59
第46図　縄文土器拓影29　Ⅲ期深鉢第3群土器（2）…… 60
第47図　縄文土器拓影および実測図30　Ⅲ期深鉢第3群土器（3）…… 61
第48図　縄文土器拓影31　Ⅲ期深鉢第3群土器（4）…… 62
第49図　縄文土器拓影および実測図32　Ⅲ期深鉢第4群土器（1）…… 64
第50図　縄文土器拓影33　Ⅲ期深鉢第4群土器（2）…… 65
第51図　縄文土器拓影34　Ⅲ期深鉢第4群土器（3）…… 66
第52図　縄文土器拓影35　Ⅲ期深鉢第4群土器（4）…… 67
第53図　縄文土器拓影36　Ⅲ期深鉢第5群土器（1）…… 68
第54図　縄文土器拓影および実測図37　Ⅲ期深鉢第5群土器（2）…… 69
第55図　縄文土器拓影38　Ⅲ期深鉢第5群土器（3）…… 70
第56図　縄文土器拓影39　Ⅲ期深鉢第5群土器（4）…… 71
第57図　縄文土器拓影40　Ⅲ期深鉢第5群土器（5）…… 72
第58図　縄文土器拓影41　Ⅲ期深鉢第6群土器（1）…… 74
第59図　縄文土器拓影42　Ⅲ期深鉢第6群土器（2）…… 75
第60図　縄文土器拓影および実測図43　Ⅲ期深鉢第6群土器（3）…… 76
第61図　縄文土器拓影および実測図44　Ⅲ期浅鉢…… 77
第62図　縄文土器拓影および実測図45　Ⅲ期浅鉢・台付土器・鉢…… 78
第63図　縄文土器拓影46　Ⅳ期深鉢第1群土器（1）…… 80
第64図　縄文土器拓影47　Ⅳ期深鉢第1群土器（2）…… 81
第65図　縄文土器拓影48　Ⅳ期深鉢第1群土器（3）…… 82
第66図　縄文土器拓影49　Ⅳ期深鉢第1群土器（4）…… 83

第67図　縄文土器拓影50　Ⅳ期深鉢第１群土器（５）…… 84
第68図　縄文土器拓影51　Ⅳ期深鉢第１群土器（６）…… 85
第69図　縄文土器拓影52　Ⅳ期深鉢第１群土器（７）…… 86
第70図　縄文土器拓影53　Ⅳ期深鉢第２群土器…… 87
第71図　縄文土器拓影および実測図54　Ⅳ期深鉢第３群土器…… 88
第72図　縄文土器拓影および実測図55　Ⅴ期深鉢・鉢・浅鉢…… 89
第73図　縄文土器拓影56　Ⅴ期注口土器、Ⅵ～Ⅷ期深鉢他…… 90
第74図　縄文土器拓影57　Ⅷ・Ⅸ期深鉢他…… 91
第75図　土偶・耳栓・土器片錘実測図…… 94
第76図　土製円板実測図…… 95
第77図　打製石斧実測図…… 99
第78図　横刃型石器実測図…… 108
第79図　礫器実測図…… 112
第80図　石皿実測図…… 114
第81図　敲石実測図…… 121
第82図　叩石実測図…… 122
第83図　磨石実測図…… 126
第84図　石鏃・石槍・石匙実測図…… 139
第85図　楔石錐・切目石錐実測図…… 141
第86図　礫石錘計測部位説明図…… 143
第87図　磨製石斧実測図…… 144
第88図　スクレイパー実測図…… 149
第89図　石錐・砥石実測図…… 153
第90図　石冠・硬玉製大珠・垂飾実測図…… 156
第91図　石棒実測図…… 157

付 表 目 次

第1表　土製円板一覧表…… 96
第2表　石器組成表…… 98
第3表　打製石斧一覧表…… 100
第4表　横刃型石器一覧表…… 109
第5表　礫器一覧表…… 113
第6表　石皿一覧表…… 113
第7表　敲石一覧表…… 115
第8表　叩石一覧表…… 122
第9表　磨石一覧表…… 127
第10表　石錐一覧表…… 140
第11表　磨石錘一覧表…… 142
第12表　磨製石斧一覧表…… 145
第13表　石匙一覧表…… 148
第14表　スクレイパー一覧表…… 150
第15表　石錐一覧表…… 154
第16表　砥石一覧表…… 154
第17表　石棒一覧表…… 158

図 版 目 次

1．上：遺跡遠景（北より）
　下：遺跡近景（西より）
2．上：南部完掘状態（北より）
　下：東部・南部完掘状態（西より）
3．上：中央部完掘状態（南より）
　下：北部完掘状態（南より）
4．上：調査風景（遺物包含層掘り下げ）
　下：調査風景（遺構検出）
5．上：第1号住居址炉址完掘状態（東より）
　下：第2号住居址炉址完掘状態（西より）
6．上：第3・4号住居址完掘状態（南より）
　下：第3号住居址炉址断面（東より）
7．上：第4号住居址炉址断面（西より）
　下：第5号住居址完掘状態（東より）
8．上：第5号住居址炉址断面（南より）
　下：第6号住居址炉址断面（南より）
9．上：土坑253断面（東より）
　下：埋設土器1断面（南より）
10．上：埋設土器3断面（西より）
　下：埋設土器4断面（西より）

第1章　遺跡の環境

第1節　宮川村の環境

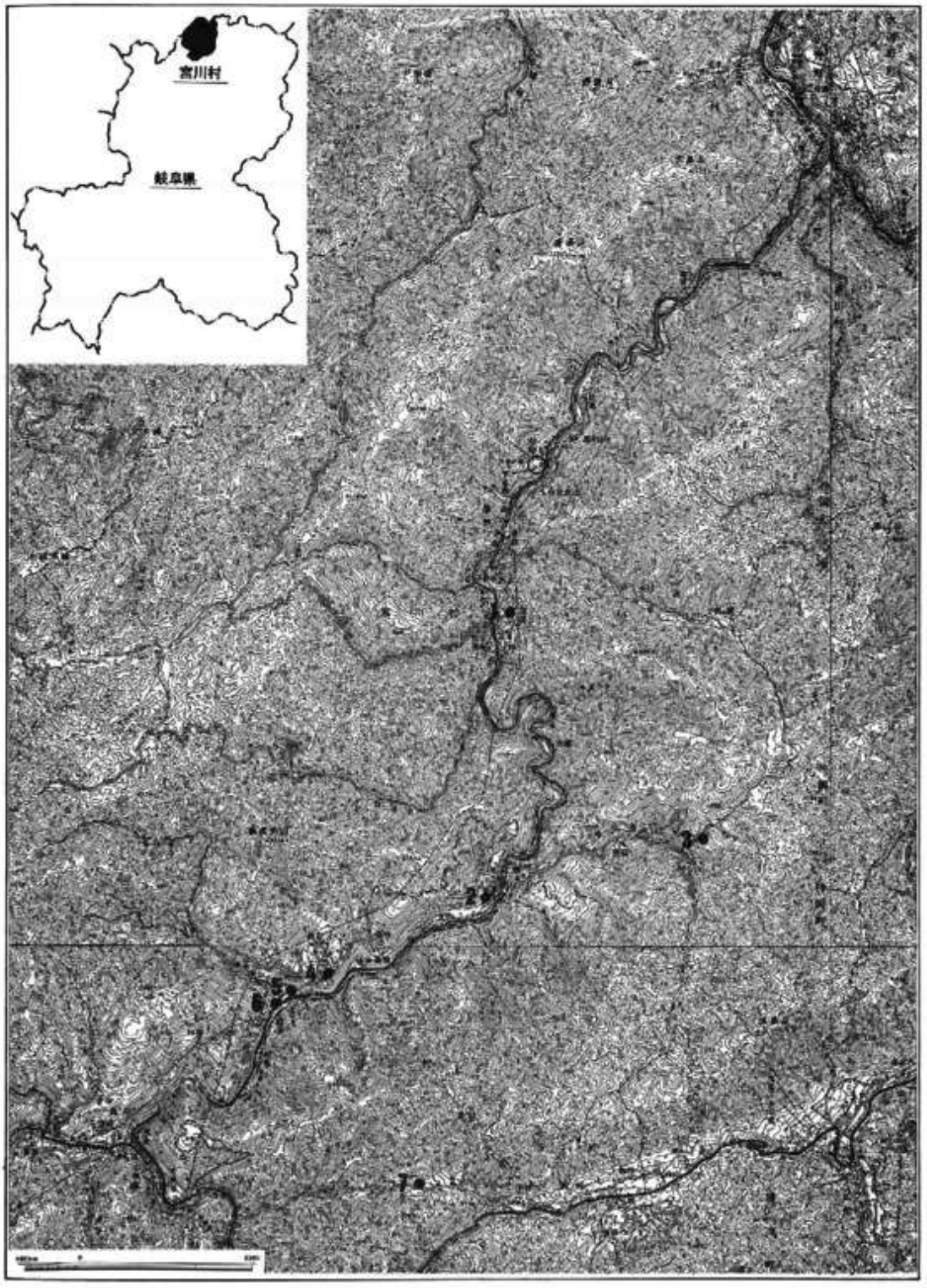
岐阜県吉城郡宮川村は、県の最北端に位置している。北側は富山県との県境になっており、東側は神岡町と、西側は河合村と、南側は古川町とそれぞれ接している。村の中央を神通川の大支流である宮川が、ほぼ南から北へと流下している。宮川は県境の北で高原川と合流し、神通川となって富山湾へ流れ込んでいる。

宮川で形成されたV字型の峡谷は深く、ここへ上流から小谷・苔沼谷・洞谷・打保谷・大谷・戸谷などの支谷が東や西から合流している。支谷の多くは断層に起因しているが、全国的に有名な跡津川断層もその1つである。宮川と並行して流れる万波川とこれらの支谷は、白木峰（1602m）・小白木峰（1436m）・漆山岳（1393m）・流葉山（1423m）・高山（1337m）・蕎麦角山（1222m）・ソンボ山（1193m）などの山地を源流としている。宮川に面する場所は急峻な斜面であるが、標高が高くなるにしたがってなだらかな山並みとなり、万波高原やニコイ高原などの高原地帯が広がっている。

宮川に沿って小規模の河岸段丘が点在しているが、現在の集落の多くは河岸段丘上にある。また村内の縄文時代の遺跡も多くは河岸段丘上に位置している。村の主要交通手段であるＪＲ高山線と国道360号線は宮川と並行して走り、高山方面や富山方面へと連絡している。

『宮川村誌』によると、村の年平均気温は11.3℃、降水量は2000㎜未満で、より内陸にあって標高の高い高山地方と比較して暖かな地方といえる。一方降雪量は多く、1年間の累計では10mを超える。

この地域は、地質上では飛騨片麻岩や船津花崗岩などで構成される飛騨変成帯に属している。日本最古の岩石と見られる飛騨片麻岩が、村内にも広く分布し、船津花崗岩はこれにはさまれるように分布している。この他には石灰岩も散在している。洪積世以降の堆積物は、宮川村の地形上その分布は一部に限られ、河岸段丘や扇状地の上に見られる程度である。



第1図　瑞穂遺跡（○印）付近地形図（付：周辺遺跡分布）

1：塩屋金清神社遺跡、2：宮ノ上遺跡、3：ニコイ岩陰遺跡、4：宮の前遺跡、
5：家ノ下遺跡、6：堂の前遺跡、7：牛首遺跡

第２節 遺跡周辺の環境

遺跡のある宮川村大字杉原は、富山県境まで約２kmの地点にあり、坂下地区では大字打保と並んで人家が密集している。ここにはＪＲ高山線杉原駅のある下位段丘面と、「おんりー湯」や「まんがサミットハウス」などの施設がある上位段丘面の、２つの河岸段丘があるが、瑞穂遺跡はこのうちの上位にある河岸段丘面上に位置している。

発掘地点の標高は約360mで、下位にある段丘面との比高差は約40m、宮川本流との比高差は約60mである。遺跡の西側は比較的開けた斜面で囲まれ、斜面の中央部を「かせが原谷」が流れている。一見して扇状地を思わせる地形で、遺跡の基盤には崖から崩れ落ちたと見られる角礫を中心とした堆積物が認められるほか、湧水もある。河岸段丘が形成された後か、これと並行して扇状地形も形成されていったものと考えられる。

発掘地点は、第２リフト乗り場から基地までの間で、「白木ケ峰スキー場」のスロープの末端に当たる。過去の表面採集や試掘の結果から、調査地点から南東方向、現在の「高齢者コミュニティーセンター」「カフェテリア白木ケ峰」までが遺跡の範囲と見られる。この範囲は先に述べたように扇状地の末端で、扇状地の縁辺だけを活用して遺跡を形成していることになるが、これはスキー場側の平坦面が湧水地帯で、居住するのに適さない場所であるために拠ることで、このことは事前に実施した試掘調査の段階で確認されている。遺跡は、扇状地の北東から南東にかけての末端部にある微高地に形成されているのである。

遺跡の層序については第３章で詳しく述べるが、調査地点の基盤層は灰黄褐色砂質土層で、河川によって運ばれた層と考えられる。この砂質土層は、１m以上堆積しており、下部には礫層が堆積している。これは角礫層で、西側に広がる斜面から崩れ落ちてきた礫と考えられる。扇状地形に起因する堆積物と見られる。

なお瑞穂遺跡から直線距離で２km南には、縄文後期の石棒製作址で石材の産地でもある「塩屋金清神社遺跡」がある。今回の発掘調査で同様の石棒が出土したことから、両遺跡の関連性が注目される。

瑞穂遺跡の研究史については、『宮川村誌・通史編上』に詳しく紹介されているが、それによると明治20年には杉原遺跡の名称で学会誌に報告されている。この場合の杉原遺跡は文脈などから瑞穂遺跡を指していることは明らかであるが、『岐阜県遺跡地図』にはそれぞれが別の遺跡として登録され、杉原遺跡は現在のＪＲ杉原駅の西側に置かれている。今回の報告では『岐阜県遺跡地図』に基づき、遺跡の名称を瑞穂遺跡とした。

第2章　調　査　経　過

第1節　調査の経緯

宮川村では、地域の振興を図る事業の一環として、温泉ボーリング調査を計画した。昭和62年4月、関係機関の協議によりボーリング位置が大字杉原字牧花地内に決定した。同年8月、温泉審議委員会の最終許可を得て、9月からボーリング調査を開始した。この結果、昭和63年3月には揚湯に成功した。その後の継続調査で、毎分120ℓと予想以上の湯量が確保されたことから、数百人程度が収容可能な、大規模リゾート施設の設置が可能となった。

平成2年度からは、国土庁指定山村都市交流環境総合整備モデル事業が採択された。『地域産業の活性化、雇用の場の提供、若者の定住促進』を目的としてもので、具体的には飛騨まんが王国の建設事業である。これはＪＲ高山線の杉原駅から徒歩で4分の位置にある白木ケ峰スキー場をはじめとする既存の施設を活用しながら、健康・休養・大自然の要素を最大限に取り入れた「ぬくもりのプチリゾート」を建設することである。温泉施設と冬期のスキー場が拠点となるが、まんが図書館・まんがの宿などの施設を併設することで、宮川村を訪れる都市住民に現在ある自然を満喫してもらうことだけでなく、まんがという誰をも楽しくしてくれる素材を取り入れることで、村民との多様な交流を期待しつつ、都市住民の第二のふるさと作りを目指すものである。

宮川村教育委員会では、まんが王国全体開発計画に基づき、同開発計画地内に瑞穂遺跡が存在することから、岐阜県教育委員会文化課の指導により、同遺跡の発掘調査を計画した。この調査には岐阜県の埋蔵文化財緊急発掘事業の採択を受けている。

年度ごとの事業内容は、以下の通りである。

平成5年度
発掘調査と一部整理作業
平成6年度
遺物整理作業
平成7年度
整理作業と発掘調査報告書の刊行

第2節 調査の概要

1．調査団の編成

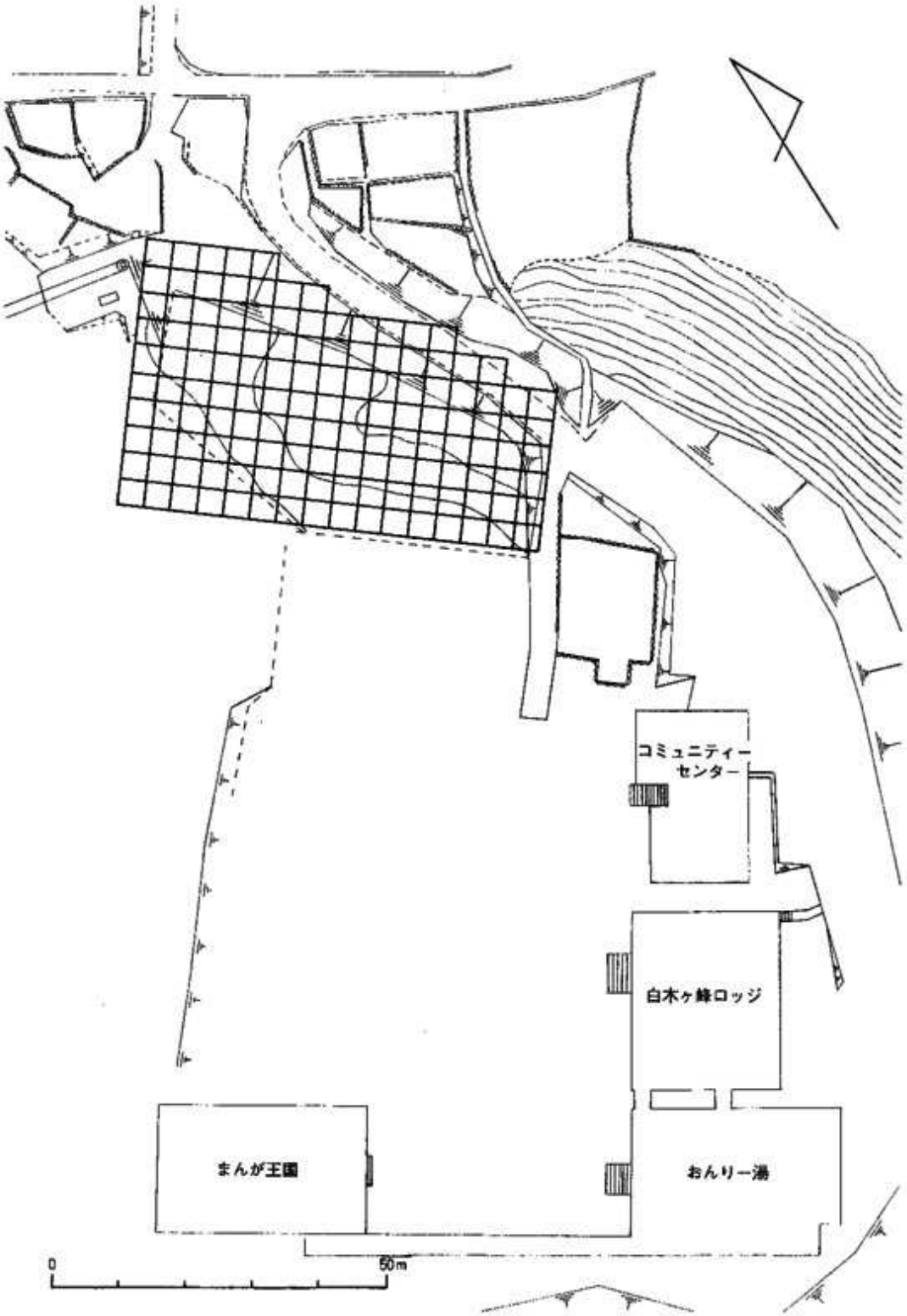
瑞穂遺跡発掘調査の調査団は、以下のように組織した。

団　　長	道下　則明	宮川村長			
副 団 長	野村　恢司	宮川村教育委員会教育長（前）			
	谷口　　徹	宮川村教育委員会教育長			
調査指導	早川　正一	南山大学文学部教授			
	大熊　厚志	岐阜県教育委員会文化課			
調査主任	河野　典夫				
補助調査員	立田　佳美				
調査作業員	荒木　静江	新谷キヨ子	和泉　静江	井畑　一道	
	上野　恵枝	大石　由三	大石サイ子	大上ヨシ子	
	大下キヨ子	大下　与吉	大ド　フサ	沖畑　　宏	
	桜井　昌則	新家　健吉	新家トミノ	谷畑　通造	
	中嶋　睦子	中瀬　千秋	中畑　亀繁	野村　かね	
	峯尾トミ子	山森みさを	佐藤　晴美	谷畑　千春	
	長瀬　仁美	森下美千代	山小瀬弘子		
事務局					
局　長	幅　　雅久	宮川村教育委員会事務局長（元）			
	森下　真次	宮川村教育委員会事務局長（前）			
	石腰　　豊	宮川村教育委員会社会教育係長			
庶　務	平田　治美	宮川村教育委員会嘱託員（前）			
	小鳥　　功	宮川村教育委員会主事補			
	道上　　圭	宮川村教育委員会主事補			

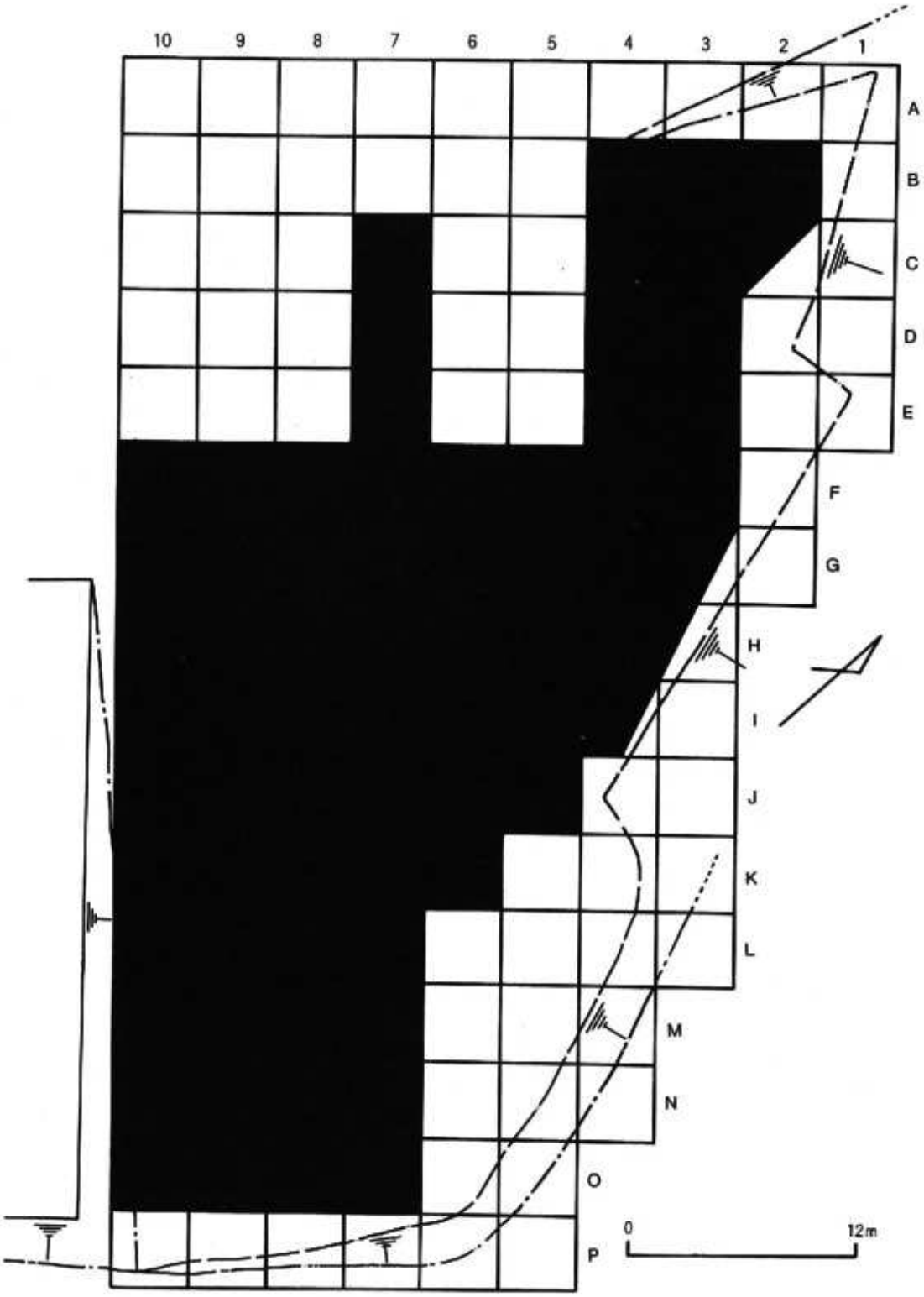
2．調査方法

調査地点が河岸段丘の北東の縁辺に位置することから、この崖線と平行する方向にグリッドを設定した。グリッドは、4m四方を1単位とした。調査対象地域の北西端を起点として、南北方向を1～10、東西方向をA～Pとして、それぞれの交点で各グリッドを呼称する。

調査は、まず4mのグリッド中で土層観察用のトレンチを設定した。東西方向（7列）と南北方向（I列）の2本のトレンチを掘り下げ、セクション図を作成した。この後、保安上から法面を残しただけで、ほぼ完全に調査対象地を地山面まで掘り下げた。つぎに、検出した住居址をはじめとする遺構を掘り上げ、実測と写真撮影を行い、調査を終了した。なお調査は、一部の表土を除いて、すべて人力で掘り下げた。



第２図　遺跡周辺地形図およびグリッド配置図



第3図　調査区域図

出土した遺物は、遺物登録カードを使用して取り上げた。遺物は、グリッド・遺構を単位として、作業日の層毎に、種別に、一括して取り上げた。遺構から出土した遺物は、原則として床面から出土したものだけを図化した。

実測図は、セクション図＝1／20、住居址・土坑・溝＝1／10、炉址・埋設土器＝1／5の縮尺で作図した。

炉址や埋設土器の埋土は、水洗選別のサンプルとして一部を採取した。

写真撮影は、白黒36㎜、リバーサル36㎜の各フィルムを使用した。

3．調査概要

今回の調査で発掘した面積は、1,100㎡である。調査範囲の現況は、荒地と一部水田であったが、以前にはすべて水田として利用されていたことが、調査でも明らかになっている。

調査対象地内には、特に縁辺部を中心にして、耕作地としての開墾やスキー場の造成のために人手が入り、縄文時代以降の自然堆積層は、一部分を除いて、ほとんど存在しないことが判明した。このことは特に8列から北側で顕著に認められ、この部分では地山面までが削平され、遺構も残存していなかった。この地区からも土器片をはじめとする遺物が多量に出土しているが、これは後世に人為的に移動された、二次的な堆積層から出土したものである。

一方、9・10列では、盛土層の下に薄くではあるが遺物包含層が残っていて、包含層の下からは住居址や土坑が密集して検出された。基盤層は、灰黄褐色砂質土層で、北側の削平された地区ではこの下に堆積している礫層が地山面になっている。

6F区から3G区にかけて、巾が2m前後で、深さが0.5～1m程度の小規模な谷が検出された。南から北に向かって流下する谷で、土層の堆積状態から自然に形成されたものと見られる。形成された年代は、瑞穂遺跡が営まれた縄文時代中期以前と考えられる。

この小規模な谷より北西寄りからも、9・10列ほど密集はしていないが、遺構が検出された。耕作土層の直下から検出された遺構のため、遺存状態は良好とは言えない。

調査対象地域の全般から、土器をはじめとする縄文期の遺物が多量に出土しているが、これには後世の開墾などによる人為的な再堆積層から出土した遺物が含まれている。遺構の検出された9・10列では、遺物包含層が薄くではあるが残っていたのに対して、この北側では地山面までが撹乱され、遺構は検出できなかった。また遺構の分布状態から、遺跡は河岸段丘の縁に沿って、調査対象地区の南東方向へ続くことが、容易に想像できる。

4．調査日誌（抄）

発掘作業は、準備作業の後平成5年4月14日に開始した。

遺跡全体の土層堆積状態と、遺構の有無を確認する必要から、調査区のほぼ中央に十文字にトレンチを設定したが、このうち東西に長い7列から着手した。このトレンチの調査は1週間で終了したが、7I区から西側に遺物包含層が薄く堆積しているのが確認された。

7列の調査に続いて、I列のトレンチを4m巾で掘り進めた。このトレンチの調査では、9・10I区で灰暗褐色系遺物包含層の堆積が認められたほか、地山面では遺構の存在が確認された。

トレンチ調査は、4月中旬で終了した。

5月に入り、トレンチ調査で9・10列から遺物包含層と遺構が検出されたことから、8列を含めた調査区南側の掘り下げを開始した。灰暗褐色系の遺物包含層は、上部が削り取られてはいたが20～30cm程度は残っており、多量の遺物が出土したほか、多数の住居址・土坑も検出された。この地区の掘り下げは、7月中旬で終了した。

続いて調査区のほぼ中央にあたる、4～6F～H区の調査を開始した。この地区から遺構は検出されなかったが、南から北へ地盤の傾斜に沿って流下する、小規模な谷の存在を確認した。

この後、7月中旬からは調査区の北西部分を掘り進めた。ここでは耕作地を開墾する際に削平されることを免れた遺構が、良好な遺存状態とは言えないまでも、確認された。

8月中旬からは、この時点までに検出した遺構の調査を開始した。調査区の南東部から着手して、北西部へと順次遺構を掘り進めた。9月下旬にはすべての遺構を掘り終え、この後写真撮影・遺構実測・地形測量を行い、現地調査を終了した。

第3章　層　　序

第1節　基本層序（第4・5図）

本遺跡からは、縄文中期中葉から晩期までの、各期の遺物が出土している。一方、発掘調査で検出した遺構の多くは中期後葉のものである。これらの遺物は、今回の調査対象地内から広く出土しているが、これらを包含する層は一様ではない。当時のまま残されている良好な遺物包含層は、後世の開墾や造成を免れたものが、部分的に遺存していたにすぎない。遺物包含層は、色調から2つに分けられる。調査区の南端にあたる9・10列には灰暗褐色土層が、また調査区の中央から北西端にかけては黄茶褐色土層が、それぞれ堆積している。黄茶褐色土が灰暗褐色土の下へ潜り込むように堆積している部分もあるが、出土する遺物に時期差はない。両者は本来同一の層であったものが、北西端の黄茶褐色土が湧水の影響を受けて変色したものと考えられる。

遺物はⅡ層：盛土層からも多量に出土している。これは南西側の調査地区外にあった遺物包含層が、人為的に調査区内へと押し出されたものである。この層は水田耕作土を覆うように、広い範囲に堆積している。

ここでは、遺物包含層の広がりを示すことを主眼にしてセクション図（第4・5図）を示し、本遺跡の基本層序について述べる。

Ⅰ層：表土層

ここでは開墾後の表土層を1層とした。水田耕作土とその畦くろをa層、水田耕作土に伴う床土をb層とした。Ⅰ層は畦くろを除いて、その性格上から水平堆積をしている。ある区域ではⅡ層が表層となっている場合もあるが、ここではあくまでも開墾後の表土層と理解される層をⅠ層とした。

Ⅱ層：盛土層

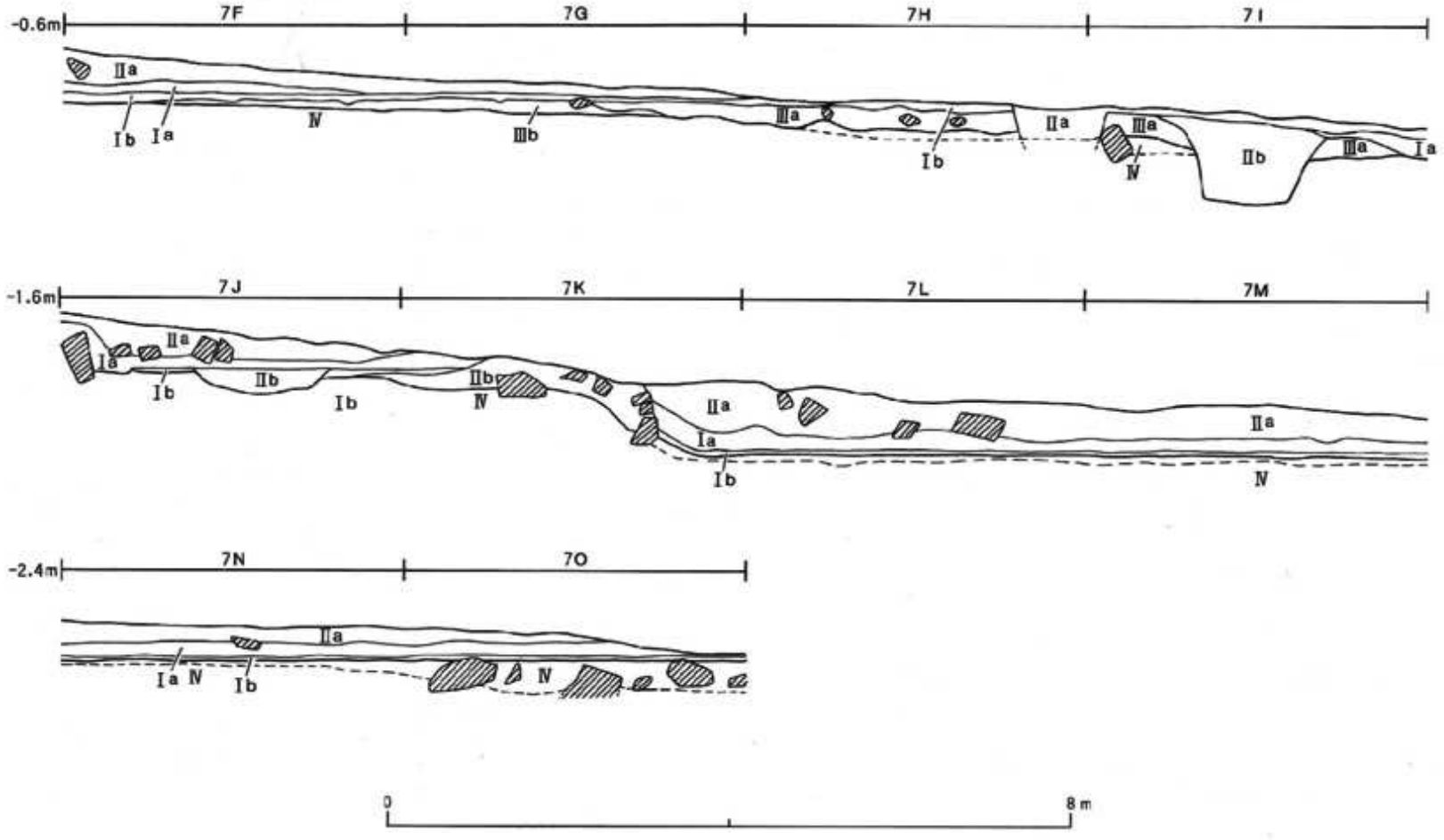
人為的に盛られた層をⅡ層とした。スキー場を造成する際に盛り土されたa層と、開墾の際に水田耕作土の下に盛り土されたb層に分けられる。このⅡ層には、Ⅰ～Ⅳまでの各層が含まれるため、場所により色調や土質が大きく異なる。遺物包含層が再堆積している場合には、多量の遺物が包含されている。

Ⅲ層：遺物包含層

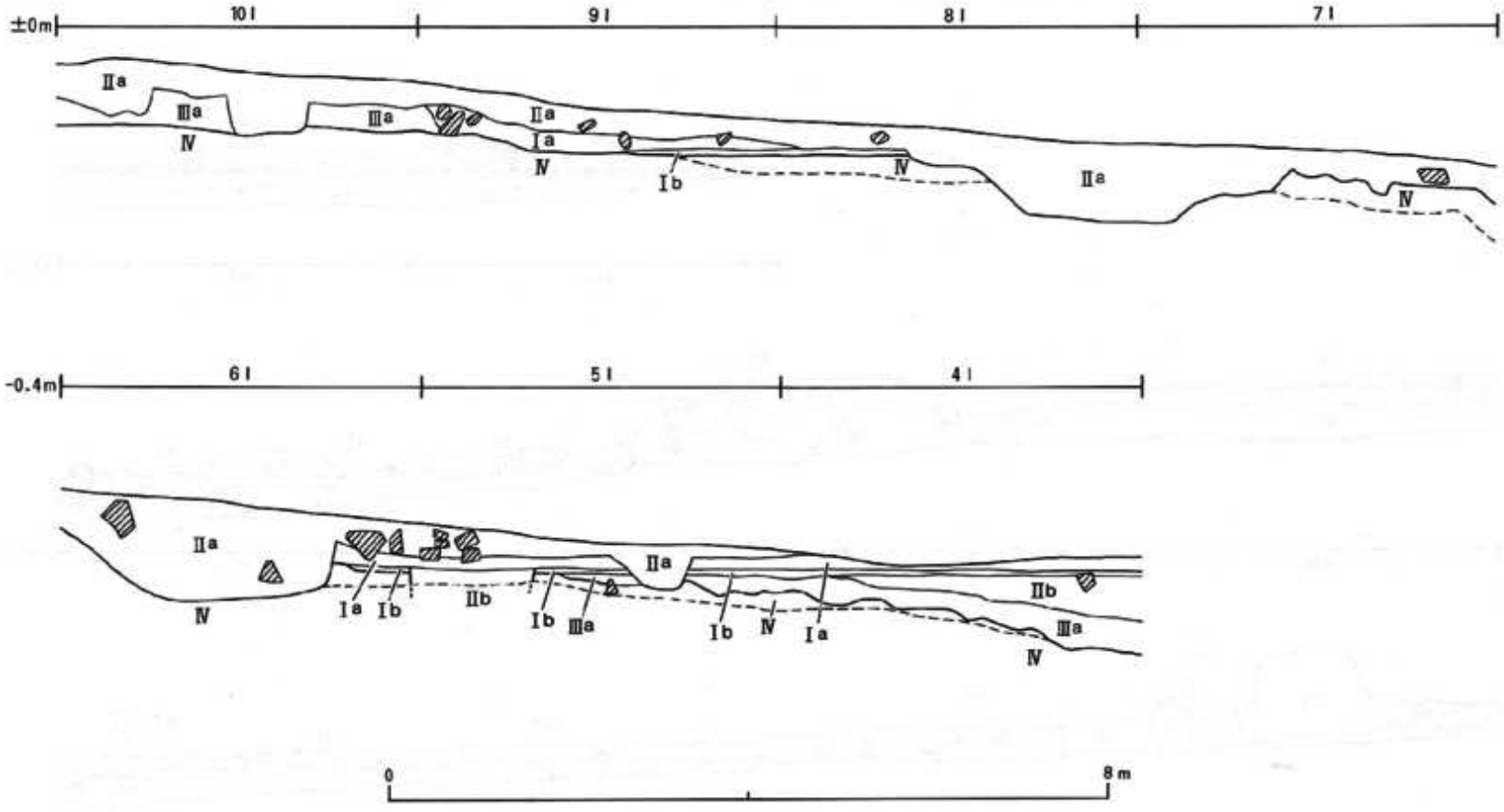
縄文時代から攪乱を受けることなく存在してきた層である。灰暗褐色系のa層と、黄茶褐色系のb層に区分できるが、これは先に述べたように湧水の影響による色調の変化と見られる。2つの層は一部重なり合う部分もあるが、調査対象地のほぼ中央を境に、a層は東側に、b層は西側に分布している。

Ⅳ層：地山層

灰黄褐色砂質土が地山層で、河川によって上流から運ばれてきたと見られる。造成の際に深く削られた地区では、この下位にある礫層が露出している。



第4図　セクション図(1)


±0m
10I
9I
8I
7I
IIa
IIIa
IIIa
IIa
Ia
IV
IV
Ib
IV
IIa
IV
-0.4m
6I
5I
4I
IIa
IV
Ia
Ib
IIb
Ib
IIIa
IIa
Ib
IV
Ia
IIb
IIIa
IV
0
8m

第5図　セクション図(2)

第２節　各層の分布状態

第１節で述べた各層の分布状態は、以下の通りである。

Ⅰ層：表土層

第４・５図のセクションに示したように、現況の地表面はほぼ南から北へと向けて緩やかに傾斜している。これはスキー場を造成する際に、調査対象地の南西側から押し出された土層が堆積し、現在のようななだらかな斜面を形成したものである。この下層にはⅠａ層：水田耕作土層とこれに伴う畦くろ、Ⅰｂ層：床土層が水平に堆積している。水田の１枚毎の面積は狭く、７列ではⅦ区とⅦ区の境界・７ｋ区のほぼ中間に、またⅠ列では10Ⅰ区と９Ⅰ区の境界・７Ⅰ区と６Ⅰ区の境界に、それぞれ水田の畦くろと石垣が認められる。

Ⅱａ層：盛土層

水田開墾以降に盛り土された層で、具体的にはスキー場のスロープとして水田を埋めたものである。調査対象区域の全般に広く分布しているが、４列から北側と、５列の東側やＯ列などの末端に近い区域では認められない。堆積状態は一様ではなく、８Ⅰ区と７Ⅰ区の中間や６Ⅰ区では地山層まで掘り込まれた状態で、厚く堆積している。

Ⅱｂ層：盛土層

水田開墾時に盛り土された層である。水田は傾斜地を切り盛りして作られていることから、それぞれの水田の北側に認められるが、平面的には狭い範囲に分布しているにすぎない。また５Ⅰ区と７Ⅰ区にある掘り込みは、ちょうどこの辺りが西側の谷で形成された扇状地形の末端に当たり湧水が豊富であることから、水抜き用の暗渠と考えられる。

Ⅲａ層：遺物包含層（灰暗褐色土層）

縄文期の遺物包含層であるが、今回の調査区域内では水田開墾時に大部分が削り取られ、南側と北側でのみ認められた。９・10列では平均して30cm程度を残して上部は削り取られていたが、多量の遺物が出土したほか、地山面からは住居址や土坑が検出された。また河岸段丘の末端部に近い４Ｈ・Ⅰ区にも分布していたが、９・10列のように多量の遺物を包含してはいなかった。

Ⅲｂ層：遺物包含層（黄茶褐色土層）

第５図の７Ｇ区から７Ｈ区にかけて、Ⅲａ層の下に潜り込むように堆積している。しかし２つの層の遺物に時期差が認められないことと、７Ｇ区から西側では調査中でも多量の湧水があったことから、色調は異なるが、本来は同一の層であると見られる。６Ｆ区から３Ｇ区にかけて検出された小規模の谷には、このⅢｂ層が堆積している。この層から出土する遺物の量は、西側へ向かうほど減少する。

Ⅳ層：地山層

河川による堆積と考えられる灰黄褐色砂質土層が、基盤に認められた。７Ｏ区ではこの下層に当たる礫層が露出している。この礫層の上面と、地山面の最も高い場所の標高を比較すると、灰黄褐色土層が２ｍ以上堆積していることが分かる。

第4章　遺　　構

第1節　住居址

今回の調査で検出できた遺構は、住居址6基・土坑268基・埋設土器4基である（第6・7図）。遺構は、調査対象地域の南側に偏る傾向にあるが、このことは第2章の調査経過や第3章の層序で述べたように、この開墾時以降における人為的な撹乱が大きく影響している。

1．第1号住居址（第8図）

〈遺構の位置と確認〉9M区に位置する。

水田耕作土と床土層の直下から、炉址のみが検出された。住居の壁は、開墾の際に削平されたものと見られ、遺存していない。また住居址の範囲を示すような貼り床の広がりも認められないことから、平面形や規模は不明である。

〈炉址〉4つの扁平な礫を組み合わせた石囲い炉である。規模は、一辺が約40cmと小振りで、平面形は正方形に近い。

覆土は1層：暗褐色土である。

なお炉址内から、住居址の時期を決定する資料は出土していない。

2．第2号住居址（第9図）

〈遺構の位置と確認〉炉址は10I区に位置する。

床土層の下、Ⅲa層を20cm程度掘り下げた所から炉址が検出されたことから、所在が確認された。炉址を中心にした範囲を精査したが、住居の壁は確認できなかった。また住居址の範囲を示す貼り床も認められなかったことから、平面形や規模は不明である。

また第6図からも明らかなように、炉址の周辺には土坑が密集しており、主柱穴の配置を知ることも不可能であった。

〈炉址〉石囲い炉である。炉址は2段の掘り込みがあり、それぞれ石で囲まれている。中間の礫が遺存していないことから断定はできないが、軸方向が一致していることから複式炉の可能性が高いと考えられる。北側の深い掘り込みの炉には、底面全体に礫が敷き詰められていたとみられる。

炉址の規模は長軸で約120cm、短軸で約70cmである。ほぼ南方向に長い。床面からの掘り込みは南側の浅いほうが約15cm、北側の深いほうが約35cmである。

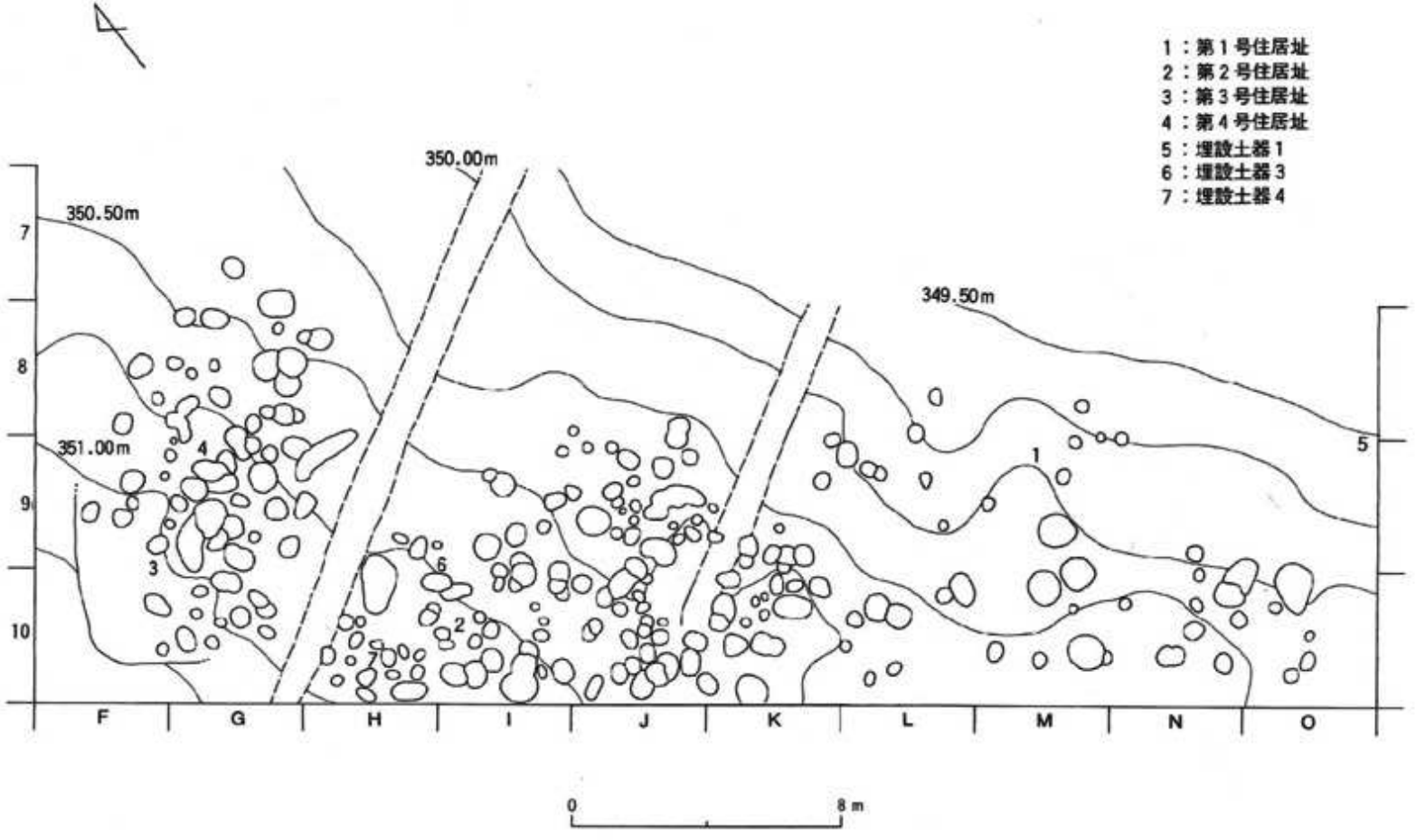
覆土は、1層：灰暗褐色土層、2層：灰橙褐色土層に区分されるが、2層中には焼土が多量に含まれている。

なお炉址内からは、住居址の時期を決定する資料は出土していない。

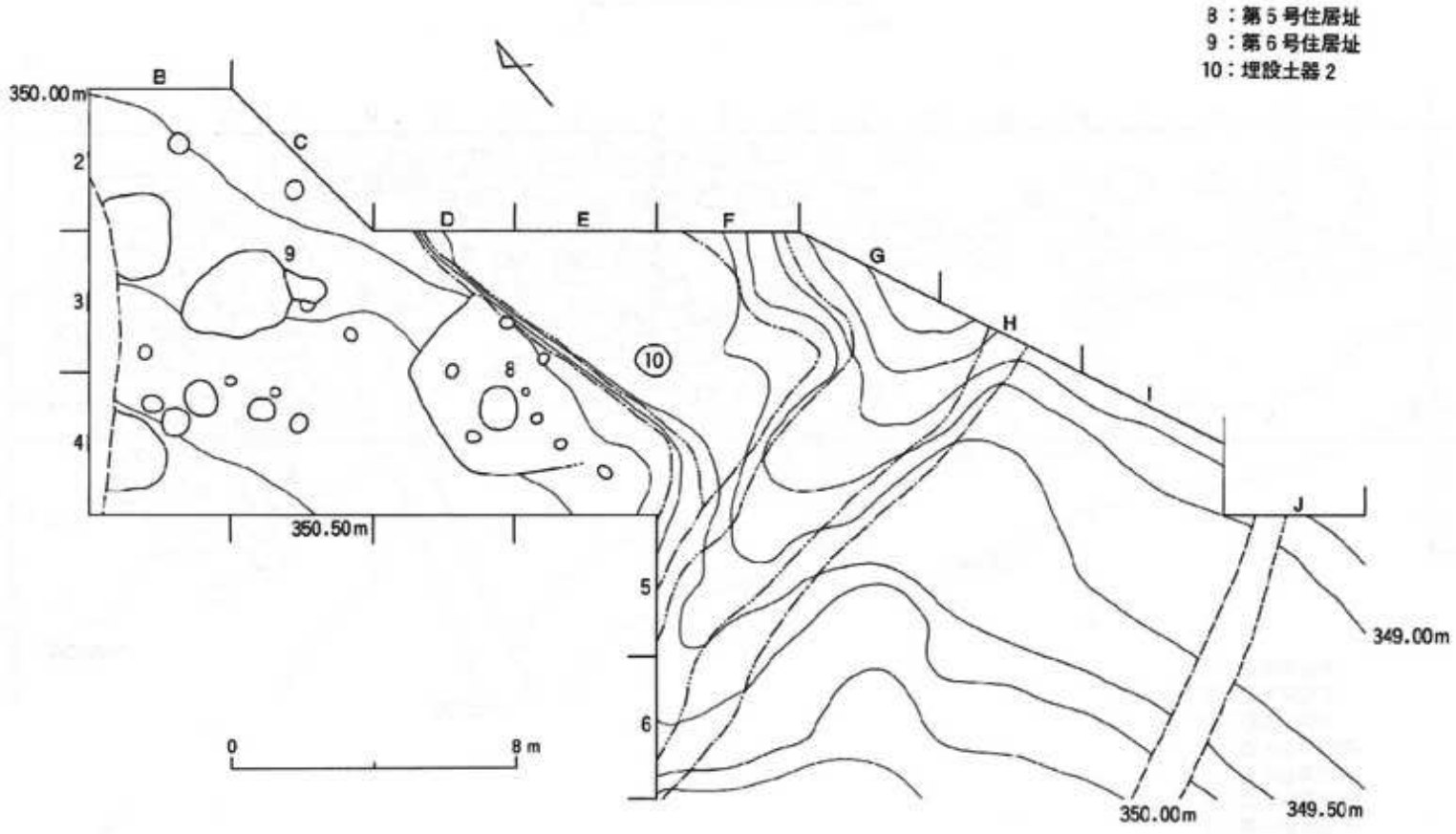
3．第3号住居址（第10・11図）

〈遺構の位置と確認〉9・10F・G区に位置する。

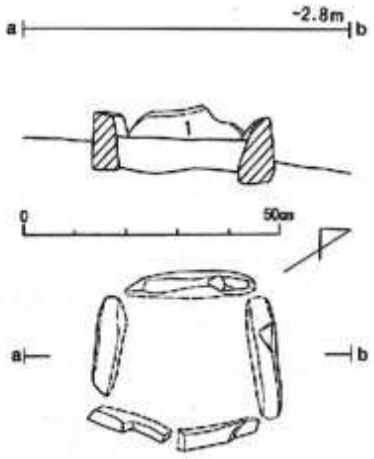
Ⅱ層：盛り土層の直下から、南側と西側の壁の一部が検出され、住居址の存在が確認された。



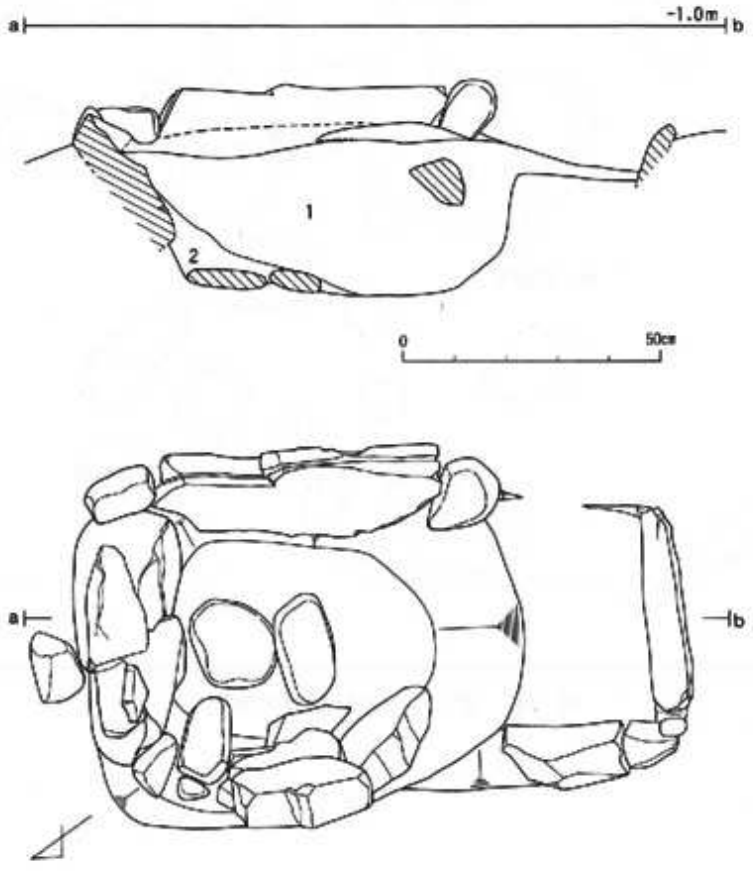
第6図　遺構分布図・地形測量図(1)



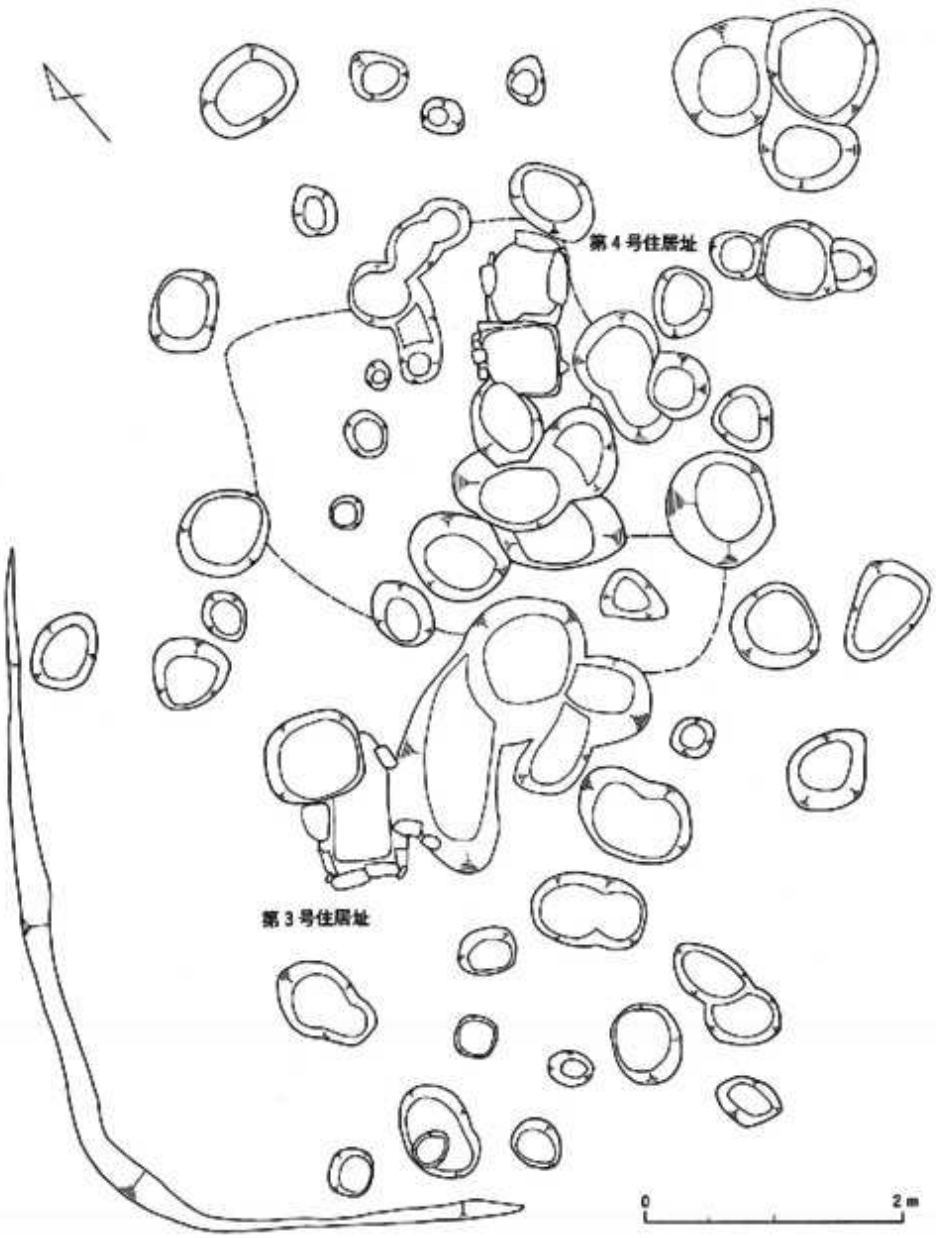
第7図　遺構分布図・地形測量図(2)



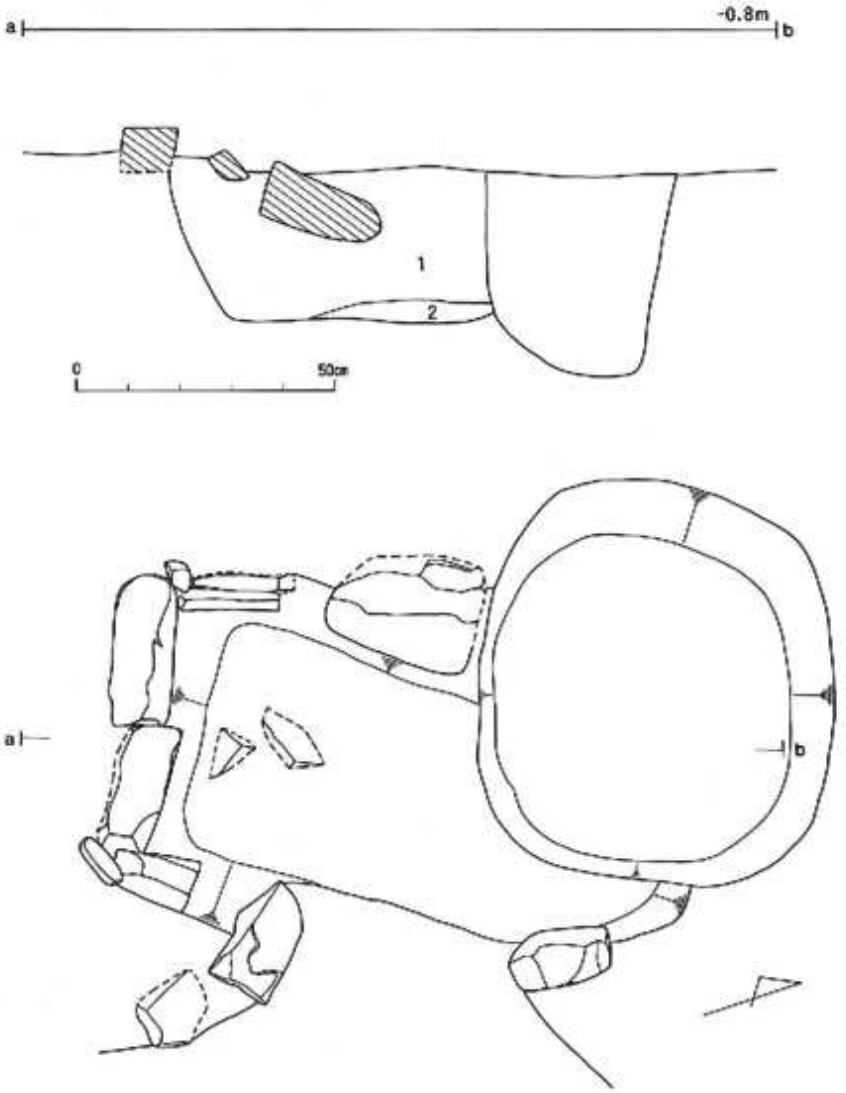
第8図　第1号住居址炉址実測図



第9図　第2号住居址炉址実測図



第10図　第3・4号住居址実測図



第11図　第３号住居址炉址実測図

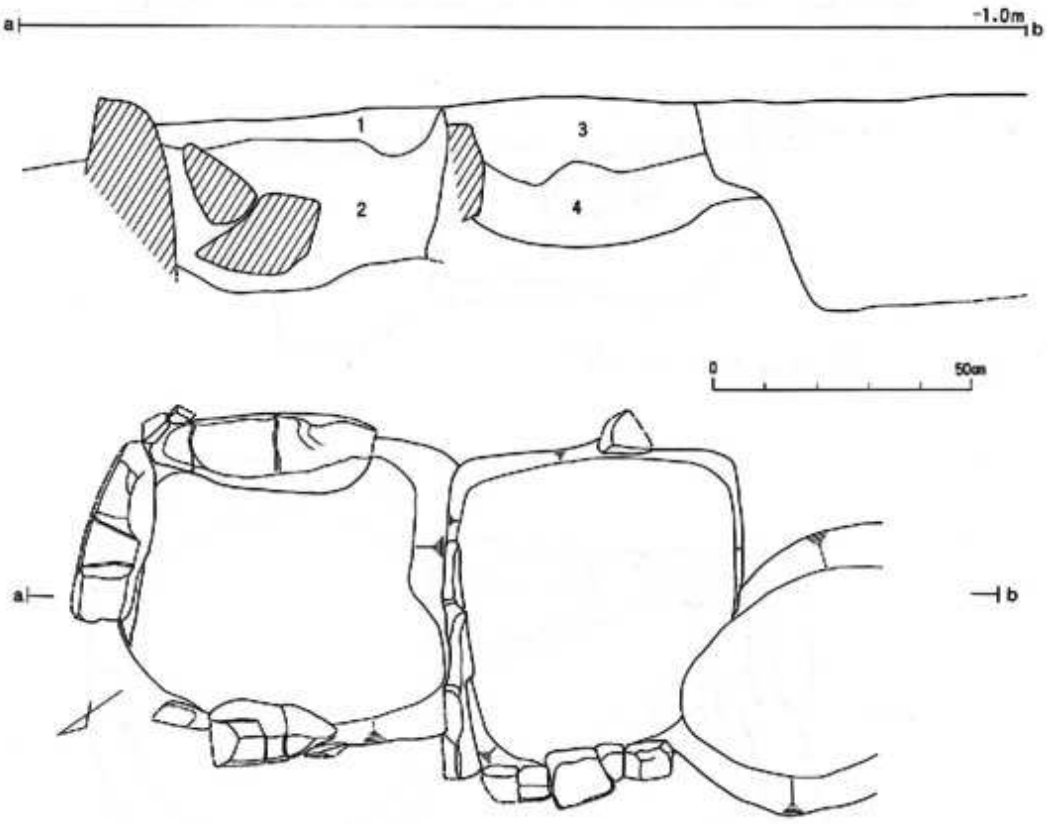
しかし、住居の壁は大部分削平されており、床面から遺構確認面までの高さは最大でも10cm程度にすぎない。また第10図からも明らかなように、土坑が混みあって検出されたため、主柱穴の配置は不明である。

住居址の北東側は第４号住居址と重複しているが、両者の時期的な前後関係は不明である。

〈平面形・規模〉検出された南壁と西壁から、平面形は隅丸方形と考えられるが、規模は不明である。

〈床面・壁〉地山層である灰黄褐色砂質土をそのまま床面にしている。西側の山地から浸透してくる地下水の影響で湿気が多く、床面にしまりはない。

壁は南側と西側の一部が検出されたが、床面から検出面までの高さは最大でも、10cm程度である。



第12図　第４号住居址炉址実測図

〈炉址〉石囲い炉である。半分程度しか遺存していなかったが、ほぼ南側に長い方形のプランと見られる。約30cm掘り込まれているが、覆土は１層：灰褐色土層と２層：灰黒褐色土層に区分できる。

なお、第３号住居址の所属位置を決定付ける遺物は出土していないが、わずかな覆土や炉址から出土した遺物から、中期後葉の住居址と考えられる。

４．第４号住居址（第10・12図）

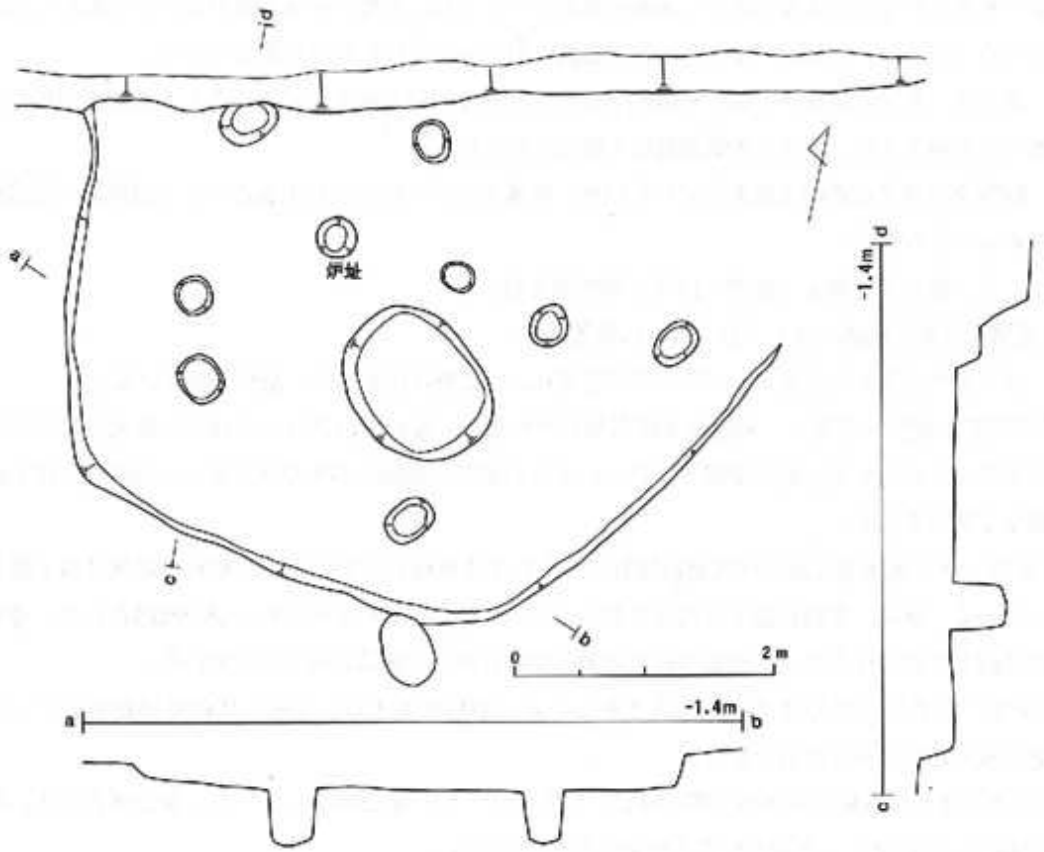
〈遺構の位置と確認〉８・９Ｆ・Ｇ区に位置する。

先に確認された第３号住居址の床面を検出する際、第10図に破線で示した範囲から貼り床が検出されたことから、新たな住居址の所在確認された。なお貼り床の炉址から北側は削平されていた。

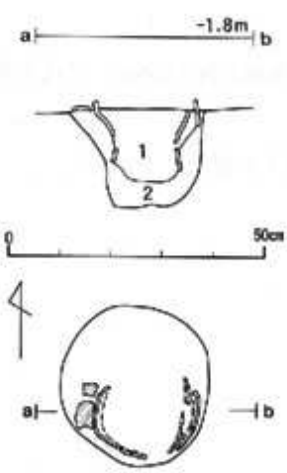
〈平面形・規模〉壁が検出できなかったことから平面形は不明である。また貼り床の北側が削平されていたことから、規模も不明である。

〈床面〉第10図に破線で示した貼り床は、特に固くしまりがあり、また赤色に変色していたことから、意図的に焼かれて床面として使用したものと考えられる。厚さは最大で約10cmである。

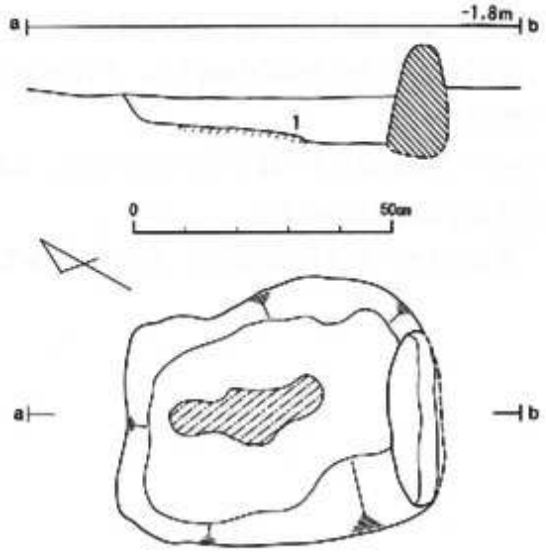
〈炉址〉２つの石囲い炉が接して検出されているが、構造的にも、また軸方向がずれていること



第13図　第５号住居址実測図



第14図　第５号住居址炉址実測図



第15図　第６号住居址炉址実測図

からも複式炉とは考えられない。両者の関係については、北側の炉址の礫が高いレベルから検出されたことから、住居址の建かえの際に北側の炉址が作られたものと理解される。

覆土は、北側の炉址が1層：灰黄褐色土層、2層：灰暗茶褐土層に区分され、南側の炉址が3層：灰茶褐色土層、4層：灰暗茶褐色土層に区分される。

時期を決定する遺物は出土していないが、炉址などから出土した土器から、中期後葉の住居址であると見られる。

5．第5号住居址（第13・14図、第25図2他）

〈遺構の位置と確認〉3・4D・E区に位置する。

床土層の直下から住居址のプランが確認された。北側は開墾の際に削平されている。

〈平面形・規模〉南壁と、東壁および西壁のそれぞれ一部が検出され、それから隅丸方形のプランを呈すとみられる。北側が削平されているため実際の規模は不明であるが、一辺の長さは4m程度と推定される。

〈床面・壁〉地山層である灰黄褐色砂質土をそのまま床面にしているが、炉址の周囲は固く締まっている。壁は、南側が完全に検出されたほか、東壁と西壁のそれぞれ一部が検出された。遺構確認面と床面の比高差は、南壁の最大で30cmであるが、北側ほど低くなっている。

〈炉址〉埋甕炉（第25図2）が検出されている。炉址の覆土は、1層：灰暗黄褐色土層と、2層：灰黄褐色土層に区別できる。

〈出土遺物〉埋甕炉の炉体の土器以外に、第21図2・10、第22図1・3・5、第23図2～4、第24図2、第25図1・3などが覆土中から出土している。

出土遺物から、第5号住居址は中期前葉のものであると考えられる。

6．第6号住居址（第15図）

〈遺構の位置と確認〉3C区に位置する。

床土層の直下から炉址が検出され、住居址の所在が確認されたが、炉址以外についてはすべて不明である。

〈炉址〉東側の礫が1つ残っているだけだが、石囲い炉である。長軸方向が60cm、短軸方向が50cm程度の規模と見られる。

覆土は1層：暗黄褐色土層で、平面図に斜線で示した範囲に焼土が堆積していた。

第２節　土坑（第16図）

今回の調査で検出できた土坑は268基である。分布などについては第２章で述べたのでここでは省略するが、第６・７図に示したようにかなり密集した状態で検出されている。直径が20～30cm程度の、住居址の柱穴を思わせる大きさの土坑が大部分を占め、広い意味での土坑の総数が268基である。

ここでは、より狭い意味での土坑のうち、平面・断面形に特徴のあるものを取り上げた。ただしここで省略した土坑についても、実測図などの諸記録はすべて作成し、保存してある。

１．土坑20・21

10M区に位置する。２つの土坑の平面形はほぼ円形である。最大径はともに1.0ｍで、深さは土坑20が0.4ｍ、土坑21が0.3ｍである。底面は平坦で、壁は鋭い角度で立ち上がっている。覆土は土坑21が１層：暗褐色土層、土坑20が２層：暗褐色土層、３層：暗褐色砂質土層である。

出土遺物から、後期前葉に属すと見られる。

２．土坑17

10M区に位置する。径は1.1×1.0ｍと円形に近い。深さは0.2ｍで、皿状の断面形態であるといえる。土坑16と接し、覆土は１層：暗茶褐色土層、２層：黄褐色砂質土層に区分できる。出土遺物から、後期前葉のものと見られる。

３．土坑180

10Ｊ区に位置する。径が0.7×0.6ｍと円形に近い。底面は平坦で、壁が垂直に近い角度で立ち上がっている。覆土は１層：黄暗褐色土層である。遺物から、中期後葉のものと見られる。

４．土坑６

10N区に位置する。平面形は楕円形で、底面は２段に別れている。覆土は１層：暗褐色土層、２層：黄褐色砂質土層に区分できる。遺物から、中期後葉のものと見られる。

５．土坑５

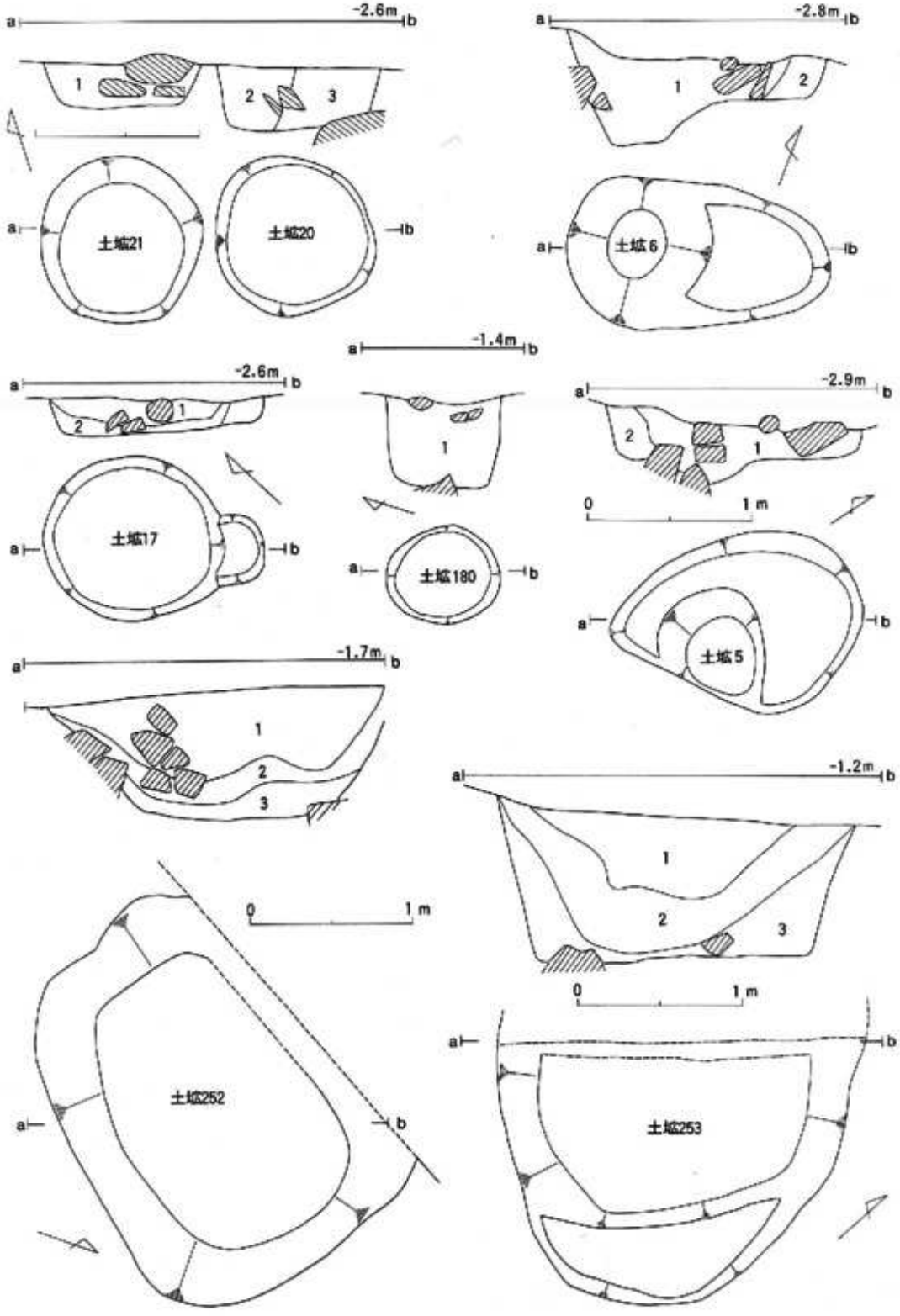
10O区に位置する。平面形は不整形で、大きさは1.6×1.1ｍである。覆土は１層：黄褐色砂質土層、２層：暗褐色土層に区分できる。出土遺物から、中期後葉のものと見られる。

６．土坑252

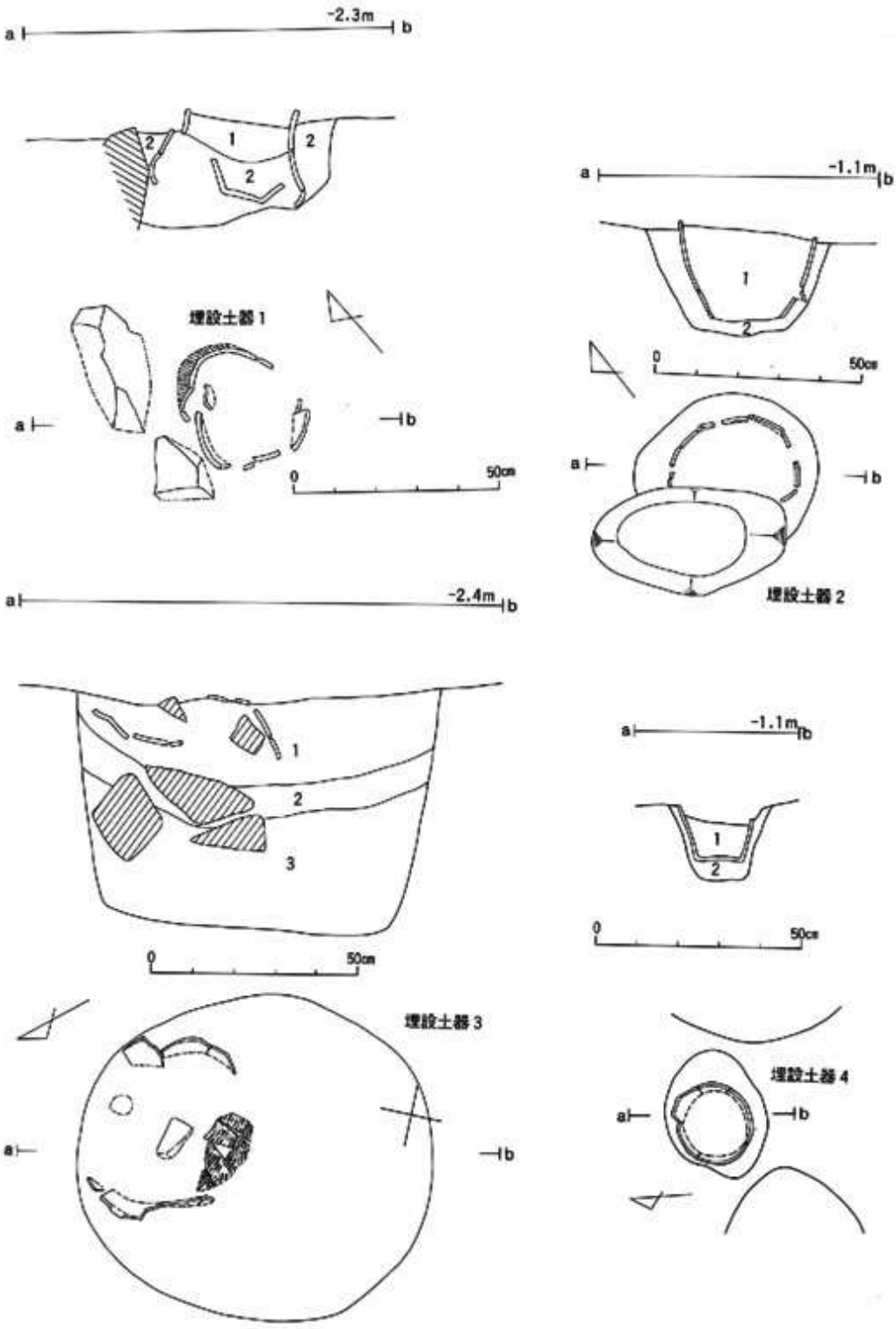
２・３Ｂ区に位置する。平面形は隅丸方形と見られ、長軸方向で2.4ｍある。低面はほぼ平坦である。覆土は１層：灰青褐色土層、２層：灰暗青褐色土層、３層：灰暗黄褐色土層に区分できる。出土遺物から、中期後葉のものと見られる。

７．土坑253

４Ｂ区に位置する。北側半分は未検出であるが、短軸方向でも2.2ｍと大きな土坑である。南側にはテラス状の張り出しがある。覆土は１層：灰黄褐色土層、２層：灰青褐色土層、３層：灰暗黄褐色土層に区分できる。出土遺物から、中期後葉のものと見られる。


-2.6m
土壙21
土壙20
-2.8m
土壙6
-1.4m
土壙180
-2.6m
土壙17
-2.9m
土壙5
0 1m
-1.7m
土壙252
-1.2m
土壙253

第16図　土壙実測図



第17図　埋設土器実測図

第3節　埋設土器（第17図）

埋設土器は、4基検出された。ここではその性格等について、個々の事例に基づいて述べる。

1．埋設土器1（第32図5）

8・9O区に位置している。掘り方は、黒色系土層中に埋設されているため不確かである。土器は、底部を下に置き、胴部から口縁部を倒立した状態でその上に置いている。覆土は1層：暗黄褐色土層、2層：黄褐色土層に区分できる。

埋設されていた土器は、Ⅱ期中期中葉に属している。遺構の性格については、住居址に伴う埋甕である可能性が高い。

2．埋設土器2（第58図12）

9・10I区に位置する。南側の1／3は別の土坑に破壊されている。深鉢の胴部が正位に埋設されている。覆土は1層：暗黄褐色土層、3層：黄褐色土層に区分できる。

埋設されていた土器は、Ⅲ期中期後葉に属すと見られる。遺構の性格については、住居址に伴う埋甕である可能性が高い。

3．埋設土器3（第25図1）

3E区に位置する。土器の出土状態と土坑の掘り方に一体感がなく、埋設土器と呼べるものか疑問ではある。土器は斜めに、押し潰された状態で出土している。覆土は1層：暗黄褐色土層、2層：暗褐色土層、3層：黄褐色砂質土層に区分できる。

埋設されていた土器は、Ⅰ期中期前葉に属す。遺構の性格については不明である。

4．埋設土器4

10H区に位置する。遺存していたのは深鉢の底部のみである。土器は正位に埋設され、覆土は1層：暗黄褐色土層、2層：黄褐色砂質土層に区分できる。

埋設されていた土器は、縦位の集合沈線が密に施され、Ⅱ・Ⅲ期に属すと見られる。遺構の性格は、住居址に伴う埋甕と考えられる。

第5章　人工遺物

第1節　縄文土器

1．出土縄文土器の分類

今回の調査では、遺物包含層とそれに準ずる二次的な堆積層から多量の縄文土器が出土している。縄文土器は、次の9期に大別できる。

Ⅰ期　縄文中期前葉	Ⅵ期　縄文後期後葉
Ⅱ期　縄文中期中葉	Ⅶ期　縄文晩期前葉
Ⅲ期　縄文中期後葉	Ⅷ期　縄文晩期中葉
Ⅳ期　縄文後期前葉	Ⅸ期　縄文晩期後葉
Ⅴ期　縄文後期中葉	

これらは、器形・文様構成等の形態的特徴からさらに細分される。原則的には量的に最も多数を占める深鉢を中心にして、器種を優先させ、1群1型式としたが、資料内容の乏しい場合にはこの限りではない。なお本節の挿図には住居址を初めとする遺構と、遺物包含層を含めた各層の縄文土器を掲載した。この場合遺構の節に出土した遺物の挿図番号を記した。また第3章の層序で述べたように、出土層による遺物の分類が不可能であることからここでは形態的な特徴から分類を行った。

なお瑞穂遺跡から出土した土器の主体を占めるのは、本遺跡のおかれている地理的状況から、北陸地方に分布の中心をもつ土器群であることから、これらの土器に主眼を置いて記述する。各期の区分についても現在北陸地方で行われている区分に従った。

2．縄文土器の分布状況

9期に大別した土器のなかで、量的に最も多いのは縄文中期後葉で、この頃に瑞穂遺跡の集落としてのピークを迎えたことがわかる。次いでこの前後の時期のものが多く、後期中葉以降の遺物量は激減していく。

今回の調査は瑞穂遺跡全体から見た場合、遺跡範囲の北西端を発掘したにすぎないが、各期の遺物ともほぼ遺跡全体に分布している。

3．Ⅰ期 縄文中期中葉に属す土器群

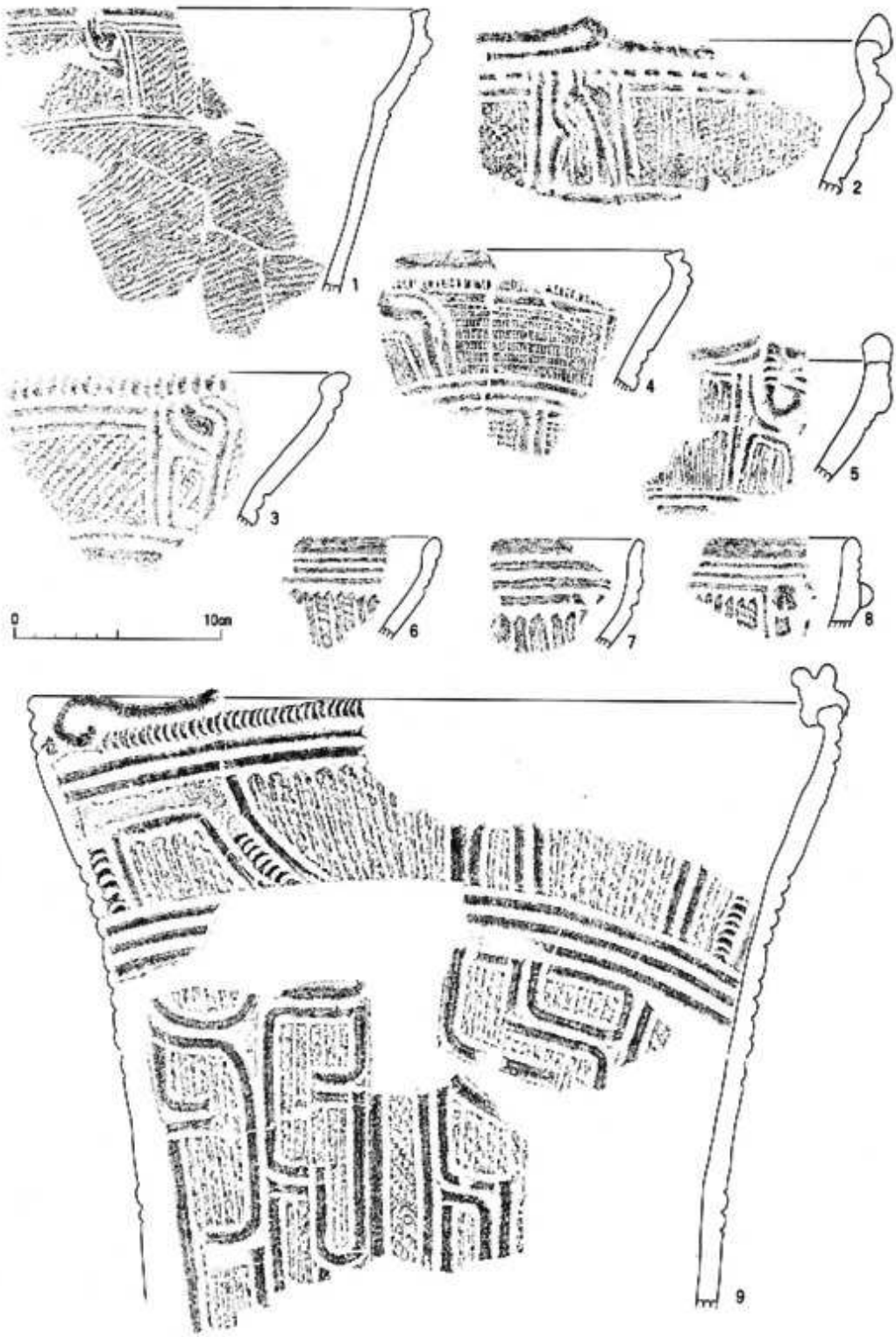
Ⅰ－1）深鉢

第1群土器（第18～21図）

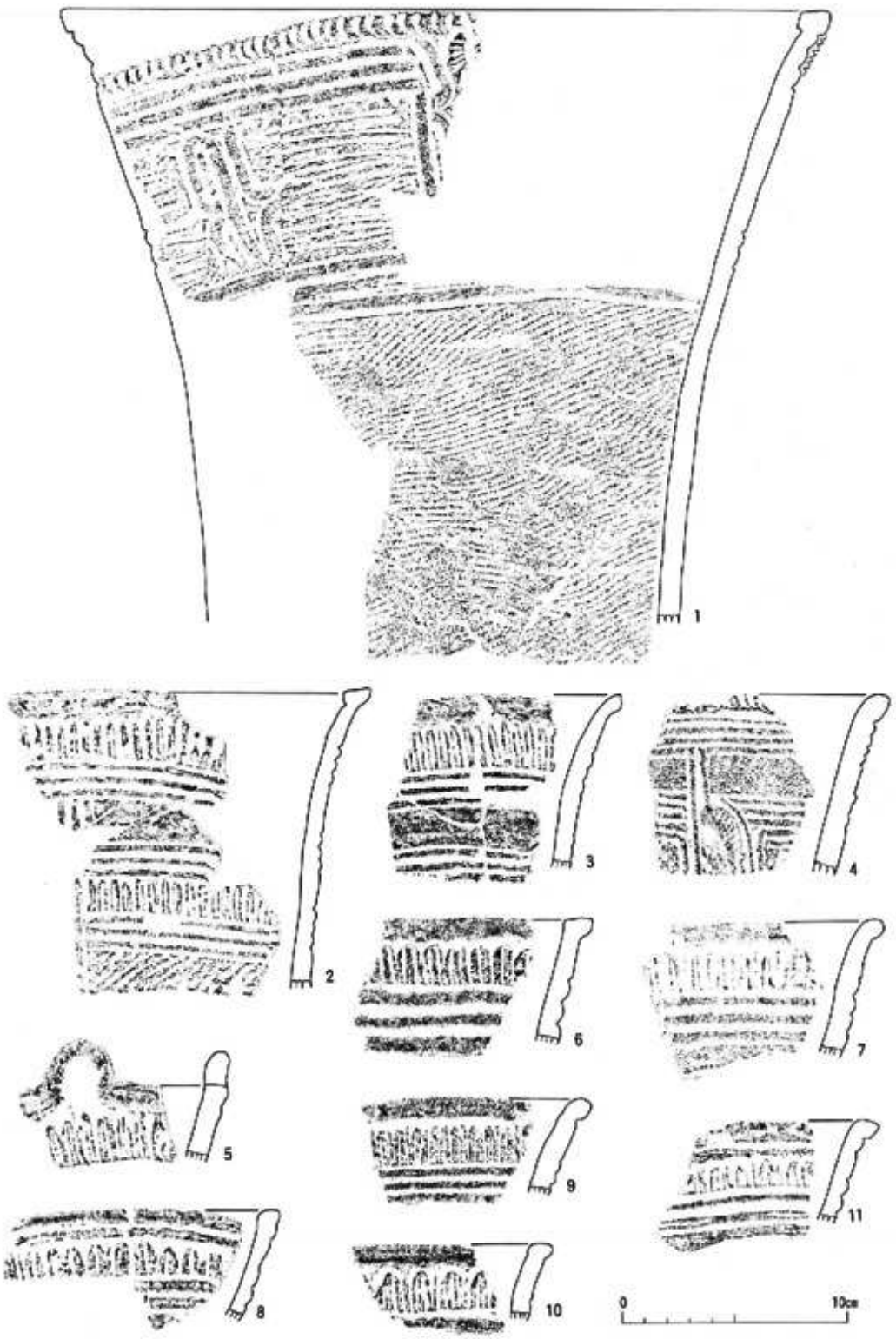
新崎式に比定できる土器群である。器形から次の4類に区分できる。

a類（第18図）　口縁部の内傾するキャリパー形の土器である。すべて平縁の土器である。

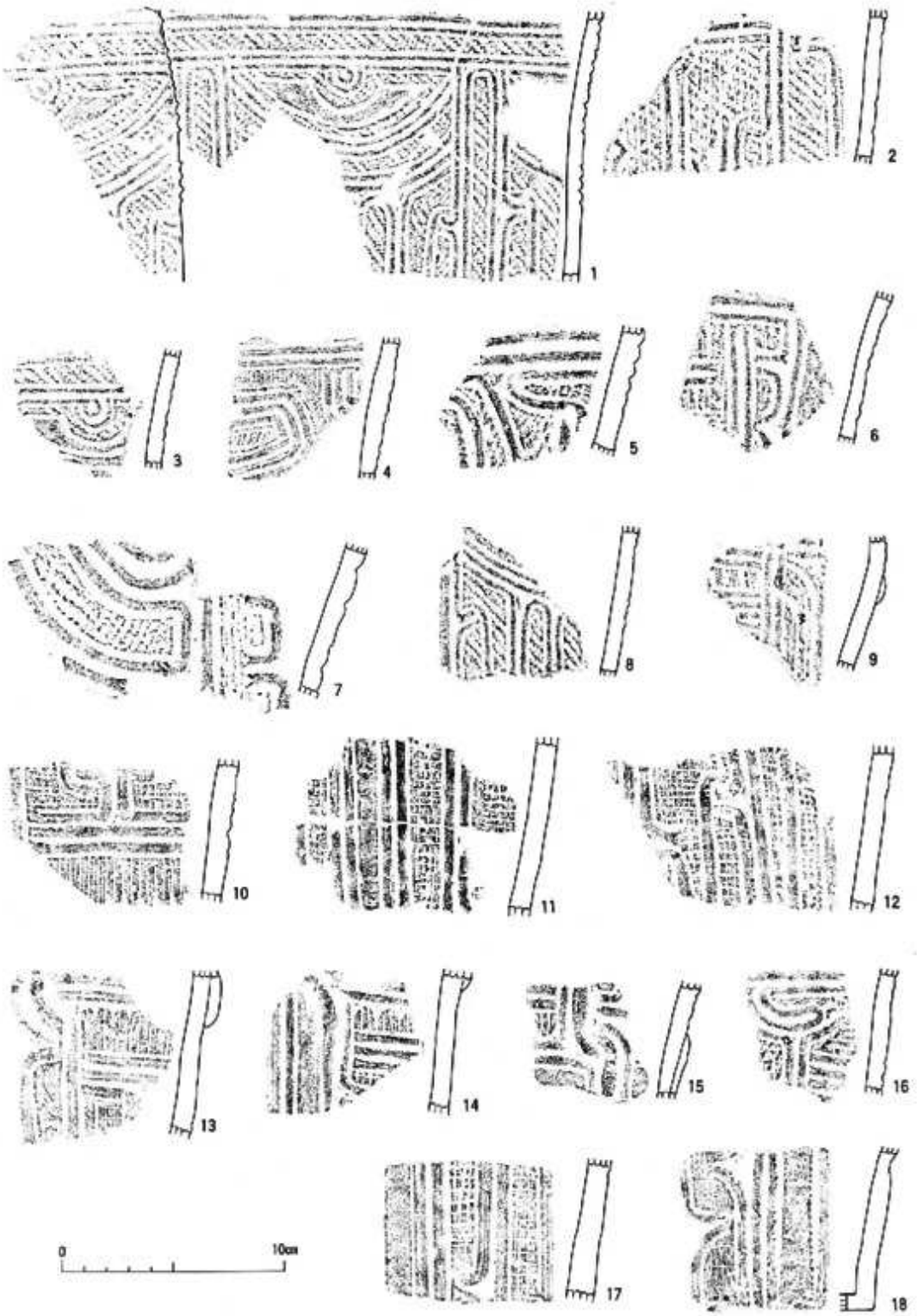
口縁部文様帯は、口縁端部と頸部に加えられる横位の沈線で区切られている。沈線でいくつかに区分し、この間を縄文をともなう平行沈線や格子目文でうめている。同1・2には「し」の字状の突起が付加されている。同5の口縁部文様帯には、蕨手文が見られ、後出的な土器で



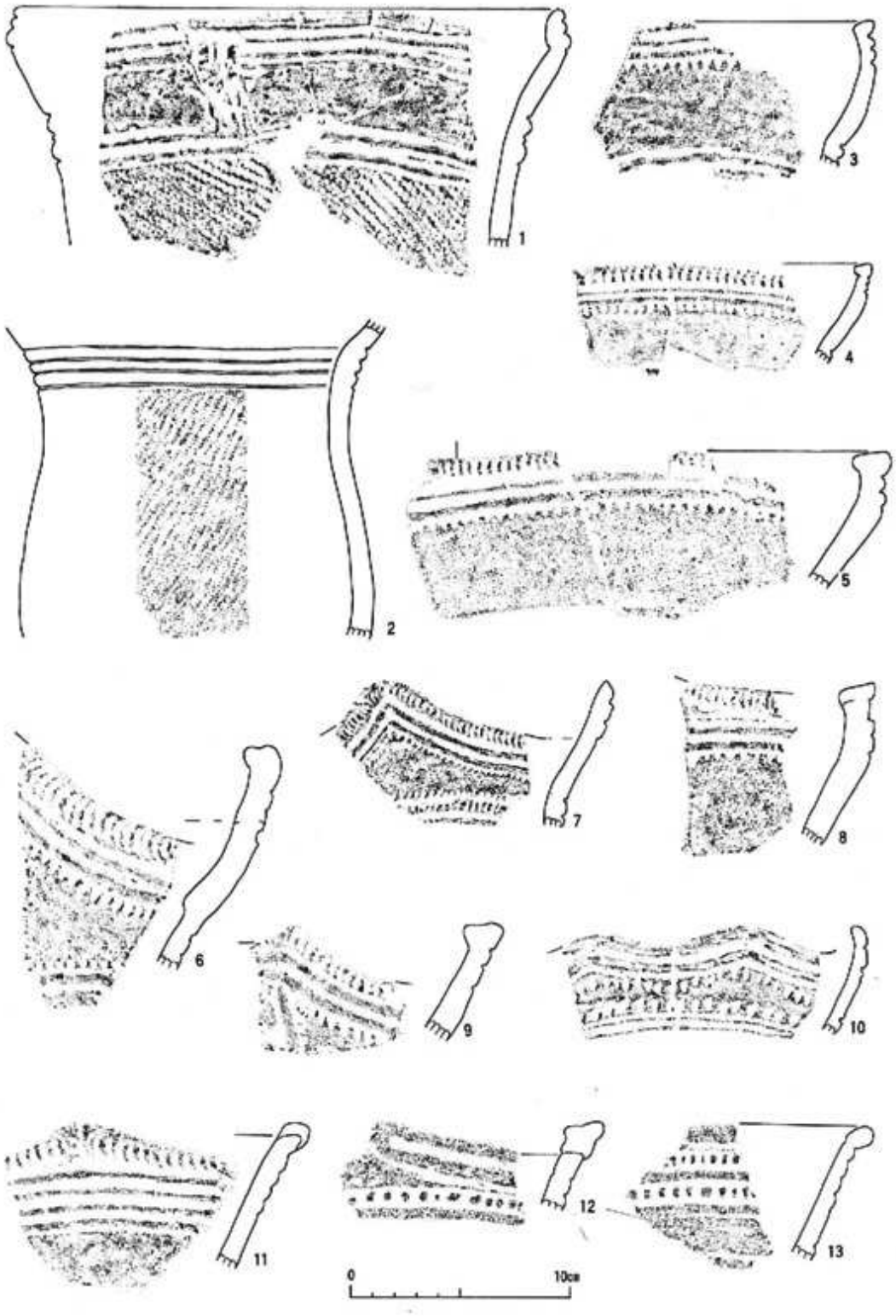
第18図　縄文土器拓影１　Ⅰ期深鉢第１群土器(1)



第19図　縄文土器拓影2　Ⅰ期深鉢第1群土器(2)



第20図　縄文土器拓影３　Ⅰ期深鉢第１群土器(3)



第21図　縄文土器拓影4　Ⅰ期深鉢第1群土器(4)

ある。

b類（第19・20図）　緩やかに開く胴部から口縁部で外反する器形である。口唇部に突起の付く場合もあるが、口縁部は平縁である。a類と同様の文様構成とみられる。

第19図の口縁部文様帯には、横位の平行沈線文と、縦位の平行沈線文が組み合わされているが、縦位の場合は短く、上端が蓮華文になっている。後出的な要素を含んでいるといえる。

第20図はa・b類の胴部資料である。巾広の縦位平行沈線を基調として、主に縦方向の区画帯を描出している。区画帯内は縄文で充填される場合（同1～8）と格子目状の沈線文で充填される場合（同9～18）がある。

c類（第21図1～10）　a類と同様にキャリパー形の口縁部を持ち、平縁（同1・3～5）と、山形の波状口縁（同6～10）がある。口縁部文様帯は、口唇部直下と頸部の平行沈線で区切られ、この間は無文帯となる。無文帯の上下端が刺突されている場合が多く、c類中では新しい施文要素といえる。

d類（第21図11～13・第23図4）　b類と同様に外反する口縁部をもち、平縁（第21図11～13）と山形の波状口縁（第23図4）がある。c類と共通の文様構成であるとみられる。

第2群土器（第22図、第23図1・2）

新道式から藤内式の前半に比定できるか、その影響下で成立した土器群で、第1群土器とほぼ並行関係にあると見られる。第5号住居址の覆土中から出土した資料がほとんどを占めるために図上復元できる場合が多いが、第2群土器の個体数はわずかである。

a類（第22図、第23図1・2）　口縁部が内傾するキャリパー形の土器である。第21図は4単位の波状口縁である。文様帯は頸部より上位にのみ展開する。この口縁部文様帯は、隆帯で区切られた三角形や半円形の区画文が横位に繰り返される。隆帯の両側には爪形文が連続して施されている。第22図は同5のような単純な文様構成とみられる。

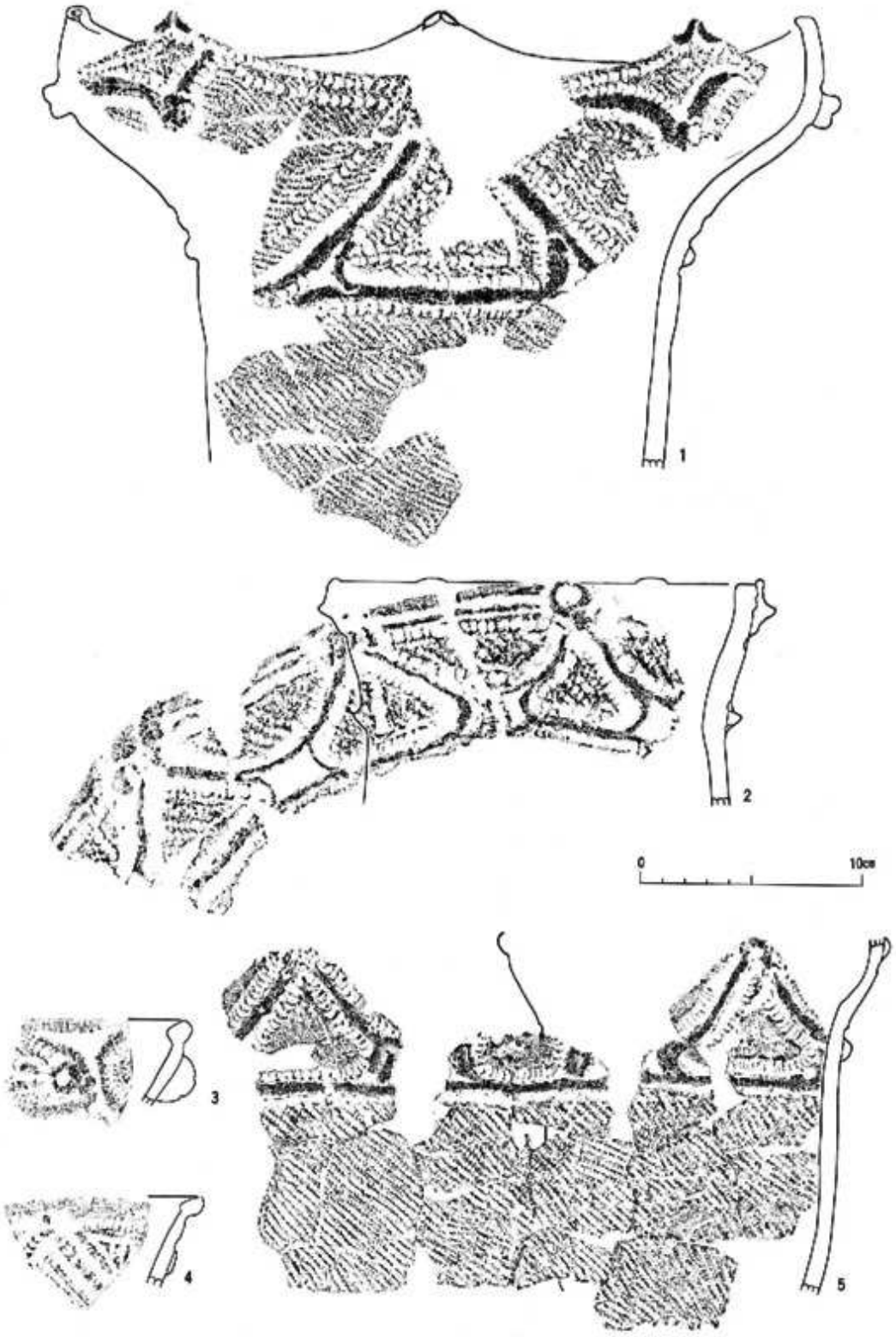
第3群土器（第24・25図）

第1・2群土器に伴うと考えられる粗製土器を第3群とした。ここでは資料数も少ないことから2類に区分したがなお細分可能とも見られる。

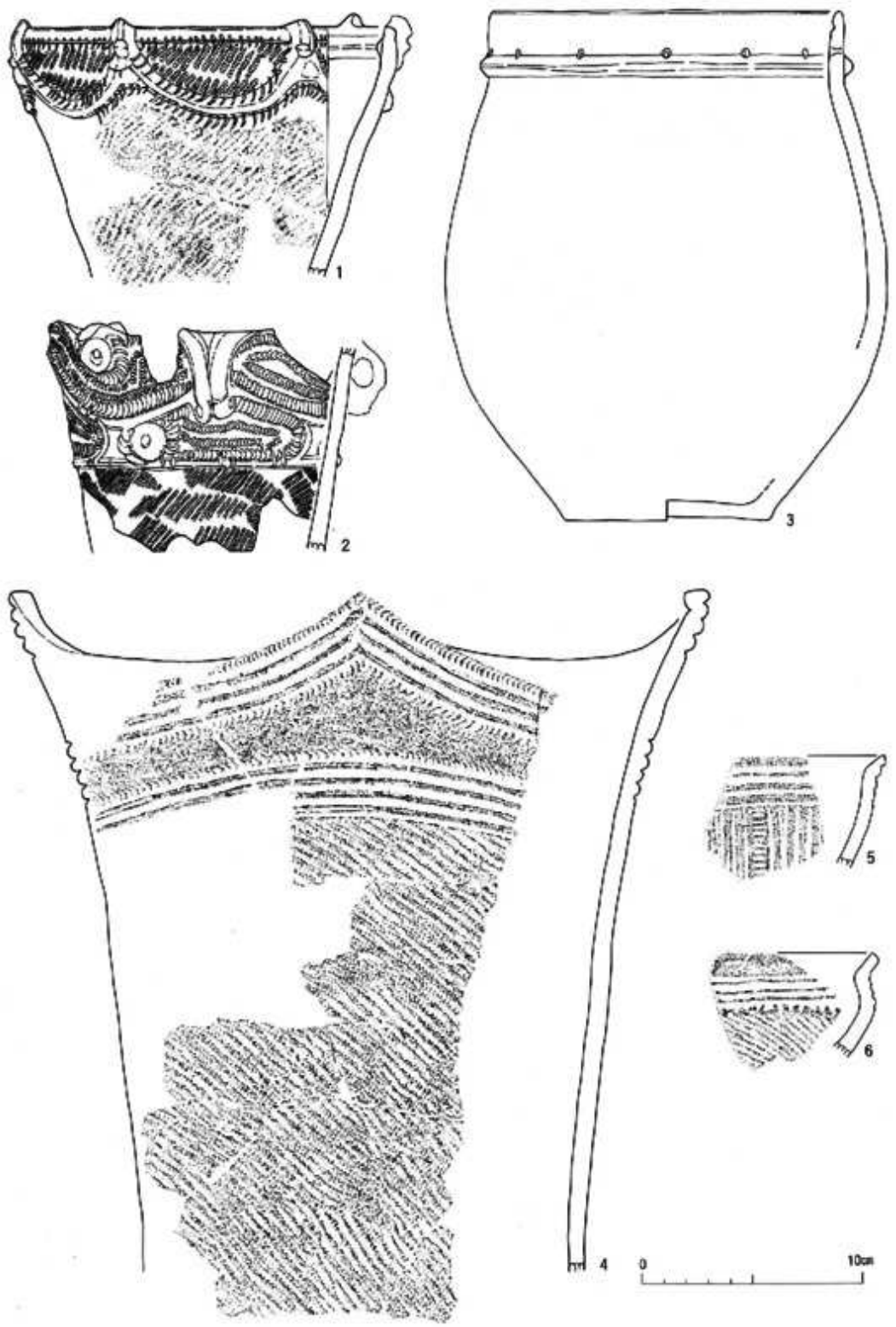
a類（第24図・第25図1～3）　器形はキャリパーの口縁部を特徴とするが、口縁部の内傾する度合いの弱いものである。口縁部は平縁の場合が多いが、山形の波状口縁を呈する場合（第25図2・3）もある。口縁部文様帯が意識されている場合が多く、頸部に縄文原体が押捺されているのが特徴的である。

口縁部の無文帯には縦方向に縄文原体が押捺されている例（第24図2・3・5、第25図3）もある。もう1つの特徴は「J」字状の突起（第24図1～5）で、これは突帯として貼付されている場合（同6・8）もある。

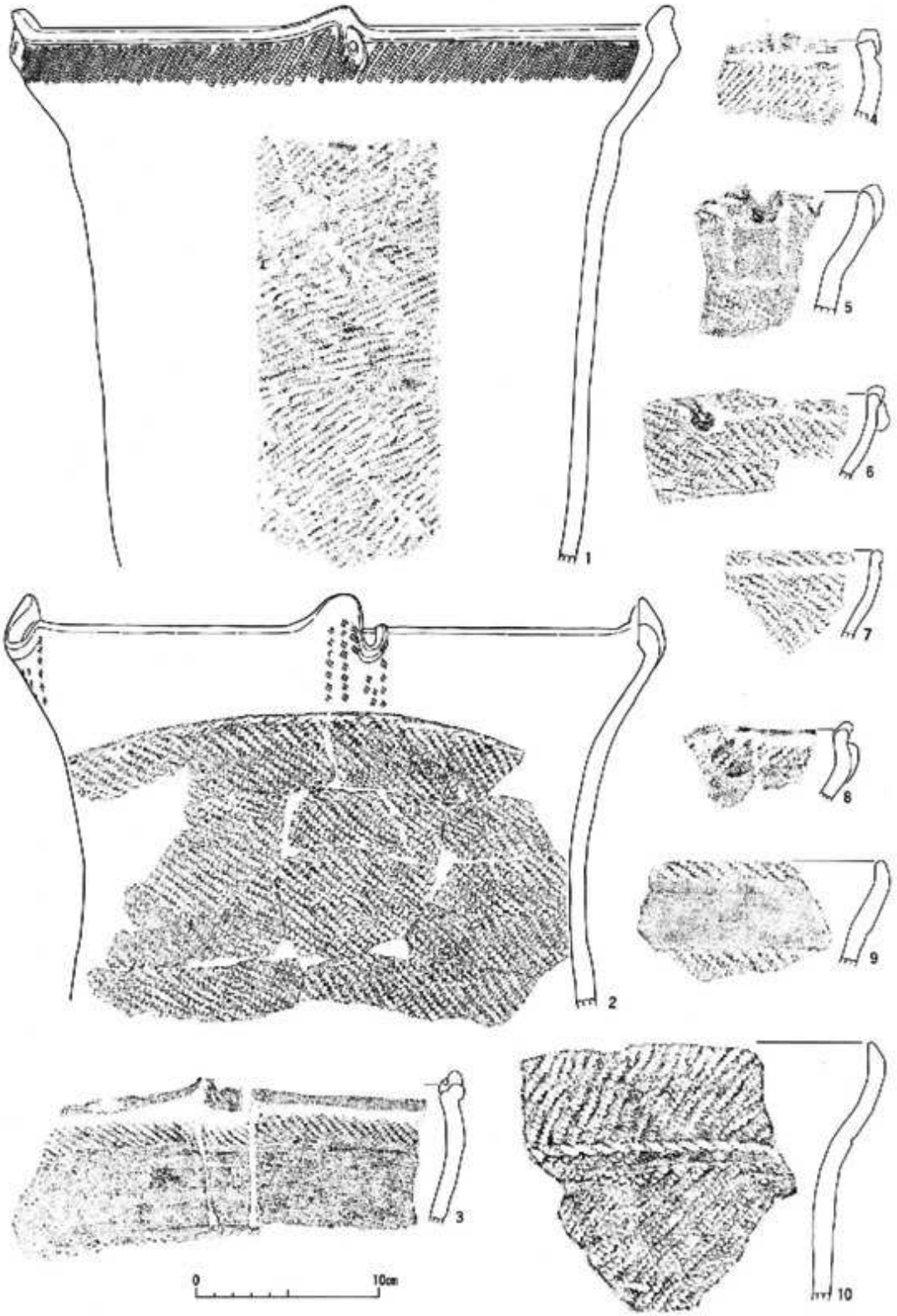
b類（第25図4～10）　単純に開く口縁部をもつ類で、すべて平縁とみられる。同4～6は山形の突起をもつ。また同7～10の土器の口唇部には、横位の「S」状の突起が、貼付されている。同4～10までの資料には口縁部文様帯と言えるものはないとみられる。



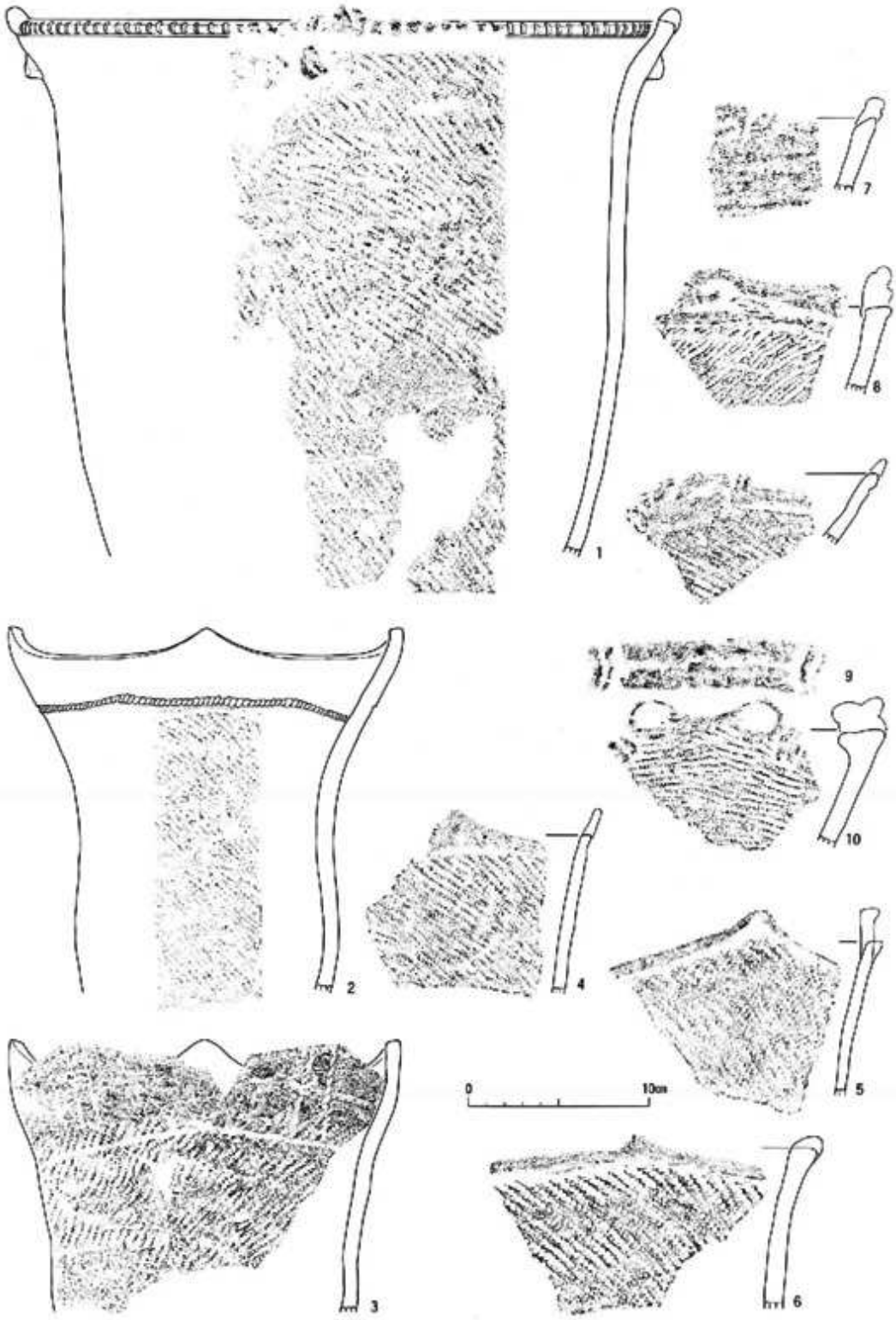
第22図　縄文土器拓影５　Ⅰ期深鉢第２群土器(1)



第23図　縄文土器拓影および実測図6　I期深鉢第2群土器(5)、第2群土器(2)、有孔鍔付土器、鉢



第24図　縄文土器拓影および実測図７　Ⅰ期深鉢第３群土器(1)



第25図　縄文土器拓影および実測図８　Ⅰ期深鉢第３群土器(2)

Ⅰ－2）有孔鍔付土器

第1群土器（第23図3）

丸みをもった胴部で、屈曲した頸部から口縁部はほぼ垂直に立ち上がる。頸部には水平方向に1条の隆帯がめぐり、この隆帯の直上に穿孔されている。孔は約4㎝間隔で、表裏両面からの穿孔である。表面はていねいに研磨されている。

Ⅰ－3）鉢

第1群土器（第23図5・6）

丸みを帯びた胴部から、短い口縁部が外反しながら立ち上がる器形で、鉢と見られる。同6には蓮華状文が施文されている。

4．Ⅱ期 縄文中期中葉に属す土器群

Ⅱ－1）深鉢

第1群土器（第26・17図）

北陸地方の中期中葉で行われていた上山田式に比定される土器群である。器形全体を窺い知ることのできる資料は出土していない。また資料数も決して多いとは言えないが、ここでは口縁部の器形から次の2類に区分した。なお第27図には胴部片を掲載した。

a類（第26図1～11） キャリパー形の口縁部をもつ類。山形の波状口縁と、平縁の土器がある。爪形の刻み目が施された隆帯と巾広の平行沈線で文様構成される。

同1は口縁部文様帯と胴部文様帯が明確に区分された土器で、無文部に刻み目を加えることと合わせて、前段階の影響下にある土器といえる。同2～4の口唇部は巾広く作られ、三叉玉抱き文が印刻されている。また同5・6には円形の突帯が貼付されている。

b類（同12～15） 口縁部が外反する器形で、a類と区分した。断片的な資料ではあるが、図示した資料からはa類と共通する文様構成であると言える。

第2群土器（第28図）

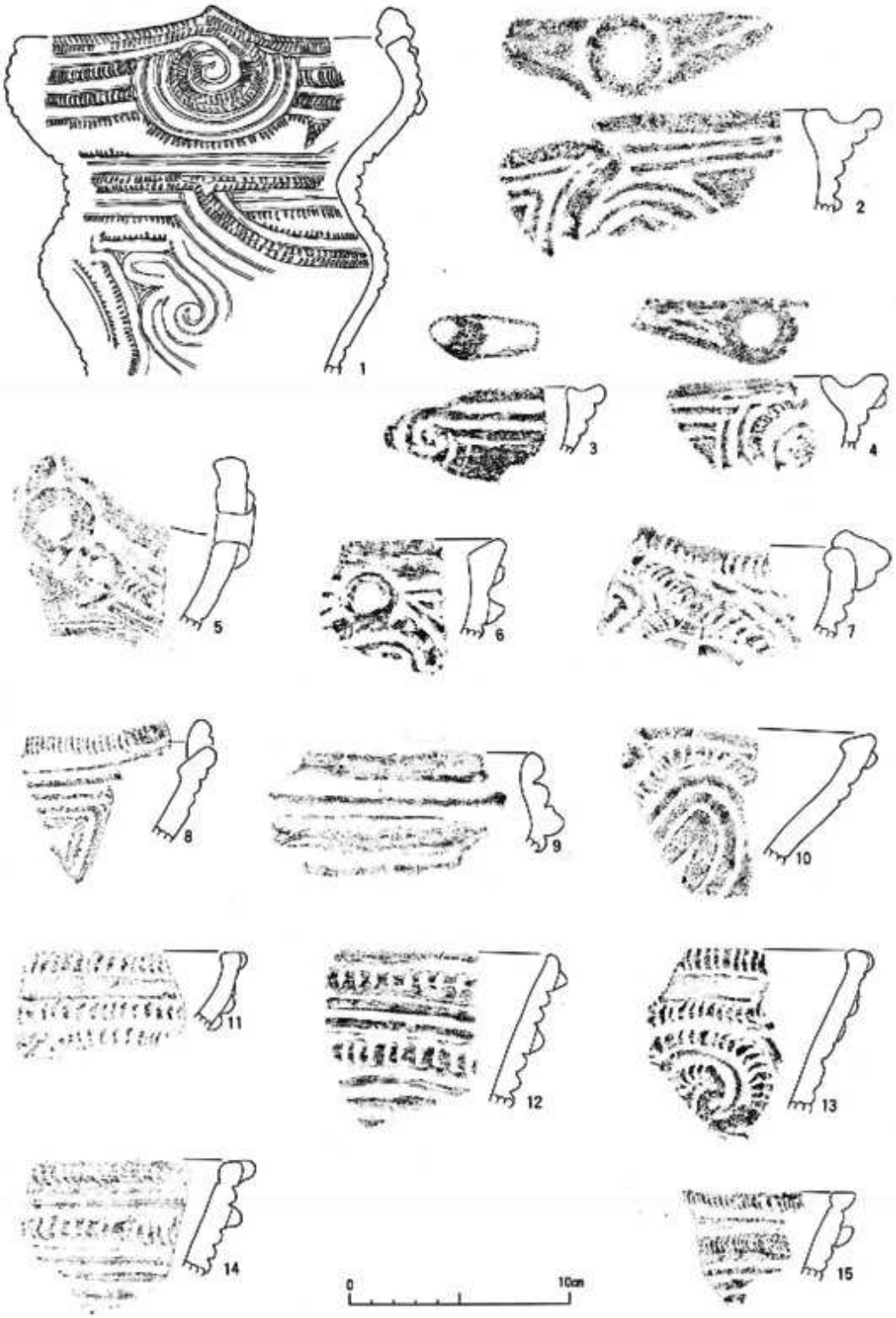
第1群の上山田式に続く古府式に比定される土器群である。キャリパー形に内湾する口縁部にさらに外傾する口縁がつけ加えられた、複合口縁を特徴としている。第1群と同様に巾広の平行沈線と隆帯で文様構成されている。断片的な資料ではあるが、次の2類に区分した。b類は古串田新式と呼ばれる一群の土器に対応するとみられる。なおこの時期から台付土器が急増するが、この第28図中にもこの台付土器が含まれている可能性がある。

a類（第28図） キャリパー形の口縁部に加えられた外反部には、資料により高低の差があるが、キャリパー形の、最大径の部分に刺突が加えられた隆帯がめぐることは共通している。

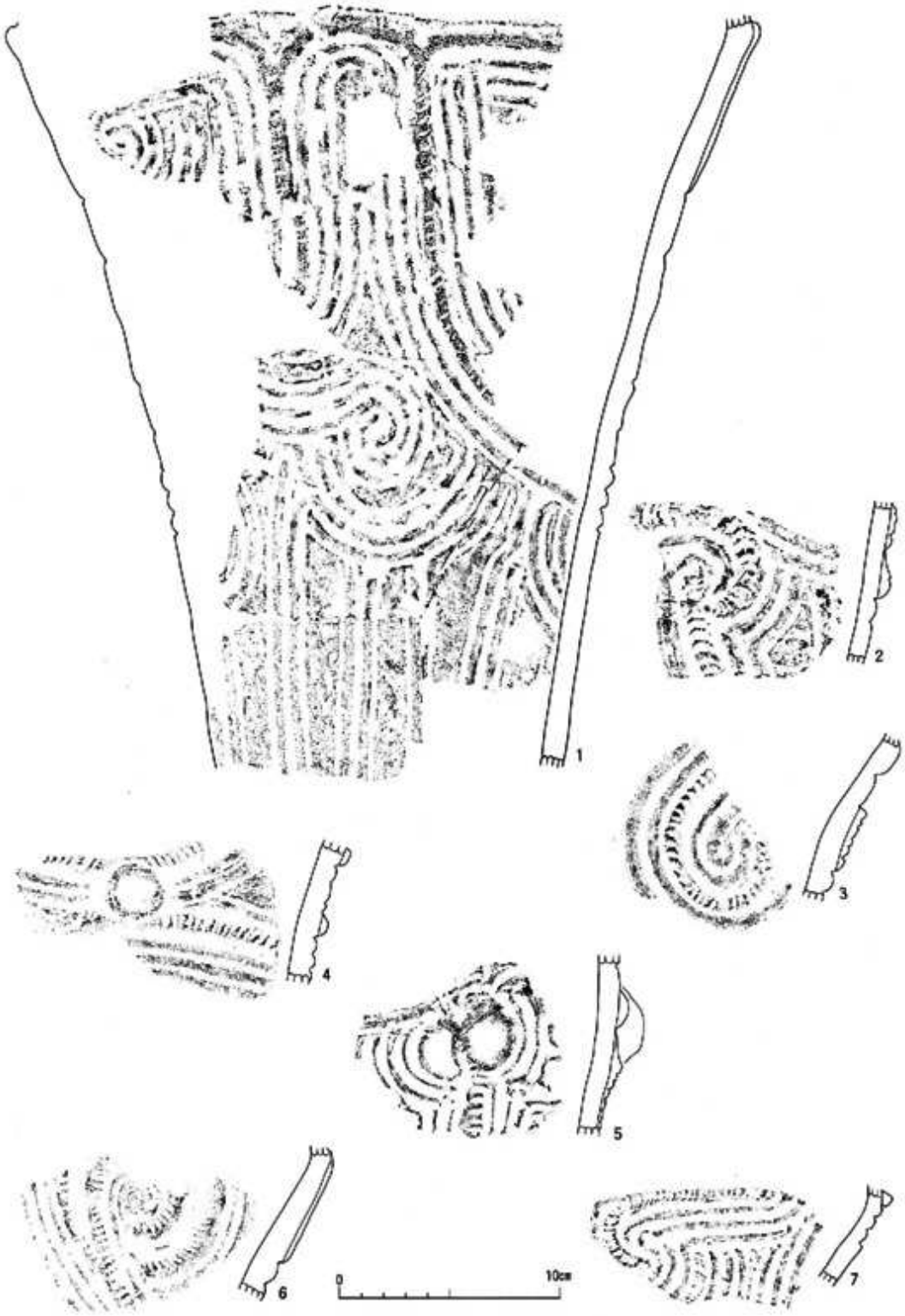
同5・9・11・20ではこの隆帯を除くと文様は巾広の平行沈線で構成されており、第2群中では新しい段階の要素と言える。

b類（第29図） やはりキャリパー形の口縁部であるが、a類の複合口縁とは異なり、単純に内湾する器形である。山形の波状口縁を特徴とする。

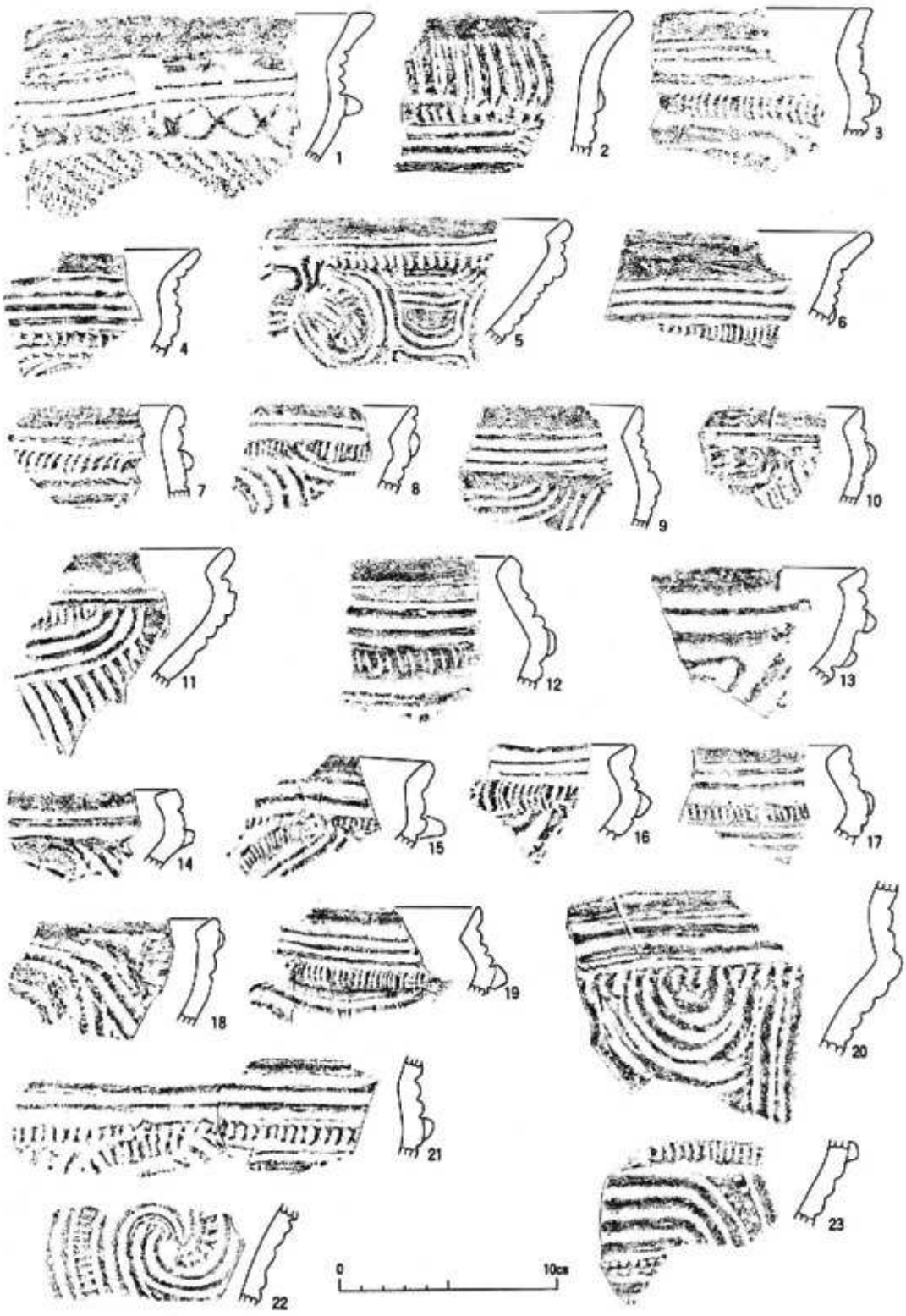
口縁と並行に2条の隆帯を貼り付け、波状口縁の波頂部直下では隆帯で渦巻を描いている。



第26図　縄文土器拓影および実測図９　Ⅱ期深鉢第１群土器(1)



第27図　縄文土器拓影10　Ⅱ期深鉢第1群土器(2)



第28図　縄文土器拓影11　Ⅱ期深鉢第２群土器(1)

第29図　縄文土器拓影12　Ⅱ期深鉢第２群土器(2)

胴部にも隆帯で渦巻文を描いている。この隆帯に伴う沈線には、半截竹管状施文具による平行沈線文と、棒状施文具による沈線文がある。また隆帯上には、ヘラ状施文具の場合もあるが、多くは櫛歯状施文具による刻み目が施されている。

第3群土器（第30図1～4）

井戸尻式に比定できる土器群であるが、ごく少量出土しているにすぎない。器形から次の2類に区分した。

a類（同1・2） 外側へ直線的に開く口縁部で、端部は内側へ折り屈げられているため、巾の広い口縁部になっている。

交互刺突文と隆帯の区画内に集合沈線を施す、おそらくは蕨形文となる文様が特徴である。

b類（同3・4） 同一個体とみられる資料で、口縁部は大きく内側へ湾曲している。

沈線で渦巻文と三叉文を表現している。

第4群土器（同5～10）

曽利Ⅰ式に比定できる土器群である。第3群土器と同様に資料数はごくわずかである。器形から次の2類に区分した。隣接する中部高地などでは曽利Ⅰ式以降を中期後葉と位置付けている。しかしこの遺跡から出土する該当期の土器は、北陸地方の影響下にあるものが主体を占めることから、時期細分もこれに基づいて次の第5群土器も含めて、中期中葉とした。

a類（同5～9） 大きく外反する口縁部の土器で、外反部分は無文である。同5・6・8は頸部にふくらみをもつ。

頸部以下には細い粘土紐が貼り付けられている。同9は整然と施された集合沈線の上に、隆帯が渦巻状に貼付されている。

b類（同10） 大きく内湾したキャリパー形の口縁部で、隆帯による重弧文が貼付されている。欠落しているが資料の中央には突起が付いていたとみられる。

第5群土器（第31～33図）

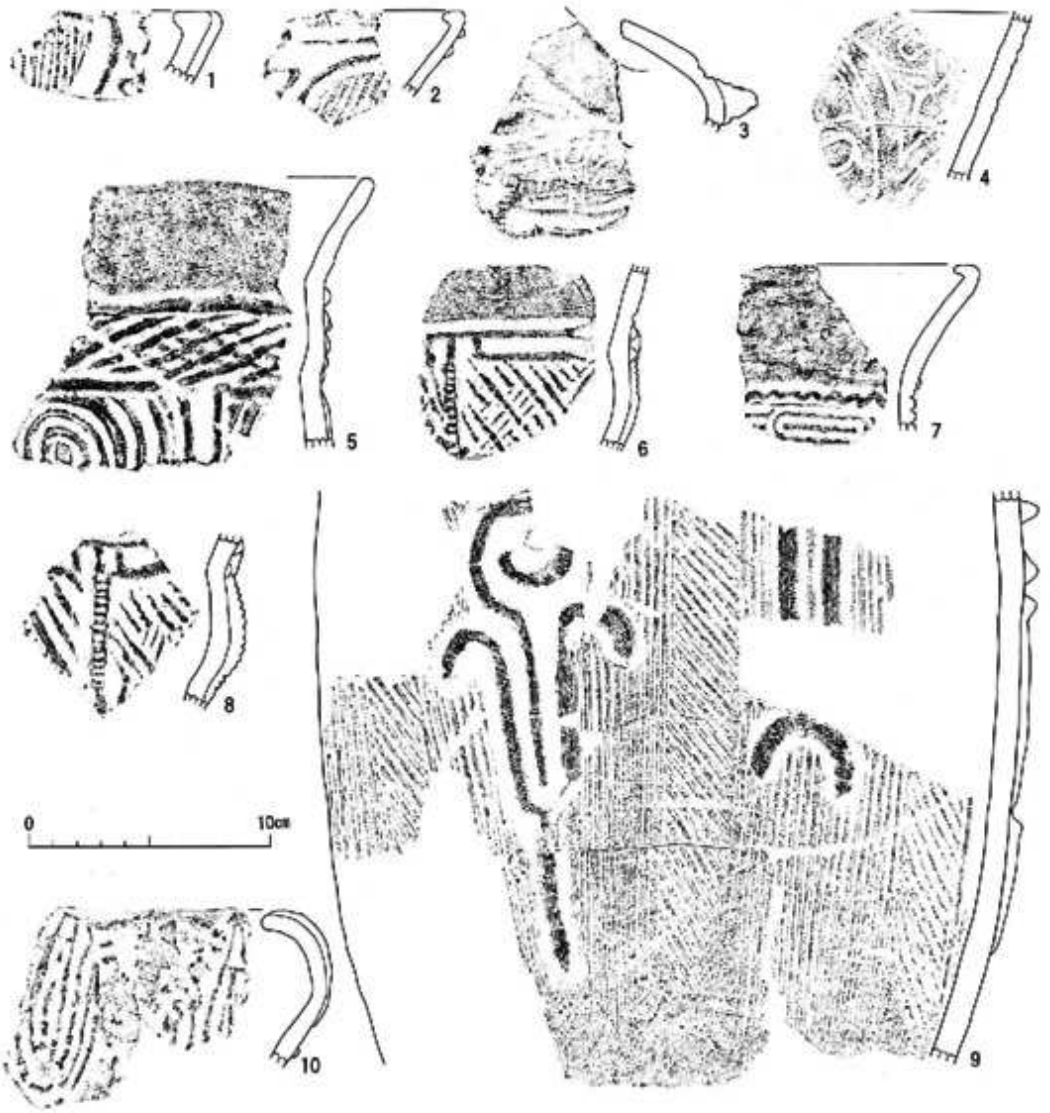
曽利Ⅱ式に比定されるか、これと並行する時期の土器群である。信州南部に分布の中心を置く唐草文系土器を主に、次の4類に区分できる。

a類（第31図） 曽利Ⅱ式と並行期の唐草文系土器である。口縁部は内湾するキャリパー形を呈す。同1・2は同一個体で、柱状の突起の下には橋状把手がつく。

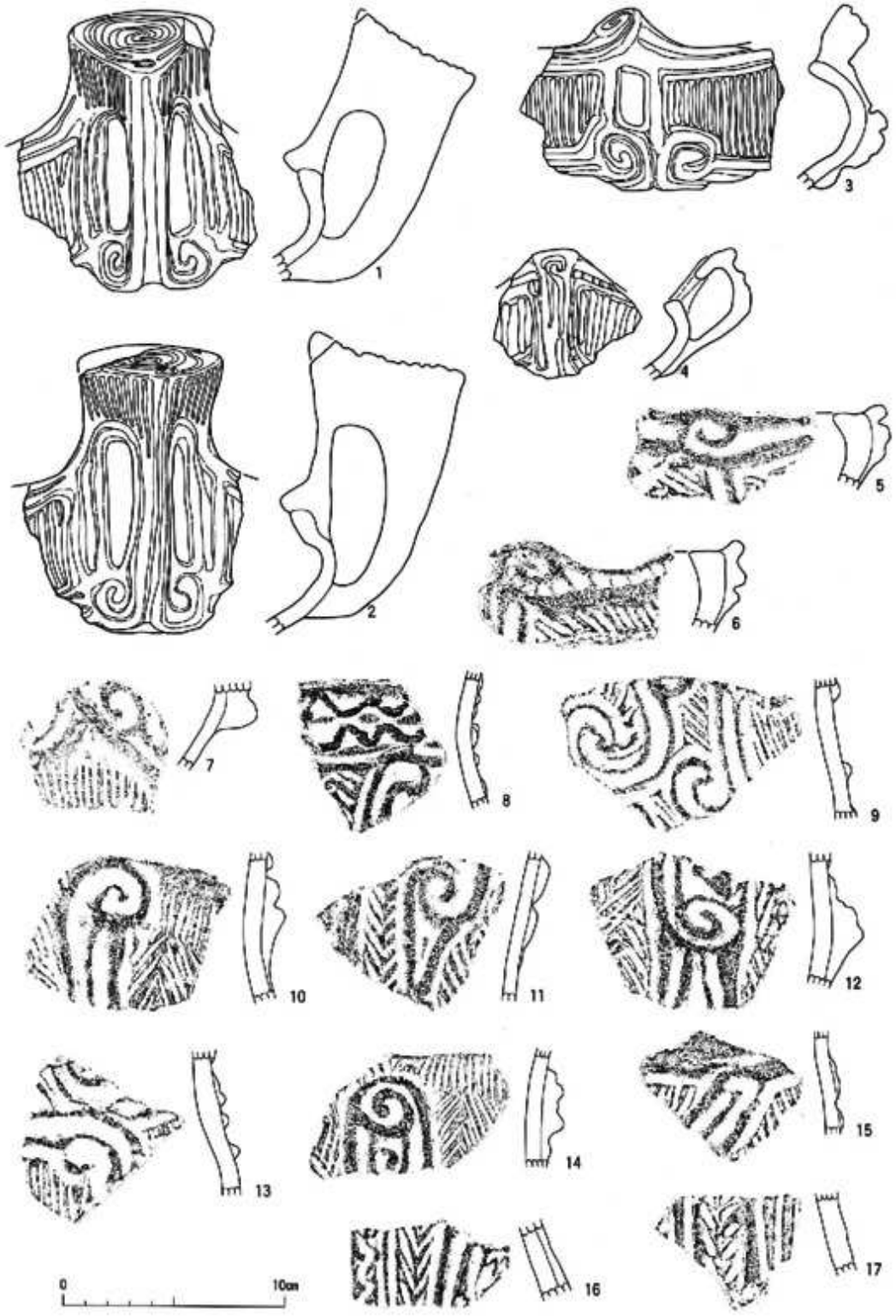
口縁部文様帯には、沈線で充填された区画文と渦巻文が特徴的である。胴部には腕骨文と呼ばれる渦巻状の隆帯が垂下している。地文はすべて沈線文である。

b類（第32図1～4） a類と同様に曽利Ⅱ式と並行期の唐草文系土器である。やや内湾気味か、直線的に外反する口縁部で、口唇部は巾広く作られている。口唇部直下には隆帯による渦巻文が貼付されている。また沈線による交互刺突文も特徴的である。

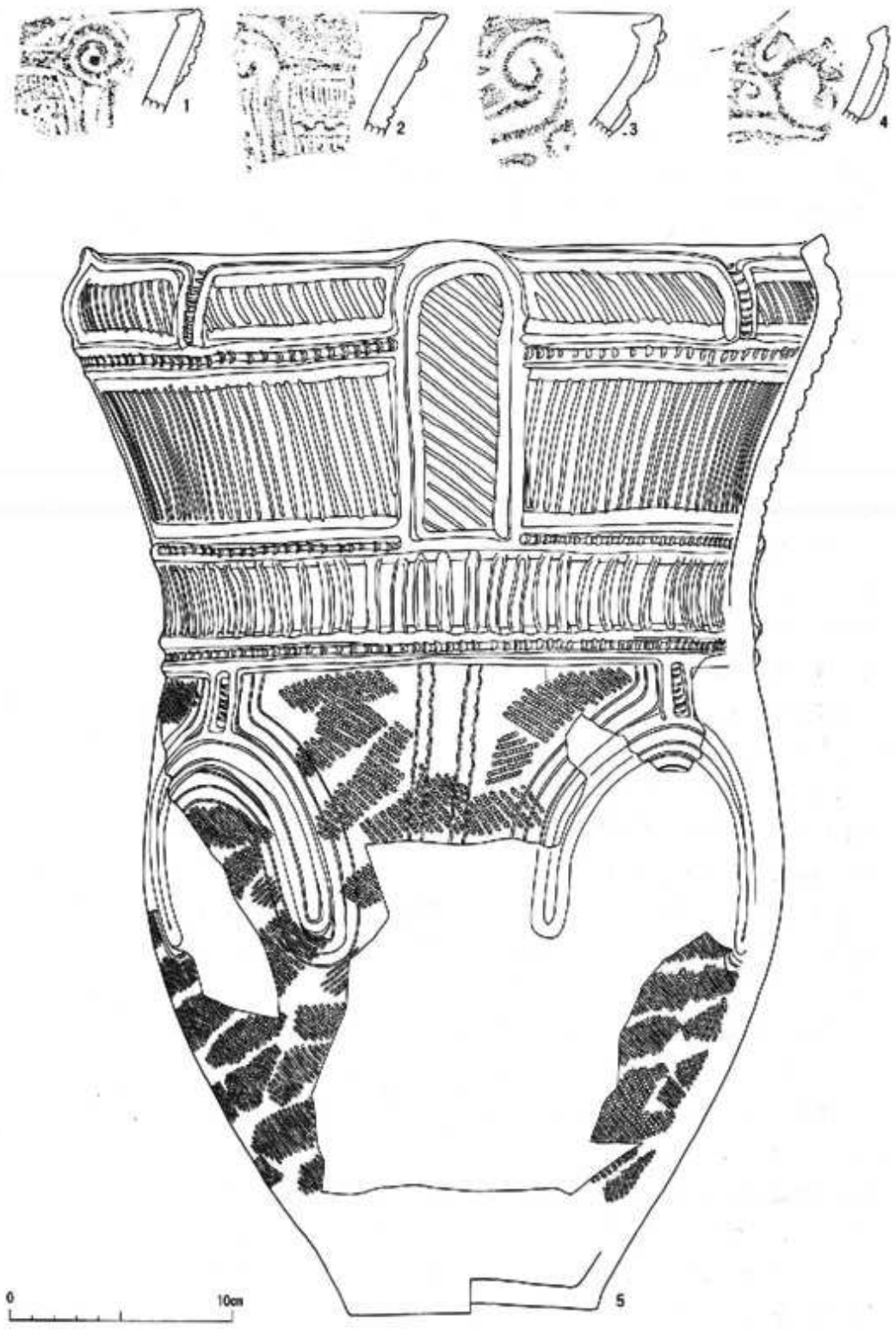
c類（第32図5） 張りのある胴部から頸部でくびれ、キャリパー形の口縁部をもつ土器で頸部から口縁部にかけて特異な文様構成を示している。口縁部から頸部にかけて水平方向の隆帯で3つの横長区画を描き、上段から沈線・沈線・隆帯でそれぞれの区画を充填している。胴



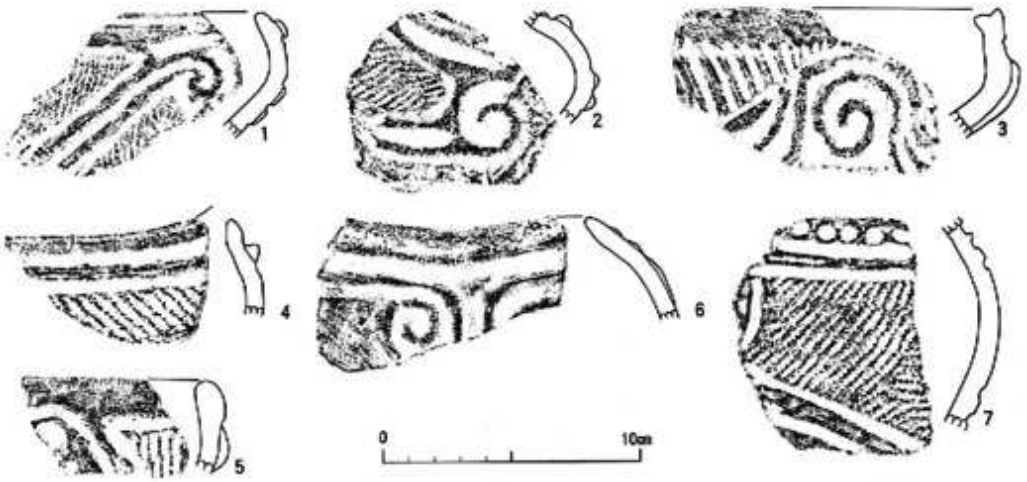
第30図　縄文土器拓影13　Ⅱ期深鉢第３・４群土器



第31図　縄文土器拓影および実測図14　Ⅱ期深鉢第５群土器(1)



第32図　縄文土器拓影および実測図15　Ⅱ期深鉢第５群土器(2)



第33図　縄文土器拓影16　Ⅱ期深鉢第５群土器(3)

部には隆帯で半円形の図柄を描いている。

ｄ類（第33図）　キャリパー形の口縁部をもつ。隆帯を渦巻状に貼付するが、渦巻の一端は隣り合う渦巻へと連結している。同７は隆帯が沈線に置きかわったものとみられ、後出的な土器といえるものである。

第６群土器（第34図、第35図）

Ⅱ期に伴うとみられる粗製土器を第６群土器とした。地文の相違から２類に区分したが、器形や文様構成は同一である。

ａ類（第34図、第35図１～５）　口縁部が緩く外反する。第35図３・４を除いて、巾広の半截竹管状施文具を用いた沈線を、口唇部直下に水平方向に施文する。第35図１には爪形文が、同２には蕨手状文が施されている。

ｂ類（第35図６～14）　ａ類と同様の器形である。やはり口唇部直下に巾広の半截竹管状施文具で水平方向の沈線が施されている。地文には櫛歯状施文具による、集合沈線が施されている。

同14は、４単位の山形波状口縁の土器である。

Ⅱ－２）浅鉢

すべて断片的な資料で、出土数が限られていることから、同一群の細分は行わない。口縁部の形態から次の３群に区分した。

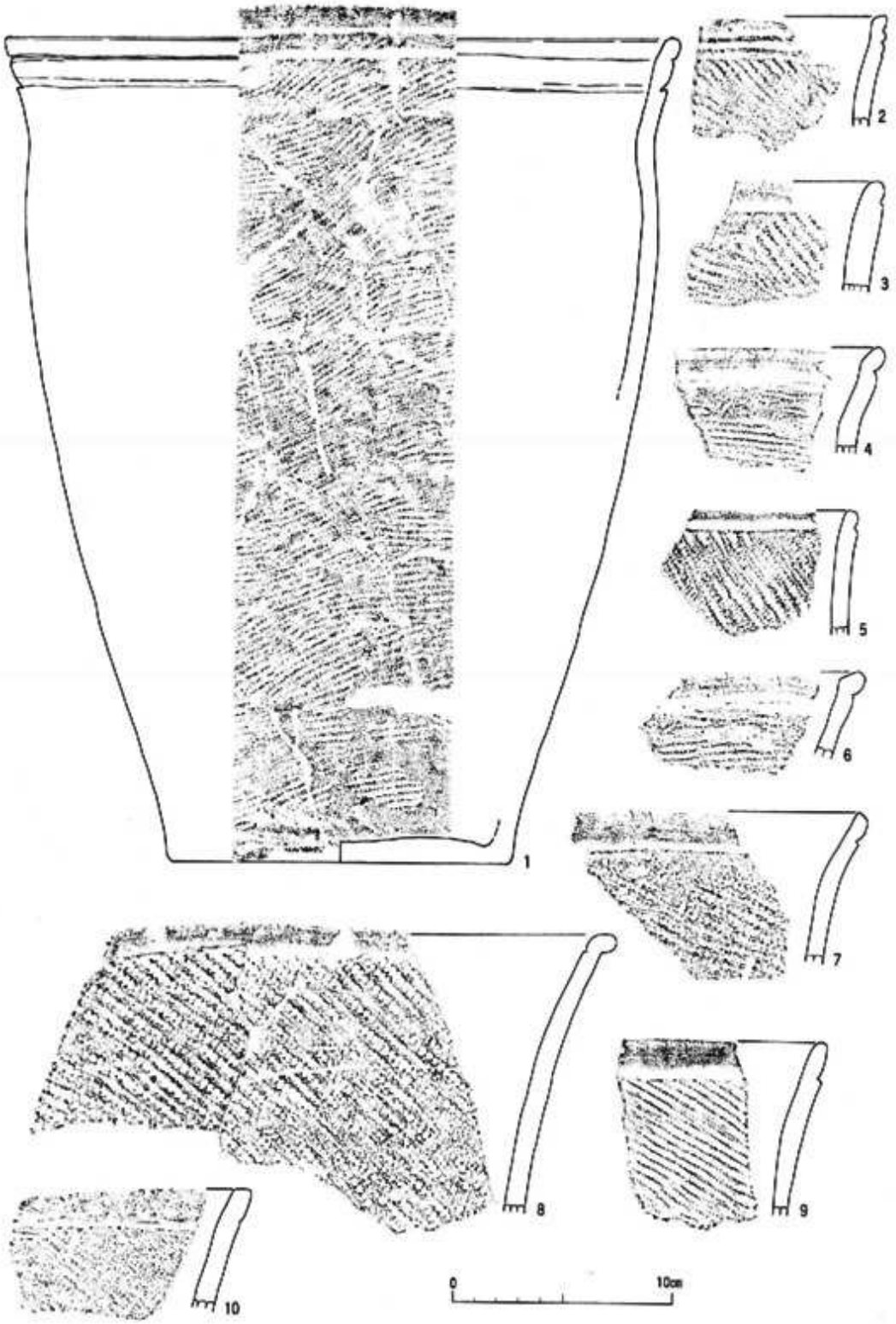
第１群土器（第36図１～３）

内湾する口縁部で、口縁端部が外反する。同１には半截竹管状施文具による渦巻文が施文されている他、円形と三角形の印刻が加えられている。同３には半円形の隆帯が貼付されている。

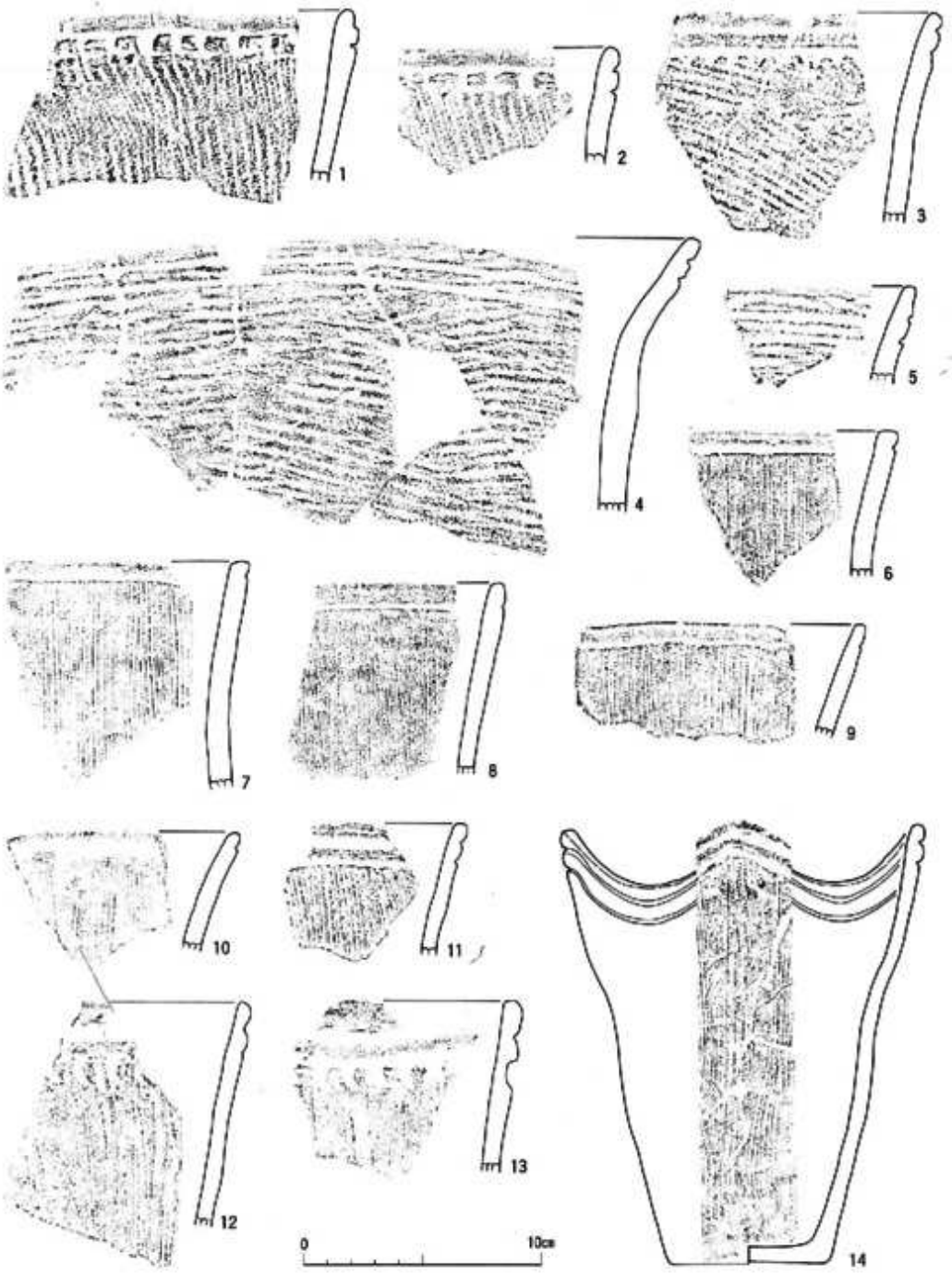
第２群土器（同４）

垂直に近く立ち上がる口縁部の土器で、半截竹管状施文具による沈線が施されている。

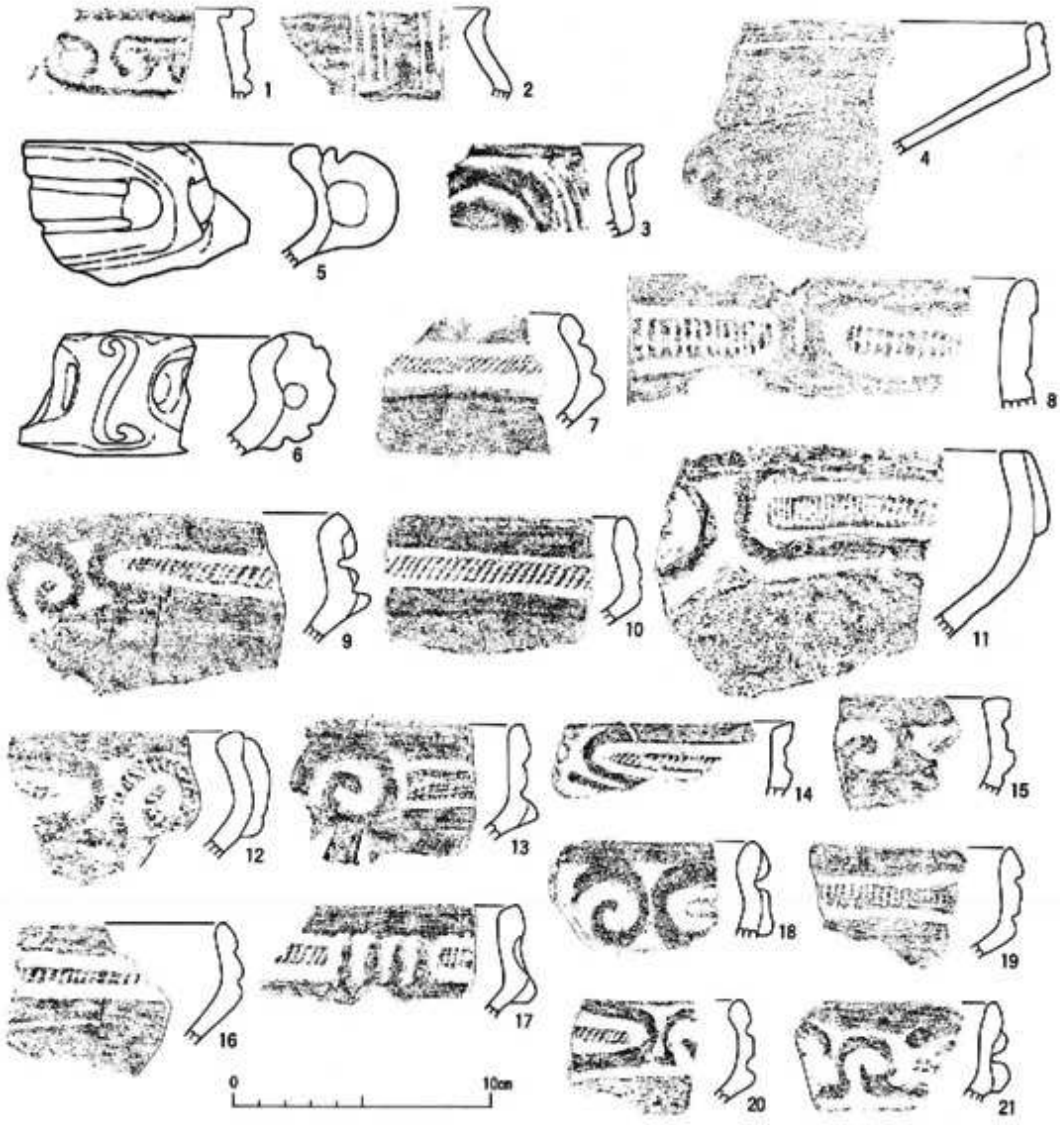
第３群土器（同５～21）



第34図　縄文土器拓影および実測図17　Ⅱ期深鉢第６群土器(1)



第35図　縄文土器拓影および実測図18　Ⅱ期深鉢第6群土器(2)



第36図　縄文土器拓影および実測図19　Ⅱ期浅鉢第１～３群土器

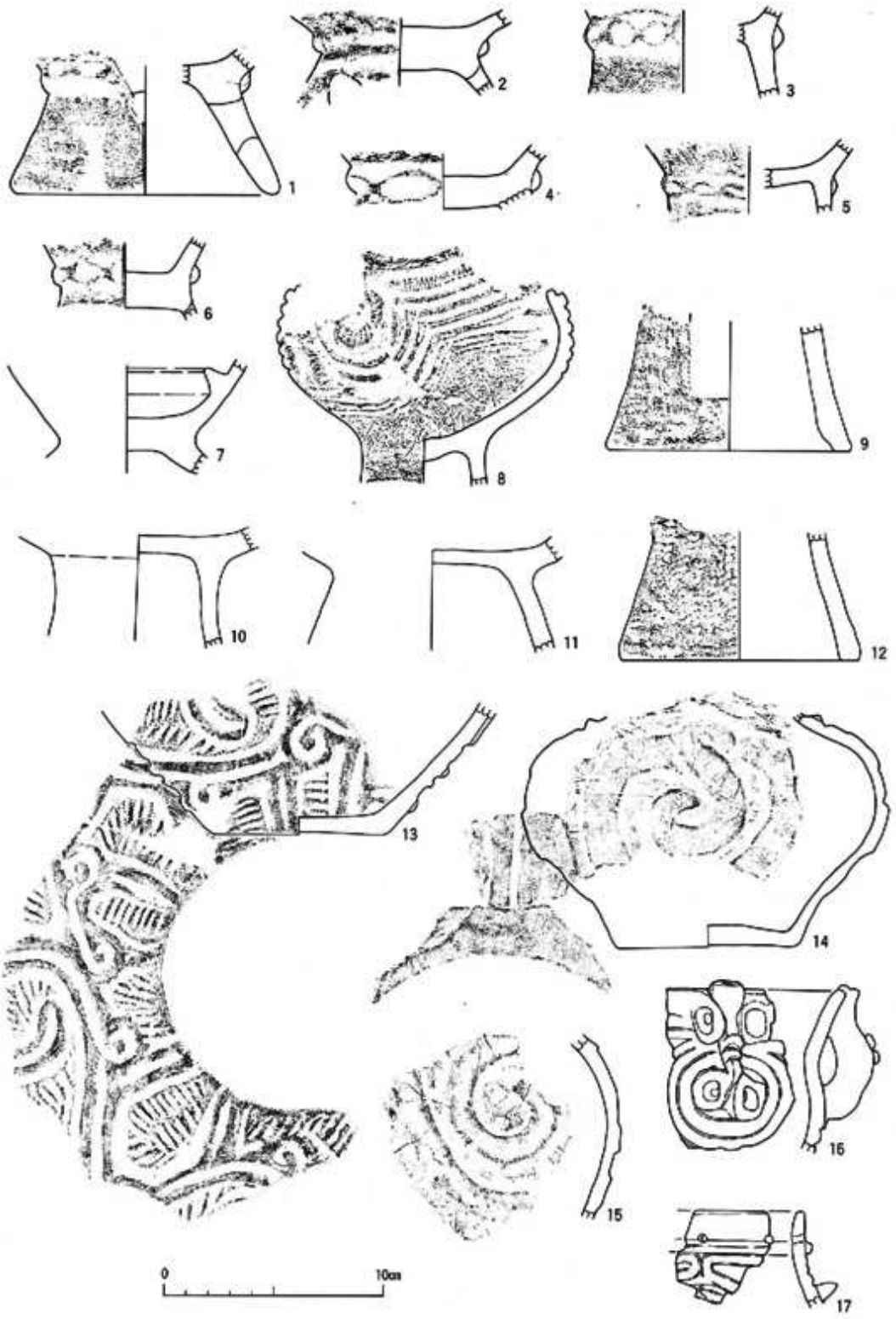
緩く内湾気味に立ち上がる口縁部の土器である。区画として施される隆帯による渦巻文が特徴である。区画内は、主に櫛歯状施文具による連続刺突で充填されている。

Ⅱ－３）台付土器（第37図１～12）

台付土器についてもやはり出土数が限られていることから細分は行わない。同１～５は、屈曲部分に大きな押圧のある隆帯が貼付されている。同８・８は台付鉢である。

Ⅱ－４）鉢類（同13～17）

同13～16は鉢とみられる。同16は上下に２個ずつ、円形の隆帯を貼付した把手を有し、地山には、半截竹管状施文具による平行沈線が施されている。同14・15には透かし彫りで「Ｓ」字状文が描かれている。また同13は隆帯による渦巻文を複雑に配し、区画内を縄文で充填している。



第37図　縄文土器拓影および実測図20　Ⅱ期台付土器・鉢類

同17は、有孔鍔付土器で、地文には半截竹管状施文具で平行沈線が施されている。

5．Ⅲ期 縄文中期後葉に属す土器群

第1群土器（第38図）

大きく外反する口縁部が特徴で、串田新Ⅰ式に相当するとみられる。消極的な分類方法ではあるが器形全体を知ることのできる資料が無いことから、また第2群土器の区分に対応させる意味も含めて、連続刺突の施文具から次の2類に区分した。

a類（第38図1～18） 貝殻腹縁による連続刺突文の施されている類。平縁の場合が多いが山形の波状口縁（同8）や山形が2つ連なる双頭の波状口縁（同9・10）がある。また平縁の場合にも山形の突起が2～4個を単位として貼付されている。

文様は貝殻腹縁による連続刺突と、棒状施文具による沈線で構成される。沈線で横長に区切られた区画文が特徴的で、区画内は無文の場合と貝殻腹縁による刺突で充填されている場合がある。横長の区画文の間には縦の沈線が施されている場合が多い。同9・10には渦巻文が施されているが、前段階のように隆帯ではなく沈線で表現されている。また裏面には1・2条の沈線が、口縁と平行に施されている。

b類（同19～26） 刺文具は、ヘラ状のもの（同19・21～24）が多く、他に櫛歯状のもの（同25）や刺突の無いもの（同20）があるが、ここではこれらを一括にしてb類とした。文様構成はa類と共通である。

第2群土器（第39～44図）

串田新Ⅱ式にほぼ相当するとみられる土器群である。特に文様構成で異なる特徴をもつ土器群が含まれていることから、なお複数の土器群に細分できると考えられる。ここでは便宜上隆帯上に加えられている連続刺突の施文具から4類に区分した。

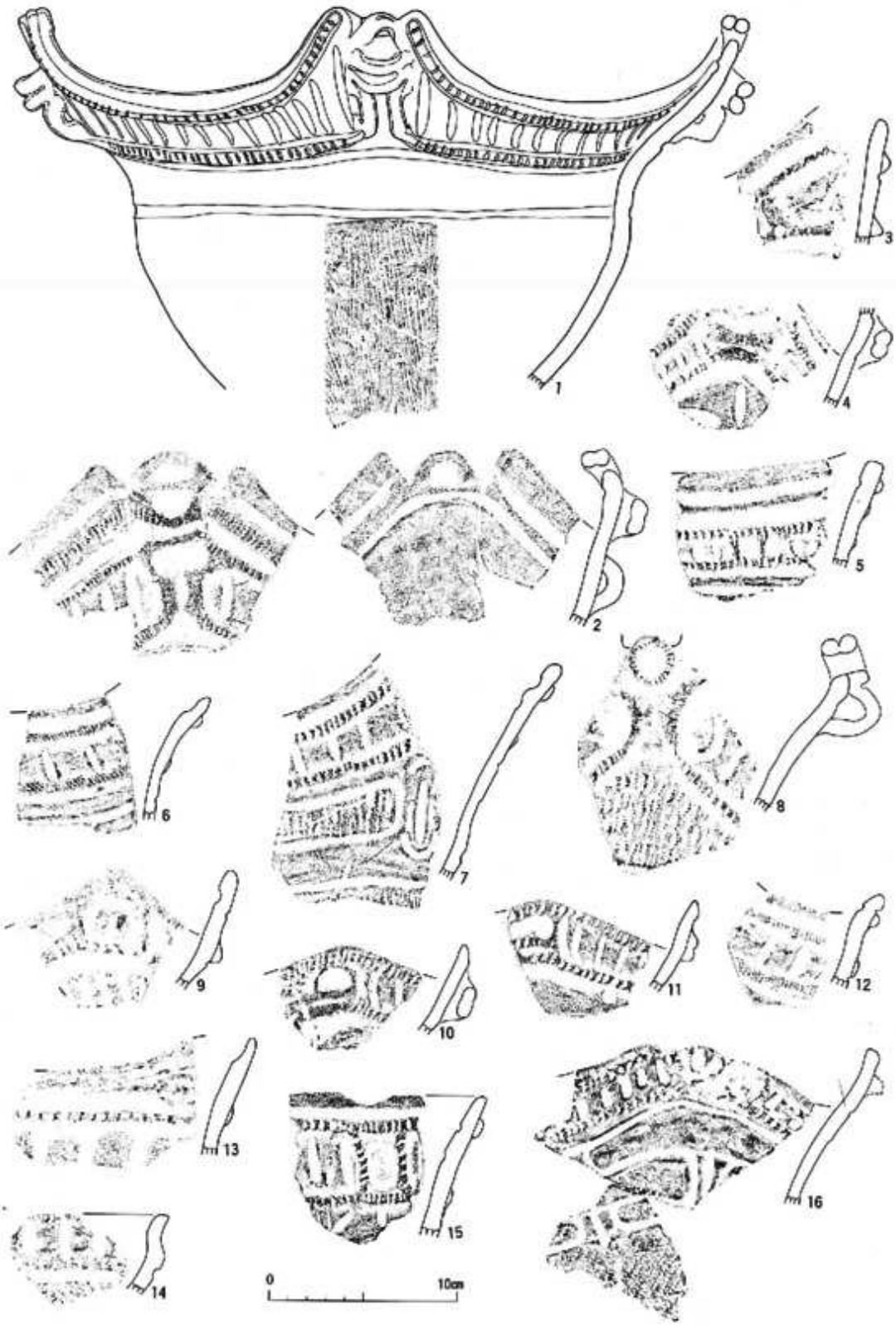
なお第44図には胴部資料を集めた。連弧文から派生したとみられる三角形の区画文が多いが、第1群にあった横長の区画文（同2・10）も含まれている。同1～7には貝殻腹縁を用いた刺突文が施されている。また地文は斜縄文の場合が多いが撚糸文（同13・14）や集合沈線文（同15～18）も施文されている。

a類（第39図） 隆帯上に貝殻腹縁を用いた連続刺突文の施文された類。第2群土器の特徴である双耳状の突起をもつ波状口縁の土器（同1・2）と、山形の波状口縁をもつ土器（同9～11）がある。前者では波頂部の直下に複数の環状把手が付く。

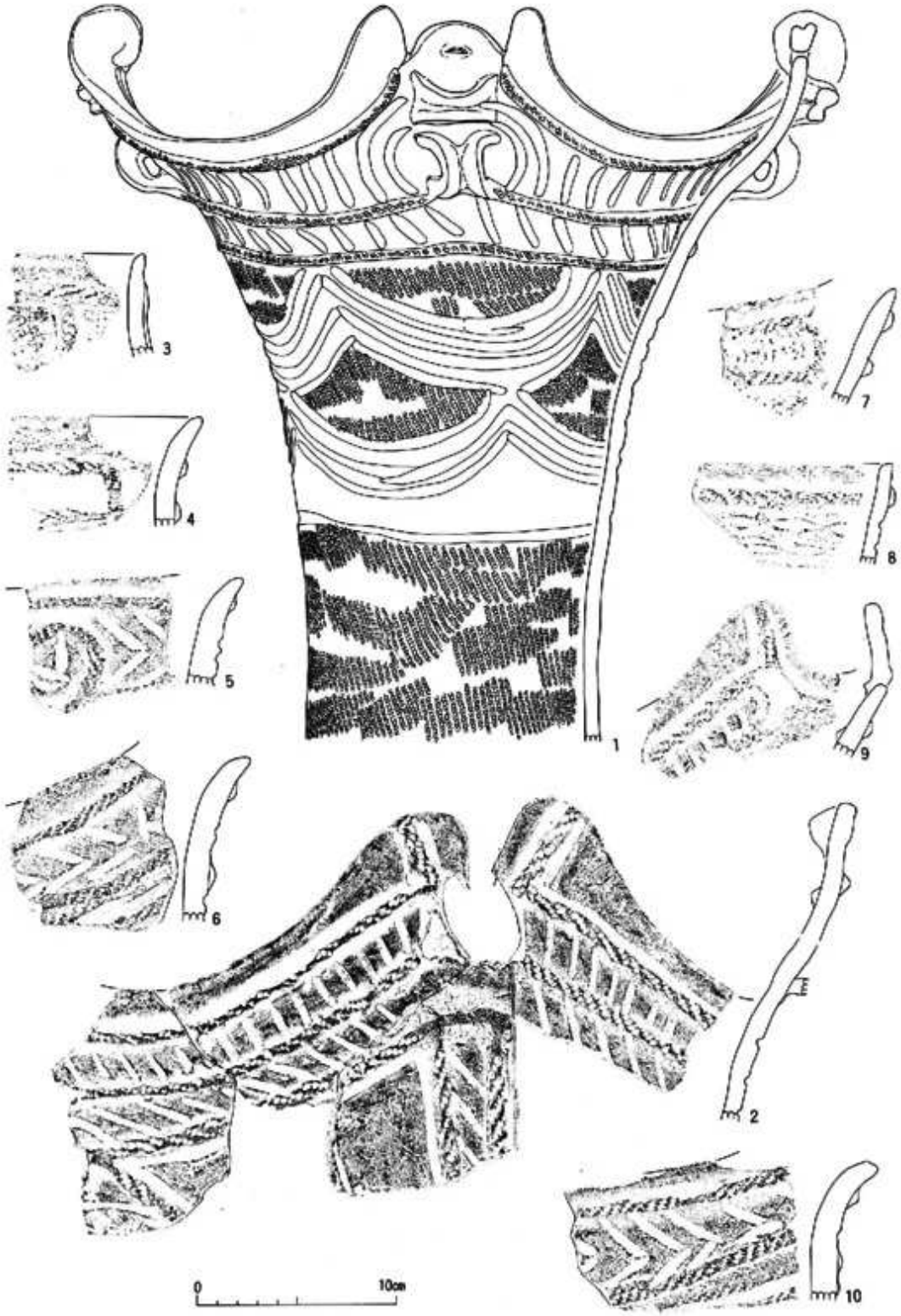
口唇部直下は上下2条の隆帯で区画され、区画内には縦位か斜位の沈線文が施されている。この下位にある文様帯は不明な場合が多いが、同7・16には第1群土器にあった横長の沈線による区画文がある。なお同1は膨らみのある胴部で、頸部から大きく外反する器形で、台付土器かこれに似た器種とも考えられる。

b類（第40図、第41図1～6） 隆帯上に縄文の施文されている類。a類と同様の双耳状の突起をもつ波状口縁の土器（第40図1・2・9）と、山形の波状口縁の土器（第41図1・2）がある。第40図1の波頂部直下には環状の把手が付いている。

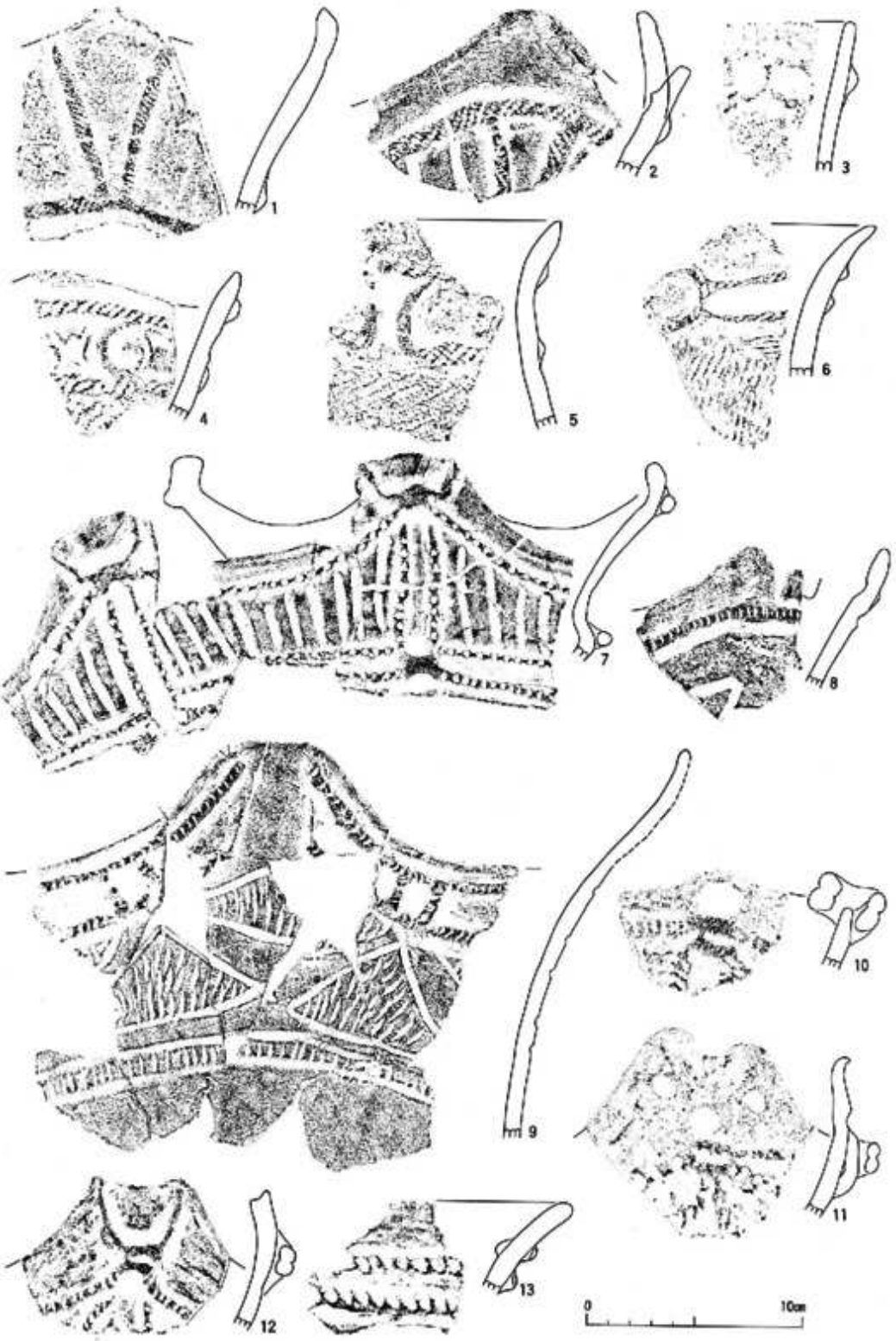
第38図　縄文土器拓影21　Ⅲ期深鉢第1群土器



第39図　縄文土器拓影および実測図22　Ⅲ期深鉢第２群土器(1)

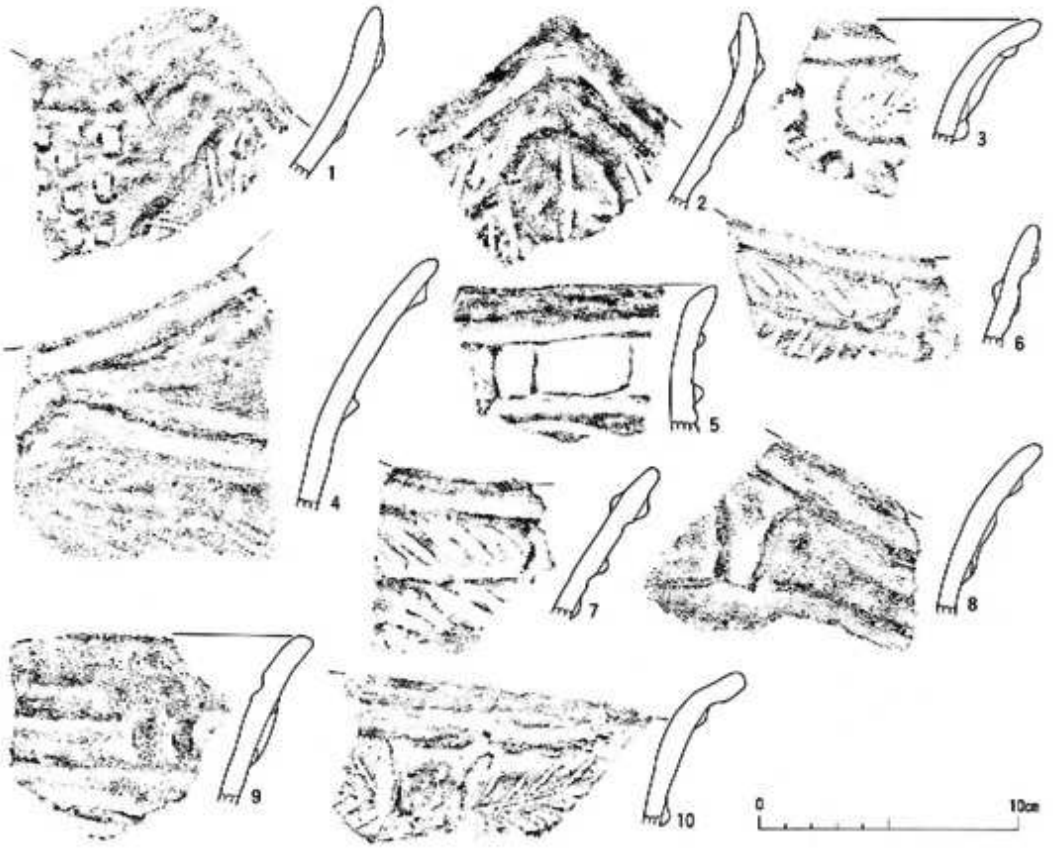


第40図　縄文土器拓影および実測図23　Ⅲ期深鉢第２群土器(2)



第41図　縄文土器拓影24　Ⅲ期深鉢第２群土器(3)

第42図　縄文土器拓影および実測図25　Ⅲ期深鉢第２群土器(4)



第43図　縄文土器拓影26　Ⅲ期深鉢第２群土器(5)

隆帯による横長の区画内には、縦の沈線のほかに、「ハ」の字状の沈線や列点文が施されている。第40図１の胴部には、連弧文が２段描かれ、その区画内を縄文で充填している。

第41図３～６は、主に上下２条の隆帯で文様構成され、胴部文様帯が省略されている。

C類（第41図７～13、第42図）　隆帯上に貝殻腹縁以外の施文具により連続刺突の行われている類。施文具には、ヘラ状のものと棒状のものがある。ａ・ｂ類でみられた双耳状の大きな突起から、山形を２つ連ねた様な小振りな突起へと変化している。第42図８～11は山形の波状口縁である。

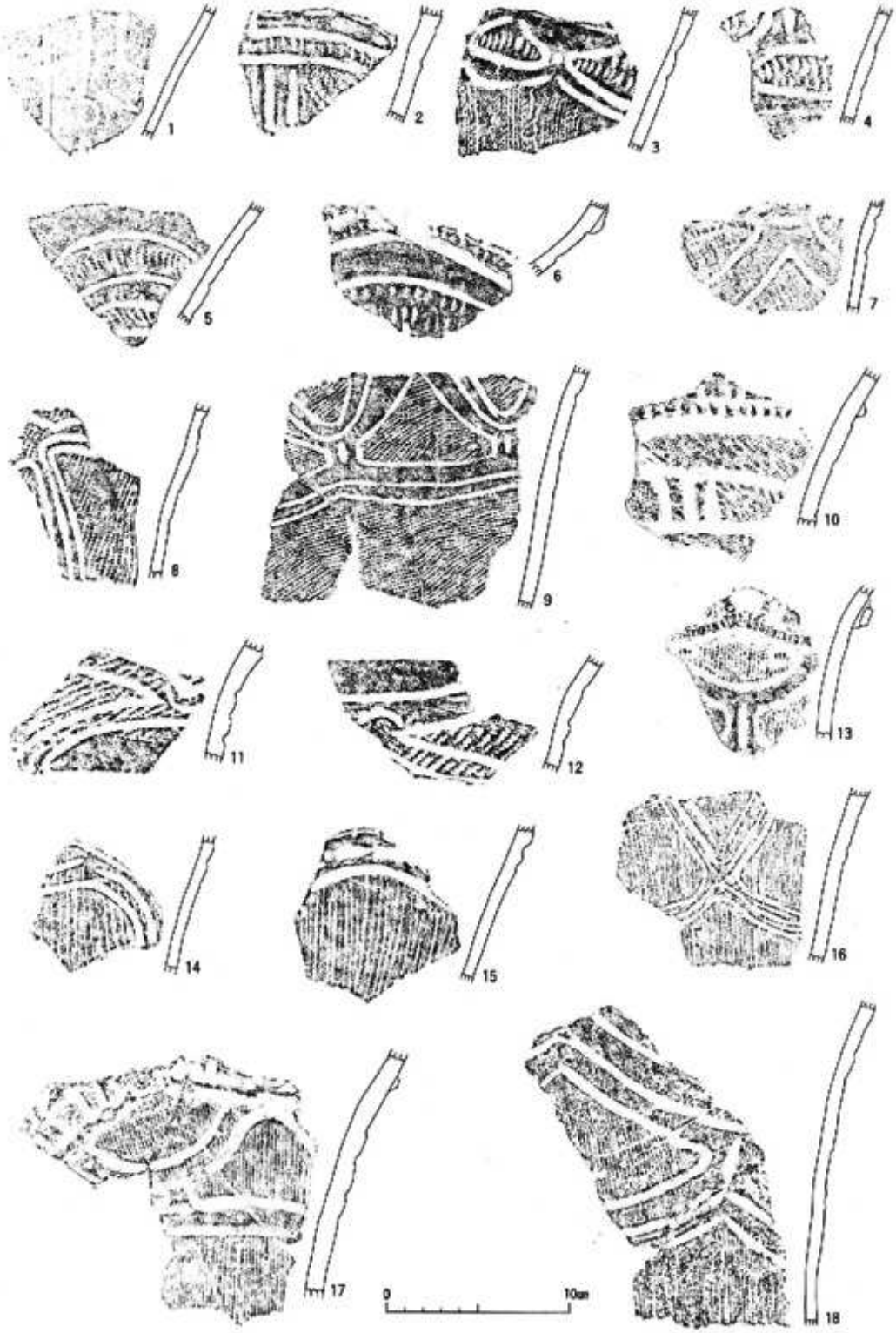
なお第41図７は、台付土器である可能性が高い。

ｄ類（第43図）　隆帯上に施文されていない類。同１は山形の２つ連なる波状口縁とみられる。文様構成は前記の各類に共通するものがあるが、同６・10には葉脈状の沈線文が施され、これは前記した中には含まれていなかったものである。

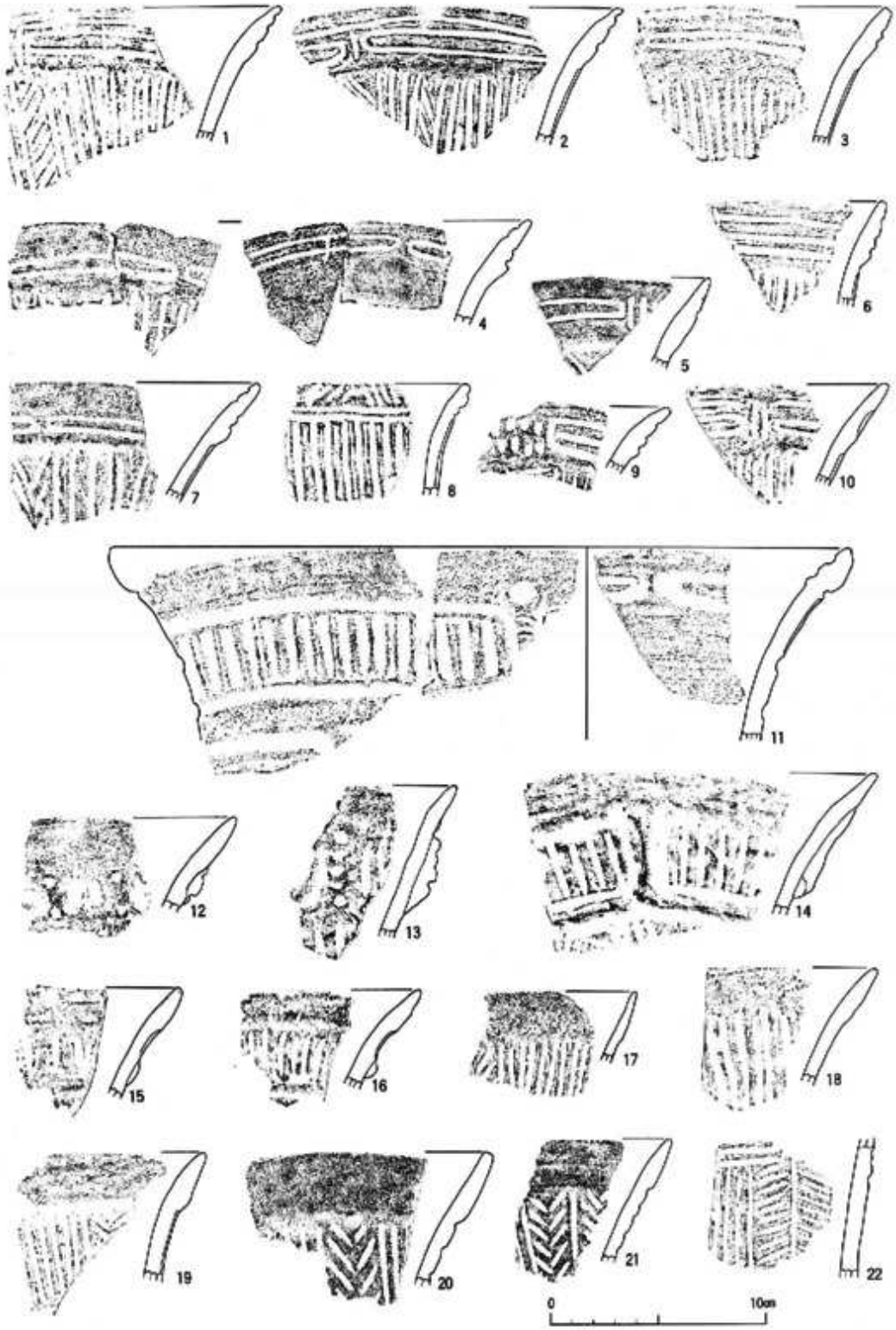
第３群土器（第45～48図）

口縁部が外側へ大きく開く器形で、口唇部の直下が２～３㎝の巾で肥厚しているのが特徴である。口縁部には第１群土器と共通する文様構成ががみられる。

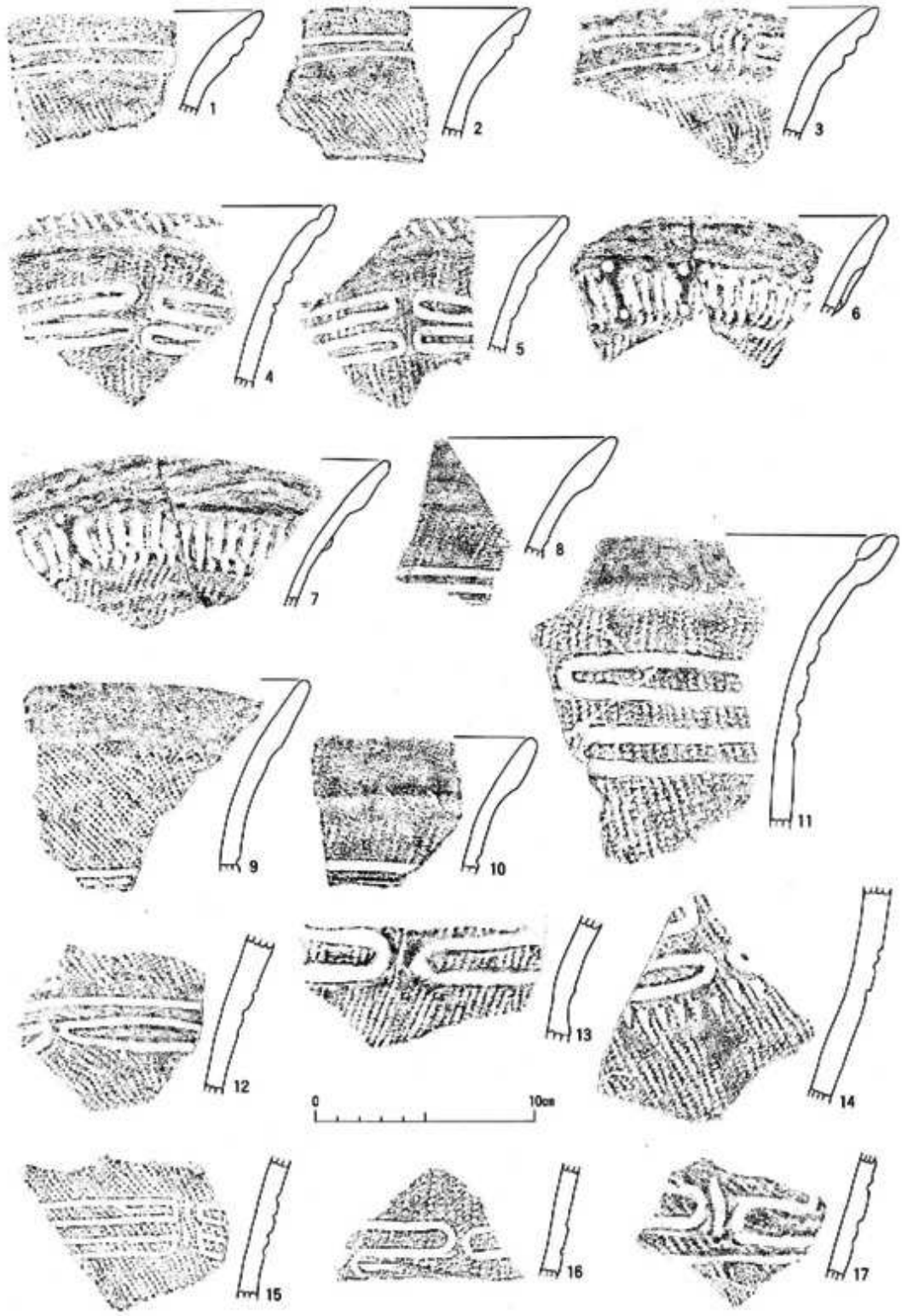
第46・47図には、共通の器形で同様の文様構成が認められる土器を掲載した。また第48図は粗製土器であるが、胴部にはｂ・ｃ類の胴部文様帯が施文されている可能性はある。



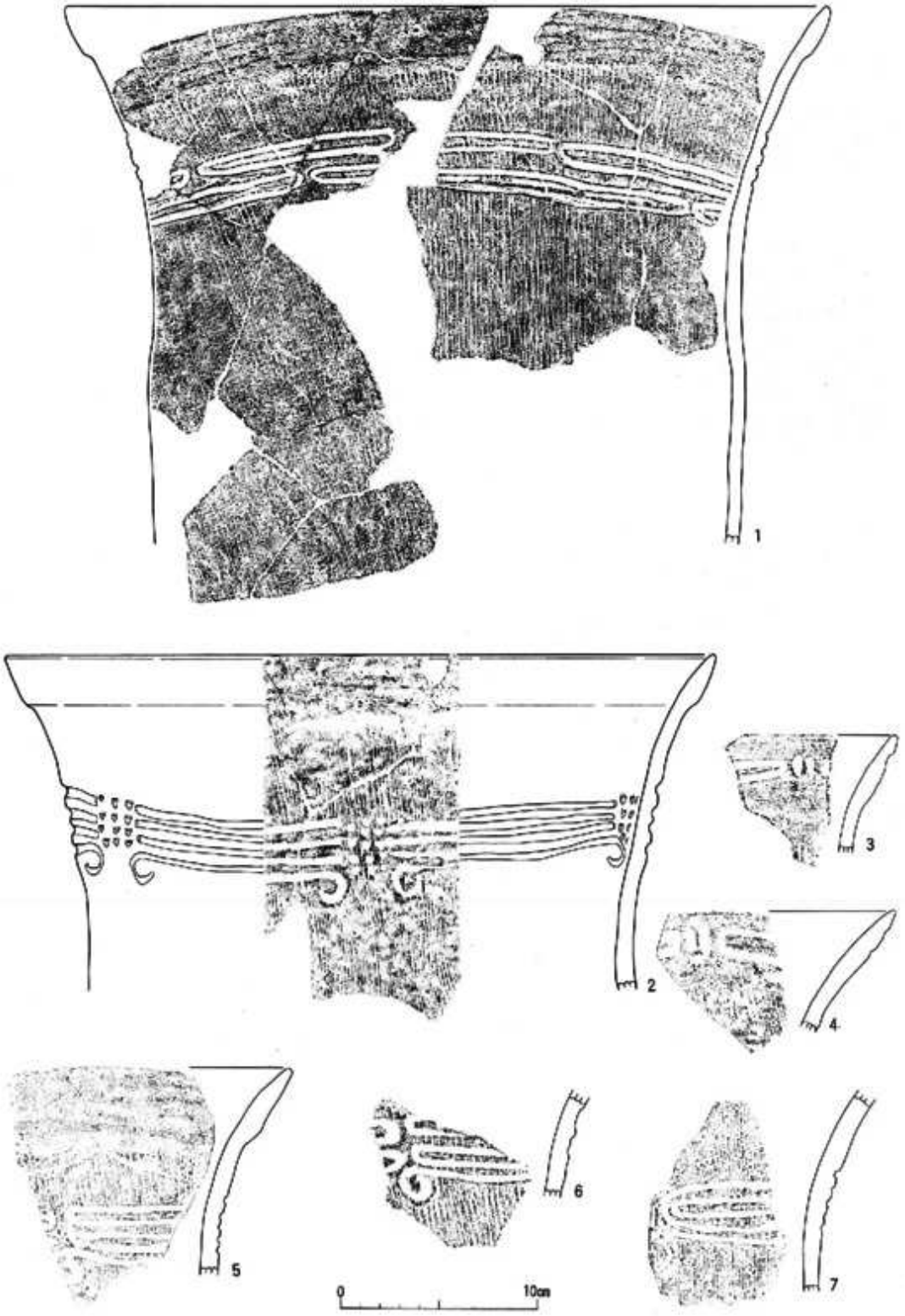
第44図　縄文土器拓影27　Ⅲ期深鉢第２群土器(6)



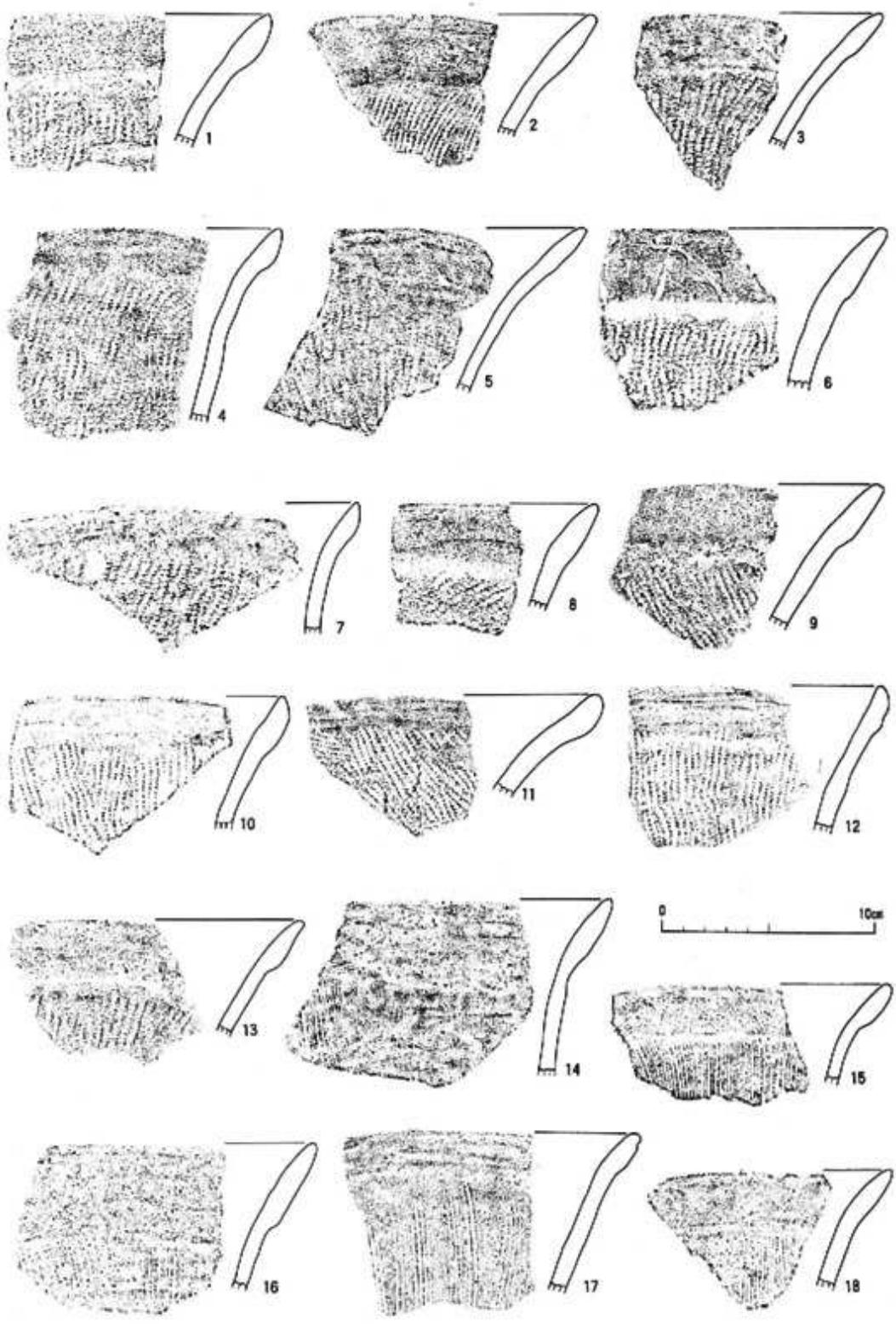
第45図　縄文土器拓影28　Ⅲ期深鉢第3群土器(1)



第46図　縄文土器拓影29　Ⅲ期深鉢第３群土器(2)



第47図　縄文土器拓影および実測図30　Ⅲ期深鉢第３群土器(3)



第48図　縄文土器拓影31　Ⅲ期深鉢第3群土器(4)

a類（第45図）　同1～10は、肥厚部に文様の施文されている場合である。沈線による横長の区画と、区画の間に施されている縦の沈線は、第1群土器の頸部から胴部上半に施文されていたものと類似している。

肥厚部の下には、同10～16のように縦の短い沈線が連続した土器がある。同11～13では上下に円形刺突のある隆帯が貼付されている。

また縦方向の沈線と、斜位か逆「ハ」の字状の沈線を組み合わせて文様構成しているのも、この類の特徴である。

b類（第46図）　a類の半粗製土器とも言える類で、地文は縄文である。器形をはじめ、肥厚部や胴部の文様構成にも、共通するものが多い。

c類（第47図）　やはりa類に対する半粗製土器とも言える類である。地文には櫛歯状施文具による集合沈線文が施されている。b類と同様に、a類と共通する文様構成が認められる。

第4群土器（第49～第52図）

前田・岩峅野式に比定できる土器群である。胴部は張りがあり、頸部に相当する部位から口縁部は外反し、端部は強く開く器形である。文様帯は胴部上半から口縁部にかけて展開されている。地文には特徴的な縦走する縄文が施文されている。

文様は、巾広の沈線で構成されている。第1・2群土器とは器形が異なるが、それぞれの文様構成には共通するものもある。ここでは以下の4類に区分した。

前田・岩峅野式については、中期後葉から後期前葉をつなぐ土器群として位置付けられているが、器形と文様構成からⅢ期：中期後葉に含めた。

a類（第49図）　上下2条の沈線で区切られた区画内に斜位の沈線が施されている類。この文様構成は、第2群土器の口縁部文様帯にみられた文様構成の影響下にあると考えられる。

同1では、口縁部端部が内側に押し曲げられており、この第4群土器の特徴でもある。

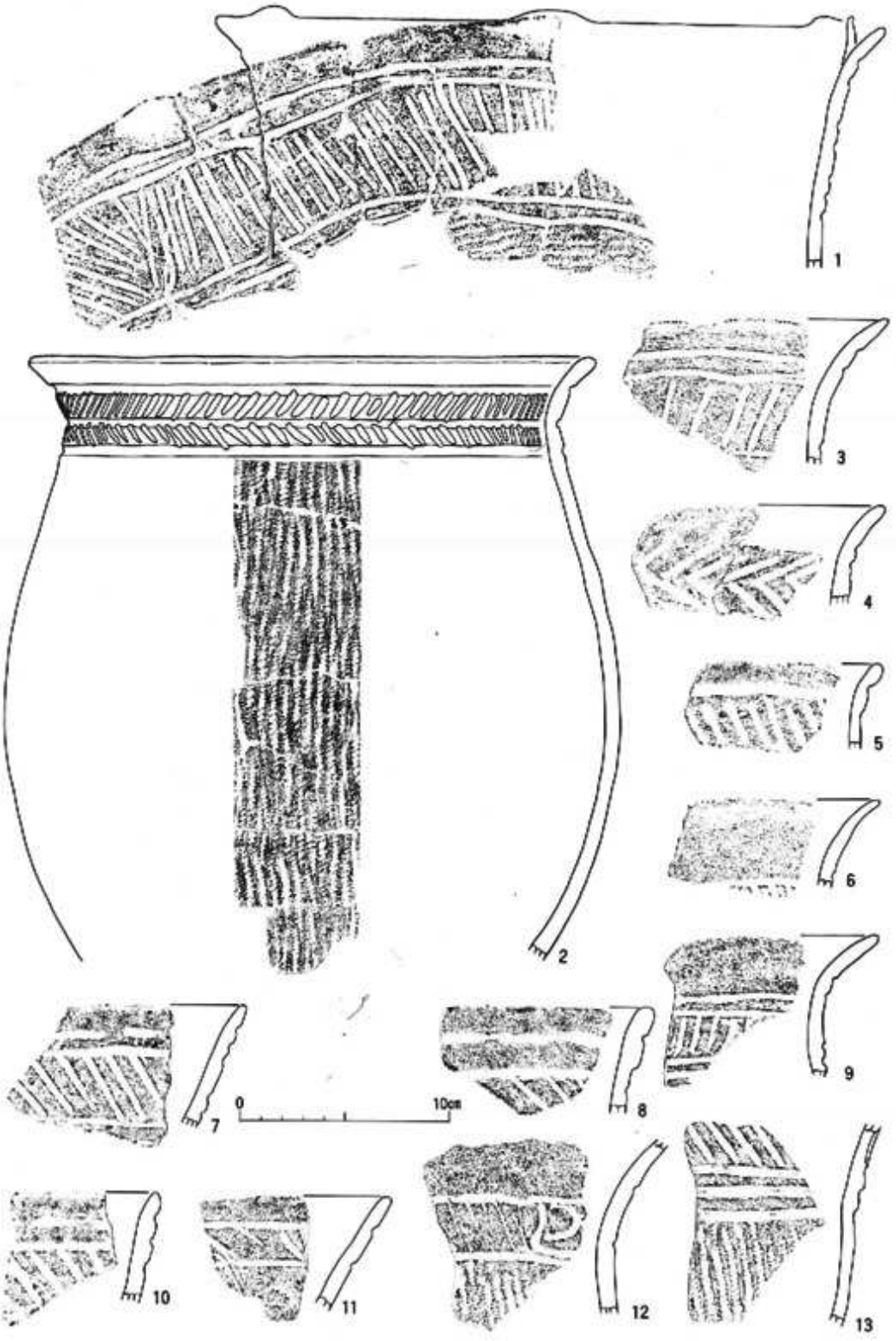
b類（第50図）　口縁部と平行方向に施された2段の沈線内に連弧文の施文されている類。同7・8には刺突文が加えられている。また同14・21・27には、判然とはしていないが、c類と共通とみられる文様も施されている。

c類（第51図）　やはり沈線で、「S」字状文や渦巻文が施されている類で、上下の沈線の間に描かれている場合が多い。これらの文様は単独で用いられている場合もあるが、同1～3・5・6・8・20などでは横長の区画の間に施されており、第1群土器や第3群土器の横長区画とその間の沈線のあり方と共通するものがある。

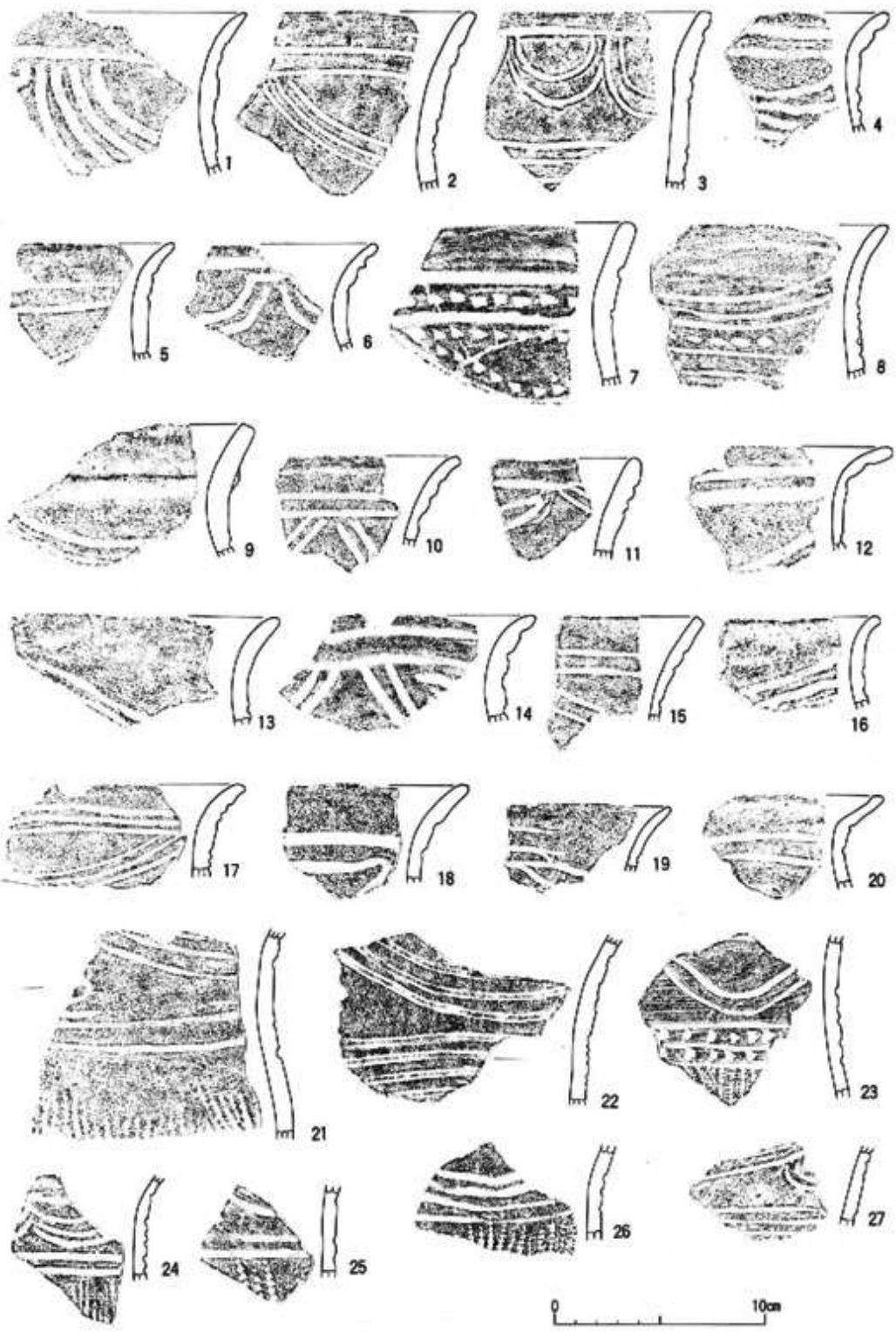
d類（第52図）　平行沈線と、平行沈線に刺突を加えて文様構成されている類。単純な文様構成の土器であるが、この中にはb・c類の文様部分が欠落したためにこの類に含まれたものもあると考えられる。

第5群土器（第53図～第56図、第57図1～12）

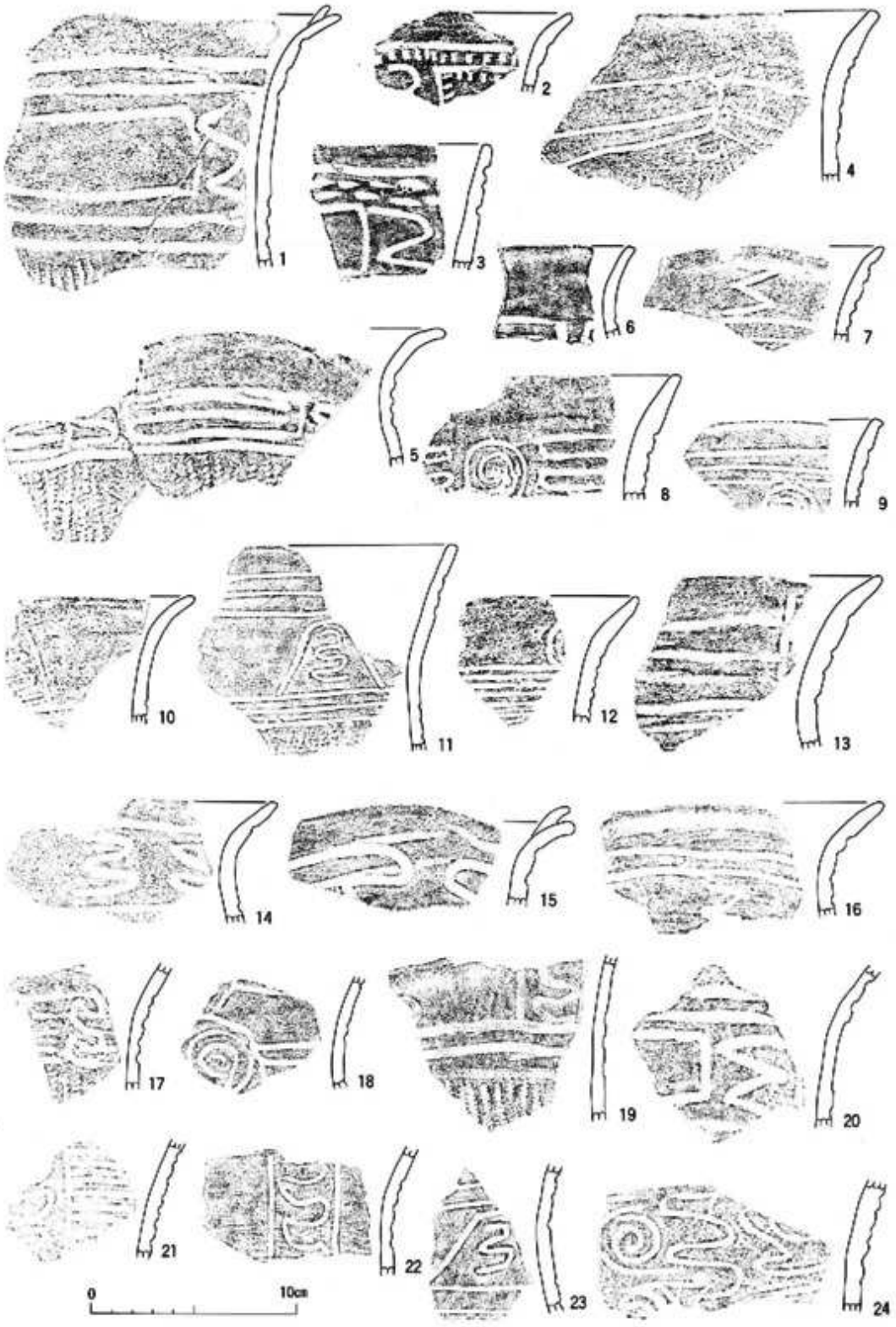
北陸地方西部を中心に分布していた大杉谷式と、これの影響下で成立したとみられる土器群である。瑞穂遺跡から出土した土器群には曽利式にみられるような渦巻文などで構成される口縁部文様帯が欠落しており、大杉谷式の中にあっても後半に位置付けられると考えられる。



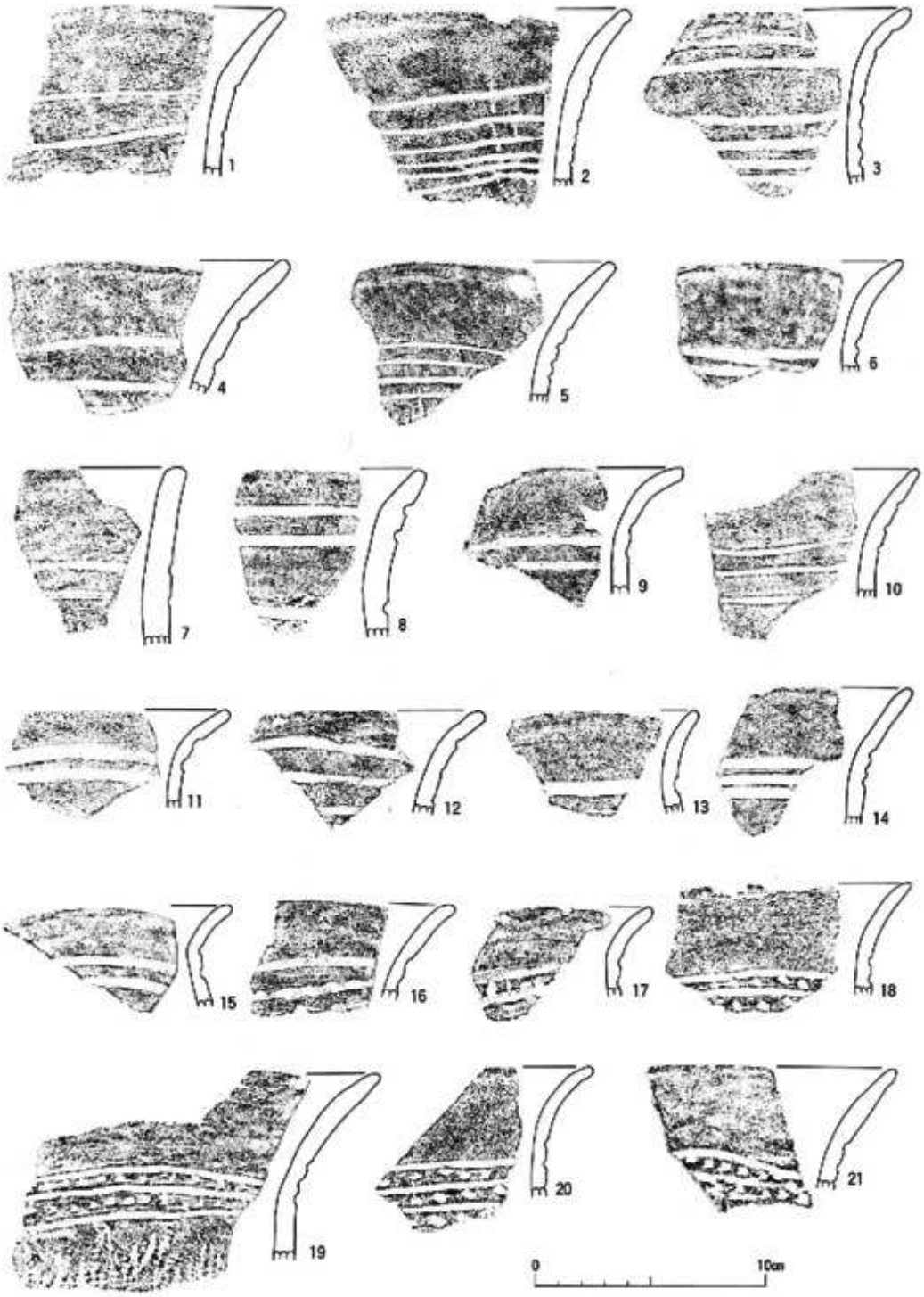
第49図　縄文土器拓影および実測図32　Ⅲ期深鉢第4群土器(1)



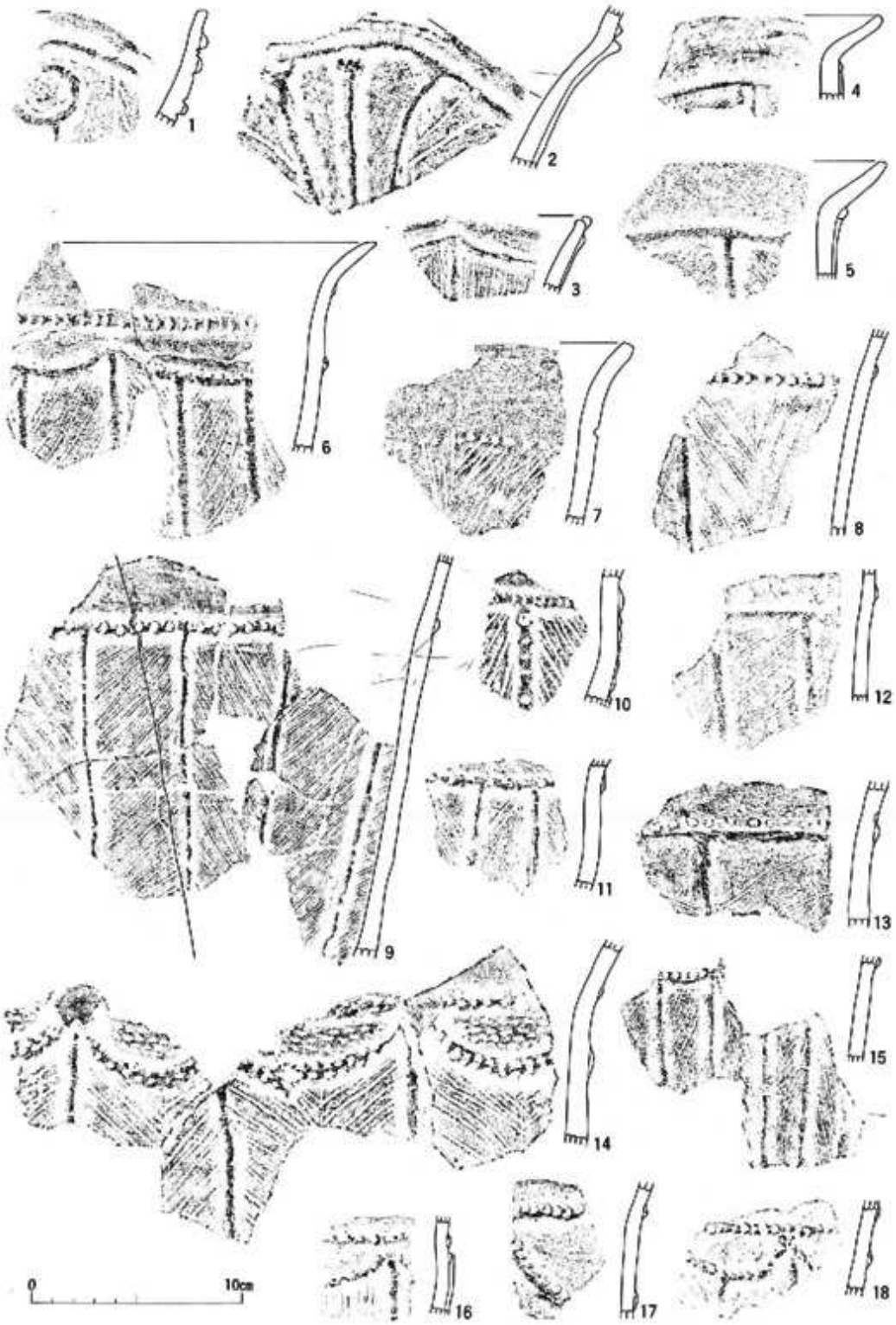
第50図　縄文土器拓影33　Ⅲ期深鉢第4群土器(2)



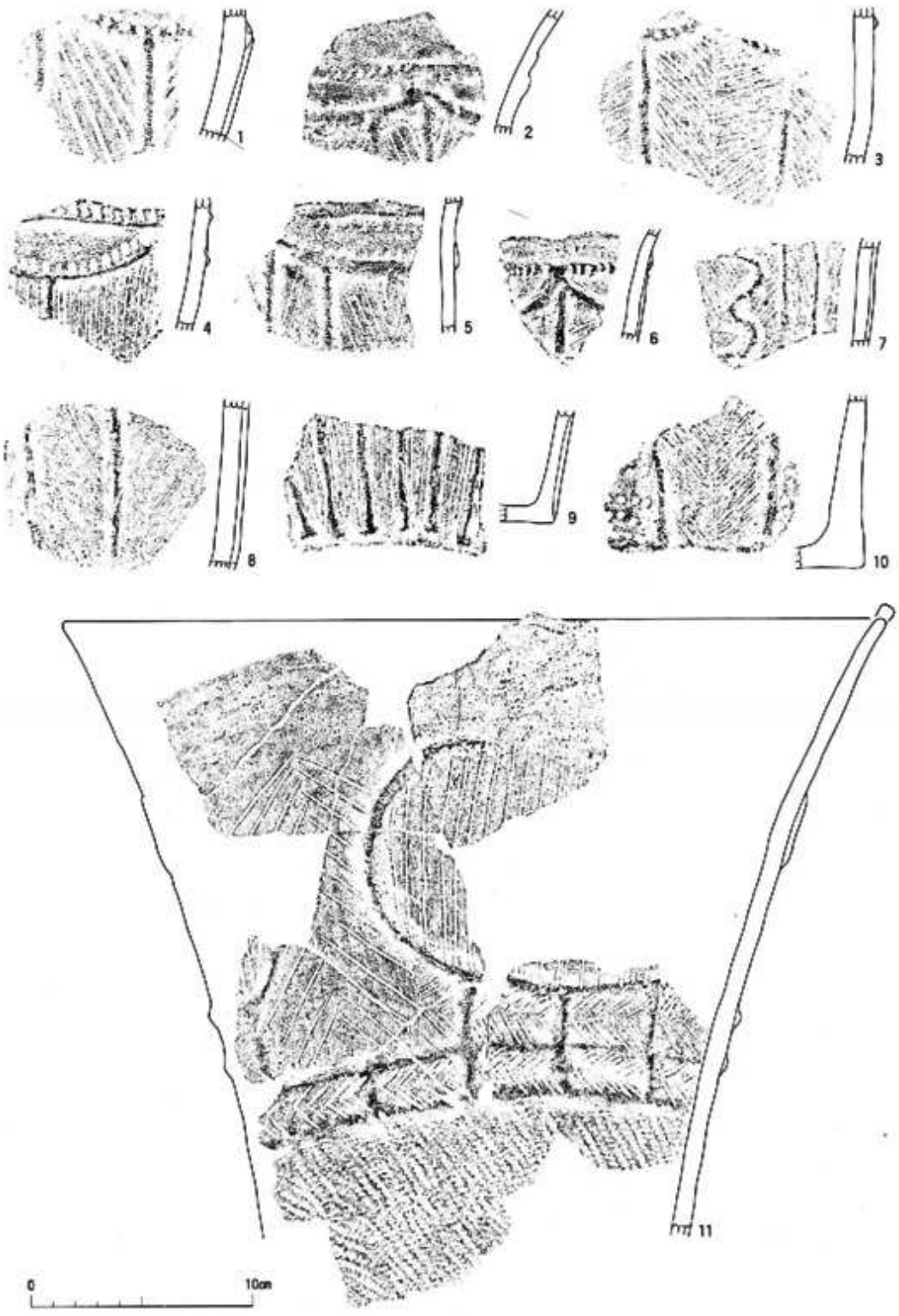
第51図　縄文土器拓影33　Ⅲ期深鉢第4群土器(3)



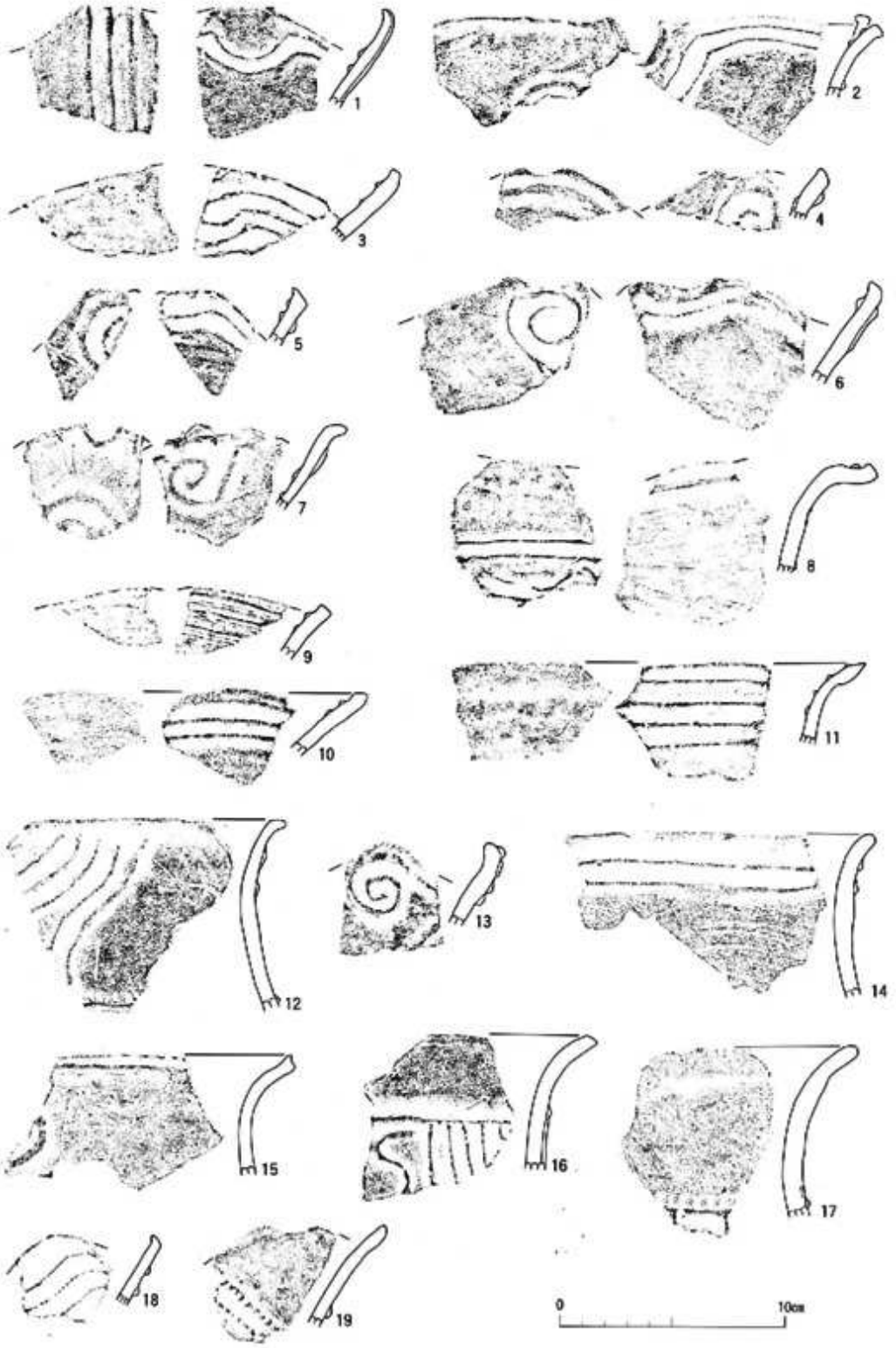
第52図　縄文土器拓影35　Ⅲ期深鉢第4群土器(4)



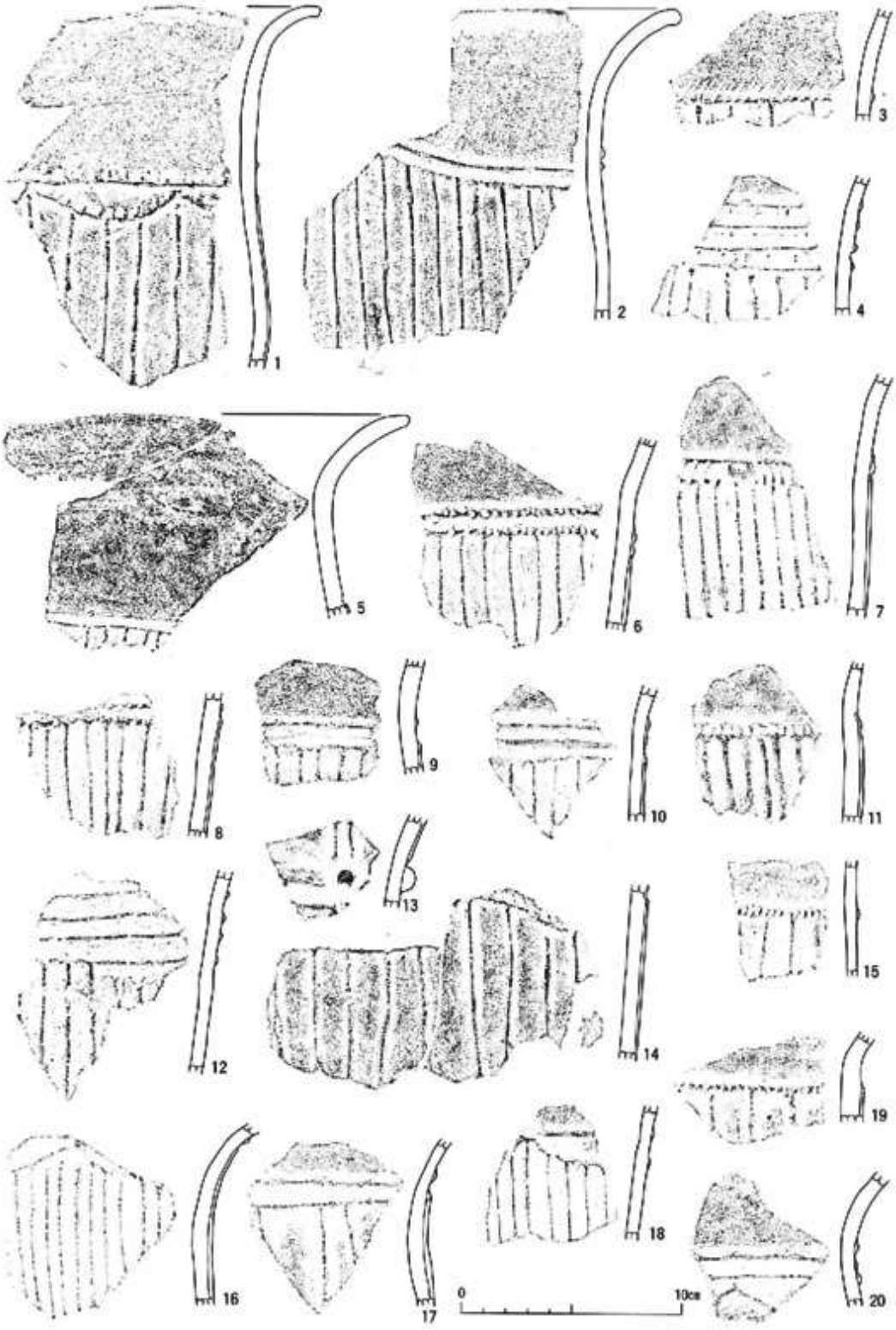
第53図　縄文土器拓影36　Ⅲ期深鉢第5群土器(1)



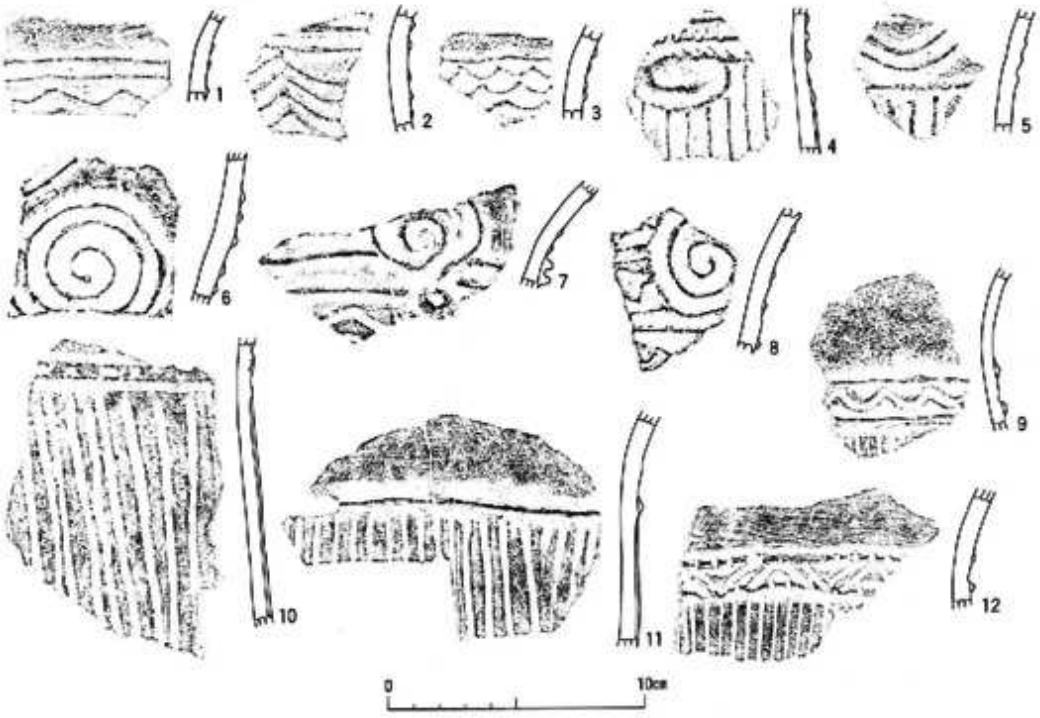
第54図　縄文土器拓影および実測図37　Ⅲ期深鉢第５群土器(2)



第55図　縄文土器拓影38　Ⅲ期深鉢第５群土器(3)



第56図　縄文土器拓影39　Ⅲ期深鉢第５群土器(4)



第57図　縄文土器拓影40　Ⅲ期深鉢第５群土器(5)

器形は基本的には第４群土器と同様で、大きく開く口縁部を特徴としている。隆帯と沈線の使い分けから、次の２類に区分した。

ａ類（第53図１～３）　口縁の開きは小さく、波状口縁を呈す。ｂ類でみられるような口縁部の開きはない。またｂ類の胴部文様が口唇部の直下から展開されている。

隆帯による縦方向の区画と、区画内に沈線が施されていることは以下の類と同様である。

ｂ類（第53図４～18、第54図）　外側へ大きく開く口縁部が特徴である。断片的な資料ではあるが、口縁部は無文帯となっている。頸部に相当する屈曲部分を１条の隆帯がめぐり、この隆帯から縦位に隆帯が垂下している。これら水平方向と垂直方向の隆帯の間に、弧状の隆帯を貼付している場合も多い。また隆帯上に連続して刺突文が施される場合もある。

隆帯による縦長の区画には沈線文が施されている。沈線は隣り合う区画で右下りと左下りを繰り返す場合が多いが、右下りと左下りを１つの区画で表現したいわゆる葉脈状文もみられる。

第54図11は、器形と文様構成が他の土器と異なるが、隆帯による区画と沈線からｂ類に含めた。

ｃ類（第55・56・57図１～12）　断面の形状が三角形で細い隆帯により文様構成されている類。器形はｂ類と同様である。

第55図１～10は内面にも隆帯が貼付されている。２つの低い山形の突起を１単位とした口縁部のつくりが特徴的である。突起の直下には表裏両面ともに渦巻状や弧状の隆帯が貼付されている。

頸部に相当する屈曲部分には水平方向の隆帯がみられる。この隆帯の直下にb類にあった弧状の隆帯が配される場合（第56図1）もある。胴部にはやはり断面三角形の細い隆帯が縦位に貼付されている。第57図9～12では、胴部に隆帯に変わって沈線が施文されている。

第6群土器（第58図～第60図）

Ⅲ期に属す深鉢の中で、粗製土器あるいは半粗製といえる土器を第6群土器として一括して扱う。主たる文様のあり方や地文の相違から、次の4類に区分した。

a類（第58図）　全体の器形は不明であるが、口縁部は緩く外反している。口唇部直下に巾3～4㎝程度の無文部を設ける特徴がある。無文部の下位には斜縄文が施されるが、同10には撚糸文が施されている。

また口唇部直下の裏面に隆帯（同1・4・5）や沈線（同2・3）が巡り、第1・2群土器と共通する特徴が認められる。

b類（第59図1～11）　水平方向に1あるいは2条の隆帯を貼付する類。口唇部と隆帯の間は無文部となっている。隆帯上には、棒状かヘラ状の施文具で、刺突が連続して加えられている。

c類（第59図12～23、第60図1～12）　b類と共通する文様構成であるが、隆帯にかわって沈線文が施文されている。第59図12～23では、沈線の間にはやはり刺突文が施されているが、横長の短線状に加えられた刺突文が特徴である。第60図1～12には、水平方向に沈線文が施されている。

第59図18と第60図1～4・6では、口縁部の一部が内面へ押しまげられている。

d類（第60図13～17）　櫛歯状施文具で、施文された集合沈線文を特徴とする類。同13は、内面へ押し曲げられた4単位の突起のある土器で、表裏両面に水平方向の沈線文が施されている。

Ⅲ－2）浅鉢

第1群土器（第61図1・9・12・15）

器形の上部で一旦内傾へ折れ曲がった後、口縁端部が大きく外側へ開く。同1には橋状の把手が付き、把手の端は隆帯となって器面をめぐる。同9・12・15は屈折部から上の巾が狭く、同12の器形は第3群土器のそれに近いものがある。

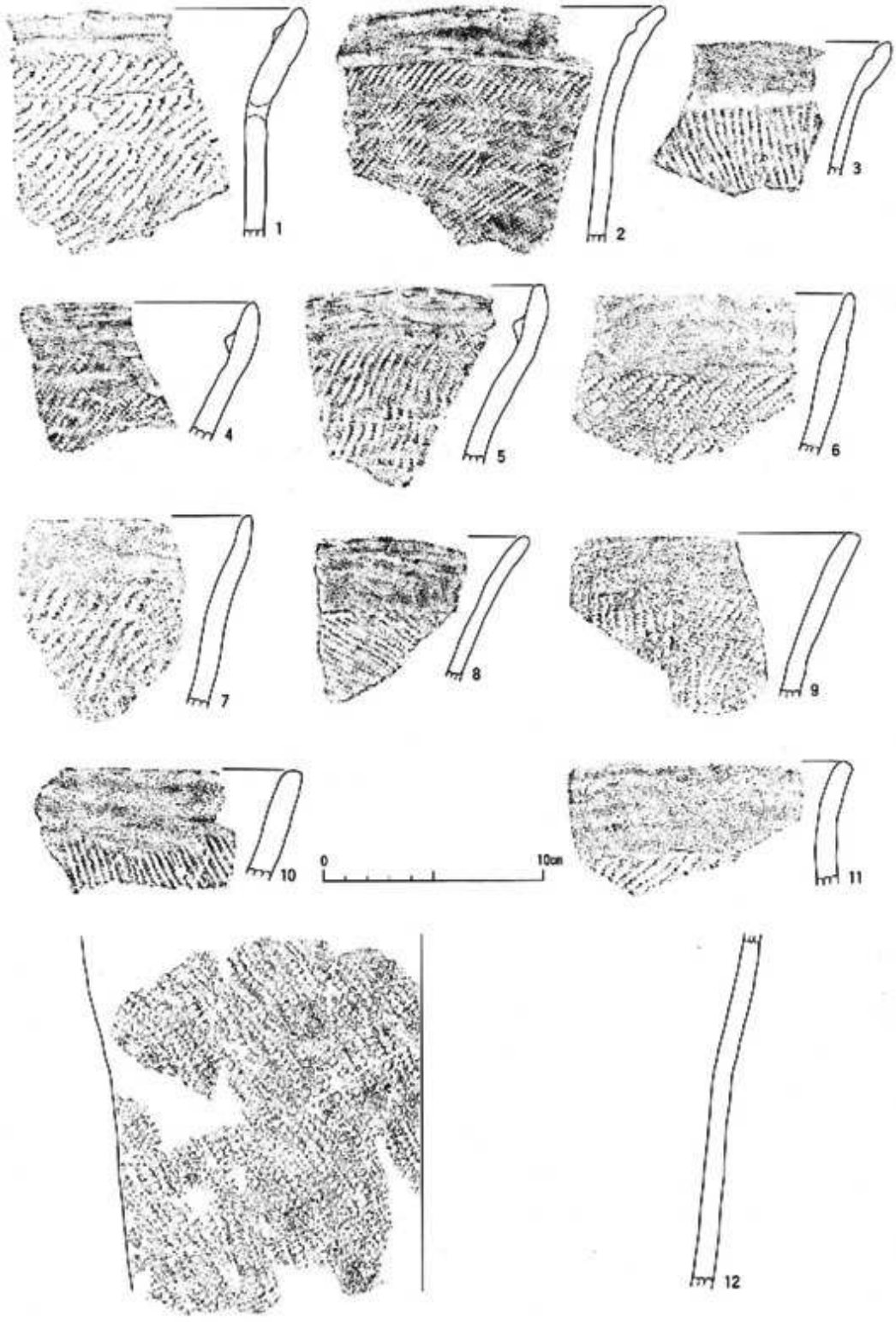
第2群土器（第61図2～5、第62図1～9）

内湾する口縁部をもつ。第61図2～5は、口唇部直下に付く橋状の把手が特徴である。この把手の両端は、同1と同様に隆帯として器面を巡っている。第62図1～9はやはり緩く内湾する口縁部で、低い波状口縁の場合が多い。2条の低い隆帯が弧状に器面を巡っている。

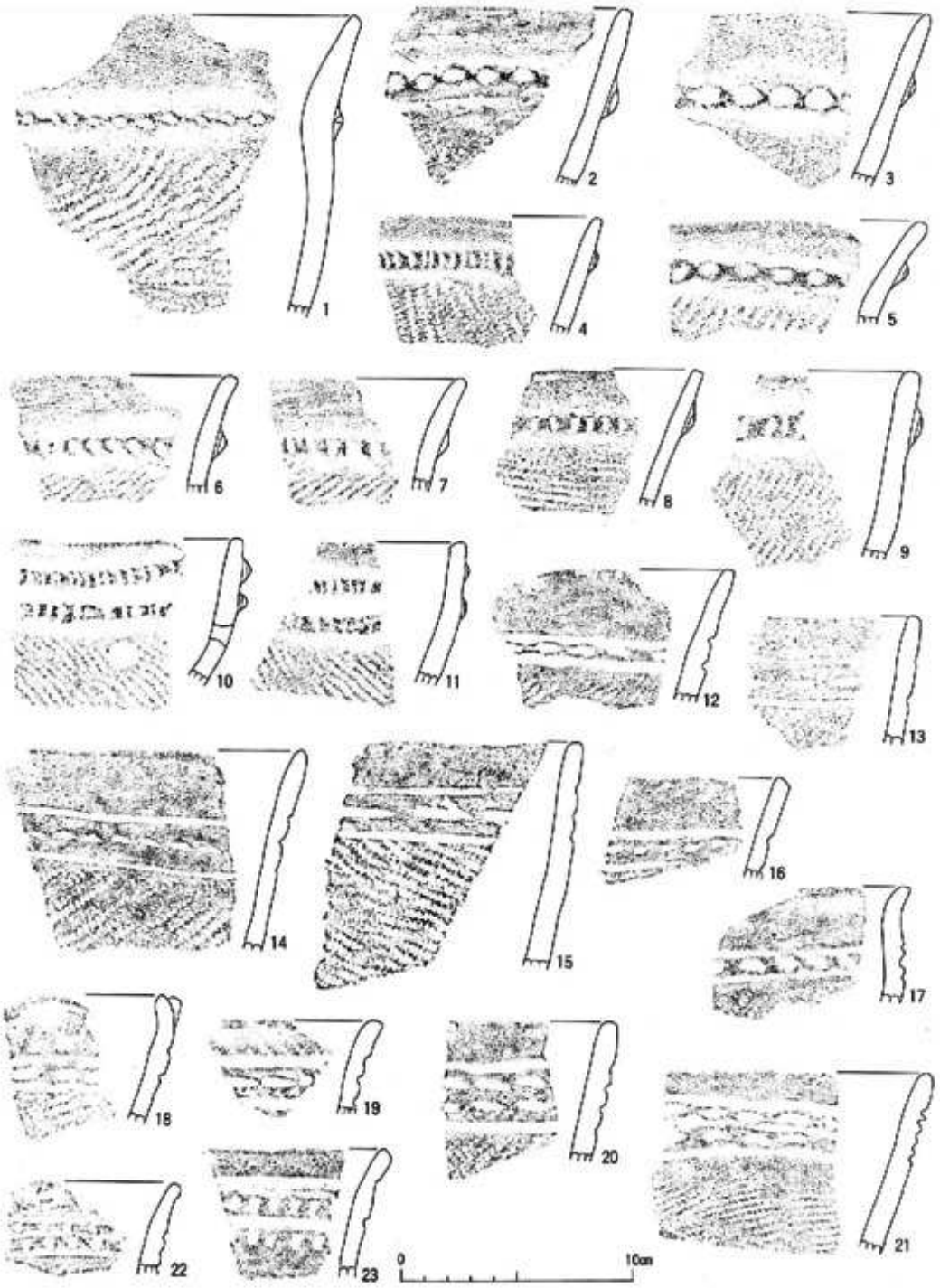
第3群土器（第61図6～8・10・11・13・14・16）

直線的に大きく外反する器形で、同6～8の口唇部直下には第1・2群土器でみられた橋状の把手がある。

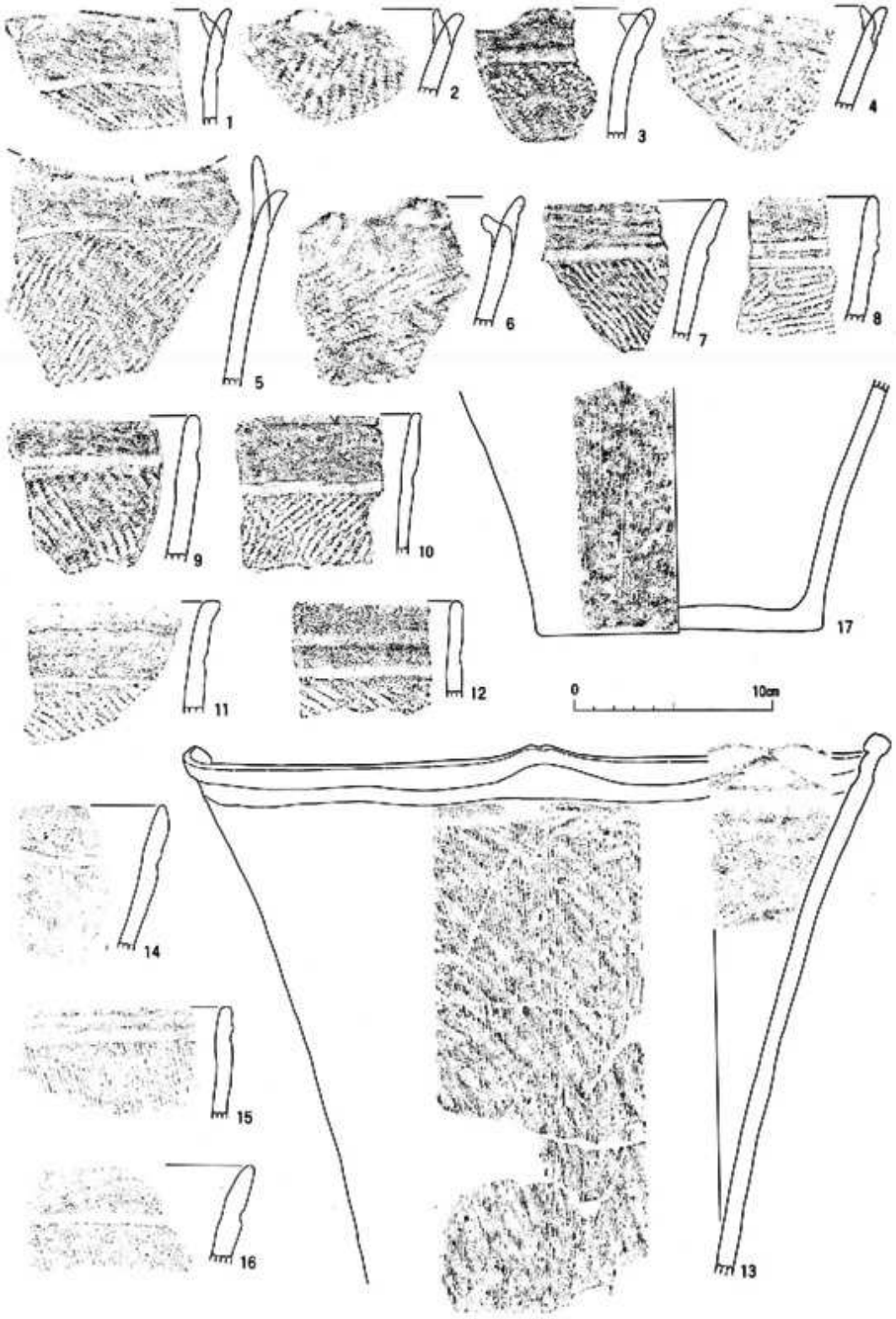
Ⅲ－3）台付土器（第62図10～12）



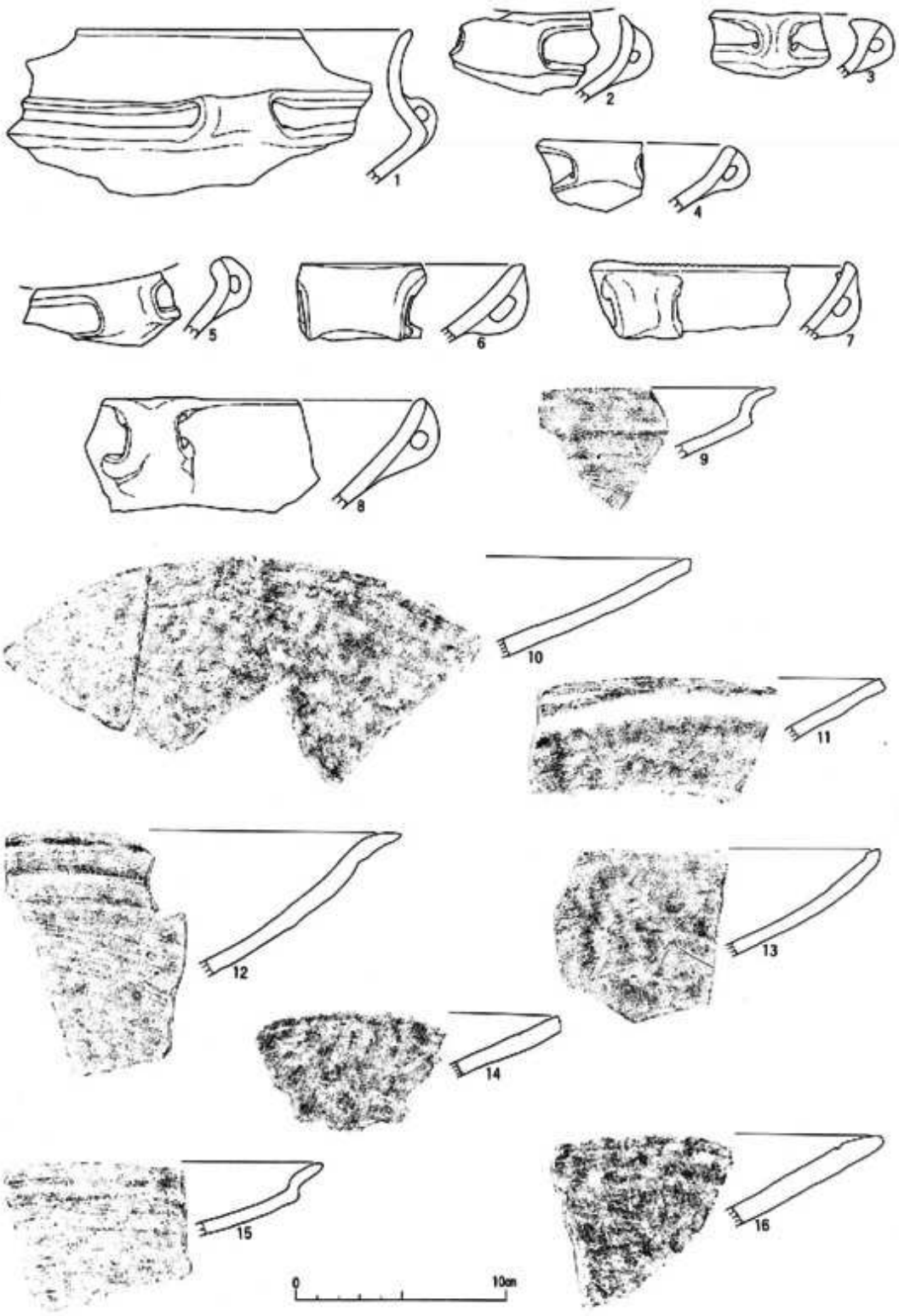
第58図　縄文土器拓影41　Ⅲ期深鉢第6群土器(1)



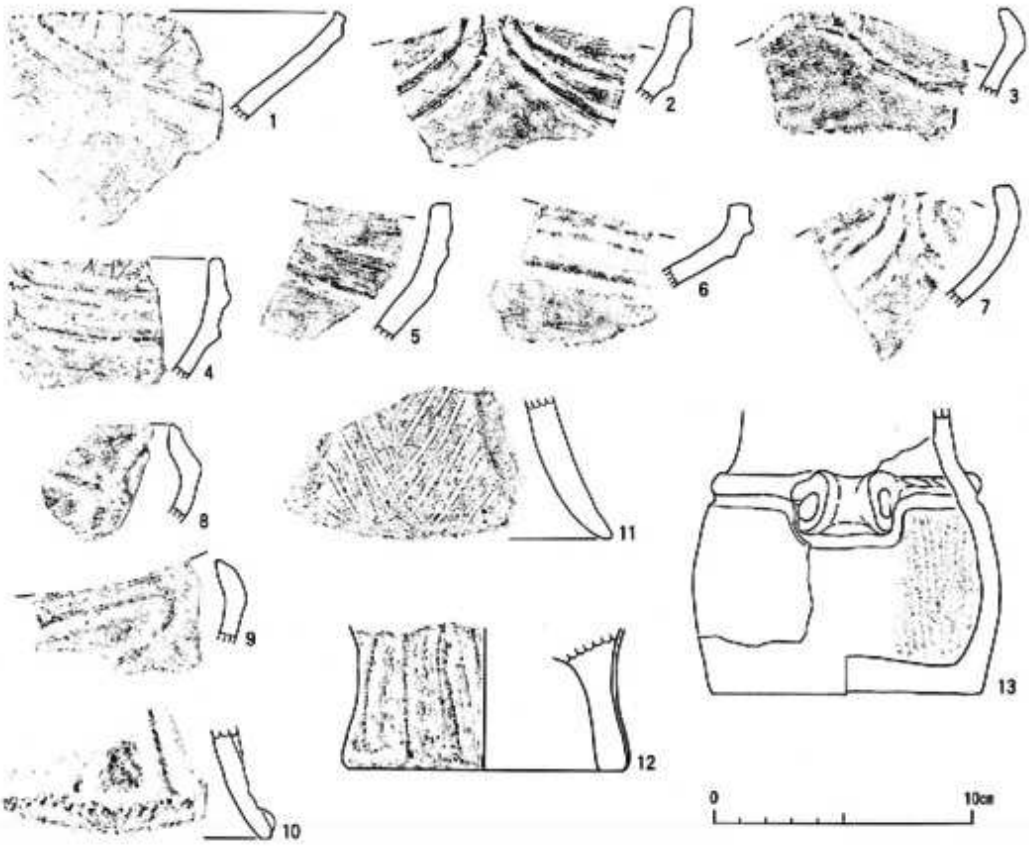
第59図　縄文土器拓影42　Ⅲ期深鉢第6群土器(2)



第60図　縄文土器拓影および実測図43　Ⅲ期深鉢第６群土器(3)



第61図　縄文土器拓影および実測図44　Ⅲ期浅鉢



第62図　縄文土器拓影および実測図45　Ⅲ期浅鉢・台付土器・鉢

台付土器の脚部で、Ⅲ期深鉢と同様の文様構成の土器である。

Ⅲ－4）鉢（同13）

鉢とみられる資料で、頸部に橋状の把手が付く。地文は撚糸文である。

6．Ⅳ期 縄文後期前葉に属す土器群

Ⅳ－1）深鉢

第1群土器（第63～69図）

気屋Ⅰ式に比定できる土器群であるが、時期的に並行関係にある堀之内Ⅰ式的な要素を多分に含んでいる。文様構成などに多様な要素を含んでおり、次の6類に区分した。

a類（第63図）　キャリパー形の口縁部の土器で、低い波状口縁部を呈す場合が多い。文様は、口縁部を主に沈線で構成されている。直線と曲線を組み合わせているが、特徴的なのは同1～9にみられる「J」字状の文様である。このほかには、楕円文（同10～12）や渦巻文（同13～15）がある。

b類（第64図、第65図1～3）　a類と同様で、キャリパー形の口縁部であるが、第65図1～3では文様構成は共通であるが、外へ開く口縁部である。

水平方向に施される波状沈線の土器であるが、第64図13で代表されるように、刺突を連続し

て沈線状に施す場合も多い。同5にⅢ期第Ⅳ群土器と共通する沈線文が施文されている他は、条の縦走する縄文が施されている。

同1～4は山形の波状口縁である。波頂部の直下には、円形に穿孔されている場合（同1・2）と、円形の刺突が施されている場合（同3・4）がある。

c類（第65図4～18）　三角形の刺突文が連続して施される類で、文様構成はb類と類似している。口縁部は、同12・14で代表される外側へ開く場合と、同11・16で代表される内湾気味に立ち上がる場合がある。

連続施突文は、波状口縁の波頂部直下を除いて、水平方向に施文されている。また波状口縁には、円形に穿孔されている場合（同4）と、円形の刺突文のある場合（同5～7）がある。地文は、条の縦走する縄文である。

d類（第66図）　口縁部に縄文の施文されている類。同9～13には斜位の沈線が施文されている。

同1～10では、口縁部の縄文帯より下に水平方向の沈線が施されている。また同14～25の三角形刺突文はc類でみられたものと同様のものである。

e類（第67図）　肥厚した口縁部に文様帯をもつ類。この口縁部文様帯は沈線文と円形刺突文で文様構成されるが、f類と共通する文様構成である。

器形は、張りのある胴部から頸部でくびれ、口縁部は内湾気味に開く。

口縁部文様帯と胴部の縄文の間の文様帯は巾が狭い。三角形刺突文や沈線文が施され、文様構成も単純である。

f類（第68・69図）　口縁部文様帯の直下に、より複雑な文様構成をみせる類。器形と口縁部の文様構成はe類と同様である。

胴部は数本の沈線を1単位として、半円形・三角形・四角形などに区画しているが、この区画された無文部の周囲に刺突を加えるのが特徴である。

第69図12～18は、縦位の隆帯が貼付されている。

第2群土器（第70図）

気屋Ⅱ式に比定されるか、あるいはこれと並行関係にあるとみられる土器群で、第1群土器に後続する。ここでは1類のみで、細分は行わない。

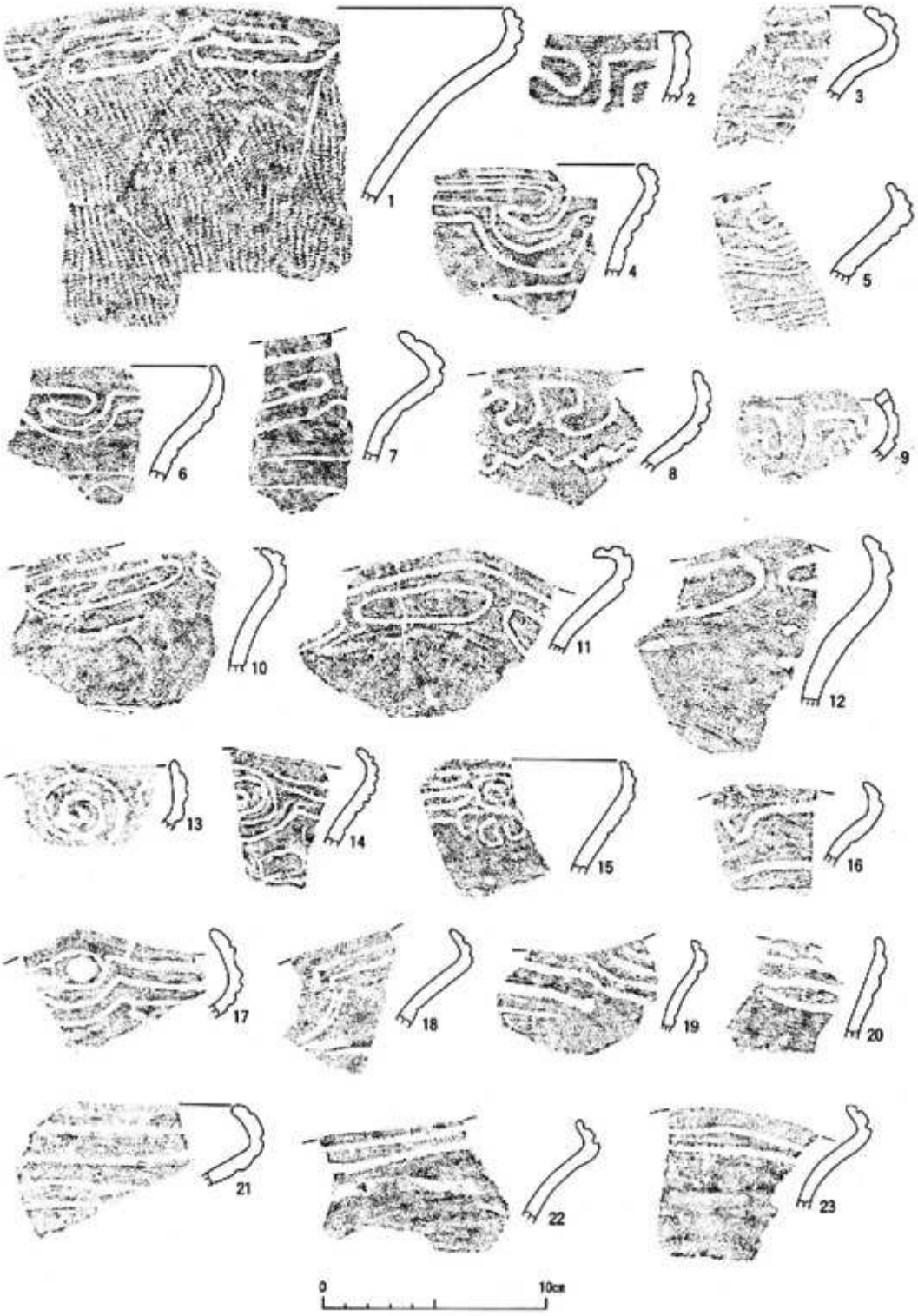
なお本遺跡から出土した土器群は、第1群土器までは質・量ともに豊かであるが、この第2群土器から次第に減少していく傾向にある。

a類　沈線と地文の縄文で文様構成され、磨消縄文的手法が特徴である。水平方向の縄文を伴う沈線を基調として、その間にやはり沈線で幾何学的な文様を施している。

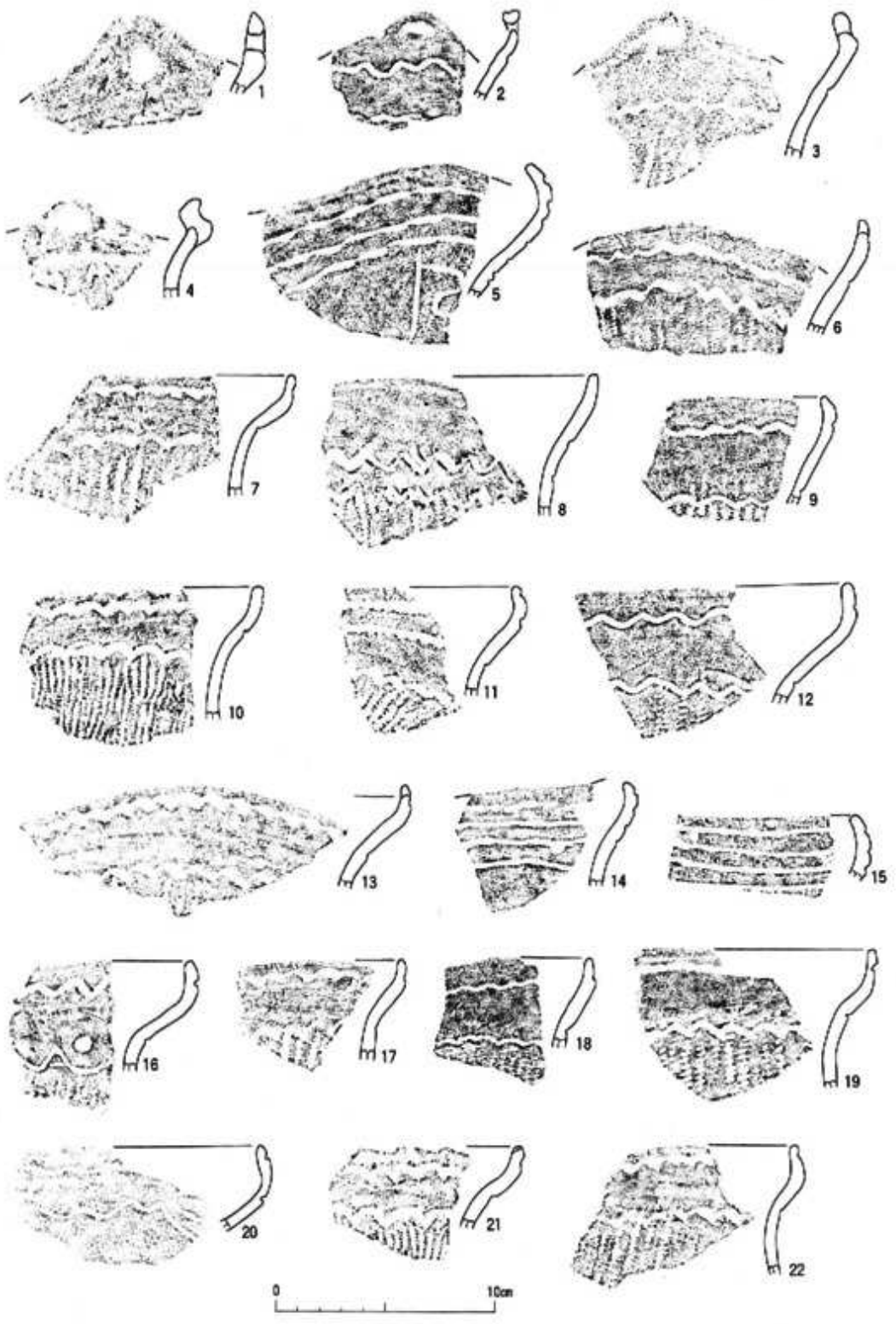
同1は、口縁部に無文帯を設け、縄文を充填した2条の沈線の下に渦巻文を複雑に配している。同3・4には、円形刺突文が加えられ、第1群土器f類とよく似た文様構成である。

第3群土器（第71図1～14）

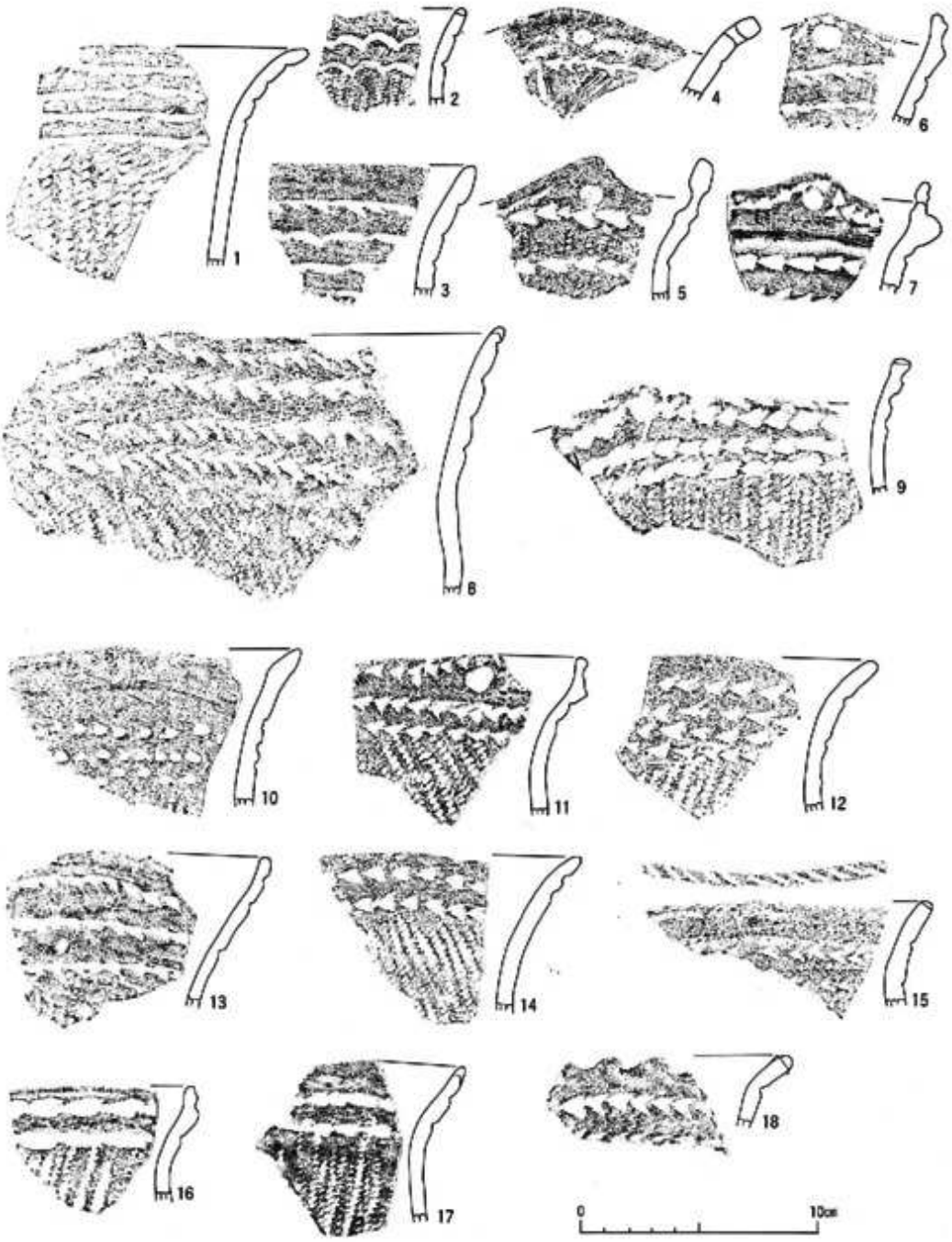
第1・2群土器と並行する時期の土器群で、堀之内式に比定できる。次の2類に区分した。



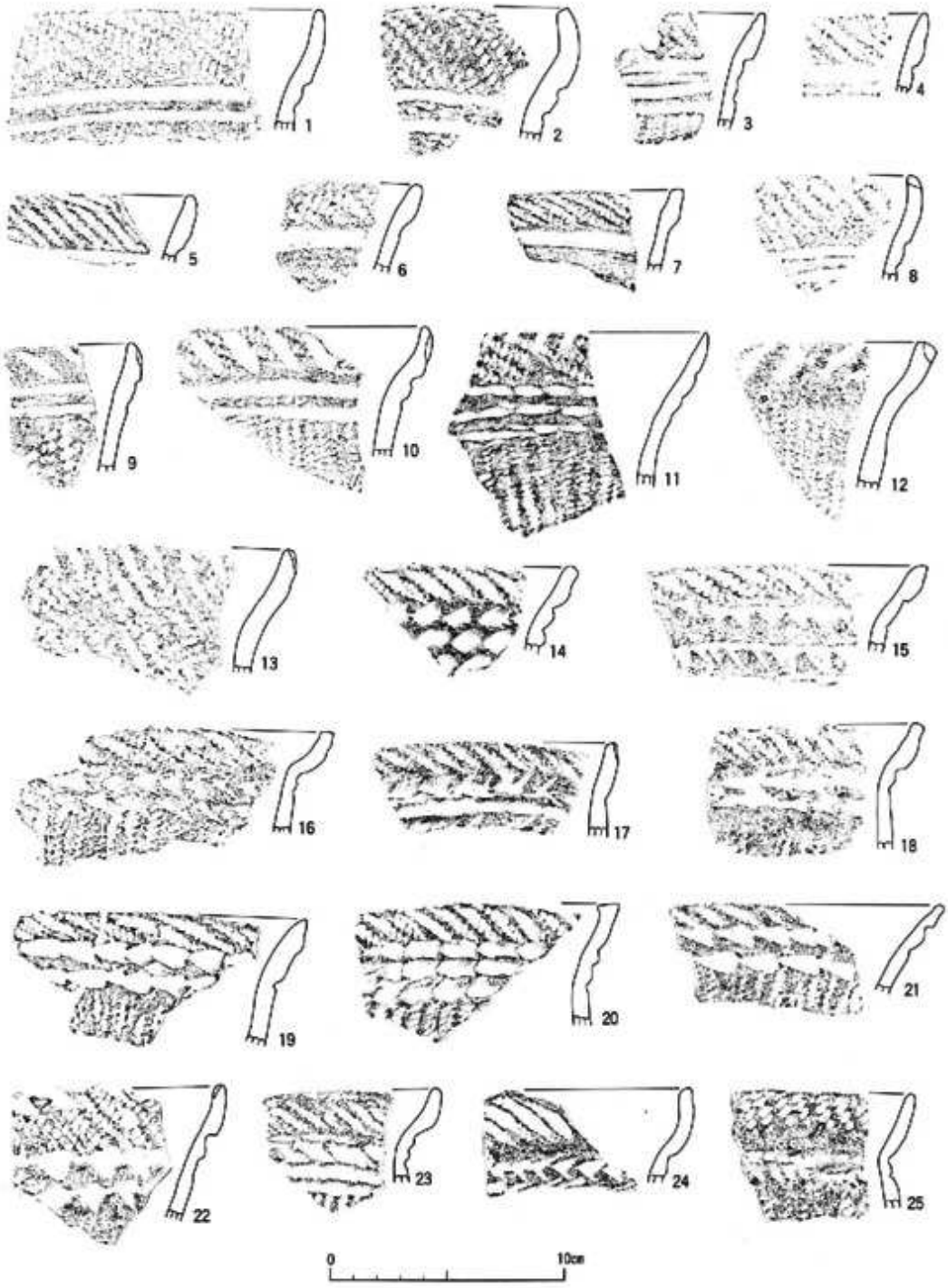
第63図　縄文土器拓影46　Ⅳ期深鉢第1群土器(1)



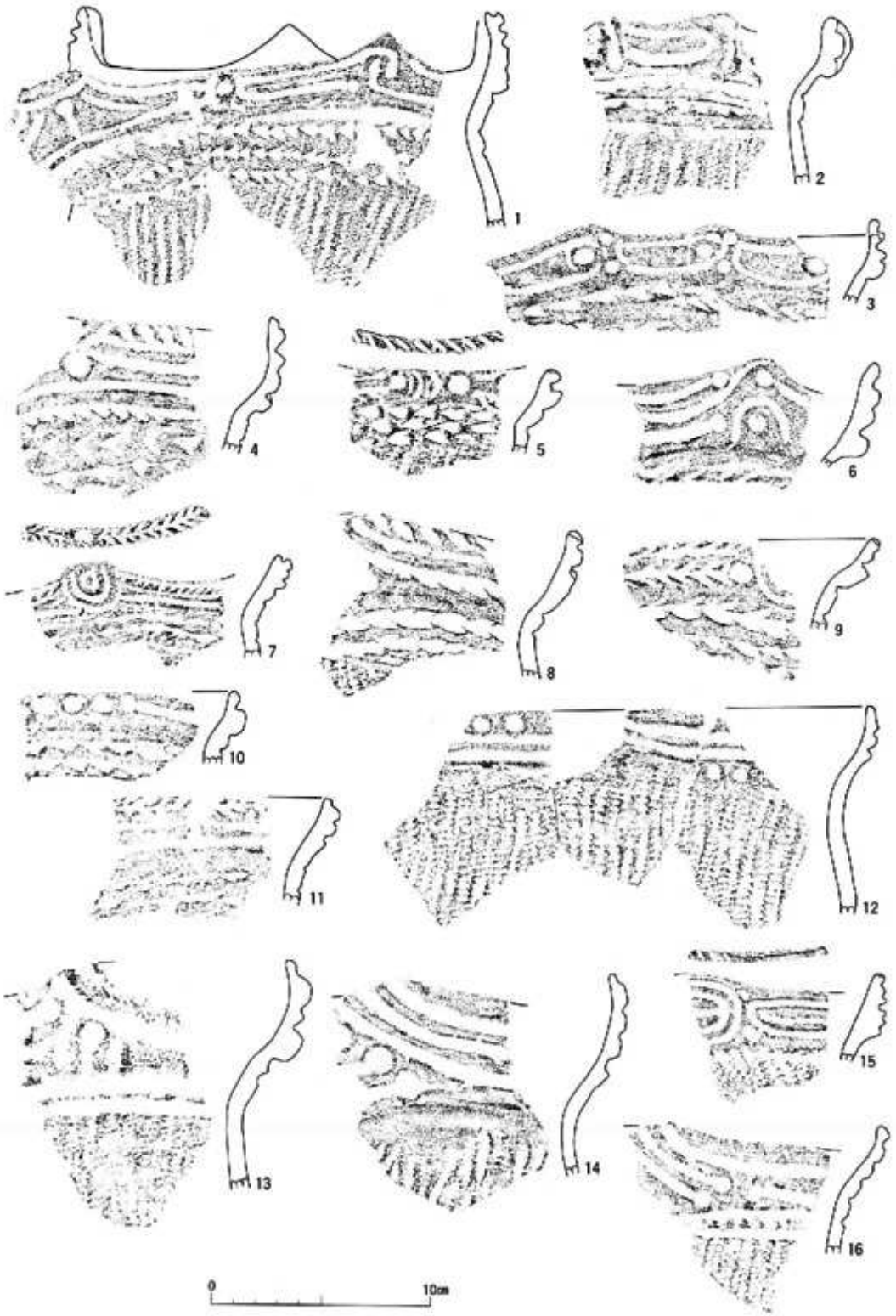
第64図　縄文土器拓影47　Ⅳ期深鉢第1群土器(2)



第65図　縄文土器拓影48　Ⅳ期深鉢第1群土器(3)

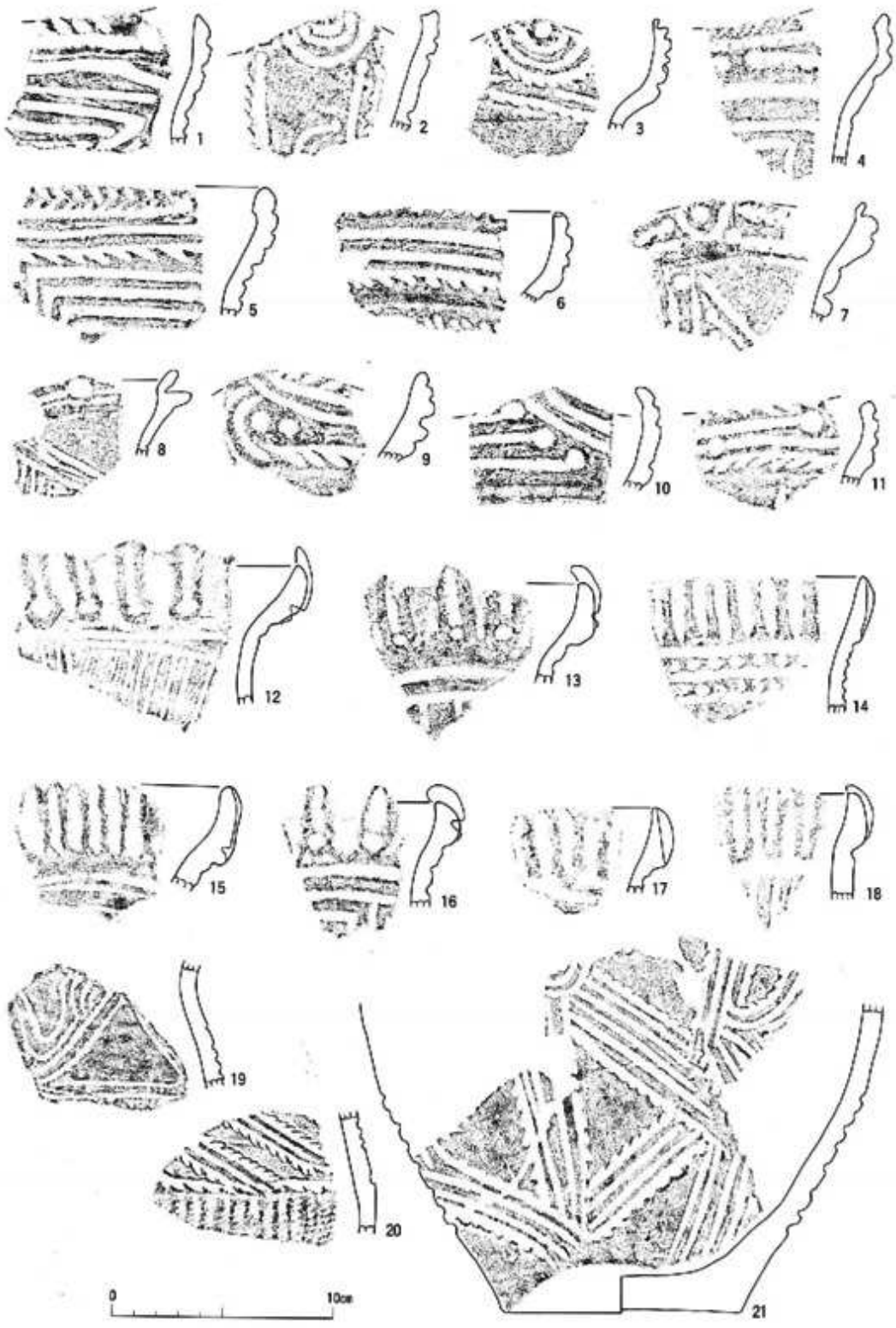


第66図　縄文土器拓影49　Ⅳ期深鉢第1群土器(4)

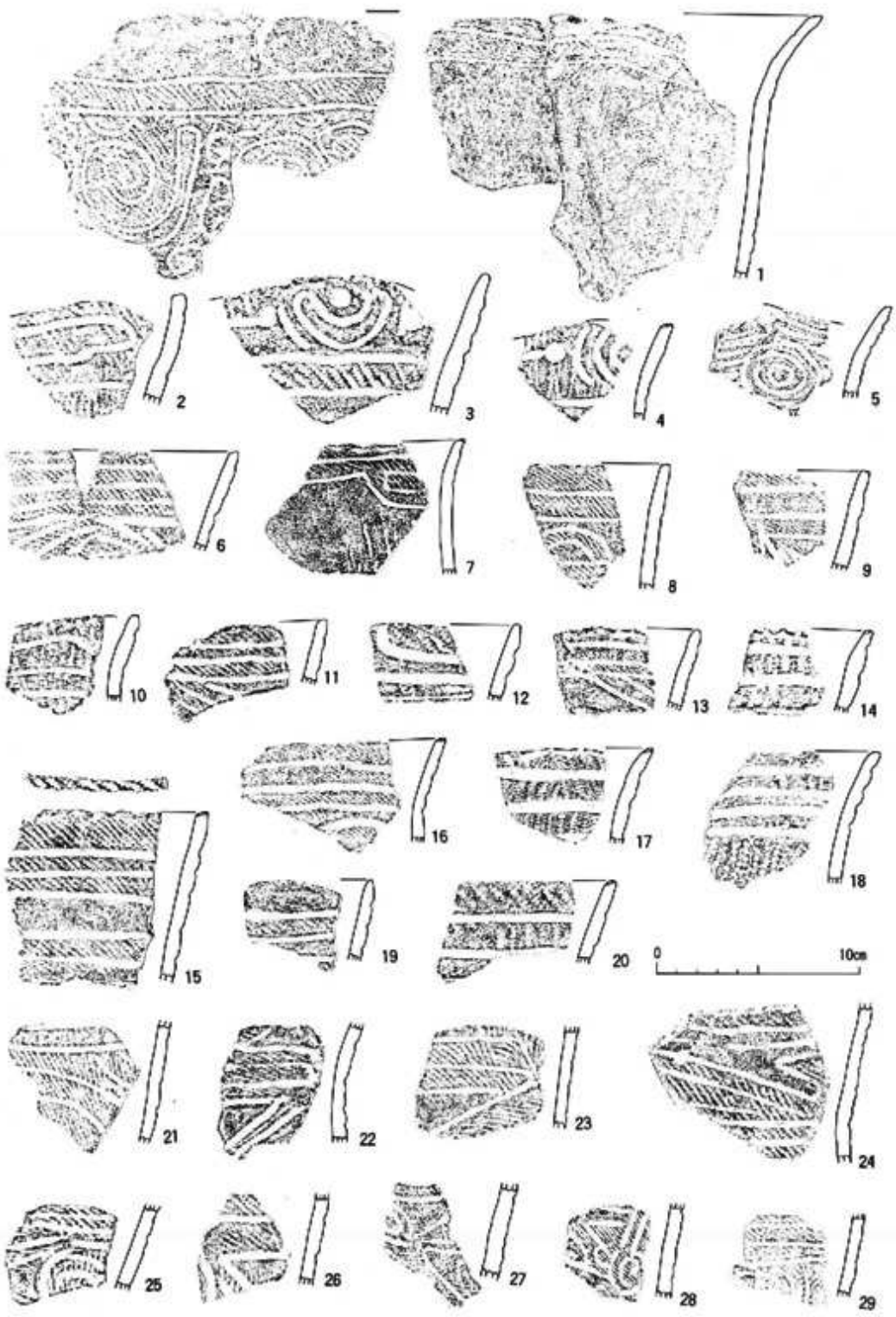


第67図　縄文土器拓影50　Ⅳ期深鉢第1群土器(5)

第68図　縄文土器拓影51　Ⅳ期深鉢第1群土器(6)



第69図　縄文土器拓影52　Ⅳ期深鉢第1群土器(7)



第70図　縄文土器拓影53　Ⅳ期深鉢第２群土器

第71図　縄文土器拓影および実測図54　Ⅳ期深鉢第３群土器

a類（同１～９）　外反する口縁部の土器で、同１～４では肥厚させた口縁部に沈線による平行線や渦巻文が施文されている。また同５・８・９にある縦方向の隆帯も特徴と言える。

ほぼ堀之内１式に比定できる。

b類（同10～14）　緩やかな角度で、直線的に開く器形である。同10の口唇分には、「８」字状の突起が両面に付けられている。同11は、刺突文を供なう沈線で上下を区切り、その間に斜位と渦巻状のの集合沈線を施している。

ほぼ堀之内Ⅱ式に比定できるものとみられる。

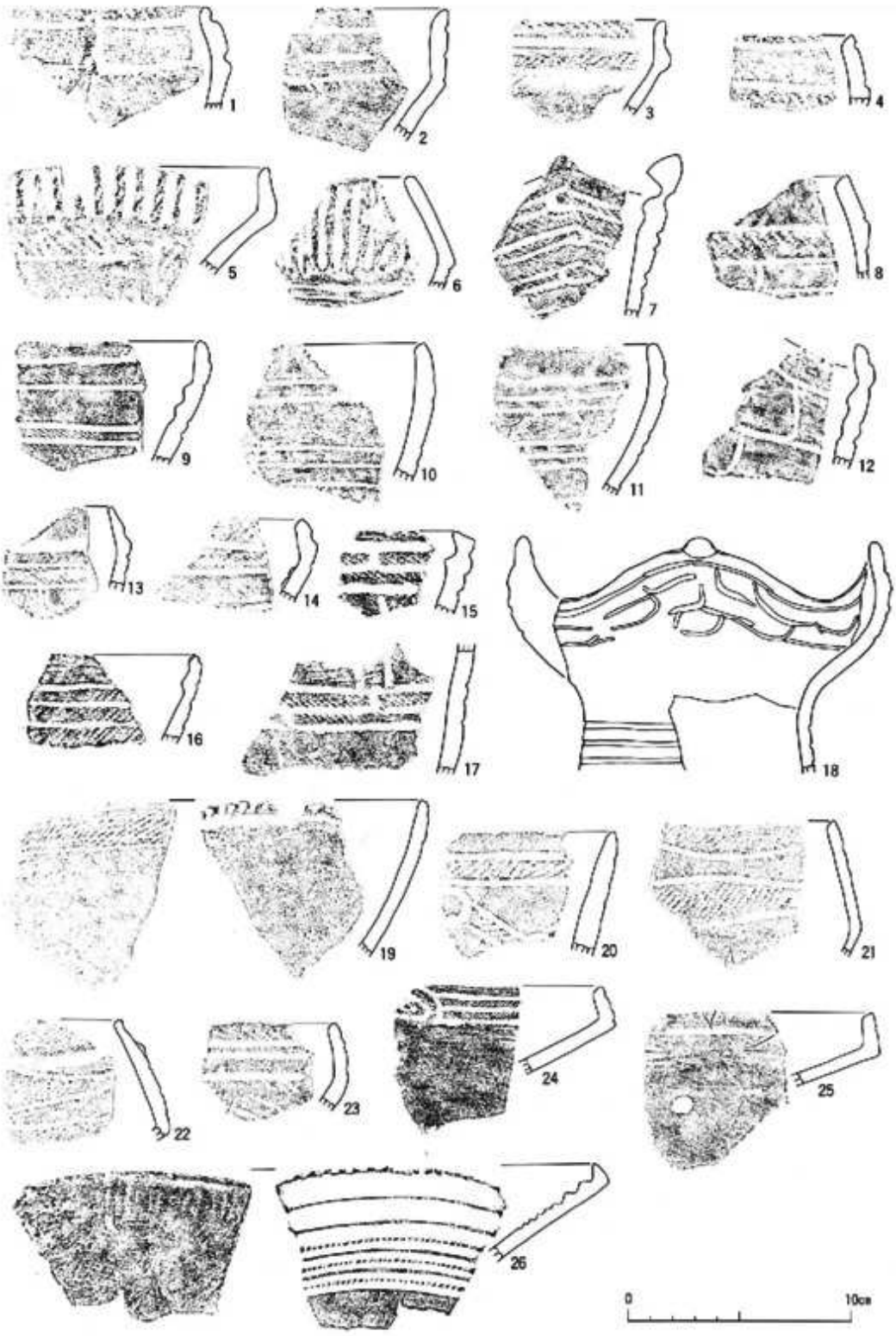
７期．Ⅴ期 縄文後期中葉に属す土器群

Ⅴ－１）深鉢

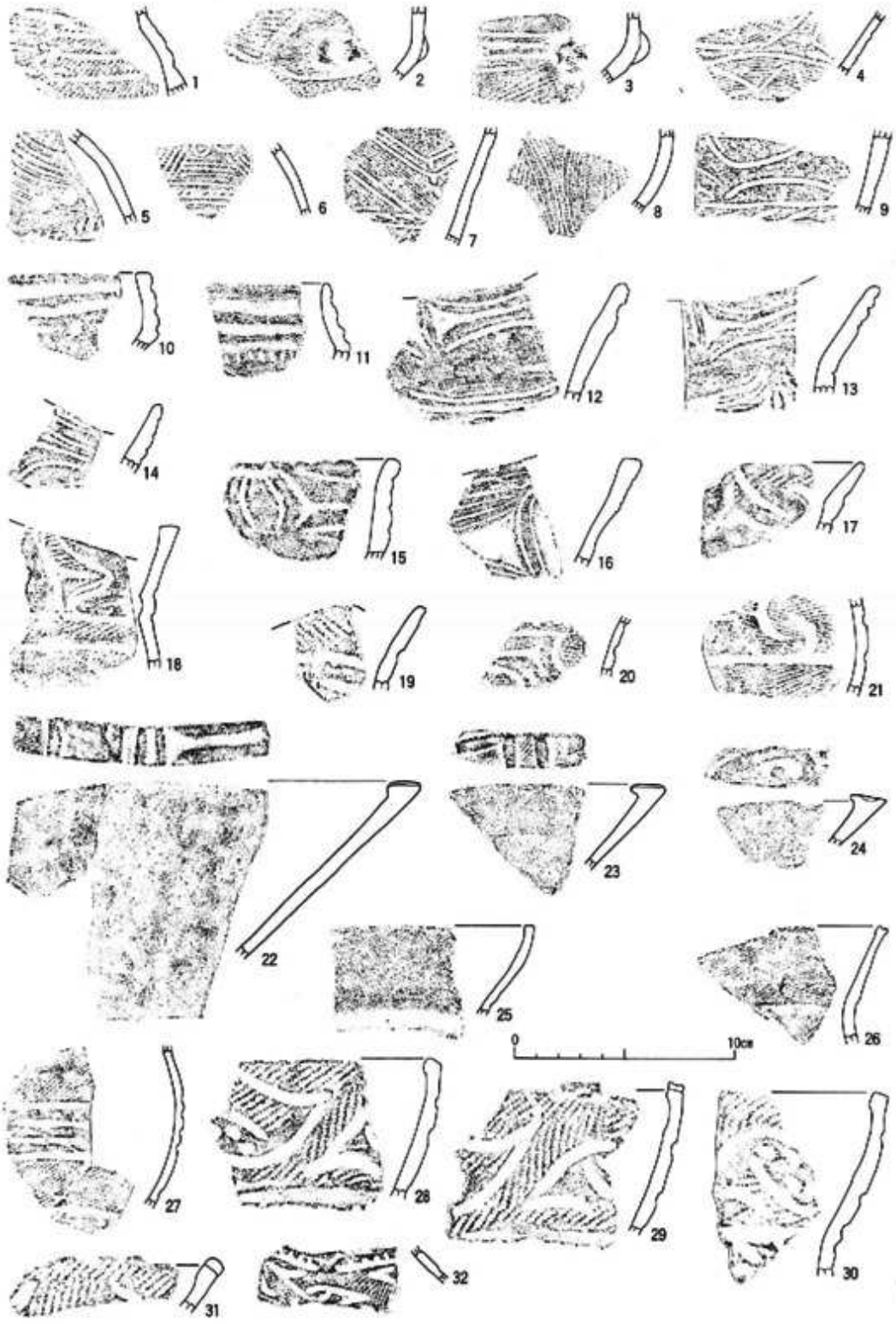
第１群土器（第72図１～６）

断片的な資料であるが、北陸地方後期中葉の酒見式に比定できる土器群で、次の２類に区分した。

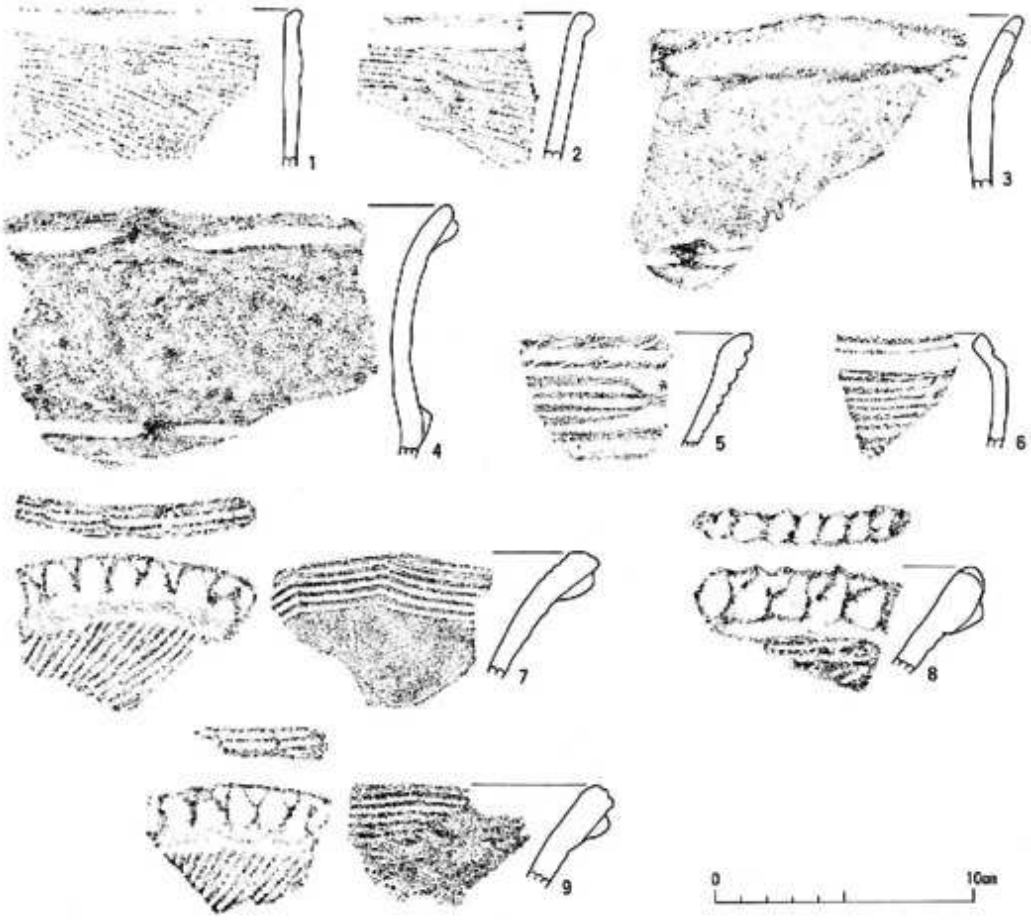
a類（同１～４）　「く」の字状に内折する口縁分の土器で、この内折する部分に水平方向の沈線を施す。



第72図　縄文土器拓影および実測図55　V期深鉢・鉢・浅鉢



第73図　縄文土器拓影および実測図56　V期注口土器・Ⅵ～Ⅷ期深鉢他



第74図　縄文土器拓影57　Ⅷ・Ⅸ期深鉢他

b類（同５・６）　口縁分はやはり「く」の字状に内折するが、内折部分には縦位の隆帯（同５）か沈線文（同６）が施されている。

第２群土器（同７～18）

底部から直線的に立ち上がる器形とみられ、口縁部は緩く内湾している。

縄文を充填した横位の文様構成で、上下の文様帯間には「J」の字状の沈線が施されている。また口唇部直下の内面には、水平方向の沈線や隆帯がみられる。

同18は、器形が大きく異なるが、口縁部の文様構成が共通していることから、ここに含めた。

第２群土器は、加曽利Ｂ１式にほぼ比定できるものと考えられる。

Ｖ－２）鉢

第1群土器（第72図19～23）

鉢には、やや内湾気味に開くもの（同19・20）と、「く」の字状に内湾する口縁部をもつもの（同21・22）がある。深鉢第1・2群土器に伴うものとみられる。

V－3）浅鉢

第1群土器（同24～26）

浅鉢には、「く」の字状に内折する口縁部をもち、この内折部分に文様の施されているもの（同24・25）と、直線的に外反し、内面に文様のあるもの（同26）がある。

V－4）注口土器（第73図1～9）

深鉢第1・2群土器に伴うとみられる注口土器であるが、いずれも断片的な資料である。

8．VI期 縄文後期後葉に属す土器群

VI－1）深鉢

第1群土器（第73図10・11）

内折する口縁部の土器で、内折部分に巾の広い沈線文が施されている。同10には円形の刺突文が加えられている。

断片的な資料であるが、井口式に比定できる。

第2群土器（同12～16）

大振りな波状口縁縁と、連結三叉文を特徴とする土器群で、北陸地方の後期末あるいは晩期初頭の八日市新保式に比定できる。

9．VII期 縄文晩期前葉に属す土器群

VII－1）深鉢

第1群土器（第73図17～21）

三叉文を特徴とする土器群で、断片的な資料ではあるが北陸地方晩期前葉の御経塚式に比定できるとみられる。

VII－2）浅鉢

第1群土器（同22～24）

直線的に大きく外反する器形で、巾広く作られた口唇部に短線状や渦巻状に隆帯を貼付している他、三叉文も印刻されている。

10．VIII期 縄文晩期中葉に属す土器群

VIII－1）深鉢

第1群土器（第73図25～32、第74図1・2）

北陸地方晩期中葉の中屋式とみられる土器群で、つぎの2類に区分した。

a類（第73図25～27）　膨らみのある胴部から頸部でくびれ、口縁部はやや内湾気味に開く器形で、繊細な縄文が施されている。

b類（同28～32）　a類と同様の器形で、三叉入組文を特徴としている。

第2群土器（第74図1・2）

第１群土器に伴うとみられる粗製土器で、斜位の条痕文が施されている。

Ⅸ期 縄文晩期後葉に属す土器群

Ⅸ－１）深鉢

第１群土器（第74図３・４）

同３・４は同一個体で下野式に比定できる。

Ⅸ－２）鉢

第１群土器（同５・６）

深鉢第１群土器と共伴関係にあるとみられる鉢である。

なお第74図７～９は、弥生時代前期の水神平式に比定できる資料であるが、弥生時代に属す資料が他に出土しなかったため、便宜上ここで扱ったものである。

第2節　土製品

本遺跡から出土した土製品には、土偶・耳栓・土器片錘・土製円板がある。

これらの土製品の所属年代は特定できないが、第1節で述べたように土器では縄文中期中葉から後期前葉のものが主体であることから、土製品についてもこの時期に該当する場合が多いものと見られる。

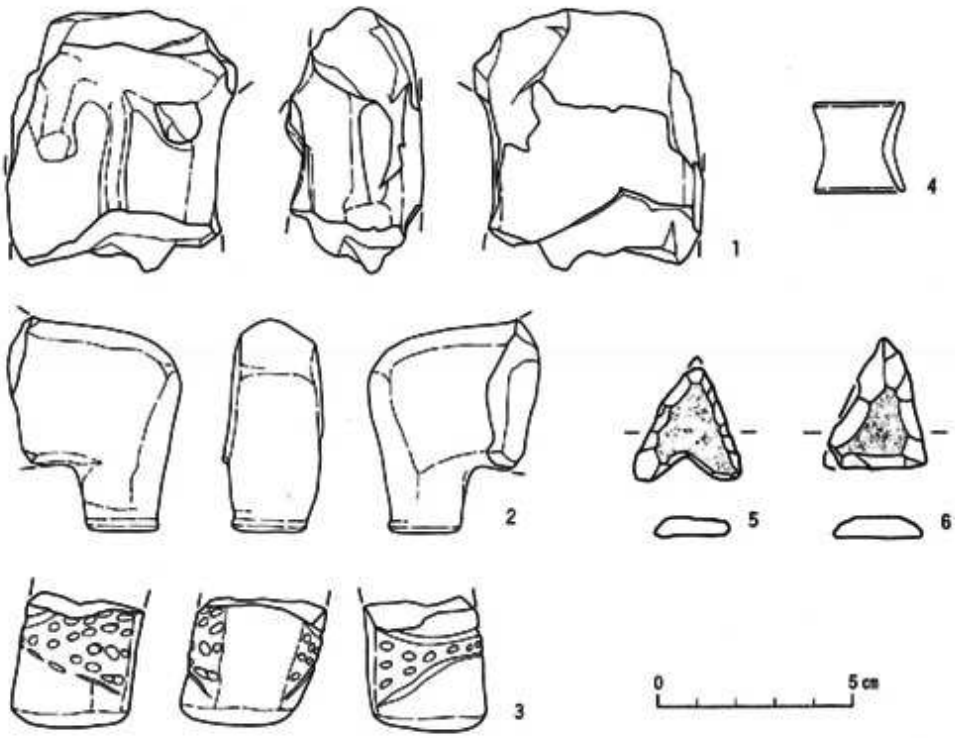
特筆するような出土状態で発見された土製品がないことから、ここでは第75図に示した資料を中心に説明する。

1．土偶（第75図1～3）

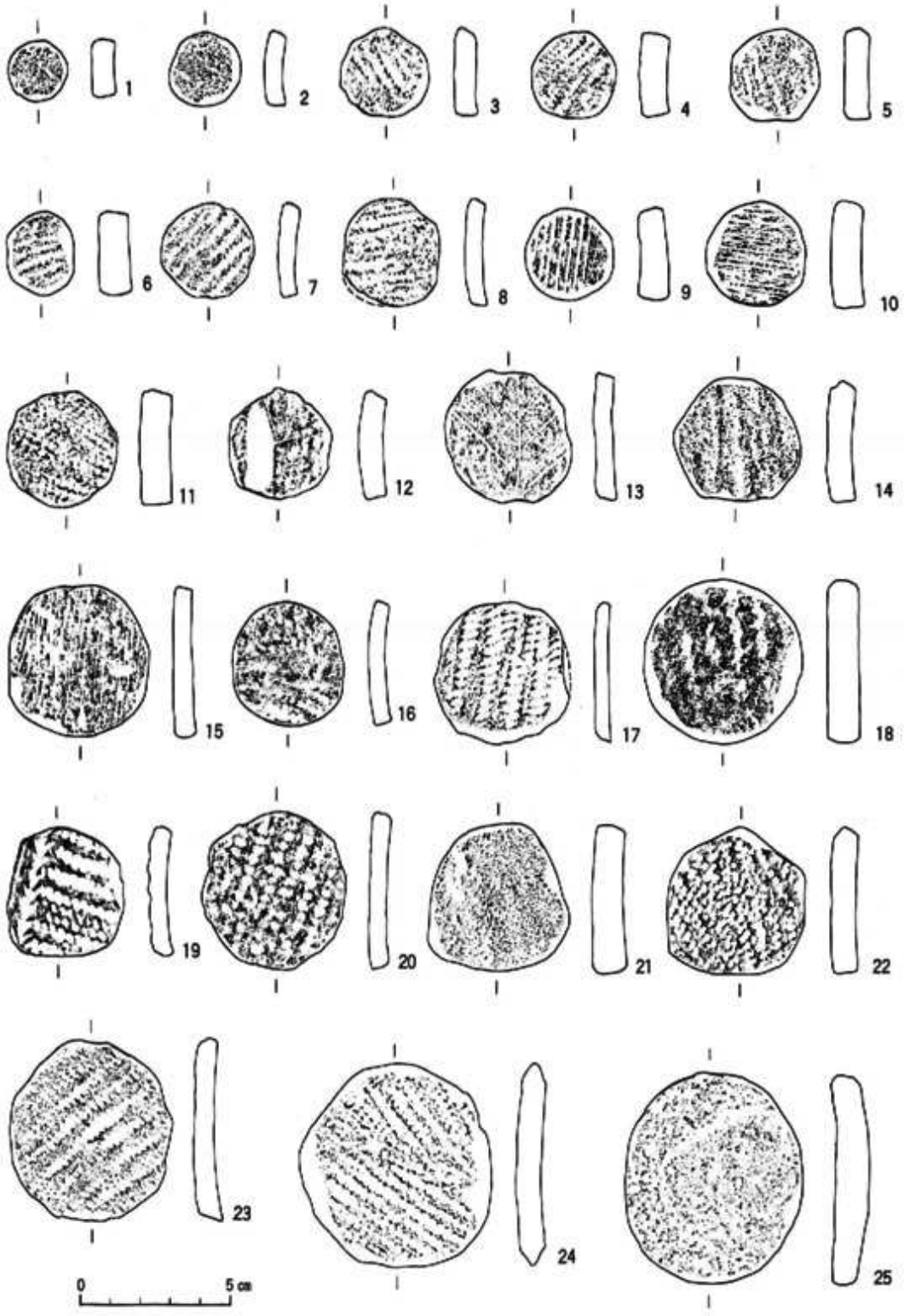
5点出土しているが、完形品はなく、すべて破損している。図にはこのうち3点を示した。

同1は、下半部の欠落した胴部である。乳房に当たる部分は隆帯で縦長に表現されているが、先端部は欠落している。2つの乳房の中央に、縦方向の隆帯を垂下させている。体側には縦方向に巾の広い沈線が施されている。背中側は表面の欠落がはなはだしいが、表面の残存している部分では無文である。

同2は、左の腕部と見られる。平整なつくりで、肩部が水平方向に張り出している。文様はまったく施されていない。



第75図　土偶（1～3）・耳栓（4）・土器片錘（5・6）実測図



第76図　土製円板実測図

第1表　土製円板一覧表（単位cm、g・カッコ内は現存値）

遺物番号	出土層位	遺存状態	長径	短径	厚さ	重さ	挿図番号
土坑21－B1		一部欠	4.7	(4.3)	0.4	(16.9)	第76図17
土坑34－B1		完形	4.0	3.7	1.0	22.4	同11
土坑43－B1		完形	2.0	1.9	0.7	4.3	同1
土坑146－B1		完形	2.5	2.3	0.6	4.5	同2
土坑187－B1		完形	4.1	3.9	0.9	20.8	同14
土坑251－B1		一部欠	3.5	3.2	0.6	(10.9)	同8
4 I－B1	Ⅲ	完形	6.0	5.3	0.7	29.5	同23
4 I－B2	Ⅲ	完形	4.8	4.8	1.1	36.8	同21
5 I－B1	Ⅲ	完形	4.9	4.6	0.8	26.0	同22
6 I－B1	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	4.0	(3.7)	0.8	(17.6)	
6 I－B2	Ⅰ・Ⅱ	完形	4.1	3.6	0.6	12.9	同16
7 J－B1	Ⅰ	一部欠	5.4	5.2	1.1	(41.9)	同18
7 J－B2	Ⅰ・Ⅱ	完形	5.0	4.7	0.6	24.4	同15
7 K－B1	Ⅰ	完形	3.0	2.8	0.9	11.6	同9
7 M－B1	Ⅰ	一部欠	4.3	(4.0)	1.0	(22.6)	
7 O－B1	Ⅰ	完形	4.2	3.9	0.6	17.0	同13
7 O－B2	Ⅰ	一部欠	(3.8)	3.9	0.5	(11.4)	
8 I－B1	Ⅱ	一部欠	(3.7)	3.6	1.0	(18.5)	
8 J－B1	Ⅰ	完形	3.5	3.2	1.0	16.0	同10
8 J－B2	Ⅰ	完形	4.2	3.6	0.7	17.5	
8 J－B3	Ⅰ	完形	3.1	2.9	0.8	11.1	同5
8 J－B4	Ⅰ	完形	2.8	2.6	0.8	9.3	
8 J－B5	Ⅱ	完形	6.7	6.3	0.9	50.3	同24
8 K－B1	Ⅱ	完形	3.8	3.6	0.4	8.7	
8 M－B1	Ⅰ・Ⅱ	完形	4.5	4.3	0.7	21.8	
8 M－B2	Ⅱ	完形	4.4	3.8	0.5	15.0	
8 M－B3	Ⅲ	完形	2.7	2.2	1.0	8.2	同6
8 N－B1	Ⅱ	完形	4.5	4.3	0.6	18.9	
9 K－B1	Ⅰ	完形	3.3	3.2	0.8	11.8	
9 L－B1	Ⅰ	完形	4.2	3.7	0.6	15.2	同19
9 M－B1	Ⅲ	一部欠	(3.4)	3.7	0.8	(14.0)	
9 N－B2	Ⅱ	完形	5.2	4.7	0.6	20.0	同20
9 N－B3	Ⅲ	完形	2.9	2.8	0.7	8.2	同3
9 O－B1	Ⅲ	完形	2.9	2.8	0.8	8.9	
10H－B1	Ⅱ	完形	3.1	3.0	0.6	8.1	同7
10K－B1	Ⅱ	完形	3.5	3.4	0.6	10.1	
10K－B2	Ⅱ	1/3欠	4.0	(2.8)	0.5	(8.7)	
10L－B1	Ⅱ	完形	7.0	5.9	1.2	61.2	同25
10M－B1	Ⅱ	完形	2.9	2.8	0.8	11.7	同4
10M－B2	Ⅱ	完形	3.6	3.4	0.8	14.1	同12
10M－B3	Ⅱ	完形	6.2	5.6	0.7	35.7	

同３は、脚部の先端と見られる。沈線による区画内に円形の刺突文が施されている。

残りの２点は図示しなかったが、腕部と脚部の破片である。

２．耳栓（同４）

この耳栓は、器厚が薄く、表面が丹念に研磨されている。直径の最大は2.4cm，最小は1.8cmで、高さは2.4cmである。重さは6.4gである。

３．土器片錘（同５・６）

２点出土している。土器片の縁辺を加工したもので、石錘の形態をしているが、実用品とは考えられないことから土製品に含めた。

同５は基部にえぐりがあり、長さが推定値で3.3cm、巾が2.8cm、厚さが0.5cmである。同６は基部にえぐりのないもので、長さが3.3cm、巾が推定値で2.7cm、厚さが0.5cmである。

４．土製円板（第１表、第76図）

41点出土している。このうち80%近くの32点が完形である。

土器片を打ち欠いておおまかな形を作り、縁辺を磨って整形している。平面形は、円形か楕円形の場合が多いが、四角形（第76図19）や五角形（同22）・六角形（同12）の場合もある。

平面形がまちまちであるように、法量にも巾がある。長径では、2.0cmのもの（同１）が最小で、7.0cmのもの（同25）が最大である。長径の計測が可能な資料から平均値をあえて求めると、4.0cmとなる。厚さは、素材にした土器片の厚さであり、薄手のものから厚手のものまである。重さではやはり同１が4.3gと最小で、やはり同25の61.2gが最大である。重さの平均値も完形品からあえて求めると18.5gとなる。

土製円板の素材である土器片の文様から、製作された時期を推定できる例もある。同19は、特徴的な刺突文から後期前葉の北陸系土器群に比定できる。同17・18などは、縄文の特徴から中期後葉から後期前葉の時期に属すと見られる。

第3節　石　　器

第2表　石器組成表

器　種	数　量	%
打製石斧	365	18.83
横刃型石器	141	7.28
礫　器	17	0.88
石　皿	27	1.39
敲　石	253	13.05
叩　石	113	5.83
磨　石	594	30.65
石　錐	25	1.29
石　槍	1	0.05
礫石錐	76	3.92
切目石錐	2	0.10
磨製石斧	167	8.62
石　匙	7	0.36
スクレイパー	136	7.02
石　錐	9	0.46
砥　石	5	0.26
計	1938	99.99

今回の調査で確認できた石器の総数は、1938点に上る。器種構成は、第2表に示した。

出土した土器群は、縄文時代中期から晩期に属すが、第1節で述べたように中期中葉から後期前葉にかけての土器群が主体を占めている。検出した住居址をはじめとする遺構の多くも、やはりこの時期に属すと見られる。これらのことから、石器についても中期中葉から後期前葉にかけての時期のものが、主体を占めると推定できる。

遺跡全体が人為的に攪乱された二次的な堆積層で覆われ、純粋な遺物包含層は部分的に存在したにすぎなかったことから、調査方法が限定され、小形の石器の一部が見逃された可能性はあるが、このことで石器の組成が大きく変わることはないと信じるものである。

石器の区分や器種内の形態分類は、筆者が携わった中津川市の「阿曽田遺跡」以降の発掘調査報告書を踏襲した。報告者である斎藤基生氏の方法論に従ったが、未消化な部分も多く、文責は当然のことながら筆者が負う。

1．打製石斧（第3表、第77図）

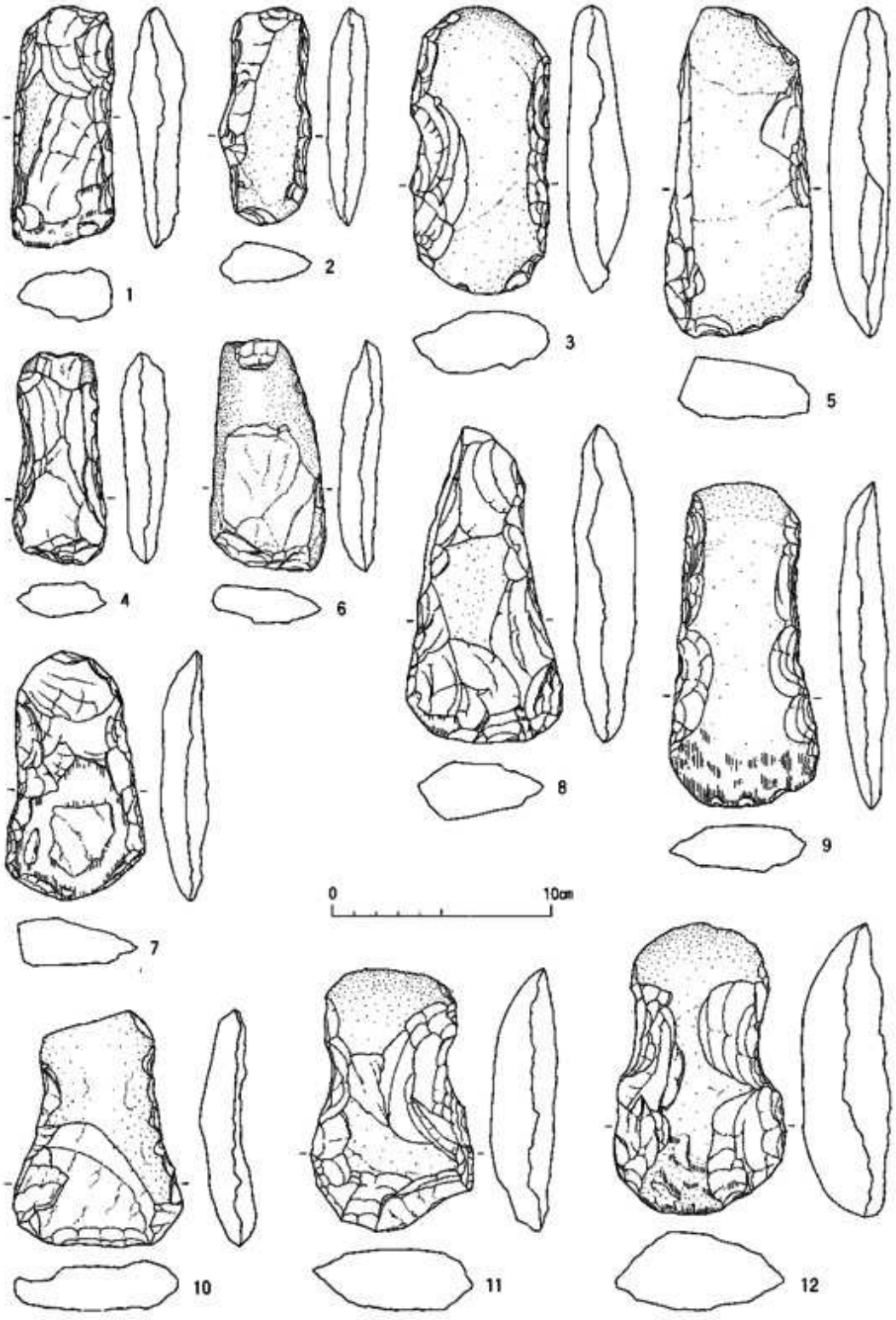
365点が出土したが、石器全体に占める割合は磨石の31％に次いで多く、19％を占めている。このうち完形品は74点である。

形態別に見ると、短冊形（第77図1～4）が38点、撥形（同5～9）が288点、分銅形（同10～12）が34点である。形態の判別できるものの中で占める割合は、短冊形が10％、撥形が80％、分銅形が10％である。

石質は、安山岩が全体の73％に当たる266点と圧倒的に多い。頁岩が9％で続き、砂岩・飛騨片麻岩・濃飛流紋岩が5％前後を占める。

2．横刃型石器（第4表、第78図）

141点が出土し、石器組成の中で7％を占める。このうち74点が完形である。円礫の一端を打ち欠いて素材とし、一面には礫面をそのまま残している。横長剥片の長辺を刃部にしているが、縦長剥片の短辺を刃部としている例（第78図7）も7点ある。



第77図　打製石斧実測図

第3表　打製石斧一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
2号住－C1		撥形	－	頭部片	安山岩					
2号住－C2		撥形	－	頭部片	安山岩					
4号住－C1		撥形	－	刃部片	安山岩					
土壙11－C1		分銅形	○	完形	安山岩	9.6	4.1	1.8	99	第77図4
土壙17－C4		撥形	－	頭部片	濃飛流紋岩					
土壙63－C1		撥形	－	胴部片	安山岩					
土壙105－C1		撥形	－	頭部欠	安山岩			4.8		
土壙106－C1		撥形	－	刃部欠	安山岩			2.5		
土壙112－C3		不明	－	胴部片	頁岩					
土壙144－C1		撥形	○	完形	安山岩	10.2	6.8	0.6	129	
土壙171－C1		撥形	－	完形	安山岩	8.7	6.8	1.6	94	
土壙187－C3		撥形	－	頭部片	安山岩					
土壙218－C1		撥形	－	刃部片	安山岩		7.5			
土壙233－C1		短冊形	－	刃部欠	安山岩			3.3		
土壙247－C1		分銅形	－	完形	安山岩	13.5	5.8	2.4	198	
土壙251－C1		撥形	○	完形	安山岩	12.0	6.8	3.3	380	
土壙253－C4		分銅形	－	完形	石英斑岩	15.1	9.7	2.7	488	
表採－C8		分銅形	－	刃部欠	濃飛流紋岩		6.4	2.0		
表採－C9		分銅形	－	刃部欠	濃飛流紋岩			2.5		
表採－C10		分銅形	－	刃部欠	安山岩			2.6		
表採－C11		分銅形	－	頭部欠	安山岩		5.1	2.1		
表採－C12		短冊形	－	頭部欠	安山岩		7.1	3.7		
表採－C13		短冊形	－	刃部欠	頁岩		5.7	1.8		
表採－C14		短冊形	－	胴部欠	安山岩					
表採－C15		撥形	－	完形	飛騨片麻岩	11.0	6.8	2.5	221	
表採－C16		撥形	－	刃部欠	頁岩		4.9	1.5		
表採－C17		撥形	－	頭部欠	頁岩		4.6	0.9		
表採－C18		撥形	－	頭部片	頁岩					
表採－C19		撥形	－	頭部片	安山岩					
表採－C20		撥形	－	胴部片	頁岩					
表採－C21		撥形	－	胴部片	頁岩					
表採－C22		撥形	－	刃部片	安山岩					
表採－C23		撥形	－	頭部片	安山岩					
表採－C131		撥形	○	完形	安山岩	9.9	5.7	2.9	203	
表採－C132		撥形	－	完形	濃飛流紋岩	15.1	6.0	2.5	350	同5
表採－C133		撥形	－	完形	安山岩	12.2	6.1	1.9	165	
表採－C134		撥形	－	完形	安山岩	8.5	6.3	1.1	90	
表採－C135		撥形	－	刃部欠	安山岩			1.4		
表採－C136		撥形	－	刃部欠	頁岩			1.7		
表採－C137		撥形	－	刃部欠	頁岩			1.0		
表採－C138		撥形	－	頭部片	安山岩					
表採－C139		撥形	－	胴部片	安山岩					
表採－C140		撥形	－	刃部片	安山岩					
表採－C141		撥形	－	頭部片	安山岩					
表採－C142		短冊形	－	頭部欠	蛇紋岩		5.4	2.4		
表採－C143		短冊形	－	刃部欠	安山岩		4.0	1.9		
表採－C144		短冊形	－	頭部片	安山岩					
表採－C145		短冊形	－	胴部片	閃緑岩					
表採－C146		撥形	－	刃部片	安山岩	7.1	4.8	1.5		

遺物番号	出土層位	形態分類	擦耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
表採－C147		撥形	－	頭部欠	頁岩		6.2	2.3		
表採－C148		撥形	－	刃部片	安山岩			1.1		
表採－C149		撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		4.4	1.1		
表採－C150		不明	－	胴部片	頁岩					
表採－C179		分銅形	－	完形	安山岩	12.2	6.2	2.4	197	
表採－C180		短冊形	－	頭部欠	安山岩		3.3	2.3		
表採－C181		撥形	○	完形	安山岩	12.7	7.3	3.3	449	
表採－C182		撥形	－	刃部欠	飛騨片麻岩			2.4		
表採－C183		撥形	－	刃部欠	頁岩			1.4		
表採－C184		撥形	－	刃部片	安山岩		4.0			
表採－C185		撥形	－	½欠	安山岩			2.0		
2C－C1	Ⅱ	撥形	－	刃部片	砂岩					
3C－C3	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.9	2.6		
3F－C1	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	砂岩		7.8	2.2		
3G－C3	Ⅱ	撥形	－	完形	砂岩	10.8	6.3	1.8	133	
3G－C4	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	砂岩		7.3	1.5		
3G－C5	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
3G－C6	Ⅱ	短冊形	－	刃部欠	安山岩		4.9	2.9		
3G－C7	Ⅱ	撥形	－	胴部片	安山岩					
3H－C5	Ⅱ	撥形	○	刃部欠	安山岩		6.3	2.0		
3H－C25	Ⅲ	短冊形	－	完形	安山岩	10.0	4.1	1.7	108	同2
3H－C26	Ⅲ	短冊形	－	完形	安山岩	10.6	5.3	1.7	130	
3H－C27	Ⅲ	短冊形	－	頭部片	砂岩					
3H－C28	Ⅲ	撥形	－	頭部片	安山岩					
4E－C2	Ⅲ	撥形	○	完形	安山岩	14.6	6.7	2.3	260	
4E－C3	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			2.1		
4F－C16	Ⅱ	分銅形	－	完形	濃飛流紋岩	11.0	7.0	2.4	162	
4F－C17	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.7		
4F－C18	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.7		
4F－C19	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.2		
4F－C20	Ⅱ	不明	－	刃部片	安山岩					
4F－C21	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩			3.3		
4F－C35	Ⅲ	短冊形	○	頭部欠	安山岩		5.0	1.7		
4F－C36	Ⅲ	撥形	－	完形	安山岩	7.8	5.5	1.2	63	
4F－C37	Ⅲ	撥形	－	頭部片	安山岩					
4G－C28	Ⅲ	撥形	－	頭部片	濃飛流紋岩					
4I－C26	Ⅱ	撥形	－	完形	飛騨片麻岩	13.3	5.9	2.4	283	
4I－C27	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	砂岩		6.5	2.0		
4I－C28	Ⅱ	撥形	－	胴部片	安山岩					
5F－C13	Ⅲ	撥形	○	完形	安山岩	9.0	5.0	2.2	140	
5F－C14	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.5	1.6		
5F－C15	Ⅲ	分銅形	－	完形	安山岩	12.0	7.4	3.0	358	
5F－C16	Ⅲ	分銅形	－	頭部欠	安山岩		9.2	3.9		
5G－C1	Ⅱ	撥形	－	完形	砂岩	9.4	7.3	1.3	100	
5G－C2	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		4.8	1.7		
5G－C3	Ⅱ	短冊形	－	刃部欠	砂岩	10.5		1.1		
5G－C4	Ⅱ	短冊形	－	刃部欠	安山岩					
5G－C15	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.2	1.9		
5G－C16	Ⅱ	撥形	－	ほぼ完形	安山岩	9.4	4.9	1.3		
5G－C17	Ⅲ	撥形	－	完形	安山岩	10.4	6.5	2.1	149	

遺物番号	出土層位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
5G－C18	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.5		
5G－C19	Ⅲ	撥形	－	胴部片	安山岩			1.4		
5H－C4	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		4.6	1.0		
5H－C5	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	濃飛流紋岩			1.8		
6F－C1	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.3			
6F－C2	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		5.9	2.6		
6F－C20	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.8	1.5		
6G－C1	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.0	6.3	1.5	106	
6H－C13	Ⅱ	撥形	○	完形	安山岩	11.7	6.4	2.3	224	
6I－C10	Ⅰ・Ⅱ	撥形	○	刃部欠	安山岩			1.6		
6K－C1	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.7	2.3		
6K－C10	Ⅰ	撥形	－	完形	安山岩	10.0	6.0	1.1	80	
6K－C11	Ⅰ	撥形	○	完形	安山岩	9.9	7.7	1.5	132	
6K－C12	Ⅰ	撥形	－	頭部片	安山岩					
6K－C13	Ⅰ	撥形	○	頭部欠	安山岩		7.1	1.4		
6K－C31	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩					
6K－C32	Ⅰ	撥形	－	完形	安山岩	8.8	5.2	0.8	54	
6K－C34	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	石英斑岩		9.5	2.3		
6K－C35	Ⅱ	分銅形	○	頭部欠	安山岩		7.2	2.3		
6K－C36	Ⅱ	短冊形	○	胴部片	安山岩					
7C－C4	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩			1.5		
7C－C5	Ⅱ	分銅形	－	完形	安山岩	9.6	6.6	2.4	199	
7C－C6	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.8	1.1		
7C－C7	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.7	1.3		
7C－C8	Ⅱ	撥形	－	胴部片	安山岩			1.3		
7C－C26	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.0	1.2		
7C－C27	Ⅱ	短冊形	－	完形	安山岩	8.5	4.2	1.2	62	
7D－C1	Ⅰ・Ⅱ	撥形	○	完形	安山岩	10.5	5.3	1.7	137	
7D－C16	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩					
7D－C21	Ⅱ	撥形	－	刃部片	安山岩		7.2			
7E－C4	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.2			
7E－C5	Ⅱ	撥形	－	刃部片	頁岩		6.0			
7E－C6	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		6.3	1.6		
7E－C16	Ⅱ	撥形	－	一部欠	砂岩	9.8	4.4	1.0		
7F－C1	Ⅰ・Ⅱ	短冊形	－	頭部片	安山岩					
7F－C12	Ⅱ	不明	－	刃部片	安山岩					
7F－C14	Ⅱ	分銅形	○	頭部欠	凝灰質流紋岩		8.9	2.7		
7G－C9	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	11.1	5.1	1.0	90	
7G－C10	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
7G－C11	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.8	1.2		
7G－C12	Ⅱ	撥形	－	胴部片	安山岩					
7H－C1	Ⅰ・Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		5.5	2.3		
7H－C2	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.8	6.3	1.1	111	
7H－C3	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.1	1.4		
7H－C4	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
7H－C23	Ⅱ	分銅形	－	刃部欠	砂岩			1.8		
7H－C24	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.6	2.7		
7I－C6	Ⅱ	撥形	○	完形	安山岩	11.2	6.4	1.8	170	同7
7I－C7	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		7.0	2.9		
7K－C17	Ⅰ	撥形	－	刃部片	安山岩		7.9			

遺物番号	出土地位	形態分類	敲耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	掲図番号
7O－C1	I	撥形	－	一部欠	砂岩	20.5	10.1	4.0		
7O－C2	I	撥形	－	頭部欠	安山岩		7.0			
7O－C3	I	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		8.0	2.3		
7O－C4	I	撥形	○	頭部欠	安山岩		10.1	3.8		
7O－C5	I	短冊形	－	頭部欠	安山岩					
8F－C5	II	撥形	－	頭部片	安山岩					
8G－C1	I	分銅形	－	頭部欠	安山岩		7.6	1.8		
8G－C2	I	撥形	－	一部欠	安山岩	11.0		2.5		
8G－C3	I	撥形	－	頭部欠	安山岩		9.2	3.3		
8G－C4	I	撥形	－	胴部片	砂岩					
8G－C29	II	分銅形	－	完形	石英斑岩	11.9	9.2	2.6	287	
8G－C30	II	撥形	－	刃部欠	安山岩			2.0		
8G－C31	II	分銅形	－	刃部欠	安山岩	11.2		1.7		
8H－C1	I・II	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.5		
8J－C1	I	分銅形	－	完形	安山岩	11.8	5.9	2.2	214	
8J－C2	I	短冊形	－	頭部欠	安山岩		4.4	1.9		
8J－C35	II	撥形	－	刃部欠	砂岩		7.0	1.1		
8J－C36	II	撥形	－	刃部欠	安山岩			3.5		
8L－C6	I・II	分銅形	－	一部欠	安山岩	9.9	3.9	1.5		
8L－C7	I・II	分銅形	－	刃部欠	安山岩					
8M－C1	I・II	撥形	－	刃部欠	安山岩			2.5		
8M－C2	I・II	撥形	－	刃部片	安山岩		10.4			
8M－C3	I・II	撥形	－	胴部片	濃飛流紋岩			3.8		
8M－C4	I・II	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.0	1.6		
8M－C5	I・II	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.6		
8M－C32	III	短冊形	－	頭部欠	安山岩		6.2	3.1		
8M－C41	III	短冊形	－	完形	安山岩	15.2	6.0	2.4	262	
8N－C23	I・II	撥形	－	完形	安山岩	10.5	5.2	1.7	124	同6
8N－C24	I・II	撥形	－	頭部片	安山岩					
8N－C25	I・II	撥形	－	頭部欠	安山岩			6.5		
8N－C26	I・II	分銅形	－	完形	安山岩	10.4	6.5	1.5	113	
8N－C27	I・II	撥形	－	頭部片	安山岩					
8N－C28	I・II	不明	－	破片	安山岩					
8N－C29	I・II	撥形	－	頭部片	濃飛流紋岩					
8N－C30	I・II	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.2	2.5		
8N－C55	II	撥形	○	完形	安山岩	9.0	5.4	1.7	119	
8N－C56	II	撥形	－	完形	安山岩	10.2	4.9	1.4	81	
8N－C57	II	撥形	－	刃部片	安山岩					
8N－C58	II	撥形	－	刃部欠	安山岩					
8N－C59	II	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.1		
8N－C60	II	分銅形	－	刃部欠	凝灰質流紋岩			3.2		
8N－C61	II	分銅形	－	刃部欠	安山岩			4.2		
8N－C66	II	撥形	－	頭部欠	安山岩					
8N－C67	II	撥形	－	刃部片	安山岩			1.3		
8N－C68	II	撥形	－	頭部片	安山岩					
8N－C69	II	撥形	－	胴部片	安山岩					
8O－C1	II	撥形	○	刃部片	安山岩					
8O－C2	II	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.5	1.5		
8O－C3	II	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.3	1.2		
8O－C4	II	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		6.0	1.7		

遺物番号	出土地位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8O－C5	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	砂岩					
8O－C6	Ⅱ	撥形	－	頭部片	砂岩					
8O－C7	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
8O－C8	Ⅱ	短冊形	○	頭部欠	安山岩		6.2	2.7		
8O－C9	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
8O－C10	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.7	2.5		
8O－C11	Ⅱ	分銅形	－	刃部欠	濃飛流紋岩		7.6	2.0		
8O－C67	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		8.0			
8O－C68	Ⅲ	撥形	－	頭部片	安山岩					
8O－C69	Ⅲ	撥形	○	刃部片	安山岩		5.6			
8O－C70	Ⅲ	撥形	－	刃部片	安山岩					
8O－C71	Ⅲ	短冊形	－	頭部欠	安山岩		4.8	2.8		
9F－C10	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.6	1.7		
9F－C11	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.9	1.8		
9F－C12	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	頭部片	砂岩					
9F－C35	Ⅱ	分銅形	－	頭・刃部欠	安山岩			1.5		
9F－C36	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	11.0	7.6	1.3	170	
9F－C37	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.5	6.7	1.9	135	
9G－C1	Ⅱ	分銅形	○	完形	安山岩	13.4	7.8	4.0	535	
9G－C2	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		8.4	2.8		
9G－C3	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		6.9			
9G－C4	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9G－C5	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.0	1.2		
9G－C6	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	頁岩		3.9	1.2		
9G－C7	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩					
9G－C68	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		5.1	1.7		
9G－C69	Ⅱ	短冊形	－	完形	頁岩	10.8	4.9	1.8	154	
9G－C70	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		5.1	1.9		
9G－C71	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		5.1	2.9		
9G－C72	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	頁岩			2.8		
9G－C73	Ⅱ	短冊形	－	頭部欠	砂岩			1.3		
9G－C74	Ⅱ	分銅形	－	完形	濃飛流紋岩	11.6	7.3	2.5	220	
9G－C75	Ⅱ	分銅形	－	頭部欠	安山岩			2.5		
9G－C76	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.3			
9G－C77	Ⅱ	撥形	○	刃部片	安山岩		7.2			
9G－C78	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	頁岩			1.4		
9G－C79	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		7.3	2.8		
9G－C80	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.0	4.5	1.3	105	
9G－C81	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		4.9	1.5		
9G－C82	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		4.6	1.3		
9G－C83	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	砂岩		6.4	1.6		
9G－C84	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		7.0	2.3		
9G－C85	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		13.8	6.0		
9H－C37	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		4.5	1.0		
9H－C38	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.2	1.5		
9H－C39	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		6.2	2.2		
9H－C40	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	濃飛流紋岩		11.4	3.7		
9H－C41	Ⅱ	撥形	○	完形	飛騨片麻岩	7.7	5.0	1.2	74	
9H－C42	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩					
9H－C43	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩		9.9			

遺物番号	地点層位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9H－C45	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩					
9J－C4	Ⅰ	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		7.3	1.6		
9J－C5	Ⅰ	撥形	○	刃部片	安山岩					
9J－C6	Ⅰ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9J－C7	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩		7.6	1.3		
9J－C8	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩		4.5	1.6		
9J－C9	Ⅰ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9J－C10	Ⅰ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9J－C11	Ⅰ	撥形	－	刃部片	安山岩		6.0			
9J－C28	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9J－C29	Ⅱ	撥形	－	完形	飛騨片麻岩	14.9	9.1	2.8	437	
9J－C30	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		4.1	1.4		
9J－C31	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		5.6	1.0		
9J－C32	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9K－C8	Ⅱ	分銅形	○	頭部欠	安山岩		6.2	2.1		
9K－C9	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	8.7	3.4	1.2	42	
9L－C7	Ⅰ	短冊形	－	頭部欠	安山岩		5.9	2.1		
9L－C8	Ⅰ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9L－C21	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	10.5	5.6	1.1	83	
9L－C22	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩			2.1		
9M－C6	Ⅱ	撥形	○	完形	安山岩	14.3	7.0	2.7	320	
9M－C7	Ⅱ	撥形	－	完形	頁岩	11.7	5.5	1.3	129	
9M－C8	Ⅱ	短冊形	－	頭部欠	安山岩		9.6	4.9		
9M－C9	Ⅱ	分銅形	－	胴部片	安山岩			1.7		
9N－C14	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.3	1.7		
9N－C15	Ⅱ	撥形	－	完形	頁岩	8.9	4.7	0.8	42	
9N－C16	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.0	0.8		
9N－C17	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.9		
9N－C18	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9N－C19	Ⅱ	撥形	－	頭部片	砂岩		8.1	2.0		
9N－C20	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩			2.3		
9N－C21	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		8.1	2.7		
9N－C22	Ⅱ	撥形	○	刃部欠	安山岩		7.0	1.5		
9N－C23	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩			1.3		
9N－C24	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
9N－C25	Ⅱ	撥形	○	頭部欠	安山岩		6.3			
9N－C26	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	飛騨片麻岩		6.7	1.9		
9N－C28	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		4.5	1.1		
9N－C29	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			2.5		
9N－C30	Ⅱ	短冊形	－	刃部欠	濃飛流紋岩		5.6	1.7		
9O－C5	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩			3.2		
9O－C6	Ⅲ	短冊形	－	頭部欠	安山岩		5.8	2.6		
9O－C7	Ⅲ	分銅形	○	完形	飛騨片麻岩	12.2	6.8	2.5	314	
9O－C8	Ⅲ	撥形	－	完形	石英斑岩	12.8	4.8	1.8	122	
9O－C9	Ⅲ	撥形	－	完形	閃緑岩	11.9	5.8	1.3	101	
9O－C10	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	安山岩			1.9		
10F－C13	Ⅱ	撥形	－	刃部片	安山岩		8.0			
10F－C14	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩		7.8			
10F－C15	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10F－C16	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩			2.6		

遺物番号	出土層位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10F－C17	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10F－C18	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10F－C19	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩					
10G－C7	Ⅰ・Ⅱ	撥形	○	完形	濃飛流紋岩	9.5	5.1	1.8	118	
10G－C54	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		10.8	3.7		
10G－C55	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		7.0	1.3		
10G－C56	Ⅱ	撥形	－	頭部片	砂岩					
10G－C57	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		4.6	1.3		
10G－C58	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.3	1.2		
10G－C59	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	凝灰質流紋岩		6.9	2.2		
10G－C60	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩					
10G－C61	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩					
10G－C62	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		5.0	1.8		
10G－C63	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	頁岩		4.6	1.6		
10G－C64	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.1			
10G－C65	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩					
10G－C66	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.7	4.9	1.6	85	
10G－C67	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.4	6.7	1.8	136	
10G－C68	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10H－C10	Ⅰ	撥形	－	完形	安山岩	13.9	9.9	4.3	570	
10H－C11	Ⅰ	撥形	－	部欠	安山岩	12.1	4.1	1.7		
10H－C12	Ⅰ	撥形	－	頭部片	頁岩					
10H－C13	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		6.3	1.3		
10H－C14	Ⅱ	撥形	○	頭部片	安山岩					
10H－C15	Ⅱ	撥形	－	完形	安山岩	9.0	3.6	1.8	95	
10H－C16	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.9	2.2		
10J－C5	Ⅱ	撥形	－	完形	閃緑岩	8.7	5.4	1.5	101	
10J－C6	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10J－C7	Ⅱ	撥形	－	刃部片	安山岩			3.0		
10K－C5	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		8.0	3.0		
10K－C6	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	頁岩		6.2	1.4		
10K－C7	Ⅱ	撥形	－	完形	頁岩	11.8	6.7	1.7	179	
10K－C8	Ⅱ	分銅形	－	頭部欠	安山岩		7.0	3.2		
10K－C23	Ⅰ・Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		4.1	1.2		
10K－C24	Ⅱ	撥形	－	頭部片	安山岩					
10K－C25	Ⅱ	撥形	－	頭部片	頁岩					
10L－C10	Ⅰ	撥形	－	完形	安山岩	10.3	6.2	1.2	109	
10L－C11	Ⅰ	撥形	－	胴部片	安山岩					
10L－C12	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩		1.2			
10M－C1	Ⅰ	短冐形	－	頭部欠	安山岩		6.3	2.7		
10M－C2	Ⅰ	短冐形	－	完形	安山岩	11.1	4.7	2.5	165	同1
10M－C3	Ⅰ	短冐形	－	完形	安山岩	13.1	6.2	2.9	325	同3
10M－C4	Ⅰ	撥形	－	完形	飛騨片麻岩	9.2	6.5	1.9	121	
10M－C5	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.5		
10M－C6	Ⅰ	撥形	－	完形	凝灰質流紋岩	22.8	9.2	3.3	839	
10M－C64	Ⅱ	撥形	－	頭部欠	安山岩		8.5	3.6		
10M－C65	Ⅱ	撥形	－	刃部欠	安山岩		7.2	3.0		
10M－C73	Ⅲ	短冐形	－	完形	安山岩	7.3	4.2	1.3	59	
10M－C74	Ⅲ	撥形	－	刃部片	濃飛流紋岩		8.0			
10M－C75	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩		1.4			

遺物番号	出土層位	形態分類	磨耗有無	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10N－C10	Ⅲ	短冊形	－	完形	飛騨片麻岩	18.8	6.7	4.0	642	
10N－C11	Ⅲ	短冊形	－	刃部欠	安山岩		5.4	2.1		
10N－C12	Ⅲ	短冊形	－	刃部欠	濃飛流紋岩		6.0	2.4		
10N－C13	Ⅲ	分銅形	－	頭部欠	濃飛流紋岩		7.6	1.7		
10N－C14	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.5	1.5		
10N－C15	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	頁岩		4.9	0.8		
10O－C3	Ⅰ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.5		
10O－C4	Ⅰ	撥形	－	完形	安山岩	10.0	5.2	1.8	114	
10O－C5	Ⅰ	撥形	－	胴部片	安山岩					
10O－C6	Ⅰ	撥形	－	刃部片	頁岩					
10O－C7	Ⅰ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.3	1.2		
10O－C25	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩			1.3		
10O－C26	Ⅲ	撥形	－	頭部欠	安山岩		5.7			
10O－C27	Ⅲ	撥形	－	完形	安山岩	9.4	4.6	1.9	109	
10O－C28	Ⅲ	撥形	－	刃部欠	安山岩		3.8	1.3		
10O－C29	Ⅲ	撥形	－	胴部片	頁岩					

長さ5～8cm、巾7～10cm、厚さ1～2cmの場合が多い。また完形品の重さの平均値は130gである。

石質は、安山岩が82点で全体の58%を占める。砂岩が15%、頁岩と凝灰質流紋岩がそれぞれ9%で、以下濃飛流紋岩・飛騨片麻岩・閃緑岩と続く。

3．礫器（第5表、第79図）

今回の調査で確認できた礫器は17点である。礫の長辺を刃部にしている場合が多いが、短辺を刃部にしている例（第79図5・6）も3点ある。

長さは6～17cmまでの巾があるが、12～15cm程度の長さの礫器が多い。巾の平均値は10cmである。1kgを越える例が3点あるが、平均値は650gである。

石質は、安山岩が6点と最も多く、凝灰質流紋岩が3点、砂岩と閃緑岩が2点で続く。

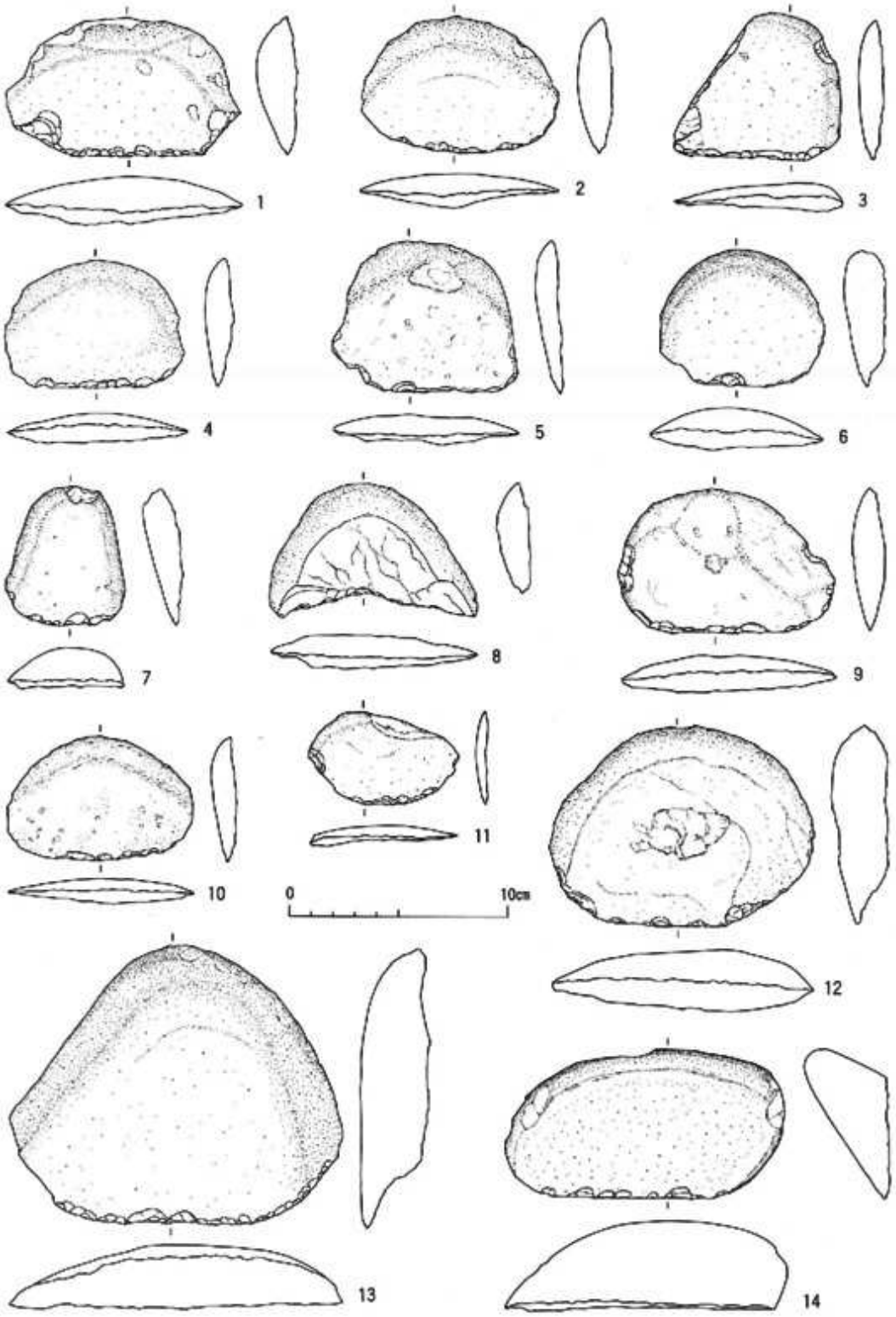
4．石皿（第6表、第80図）

27点出土している。凹みのあるⅠ類と、盤状のⅡ類に区分した。Ⅰ類が6点、Ⅱ類が21点である。Ⅰ類には平坦な円礫が多いが、角礫もしばしば用いられている。

石質を形態別に見ると、Ⅰ類は多孔質の安山岩が3点と多く、砂岩・輝緑凝灰岩・飛騨片麻岩がそれぞれ1点出土している。Ⅱ類では濃飛流紋岩が8点認められ、安山岩も6点と多い。これに砂岩や飛騨片麻岩が続く。

5．敲石（第7表、第81図）

253点出土し、石器組成の13%を占めている。このうち完形は181点である。1点の石器が敲石としてだけではなく、叩石や磨石としても使用されている例が多く見受けられ、報告者の見方で石器組成が変わる可能性がある。実際敲石の253点中には、叩石として使われたものが98点、磨石として使われたものが155点存在している。



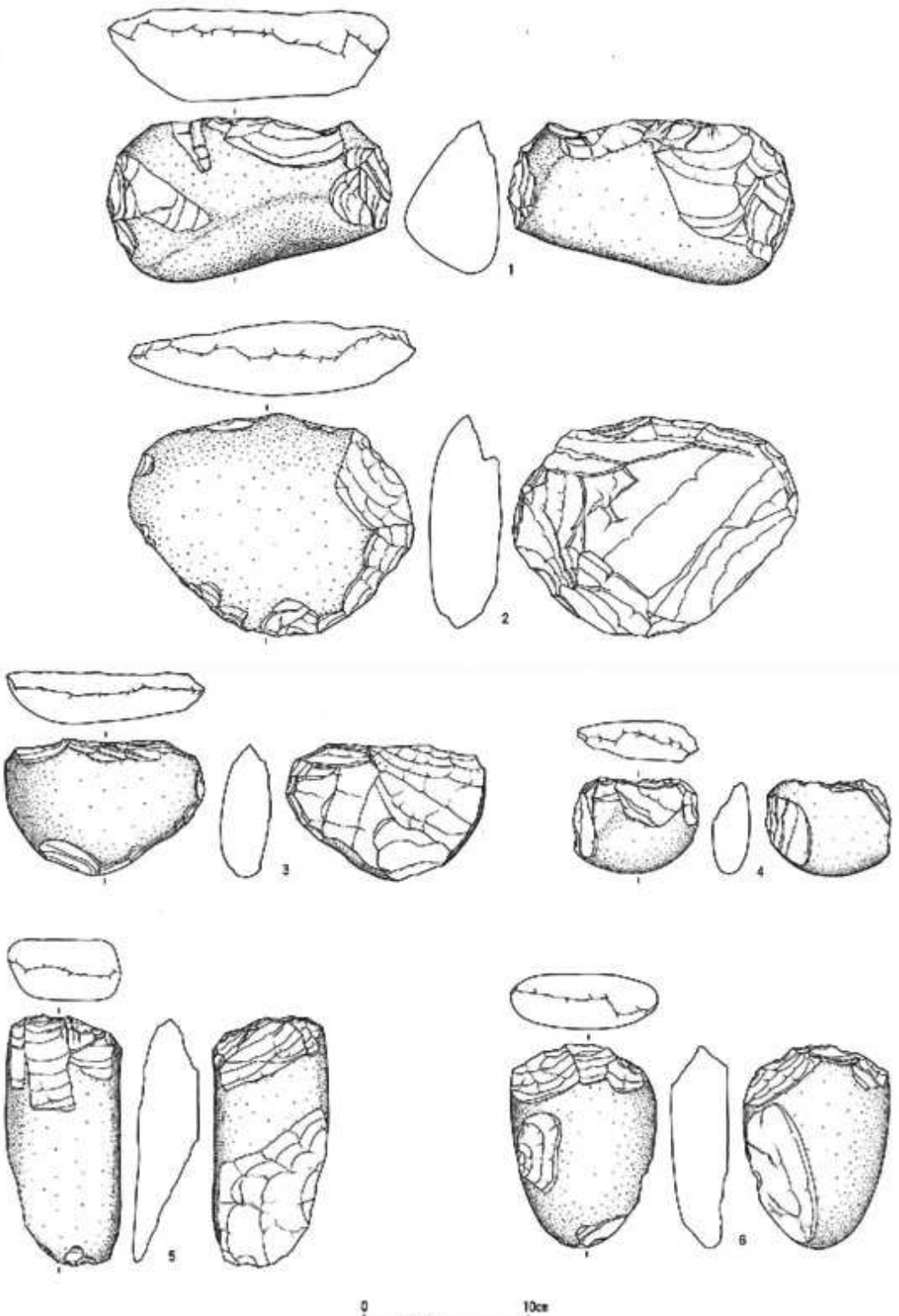
第78図　横刃型石器実測図

第4表　横刃型石器一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
土坑68－C2		一部欠	安山岩	8.2		1.9		
土坑106－C2		完形	頁岩	5.9	4.2	0.5	23	第78図11
土坑116－C1		完形	凝灰質流紋岩	6.5	10.7	1.9	136	同1
土坑125－C1		刃部片	頁岩					
土坑147－C1		完形	安山岩	8.0	10.0	1.5	134	
土坑148－C1		完形	砂岩	6.3	9.1	1.5	86	同2
土坑180－C1		½欠	安山岩	4.9				
表採－C76		完形	凝灰質流紋岩	10.3	5.2	1.1	74	
表採－C77		完形	安山岩	8.9	4.6	1.0	56	
表採－C78		一部欠	安山岩	11.3	7.1	1.8		
表採－C156		一部欠	頁岩	5.5		1.9		
表採－C157		完形	頁岩	3.6	7.9	1.0	29	
表採－C158		完形	安山岩	6.1	9.3	1.6	114	
表採－C159		完形	安山岩	4.5	6.9	0.6	28	
表採－C160		完形	安山岩	4.0	8.8	1.0	45	
表採－C161		⅔欠	頁岩					
表採－C162		一部欠	安山岩	5.0		1.0		
表採－C163		刃部片	安山岩					
表採－C199		一部欠	安山岩	7.3				
表採－C200		完形	頁岩	5.3	7.9	0.9	53	
表採－C201		⅓欠	頁岩	4.1		1.2		
3G－C1	Ⅱ	完形	砂岩	5.2	10.8	2.3	133	
3G－C2	Ⅱ	完形	安山岩	5.3	9.5	1.1	61	
3H－C1	Ⅱ	一部欠	頁岩		7.2	0.6		
3H－C4	Ⅱ	⅓欠	安山岩		10.2	1.4		
3H－C14	Ⅲ	完形	安山岩	4.8	7.3	1.1	43	
3H－C15	Ⅲ	⅓欠	安山岩	5.4		1.1		
3H－C16	Ⅲ	⅓欠	頁岩	6.0		0.8		
4E－C4	Ⅱ	一部欠	安山岩	8.3		1.4		
4F－C12	Ⅱ	完形	安山岩	6.1	5.1	0.9	39	
4F－C13	Ⅱ	一部欠	頁岩		5.1	1.2		
4F－C14	Ⅱ	完形	安山岩	5.2	5.5	0.6	18	
4F－C15	Ⅱ	完形	安山岩	7.5	6.0	1.4	64	
4F－C22	Ⅲ	完形	安山岩	6.0	7.5	1.8	98	同6
4F－C23	Ⅲ	一部欠	安山岩		8.2	1.9		
4F－C34	Ⅲ	⅓欠	安山岩		9.7			
4G－C1	Ⅲ	一部欠	砂岩	6.9		1.0		同5
4G－C2	Ⅲ	½欠	頁岩	5.6		1.2		
4G－C24	Ⅲ	完形	安山岩	5.9	8.4	1.3	72	同4
4G－C25	Ⅲ	完形	安山岩	4.4	10.3	1.4	85	
4G－C26	Ⅲ	一部欠	頁岩	8.0		0.9		
4G－C27	Ⅱ	完形	頁岩	5.1	6.9	1.0	40	
4I－C6	Ⅱ	完形	安山岩	5.3	7.0	1.0	45	
4I－C7	Ⅱ	一部欠	安山岩	5.7		1.3		
4I－C8	Ⅱ	完形	黒雲母片麻岩	7.8	13.3	1.0	181	
4I－C9	Ⅱ	一部欠	安山岩	4.3		0.8		
5F－C6	Ⅱ	完形	安山岩	7.5	5.5	1.5	68	同7
5F－C8	Ⅲ	一部欠	濃飛流紋岩	7.8		1.3		
5G－C7	Ⅱ	完形	安山岩	6.2	9.8	1.8	124	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
5G－C8	Ⅱ	一部欠	濃飛流紋岩	6.8		1.2		
5G－C9	Ⅱ	一部欠	安山岩	7.8		1.5		
5G－C10	Ⅱ	一部欠	安山岩		6.5	1.4		
5G－C11	Ⅱ	一部欠	安山岩		8.4	1.7		
5G－C22	Ⅲ	1/3欠	飛騨片麻岩	5.8		0.9		
6F－C13	Ⅱ	一部欠	頁岩	3.9		0.5		
6F－C14	Ⅲ	1/3欠	安山岩	8.2		1.4		
6G－C16	Ⅱ	完形	安山岩	5.9	9.6	1.7	99	
6I－C1	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	10.2	10.8	2.3	272	
6K－C6	Ⅰ	1/3欠	濃飛流紋岩	8.2		1.8		
6K－C23	Ⅰ	完形	安山岩	4.7	6.6	1.0	30	
6K－C24	Ⅰ	一部欠	砂岩	9.1	7.3	1.4		
6K－C44	Ⅱ	一部欠	安山岩	7.5		1.5		
7C－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	5.8	6.3	1.1	48	
7C－C3	Ⅰ・Ⅱ	1/2欠	砂岩	8.5		1.2		
7C－C24	Ⅱ	完形	安山岩	4.0	9.6	1.0	72	
7C－C25	Ⅱ	完形	安山岩	8.9	9.9	2.0	200	
7C－C28	Ⅱ	完形	安山岩	4.1	7.8	0.8	29	
7D－C5	Ⅰ・Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	4.7	8.6	1.0	56	同10
7D－C6	Ⅰ・Ⅱ	完形	頁岩	6.1	10.8	1.7	108	
7D－C7	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	砂岩	8.6		1.4		
7D－C31	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	4.3	6.5	1.5	32	
7D－C32	Ⅱ	刃部片	砂岩		8.7			
7E－C1	Ⅰ・Ⅱ	完形	頁岩	5.7	9.7	1.4	91	同8
7F－C7	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	濃飛流紋岩	6.5		2.4		
7F－C8	Ⅰ・Ⅱ	1/3欠	安山岩	10.4		2.3		
7H－C22	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩	8.0		1.6		
7H－C25	Ⅱ	完形	砂岩	10.2	13.9	3.3	568	
7H－C26	Ⅱ	完形	頁岩	4.9	9.5	1.1	77	
7I－C8	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	6.9	9.4	1.6	114	
7O－C13	Ⅰ	完形	砂岩	4.8	6.0	1.1	59	
7O－C14	Ⅰ	1/3欠	砂岩	10.5		2.0		
8H－C8	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩	6.8		1.4		
8H－C9	Ⅰ・Ⅱ	1/2欠	安山岩			2.3		
8H－C10	Ⅰ・Ⅱ	2/3欠	頁岩					
8H－C11	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩	5.9		1.5		
8M－C7	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	6.7	9.5	1.1	82	
8M－C8	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩	7.8		2.0		
8M－C31	Ⅲ	完形	安山岩	8.5	11.1	3.4	395	
8N－C18	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	6.4	9.7	1.7	133	
8N－C19	Ⅰ・Ⅱ	1/3欠	濃飛流紋岩	6.2		1.2		
8N－C20	Ⅰ・Ⅱ	破片	安山岩					
8N－C46	Ⅱ	完形	頁岩	5.8	5.8	0.8	41	
8N－C47	Ⅱ	破片	凝灰質流紋岩					
8O－C28	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	9.4	12.4	2.7	300	同12
8O－C29	Ⅱ	一部欠	安山岩	6.7		0.9		
9F－C5	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	7.0	8.6	1.1	84	
9F－C18	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	7.3	9.6	2.0	100	
9F－C46	Ⅱ	完形	閃緑岩	12.6	14.8	2.8	650	
9F－C47	Ⅱ	1/3欠	砂岩			2.8		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9G－C51	II	完形	安山岩	9.0	9.2	1.5	146	
9G－C52	II	完形	砂岩	8.3	10.2	1.1	120	
9G－C53	II	完形	安山岩	6.2	10.8	1.5	140	
9G－C54	II	完形	安山岩	6.0	7.6	1.2	71	
9G－C55	II	完形	安山岩	4.9	7.2	1.2	48	
9G－C56	II	完形	砂岩	7.6	8.4	1.5	106	
9G－C57	II	完形	頁岩	5.4	7.2	1.1	60	
9G－C58	II	破片	頁岩					
9G－C59	II	½欠	飛騨片麻岩	6.4		1.0		
9H－C35	II	完形	安山岩	8.3	9.4	2.3	200	
9H－C36	II	完形	頁岩	5.2	7.3	0.8	39	
9J－C12	I	完形	安山岩	6.7	9.2	2.5	170	
9J－C13	I	完形	砂岩	7.5	6.5	1.4	73	
9L－C3	I	完形	凝灰質流紋岩	9.6	10.5	2.8	290	
9M－C1	II	完形	安山岩	10.2	8.5	2.0	170	
9M－C2	II	一部欠	安山岩	6.6		1.5		
9M－C3	II	½欠	頁岩					
9N－C9	II	完形	凝灰質流紋岩	7.9	11.0	1.8	124	
9N－C10	II	完形	安山岩	8.0	9.2	2.0	155	
9N－C11	II	一部欠	安山岩	6.9		1.5		
9N－C12	II	一部欠	砂岩	7.9		1.1		
9N－C13	II	破片	安山岩					
10F－C12	II	完形	安山岩	8.5	12.2	2.2	250	
10G－C8	I・II	一部欠	安山岩	4.1		1.2		
10G－C19	II	完形	安山岩	6.3	8.3	1.2	71	同3
10G－C20	II	完形	頁岩	6.4	9.7	1.7	139	同9
10G－C21	II	一部欠	閃緑岩	12.5		3.2		同13
10G－C22	II	½欠	凝灰質流紋岩					
10H－C9	I	⅓欠	凝灰質流紋岩	5.6	1.2			
10K－C1	I	完形	砂岩	10.3	13.7	3.4	410	
10K－C2	I	完形	凝灰質流紋岩	7.7	9.3	1.9	150	
10K－C3	I	一部欠	安山岩	8.3		2.0		
10K－C4	I	一部欠	安山岩	6.1		1.7		
10K－C30	II	完形	砂岩	7.3	12.3	3.3	400	同14
10M－C11	I	⅔欠	凝灰質流紋岩					
10M－C42	II	完形	安山岩	8.1	11.0	2.3	220	
10M－C43	II	完形	砂岩	6.0	12.5	3.0	382	
10M－C44	II	完形	安山岩	4.9	9.9	1.4	74	
10M－C45	II	一部欠	頁岩	8.4	11.4	1.3		
10M－C46	II	完形	安山岩	8.1	10.7	2.1	221	
10M－C72	III	完形	頁岩	8.2	5.6	1.5	83	
10N－C2	I	破片	砂岩					



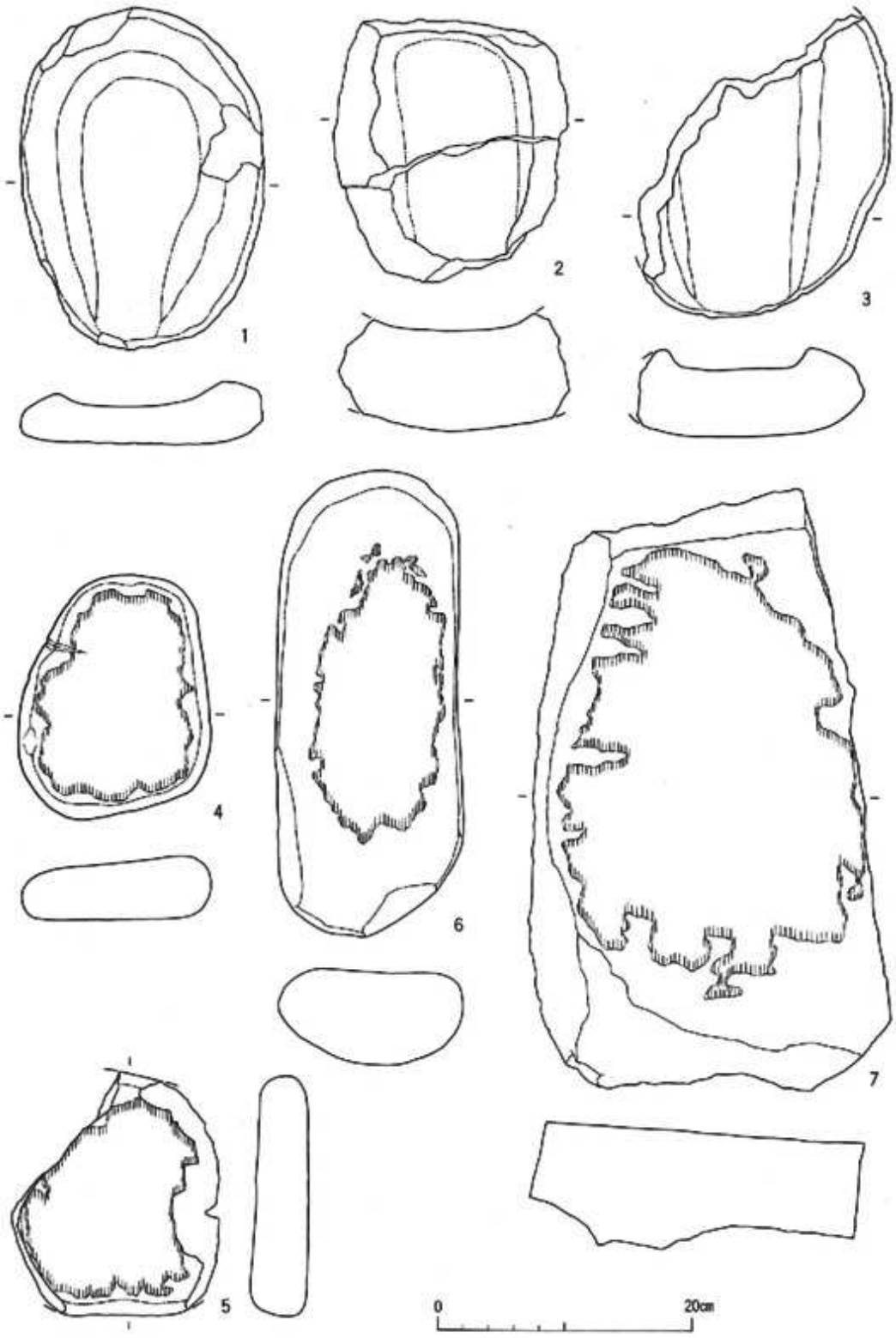
第79図　礫器実測図

第5表　礫器一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
土坑195－C1		完形	安山岩	11.5	8.1	3.7	380	
5H－C1	II	完形	閃緑岩	17.3	9.5	5.4	1160	第79図1
6F－C21	III	完形	安山岩	7.9	6.0	2.3	144	同4
6K－C33	I	完形	輝緑凝灰岩	14.0	12.7	4.0	1243	
8J－C13	I	完形	飛騨片麻岩	7.0	7.0	3.9	275	
8M－C40	II	完形	凝灰質流紋岩	14.8	10.5	3.1	615	
8O－C49	II	完形	安山岩	12.2	8.3	2.9	422	同3
8O－C50	II	完形	安山岩	9.0	12.2	3.3	501	同6
8O－C51	II	完形	砂岩	8.5	15.0	7.0	1168	
8O－C52	II	完形	濃飛流紋岩	15.2	9.8	3.5	758	
8O－C53	II	完形	安山岩	12.3	11.7	4.0	607	
9F－C34	II	完形	凝灰質流紋岩	6.4	15.1	3.7	512	同5
9H－C10	I・II	完形	凝灰質流紋岩	13.8	13.8	3.6	808	
9H－C44	II	完形	砂岩	12.6	10.5	3.3	456	
9M－C14	II	完形	凝灰岩	15.5	6.4	3.9	589	
10G－C23	II	完形	安山岩	17.3	13.6	4.2	1121	同2
10G－C24	II	完形	閃緑岩	9.7	6.4	3.5	285	

第6表　石Ⅲ一覧表（単位cm、kg）

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
表採－C69		II	完形	濃飛流紋岩	20.0	15.2	4.9	2.42	第80図4
表採－C70		II	一部欠	安山岩	30.4	13.2	5.7		
表採－C71		II	1/3欠	安山岩			4.6		同5
表採－C72		II	2/3欠	砂岩			8.6		
表採－C73		II	1/3欠	安山岩		18.8	5.8		
表採－C188		II	1/2欠	濃飛流紋岩			4.3		
4G－C7	III	I	破片	輝緑凝灰岩					
4I－C29	II	II	完形	濃飛流紋岩	32.4	19.5	10.6	10.82	
5F－C1	III	II	1/2欠	安山岩					
6K－C27	I	I	2/3欠	砂岩					
7D－C10	II	II	完形	安山岩	36.7	14.9	9.7	8.34	同6
7H－C35	II	II	完形	安山岩	47.2	27.3	9.9	18.78	同7
8G－C10	II	II	完形	凝灰質流紋岩	22.3	18.0	5.7	3.62	
8G－C11	II	II	破片	濃飛流紋岩					
8K－C1	I	I	1/3欠	安山岩					
8K－C2	I	II	2/3欠	濃飛流紋岩					同2
8N－C2	I・II	I	1/2欠	安山岩					同3
8N－C32	II	II	破片	砂岩					
8O－C55	III	II	一部欠	濃飛流紋岩	17.5	15.2	5.3		
9G－C86	II	II	1/3欠	飛騨片麻岩			7.3		
9G－C87	II	II	2/3欠	濃飛流紋岩					
9H－C1	I・II	II	2/3欠	飛騨片麻岩					
10G－C12	I・II	II	破片	砂岩					
10H－C44	II	I	1/3欠	飛騨片麻岩	30.6		10.9		
10M－C48	II	I	完形	安山岩	26.7	19.1	4.8	3.54	同1
10N－C4	III	II	完形	飛騨片麻岩	20.9	11.5	5.1	1.95	
10N－C5	III	II	1/3欠	濃飛流紋岩			5.2		



第80図　石皿実測図

第7表　敲石一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
6号住－C1		一部欠	濃飛流紋岩		6.4	3.7		
6号住－C2		完形	安山岩	9.1	8.9	3.1	332	第仮5図6
土壙17－C1		完形	安山岩	11.9	7.8	3.1	429	
土壙92－C1		完形	砂岩	7.0	6.1	4.1	251	同2
土壙92－C2		½欠	飛騨片麻岩		6.3	3.5		
土壙179－C1		完形	濃飛流紋岩	13.9	6.8	4.2	593	
土壙195－C2		½欠	頁岩					
土壙218－C3		完形	安山岩	12.3	8.1	4.2	732	同13
土壙251－C3		完形	飛騨片麻岩	11.4	7.7	5.5	808	
土壙252－C2		完形	飛騨片麻岩	9.4	6.5	2.4	242	同7
土壙252－C3		完形	安山岩	12.9	4.5	3.4	322	
土壙252－C4		完形	安山岩	8.5	5.7	2.8	208	
土壙253－C1		完形	飛騨片麻岩	10.2	7.0	3.8	460	
土壙253－C2		½欠	飛騨片麻岩	8.5	5.8	2.9		
表採－C24		一部欠	安山岩		6.9	2.7		
表採－C25		完形	飛騨片麻岩	11.0	5.5	3.5	339	
表採－C26		完形	安山岩	9.8	8.7	5.4	719	
表採－C27		完形	砂岩	10.6	7.6	4.0	536	
表採－C28		完形	飛騨片麻岩	11.2	9.1	4.9	804	
表採－C29		完形	安山岩	10.8	9.6	5.6	792	
表採－C30		完形	安山岩	9.9	5.5	3.3	284	
表採－C31		完形	安山岩	10.6	5.6	2.9	290	
表採－C32		一部欠	飛騨片麻岩		7.5	5.4		
表採－C33		完形	安山岩	9.6	9.4	5.3	634	
表採－C34		完形	安山岩	10.3	7.0	4.7	518	
表採－C35		完形	安山岩	12.2	9.0	4.6	806	
表採－C36		完形	濃飛流紋岩	9.0	7.2	3.5	408	
表採－C37		完形	凝灰質流紋岩	9.6	6.7	2.3	281	
表採－C38		完形	飛騨片麻岩	12.4	8.7	4.0	690	
表採－C39		⅓欠	飛騨片麻岩		5.4	4.4		
表採－C40		一部欠	安山岩		7.9	5.6		
表採－C41		½欠	安山岩		7.2	3.5		
表採－C42		⅓欠	濃飛流紋岩			5.5		
表採－C186		完形	濃飛流紋岩	11.6	9.6	4.7	799	
表採－C187		完形	濃飛流紋岩	8.0	7.5	2.2	209	
表採－C189		完形	安山岩	8.8	7.3	5.6	521	
表採－C190		完形	安山岩	8.7	5.6	3.3	255	
表採－C191		½欠	濃飛流紋岩		9.9	4.3		
表採－C192		完形	飛騨片麻岩	8.3	6.6	3.8	360	
3C－C1	Ⅱ	完形	安山岩	10.9	6.2	3.1	335	
3D－C5	Ⅱ	完形	安山岩	14.6	6.6	3.6	654	
3D－C6	Ⅱ	完形	安山岩	10.5	7.5	2.3	359	同8
3D－C7	Ⅱ	完形	安山岩	9.6	7.9	3.5	450	
3D－C8	Ⅱ	完形	石英斑岩	9.2	8.3	4.6	619	
3D－C9	Ⅱ	½欠	砂岩		6.3	3.0		
3G－C10	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	6.0	3.1	342	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
3H－C6	Ⅱ	½ 欠	飛騨片麻岩			3.6		
3H－C13	Ⅲ	完 形	飛騨片麻岩	17.2	6.0	4.4	752	
4B－C1	Ⅱ	一部欠	石英斑岩	15.8	7.6	4.5		
4E－C1	Ⅱ	完 形	凝灰質流紋岩	12.3	5.3	3.4	355	
4E－C8	Ⅱ	一部欠	安山岩	9.6	7.0	4.4		
4F－C6	Ⅱ	完 形	安山岩	14.0	9.7	7.0	1472	
4F－C7	Ⅱ	完 形	安山岩	9.0	8.6	5.0	580	同9
4F－C8	Ⅱ	完 形	飛騨片麻岩	12.8	8.9	6.4	1202	
4F－C9	Ⅱ	完 形	砂岩	11.1	7.7	4.4	557	
4F－C10	Ⅱ	⅔ 欠	飛騨片麻岩		8.3	3.7		
4F－C25	Ⅲ	完 形	安山岩	12.0	8.4	3.7	577	
4F－C33	Ⅲ	½ 欠	安山岩			4.3		
4G－C17	Ⅲ	完 形	砂岩	11.2	5.8	4.2	442	同4
4G－C18	Ⅲ	一部欠	凝灰質流紋岩		6.5	3.3		
4G－C19	Ⅲ	完 形	安山岩	11.3	4.7	2.7	232	
4H－C1	Ⅱ	完 形	安山岩	9.8	8.8	4.7	640	
4I－C23	Ⅱ	完 形	安山岩	12.0	7.0	2.9	345	
4I－C24	Ⅱ	⅓ 欠	安山岩			5.5		
4I－C25	Ⅱ	½ 欠	石英斑岩					
5F－C19	Ⅲ	完 形	砂岩	7.8	7.0	3.4	297	同1
5F－C20	Ⅲ	完 形	飛騨片麻岩	10.1	6.8	3.4	419	
5F－C21	Ⅲ	½ 欠	砂岩			5.6		
5I－C4	Ⅱ	完 形	安山岩	13.7	7.8	4.6	749	同11
6F－C3	Ⅱ	完 形	安山岩	10.6	10.6	3.4	552	
6F－C19	Ⅲ	⅓ 欠	飛騨片麻岩		5.9	3.5		
6G－C3	Ⅱ	完 形	砂岩	9.9	6.0	3.1	286	
6G－C4	Ⅱ	½ 欠	濃飛流紋岩					
6G－C5	Ⅱ	完 形	飛騨片麻岩	12.5	6.2	4.4	460	
6G－C6	Ⅱ	½ 欠	砂岩			2.3		
6H－C9	Ⅱ	完 形	安山岩	10.2	6.4	4.4	451	
6H－C10	Ⅱ	完 形	濃飛流紋岩	11.6	7.9	4.9	685	
6H－C11	Ⅱ	完 形	安山岩	14.2	7.7	5.0	841	
6H－C12	Ⅱ	完 形	濃飛流紋岩	8.9	11.9	6.2	1110	
6I－C7	Ⅰ·Ⅱ	完 形	砂岩		7.7	5.7	568	
6I－C8	Ⅰ·Ⅱ	一部欠	安山岩		6.4	2.5		
6I－C9	Ⅰ·Ⅱ	½ 欠	砂岩			3.0		
6K－C3	Ⅰ	完 形	凝灰質流紋岩	8.3	6.8	4.5	362	
6K－C18	Ⅰ	完 形	安山岩	10.6	7.3	6.8	780	
6K－C19	Ⅰ	完 形	凝灰質流紋岩	11.8	6.2	3.6	380	
6K－C20	Ⅰ	一部欠	安山岩	11.0	7.0	3.3		
6K－C28	Ⅰ	完 形	安山岩	13.1	5.6	3.4	413	
6K－C29	Ⅰ	完 形	安山岩	7.8	7.6	1.9	157	
6K－C30	Ⅰ	完 形	安山岩	7.7	3.5	2.5	112	
6K－C40	Ⅱ	完 形	砂岩	11.0	6.1	2.6	290	
6K－C41	Ⅱ	完 形	安山岩	10.3	7.7	3.9	381	
6K－C42	Ⅱ	完 形	濃飛流紋岩	10.8	8.9	6.7	869	
6K－C43	Ⅱ	½ 欠	安山岩					

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
7C－C10	Ⅱ	完形	安山岩	9.6	4.1	2.8	167	
7C－C11	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.0	5.3	3.0	320	
7C－C12	Ⅱ	一部欠	凝灰質流紋岩		7.0	3.9		
7C－C13	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
7C－C14	Ⅱ	1/3欠	安山岩	10.2				
7C－C31	Ⅱ	完形	閃緑岩	11.0	5.4	2.5	244	
7C－C32	Ⅱ	1/2欠	砂岩			4.0		
7D－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	20.3	9.7	6.7	2079	同10
7D－C14	Ⅱ	完形	安山岩	10.0	7.6	6.3	749	
7D－C18	Ⅱ	1/3欠	安山岩					
7D－C29	Ⅱ	完形	安山岩	10.6	6.1	3.0	301	
7E－C9	Ⅱ	完形	安山岩	13.8	7.8	3.1	603	
7E－C10	Ⅱ	一部欠	安山岩		5.4	3.6		
7E－C11	Ⅱ	1/2欠	砂岩					
7E－C12	Ⅱ	完形	砂岩	6.0	5.3	2.5	148	
7E－C23	Ⅱ	完形	閃緑岩	18.8	9.3	5.2	1491	
7F－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	10.9	7.5	3.9	476	
7F－C20	Ⅱ	完形	石英斑岩	10.2	6.1	4.4	442	
7G－C1	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	10.0	6.3	4.3	419	
7H－C6	Ⅰ・Ⅱ	完形	石英斑岩	11.8	6.5	3.5	410	
7H－C7	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	12.0	8.8	4.4	702	
7H－C8	Ⅰ・Ⅱ	完形	石英斑岩	9.8	6.8	4.0	419	
7H－C9	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	8.0	6.7	5.5	439	
7H－C33	Ⅱ	1/3欠	濃飛流紋岩		7.4	3.3		
7H－C34	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	10.5	6.3	3.8	318	
7I－C11	Ⅱ	完形	砂岩	12.5	6.7	3.5	470	
7K－C6	Ⅰ	完形	砂岩	7.4	7.2	3.1	250	
7K－C7	Ⅰ	完形	安山岩	10.0	7.0	4.6	526	
7O－C16	Ⅰ	完形	安山岩	9.8	8.0	5.1	630	
7O－C17	Ⅰ	一部欠	石英斑岩	10.3	9.7	5.8		
7O－C18	Ⅰ	1/3欠	安山岩		8.7			
8F－C1	Ⅱ	完形	砂岩	8.7	6.1	3.8	348	
8G－C9	Ⅰ	完形	砂岩	14.6	8.3	6.1	1059	
8G－C12	Ⅱ	完形	安山岩	10.3	8.2	4.3	555	
8G－C13	Ⅱ	完形	安山岩	9.7	6.3	4.0	402	
8G－C14	Ⅱ	一部欠	安山岩	7.5	6.5	3.6		
8G－C15	Ⅱ	2/3欠	飛騨片麻岩					
8H－C13	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	14.0	6.9	3.5	500	
8H－C14	Ⅰ・Ⅱ	完形	閃緑岩	11.0	6.3	3.9	461	
8J－C34	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	8.5	7.1	2.8	272	
8K－C3	Ⅰ	完形	石英斑岩	14.7	4.6	3.0	316	同5
8M－C15	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	13.1	9.1	4.5	831	
8M－C16	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	11.0	7.7	3.5	419	
8M－C17	Ⅰ・Ⅱ	完形	閃緑岩	11.4	5.9	2.5	316	
8M－C18	Ⅰ・Ⅱ	1/3欠	安山岩		5.3	3.0		
8M－C28	Ⅲ	完形	凝灰質流紋岩	12.8	3.8	3.5	259	
8M－C38	Ⅲ	完形	安山岩	10.4	7.5	4.6	567	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8M－C39	Ⅲ	2/3 欠	安山岩					
8N－C15	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	11.5	7.2	3.4	445	
8N－C16	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	10.0	9.5	6.0	778	
8N－C17	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	濃飛流紋岩		10.4	5.9		
8N－C48	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.1	7.0	3.1	436	
8N－C49	Ⅱ	一部欠	安山岩	13.3	7.0	3.8		
8N－C50	Ⅱ	完形	砂岩	10.4	5.4	3.2	274	
8N－C51	Ⅱ	破片	安山岩					
8O－C30	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	9.6	8.8	3.5	520	
8O－C31	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.3	7.3	4.5	622	
8O－C32	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	8.4	7.7	3.5	339	
8O－C33	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	9.4	6.7	4.6	452	
8O－C34	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	11.8	8.5	3.8	553	
8O－C35	Ⅱ	1/2 欠	凝灰質流紋岩					
8O－C36	Ⅱ	1/2 欠	閃緑岩					
8O－C37	Ⅱ	1/2 欠	安山岩					
8O－C57	Ⅲ	完形	石英斑岩	8.9	7.4	3.6	395	
8O－C58	Ⅲ	完形	砂岩	9.2	8.3	4.0	459	
8O－C59	Ⅲ	完形	安山岩	9.1	7.5	5.2	499	
8O－C60	Ⅲ	一部欠	砂岩	9.5	6.2	4.3		
9F－C3	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	10.1	5.1	3.1	228	
9F－C4	Ⅰ・Ⅱ	1/3 欠	濃飛流紋岩		9.5			
9F－C14	Ⅱ	完形	安山岩	11.7	5.7	3.8	385	
9F－C15	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	10.9	6.3	2.7	282	
9F－C16	Ⅱ	完形	安山岩	9.9	9.1	4.8	639	
9F－C17	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	15.2	7.3	4.1	693	
9F－C48	Ⅱ	完形	砂岩	10.0	8.1	4.2	548	
9F－C49	Ⅱ	完形	安山岩	7.5	6.0	4.2	260	
9F－C50	Ⅱ	1/2 欠	安山岩					
9G－C60	Ⅱ	完形	砂岩	9.9	7.3	4.6	510	
9G－C61	Ⅱ	完形	砂岩	9.8	6.1	3.3	315	
9G－C62	Ⅱ	完形	安山岩	12.5	4.2	2.8	228	
9G－C63	Ⅱ	完形	安山岩	12.8	7.5	2.7	468	
9G－C64	Ⅱ	完形	砂岩	13.2	6.7	2.8	395	
9G－C65	Ⅱ	1/3 欠	安山岩					
9G－C66	Ⅱ	1/3 欠	飛騨片麻岩		6.3	3.1		
9G－C67	Ⅱ	完形	安山岩	7.8	7.1	3.8	283	
9H－C30	Ⅱ	完形	安山岩	11.6	7.9	6.4	976	
9H－C31	Ⅱ	完形	石英斑岩	14.1	7.0	4.1	645	
9H－C32	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	14.2	5.3	3.0	348	
9H－C33	Ⅱ	完形	砂岩	13.6	6.6	3.1	506	
9H－C34	Ⅱ	完形	砂岩	10.3	7.8	3.0	389	
9H－C46	Ⅱ	1/3 欠	安山岩					
9J－C14	Ⅰ	完形	濃飛流紋岩	11.8	9.8	4.6	758	
9J－C15	Ⅰ	完形	砂岩	10.3	8.6	4.1	523	
9J－C16	Ⅰ	完形	安山岩	10.9	6.0	3.5	355	同12
9J－C17	Ⅰ	完形	飛騨片麻岩	13.4	5.1	4.1	483	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9J－C26	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	9.5	7.0	3.1	296	
9J－C27	Ⅱ	½欠	安山岩					
9J－C38	Ⅲ	完形	飛騨片麻岩	10.7	6.7	3.6	340	
9J－C39	Ⅲ	完形	飛騨片麻岩	14.6	5.7	3.6	566	
9K－C6	Ⅱ	完形	安山岩	12.2	6.0	4.0	458	
9K－C7	Ⅱ	⅓欠	濃飛流紋岩	15.6		4.3		
9L－C13	Ⅰ	⅓欠	凝灰質流紋岩	14.1				
9N－C3	Ⅱ	完形	砂岩	9.9	7.1	2.7	281	
9N－C4	Ⅱ	完形	安山岩	10.7	9.5	5.7	780	
9N－C5	Ⅱ	完形	安山岩	8.1	5.7	3.6	250	
9N－C6	Ⅱ	完形	安山岩	9.2	7.8	4.3	472	
9N－C7	Ⅱ	½欠	飛騨片麻岩					
9N－C8	Ⅱ	⅔欠	安山岩					
9O－C11	Ⅲ	一部欠	安山岩	11.6	7.3	4.2		
10F－C24	Ⅱ	完形	閃緑岩	13.5	5.2	3.5	369	
10F－C25	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.0	5.4	3.3	361	
10F－C26	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.8	8.0	4.4	654	
10F－C27	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	7.3	5.3	669	
10F－C28	Ⅱ	完形	安山岩	8.7	6.6	4.0	365	
10F－C29	Ⅱ	完形	安山岩	9.9	4.6	4.6	389	
10F－C30	Ⅱ	完形	安山岩	14.8	8.3	5.6	835	
10F－C31	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	15.0	6.3	3.9	612	
10F－C32	Ⅱ	½欠	飛騨片麻岩					
10G－C5	Ⅰ・Ⅱ	½欠	砂岩		8.3	4.8		
10G－C6	Ⅰ・Ⅱ	½欠	凝灰質流紋岩	9.1		3.9		
10G－C49	Ⅱ	完形	安山岩	14.4	9.2	6.8	1195	
10G－C50	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	7.3	4.7	591	
10G－C51	Ⅱ	完形	砂岩	12.1	7.9	5.0	732	
10G－C52	Ⅱ	完形	砂岩	13.0	7.1	3.9	551	
10G－C53	Ⅱ	完形	安山岩	11.3	8.5	4.0	540	
10H－C6	Ⅰ	½欠	安山岩			2.7		
10H－C20	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	9.7	6.4	4.8	466	
10H－C21	Ⅱ	完形	安山岩	9.5	5.8	3.5	265	
10H－C22	Ⅱ	完形	安山岩	10.2	9.3	4.4	594	
10H－C23	Ⅱ	完形	安山岩	8.3	8.3	5.6	610	
10H－C24	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.8	6.9	3.7	576	
10H－C25	Ⅱ	完形	砂岩	12.7	8.1	4.7	771	
10H－C26	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	17.5	7.4	4.0	831	
10H－C27	Ⅱ	完形	石英斑岩	15.2	10.4	6.8	1578	
10H－C28	Ⅱ	完形	石英斑岩	10.0	8.3	6.4	778	
10J－C11	Ⅱ	完形	安山岩	10.5	8.8	4.5	625	
10K－C9	Ⅱ	完形	安山岩	10.4	9.3	4.4	699	
10K－C21	Ⅰ・Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	9.5	9.0	3.7	480	
10K－C26	Ⅱ	完形	砂岩	9.7	6.9	2.7	262	
10K－C27	Ⅱ	完形	砂岩	11.3	6.1	3.7	409	
10K－C28	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	13.6	6.5	2.7	411	
10K－C29	Ⅱ	⅓欠	砂岩		10.1	5.1		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10L－C7	I	完形	安山岩	10.5	6.2	2.6	271	
10M－C26	I	完形	安山岩	12.8	8.3	5.2	892	
10M－C27	I	完形	凝灰質流紋岩	12.7	7.8	4.0	627	
10M－C28	I	完形	閃緑岩	12.5	8.8	3.9	710	
10M－C29	I	1/3欠	安山岩		8.3	3.9		
10M－C30	I	1/2欠	砂岩		7.6	3.6		
10M－C31	I	1/2欠	砂岩			3.9		
10M－C32	I	2/3欠	安山岩			5.5	350	
10M－C33	II	完形	安山岩	12.2	5.2	3.4	305	同3
10M－C34	II	完形	砂岩	11.1	6.0	2.7	645	
10M－C35	II	完形	安山岩	12.2	7.1	4.8		
10M－C36	II	一部欠	閃緑岩	12.4	6.7	3.8		
10M－C37	II	一部欠	安山岩	13.6		6.0		
10M－C76	III	1/2欠	飛騨片麻岩		6.2	5.5		
10N－C34	III	完形	飛騨片麻岩	16.2	6.9	4.1	740	
10N－C35	III	完形	飛騨片麻岩	12.4	5.2	2.4	231	
10N－C36	III	完形	凝灰質流紋岩	11.7	10.0	5.0	862	
10N－C37	III	完形	安山岩	11.7	6.3	3.7	408	
10N－C38	III	完形	安山岩	9.8	5.2	3.1	269	

凹みの数は、片面に1か2個の場合が多く、両面に凹みのあるものが多い。大きさは、片手で軽く扱える程度である。

石質は、安山岩が114点と最も多く、全体の45%を占めている。これに砂岩（16%）・飛騨片麻岩（15%）・濃飛流紋岩（9%）・凝灰質流紋岩（7%）・石英斑岩（4%）が続く。

6．叩石（第8表、第82図）

113点出土しているが、この中には敲石としても使用されたものが5点、磨石としても使用されたものが70点含まれている。

素材にした礫の端部や側面に敲打痕が認められるもので、端部に敲打痕のある例では、細長い礫が選ばれている。大きさは、敲石と同様に片手で軽く扱える程度である。

石質は、安山岩が66点で全体の58%を占めている。砂岩が16%で続き、濃飛流紋岩（9%）・飛騨片麻岩（4%）・閃緑岩（4%）・凝灰質流紋岩（3%）などの石材も使われている。

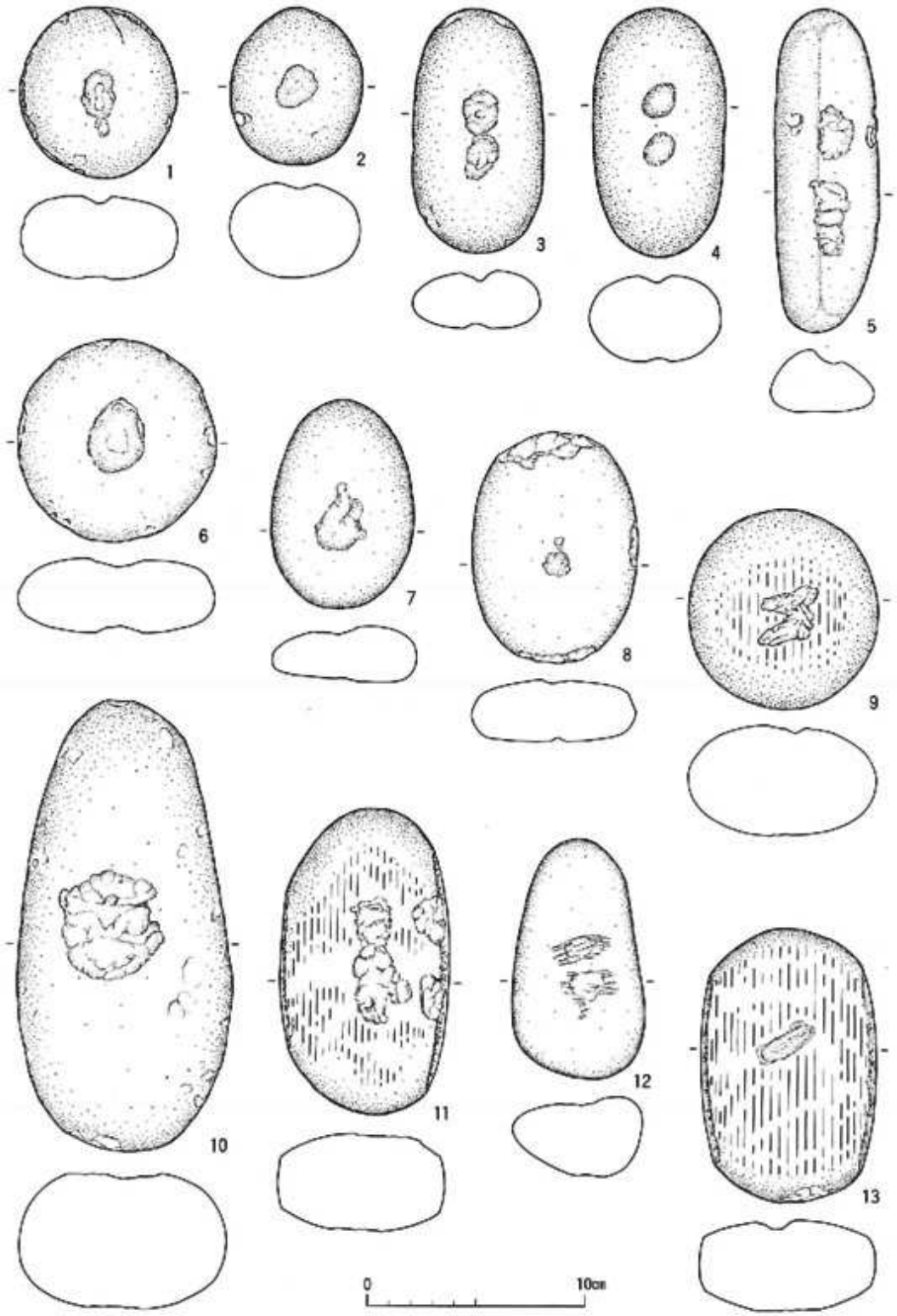
7．磨石（第9表、第83図）

594点出土している。最も多く出土した器種で、石器組成の中で30%以上を占めている。叩石や敲石として区分したものを含めると800点を超える。なお594点の中には、敲打痕のあるものが169点含まれている。

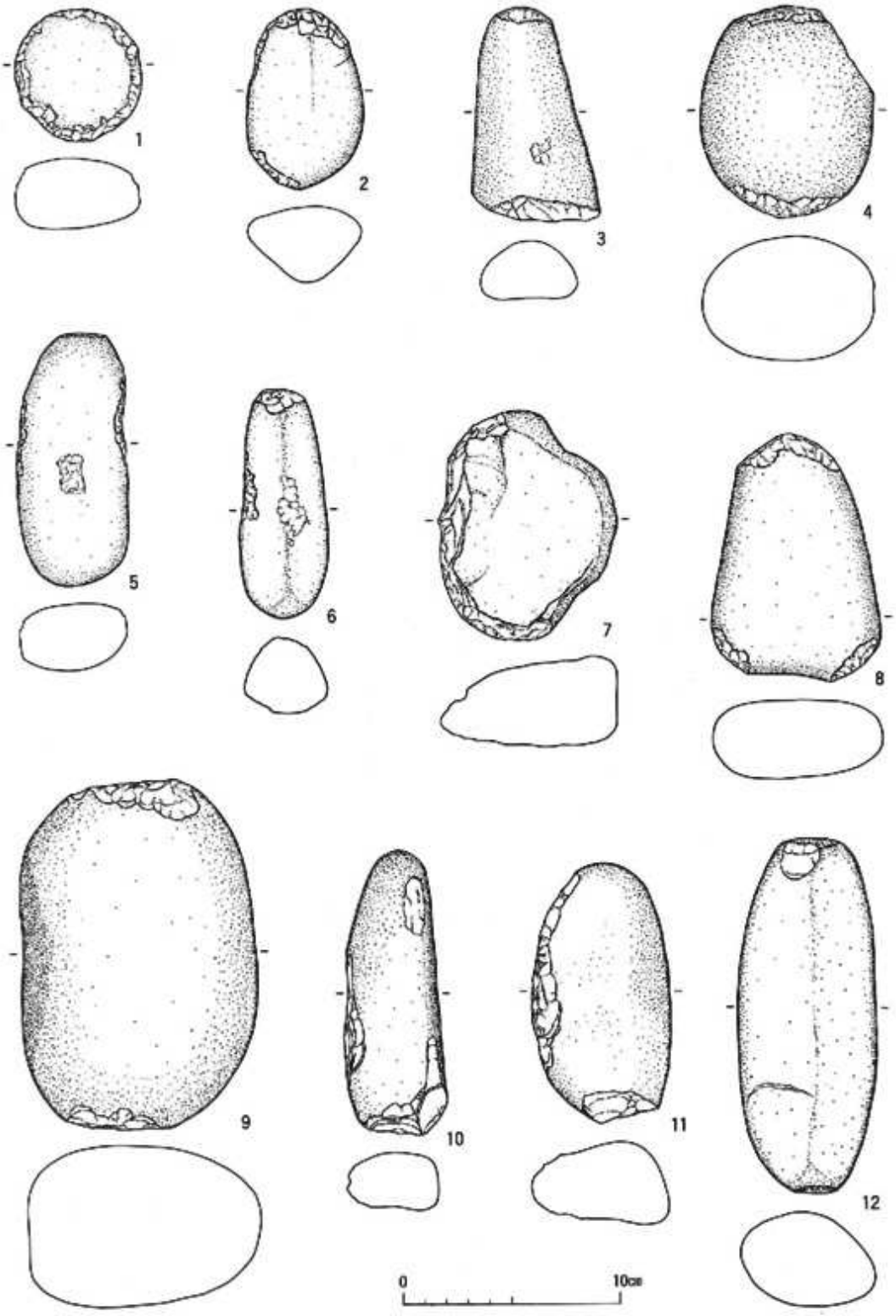
素材には、やはり片手で扱える程度の大きさの礫が選ばれている。

第83図1～3は、剥離面の凹凸を利用して研磨に使われたと見られる。

石質は、安山岩が306点で全体の52%を占めている。砂岩が23%で続き、濃飛流紋岩（7%）・凝灰質流紋岩（7%）・飛騨片麻岩（5%）・石英斑岩（2%）・閃緑岩（2%）などの石材も



第81図　敲石実測図



第82図　叩石実測図

第8表　剥石一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
4号住－C2		完形	濃飛流紋岩	11.4	5.3	2.9	291	
十坑17－C5		完形	安山岩	25.2	10.4	7.2	2860	
土坑68－C1		完形	安山岩	11.1	8.9	5.0	765	
土坑98－C2		完形	安山岩	9.1	6.8	1.8	173	
土坑149－C1		完形	輝緑凝灰岩	10.3	8.3	3.6	535	第82図7
土坑174－C2		完形	輝緑凝灰岩	11.4	4.5	3.8	333	
十坑200－C2		完形	飛騨片麻岩	8.7	8.5	3.5	361	
土坑247－C2		½欠	安山岩					
土坑251－C2		完形	安山岩	12.1	6.6	3.4	431	
土坑253－C3		⅔欠	安山岩					
表採－C73		完形	飛騨片麻岩	12.3	6.1	2.8	378	
表採－C74		⅓欠	安山岩		6.5	4.4		
表採－C75		完形	濃飛流紋岩	6.7	5.3	2.0	110	
表採－C178		完形	閃緑岩	9.0	4.8	2.1	161	
表採－C198		完形	安山岩	8.3	7.4	4.3	387	
4F－C1	Ⅱ	完形	安山岩	9.5	8.2	5.5	668	
4G－C3	Ⅱ	完形	閃緑岩	17.8	7.2	5.4	1159	
4I－C15	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	13.7	6.0	4.6	595	
4I－C16	Ⅱ	完形	安山岩	14.9	5.5	3.7	427	
4I－C17	Ⅱ	完形	閃緑岩	12.0	6.4	4.1	442	同11
5F－C10	Ⅲ	完形	安山岩	16.8	8.2	5.1	998	
5G－C12	Ⅱ	完形	安山岩	16.2	6.5	4.6	718	
6H－C4	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.8	6.9	4.3	291	
6H－C5	Ⅱ	完形	安山岩	13.5	4.0	2.5	169	
6H－C16	Ⅱ	完形	安山岩	9.3	5.0	2.5	196	
6K－C7	Ⅰ	完形	安山岩	11.6	5.1	3.0	322	同5
7C－C21	Ⅱ	完形	砂岩	5.8	5.8	3.0	156	同1
7C－C33	Ⅱ	完形	安山岩	11.8	3.2	3.0	180	
7F－C3	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩	11.5		3.7		
7G－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	14.0	7.5	4.6	805	
7H－C19	Ⅰ・Ⅱ	⅔欠	安山岩					
7I－C5	Ⅰ・Ⅱ	⅔欠	安山岩					
7K－C15	Ⅰ	一部欠	安山岩	16.4	6.3	4.2		同12
7K－C16	Ⅰ	完形	砂岩	6.3	5.3	2.5	132	
8G－C16	Ⅱ	完形	安山岩	17.2	8.2	3.3	743	
8G－C17	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	12.8	4.5	2.8	275	同10
8G－C18	Ⅱ	⅓欠	安山岩			5.1		
8G－C19	Ⅱ	一部欠	石英斑岩	12.0	9.2	6.6		
8G－C20	Ⅱ	⅓欠	安山岩		5.6	2.1		
8H－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	石英斑岩	8.1	6.0	3.8	230	
8J－C12	Ⅰ	完形	安山岩	10.7	6.2	3.3	324	
8J－C22	Ⅱ	一部欠	砂岩	15.8	10.5	7.3		同9
8J－C23	Ⅱ	⅔欠	安山岩					
8M－C34	Ⅲ	完形	安山岩	12.7	6.5	2.8	325	
8M－C35	Ⅲ	完形	安山岩	7.2	5.9	4.1	291	
8N－C3	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	11.0	8.9	4.1	521	
8N－C4	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	11.7	4.7	3.0	262	
8N－C5	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	8.1	4.5	2.3	117	
8N－C6	Ⅰ・Ⅱ	½欠	安山岩		8.0	3.3		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8N－C33	Ⅱ	完形	安山岩	10.4	6.8	3.2	341	
8N－C34	Ⅱ	完形	砂岩	9.3	6.2	4.3	342	
8N－C62	Ⅱ	一部欠	砂岩		9.7	4.1		
8O－C12	Ⅱ	完形	安山岩	9.4	2.8	2.1	90	
9F－C19	Ⅱ	2/3欠	濃飛流紋岩					
9F－C33	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	13.8	8.0	4.2	559	
9G－C40	Ⅱ	完形	安山岩	13.2	7.3	2.3	295	
9G－C41	Ⅱ	完形	砂岩	14.4	8.2	3.8	745	
9G－C42	Ⅱ	完形	安山岩	15.7	7.8	5.8	1250	
9G－C43	Ⅱ	完形	安山岩	13.0	6.0	3.7	426	
9G－C44	Ⅱ	完形	砂岩	12.1	9.6	3.8	645	
9G－C45	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.8	9.2	5.7	819	
9G－C46	Ⅱ	完形	安山岩	10.1	8.4	3.0	364	
9G－C47	Ⅱ	完形	砂岩	12.3	6.5	4.4	501	
9G－C48	Ⅱ	2/3欠	砂岩					
9H－C5	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	22.6	10.8	5.8	1942	
9H－C6	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	19.3	8.6	6.2	1719	
9H－C26	Ⅱ	完形	砂岩	8.7	5.3	3.4	212	
9H－C27	Ⅱ	完形	安山岩	8.2	5.3	3.5	215	同2
9J－C18	Ⅰ	完形	凝灰質流紋岩	11.2	5.6	2.5	269	
9J－C25	Ⅱ	完形	安山岩	11.0	8.8	3.3	500	同8
9K－C2	Ⅱ	完形	安山岩	11.8	6.2	3.3	360	
9K－C3	Ⅱ	1/2欠	閃緑岩		4.8	2.2		
9K－C4	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
9N－C2	Ⅱ	完形	安山岩	12.8	6.9	4.0	425	
10F－C20	Ⅱ	破片	砂岩					
10F－C21	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	14.5	10.7	6.5	2045	
10F－C22	Ⅱ	完形	砂岩	10.8	8.5	3.7	415	
10F－C23	Ⅱ	完形	安山岩	10.2	6.4	3.4	439	
10G－C26	Ⅱ	完形	安山岩	11.2	4.4	4.0	349	
10G－C27	Ⅱ	完形	安山岩	10.5	4.1	3.5	209	同6
10G－C28	Ⅱ	完形	安山岩	8.5	4.8	1.8	112	
10G－C29	Ⅱ	完形	安山岩	10.4	8.2	5.6	738	
10G－C30	Ⅱ	完形	安山岩	10.6	9.4	6.5	890	
10G－C31	Ⅱ	完形	安山岩	13.5	5.9	5.7	534	
10G－C32	Ⅱ	1/3欠	安山岩		7.9	4.5		
10G－C33	Ⅱ	1/2欠	安山岩					
10G－C34	Ⅱ	完形	安山岩	16.4	8.3	4.0	835	
10G－C35	Ⅱ	一部欠	凝灰質流紋岩					
10G－C36	Ⅱ	完形	砂岩	8.0	6.1	2.1	170	
10G－C37	Ⅱ	2/3欠	砂岩					
10H－C7	Ⅰ	一部欠	安山岩	16.8	7.3	4.4		
10H－C8	Ⅰ	完形	安山岩	14.0	9.8	6.6	1542	
10H－C36	Ⅱ	完形	砂岩	9.7	5.6	3.0	225	同3
10H－C37	Ⅱ	完形	安山岩	14.5	5.1	3.8	445	
10H－C38	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.9	8.4	5.4	815	
10H－C39	Ⅱ	完形	閃緑岩	8.1	5.3	3.0	238	
10H－C40	Ⅱ	完形	閃緑岩	14.7	4.7	3.8	492	
10H－C42	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	6.9	4.4	3.1	195	
10J－C4	Ⅱ	一部欠	飛騨片麻岩	9.5	7.8	5.5		同4

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10K－C17	I	3/5 欠	安山岩					
10L－C5	I	完形	安山岩	11.5	5.9	3.7	380	
10L－C6	I	一部欠	安山岩	14.8	7.5	5.0		
10M－C38	II	完形	濃飛流紋岩	12.0	3.8	3.4	261	
10M－C39	II	一部欠	砂岩	11.2	5.7			
10M－C40	II	1/2 欠	濃飛流紋岩					
10M－C41	II	1/2 欠	安山岩		4.9	1.7		
10N－C8	III	完形	安山岩	18.2	7.5	4.6	958	
10N－C9	III	1/2 欠	安山岩					
10O－C1	I	完形	頁岩	11.1	4.9	2.3	211	
10O－C2	I	完形	安山岩	5.2	3.5	2.1	58	
10O－C22	III	完形	飛騨片麻岩	11.3	7.9	3.3	455	
10O－C23	III	1/2 欠	安山岩	10.2	5.5	3.7	339	
10O－C24	III	1/2 欠	安山岩					

使われている。敲石や叩石と似通った比率で、地元で簡単に入手できる石材が使われている。

8．石鏃（第10表、第84図1～15）

25点出土している。完形は7点で、全体の30%に満たない。茎を持つ例は確認できなかった。基部はえぐりの深いものから、第84図14・15のようにえぐりを持たないものまである。

石質は、下呂石が40%を占め、チャートが32%で続く。黒曜石なども見られるが、全体の中での比率は低い。

9．石槍（第84図16）

確認できたのは1点のみである。珪質凝灰岩製の完形品で、長さ7.5cm、巾2.7cm、厚さ0.8cm、重さ13.2gである。

10．礫石錘（第11表、第85図1～20）

76点出土している。このうち完形品は62点で、全体の82%近くを占める。計測部位は第86図に示した。

礫石錘の大きさは、大小様々で、長さは5～14cm、重さは30～560gの巾がある。

石質は、安山岩が41点で総数の54%を占めている。これに続いて飛騨片麻岩が16%、頁岩が13%含まれている。

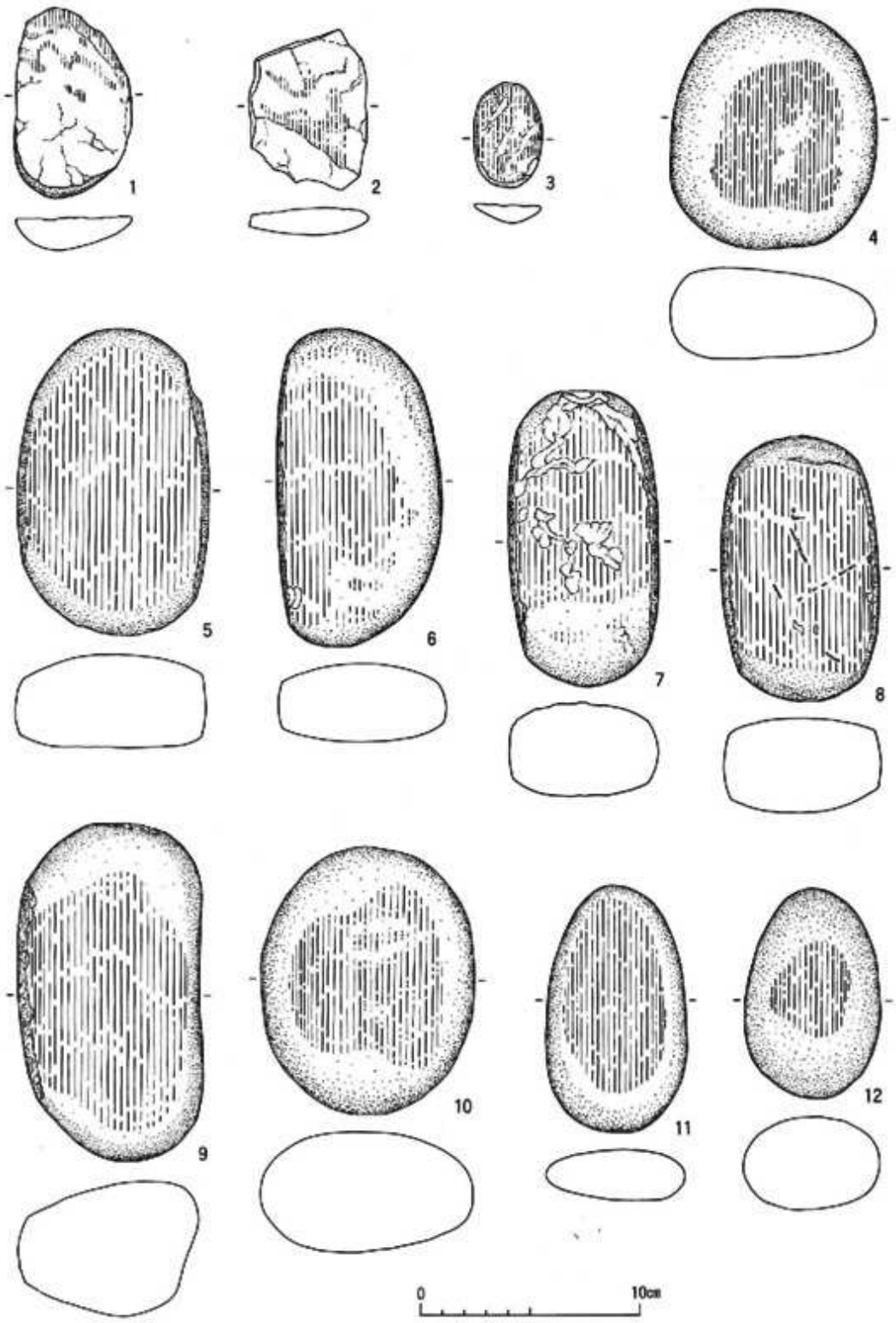
11．切目石錘（第85図21・22）

2点出土している。両者ともに半分が欠損していて、計測可能な部位は同21のaが0.3cm、sが1.3cm、同22のaが0.3cmである。

石質は、同21が砂岩、同22が頁岩である。

12．磨製石斧（第12表、第87図）

167点出土している。定角式が圧倒的に多く、総数の90%以上に当たる151点出土している。その他に区分したものは、明瞭な平坦面を持たないもので、14点出土している。乳棒状の磨製石斧は認められなかった。総数の中で完形品の占める割合は、8%程度に過ぎない。



第83図　磨石実測図

第9表　磨石一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
2号住－C3		完形	安山岩	9.4	6.1	4.0	385	第83図12
5号住－C1		½欠	安山岩			6.7		
6号住－C3		完形	安山岩	12.2	7.5	3.5	515	
6号住－C4		½欠	砂岩			3.6		
土壙17－C2		⅔欠	安山岩					
土壙20－C1		⅓欠	砂岩			2.9		
土壙21－C1		⅔欠	砂岩					
土壙30－C1		完形	安山岩	10.1	9.6	5.3	690	
土壙98－C1		完形	砂岩	13.9	8.8	3.9	834	図5
土壙112－C1		完形	安山岩	12.6	8.5	3.4	578	
土壙112－C2		完形	砂岩	15.0	9.8	4.7	1108	
土壙122－C1		⅓欠	安山岩	10.9	5.1			
土壙149－C2		完形	安山岩	12.5	8.6	3.8	582	
土壙171－C3		完形	砂岩	8.7	6.4	2.6	242	
土壙174－C1		破片	砂岩					
土壙187－C2		完形	安山岩	14.4	5.5	3.4	412	
土壙200－C1		⅓欠	安山岩		6.2	3.4		
土壙205－C1		破片	安山岩					
土壙216－C1		⅔欠	安山岩					
土壙218－C2		破片	安山岩					
土壙236－C1		完形	安山岩	19.0	5.9	4.3	695	
土壙252－C1		完形	濃飛流紋岩	14.9	6.9	3.3	493	
土壙254－C1		完形	濃飛流紋岩	11.0	4.5	3.5	293	
表採－C43		完形	安山岩	14.0	8.2	2.9	522	
表採－C44		完形	安山岩	11.0	5.7	2.5	268	
表採－C45		完形	安山岩	8.0	6.1	3.9	285	
表採－C46		完形	安山岩	6.1	6.0	3.7	196	
表採－C47		完形	砂岩	12.5	9.0	5.0	811	
表採－C48		完形	凝灰質流紋岩	5.2	3.9	2.5	75	
表採－C49		完形	凝灰質流紋岩	11.7	6.0	3.2	338	
表採－C50		完形	凝灰質流紋岩	10.6	7.9	2.9	367	
表採－C51		完形	濃飛流紋岩	12.1	7.0	4.4	610	
表採－C52		完形	安山岩	7.3	6.3	2.5	175	
表採－C53		完形	飛騨片麻岩	9.5	6.8	5.1	510	
表採－C54		完形	安山岩	8.4	6.2	1.9	171	
表採－C55		完形	頁岩	10.6	5.8	3.0	224	
表採－C56		完形	安山岩	12.0	7.9	4.2	682	
表採－C57		完形	安山岩	12.6	5.5	3.2	394	
表採－C58		完形	砂岩	11.4	5.4	3.5	340	
表採－C59		完形	安山岩	10.2	8.7	3.4	473	
表採－C60		完形	安山岩	12.4	8.6	3.5	595	
表採－C61		完形	安山岩	12.3	6.5	3.2	516	
表採－C62		完形	閃緑岩	17.4	13.0	5.4	1969	
表採－C63		完形	安山岩	12.5	11.2	7.3	1413	
表採－C64		½欠	安山岩			4.0		
表採－C65		½欠	安山岩		5.6	3.2		
表採－C66		½欠	安山岩			4.3		
表採－C67		½欠	安山岩			5.5		
表採－C68		⅔欠	砂岩		4.6	2.6		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
表採－C171		1/3 欠	安山岩		5.8	1.6		
表採－C172		1/2 欠	安山岩					
表採－C176		完形	安山岩	9.8	9.0	4.0	540	
表採－C193		完形	安山岩	19.3	9.8	5.8	1899	
表採－C194		完形	砂岩	9.8	9.5	6.9	910	
表採－C195		完形	石英斑岩	12.6	8.7	5.3	882	
表採－C196		完形	石英斑岩	9.0	7.3	3.4	364	
表採－C197		完形	安山岩	8.0	4.7	3.1	186	
2C－C2	II	1/3 欠	凝灰質流紋岩		5.9	2.1		
3C－C2	II	破片	安山岩					
3D－C10	II	完形	砂岩	11.0	8.1	4.3	635	
3D－C11	II	完形	安山岩	12.9	8.5	4.9	907	
3D－C12	II	一部欠	砂岩		8.6	2.9		
3G－C9	II	1/3 欠	砂岩		8.8	6.0		
3G－C11	II	完形	安山岩	15.5	8.3	6.3	1238	同9
3H－C2	II	一部欠	安山岩		7.1	4.4		
3H－C17	III	完形	砂岩	16.9	5.7	4.5	749	
3H－C18	III	完形	安山岩	10.3	7.0	1.7	234	
3H－C19	III	1/3 欠	安山岩			2.5		
3H－C20	III	破片	砂岩					
4C－C1	II	完形	安山岩	15.0	6.2	4.1	547	
4C－C2	II	完形	濃飛流紋岩	11.0	5.8	3.0	303	
4C－C3	II	1/2 欠	安山岩					
4F－C2	II	完形	砂岩	11.5	7.8	3.1	452	
4F－C3	II	一部欠	安山岩	14.2	5.9	3.1		
4F－C4	II	一部欠	安山岩	10.4	9.4	6.0		
4F－C5	II	1/2 欠	砂岩					
4F－C26	III	完形	砂岩	13.0	10.3	5.5	748	
4F－C27	III	破片	砂岩					
4F－C28	III	2/3 欠	砂岩					
4F－C32	III	完形	安山岩	4.7	3.0	0.8	18	同3
4G－C5	III	完形	砂岩	11.1	6.5	2.4	256	
4G－C6	III	破片	砂岩					
4G－C11	III	完形	砂岩	11.0	6.3	2.6	338	
4G－C12	III	完形	凝灰質流紋岩	11.0	7.4	5.6	703	
4G－C13	III	1/2 欠	安山岩		6.4	3.6		
4G－C14	III	1/2 欠	安山岩			4.5		
4G－C15	III	1/2 欠	安山岩		5.0			
4G－C16	III	2/3 欠	安山岩					
4I－C1	II	完形	安山岩	13.3	9.1	5.1	982	
4I－C2	II	完形	濃飛流紋岩	12.8	11.2	5.3	1262	
4I－C3	II	完形	安山岩	8.9	4.9	2.5	190	
4I－C4	II	1/3 欠	安山岩			2.6		
4I－C5	II	1/2 欠	安山岩					
4I－C18	II	完形	安山岩	8.8	8.5	2.3	319	
4I－C19	II	完形	濃飛流紋岩	10.5	9.2	4.1	655	
4I－C20	II	完形	安山岩	14.2	10.5	5.0	1182	
4I－C21	II	完形	安山岩	10.5	5.0	3.0	274	
4I－C22	II	2/3 欠	安山岩					
4I－C30	II	完形	安山岩	21.6	8.3	8.2	2758	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
5F－C2	Ⅲ	完形	砂岩	7.7	5.3	1.7	114	
5F－C3	Ⅲ	½欠	砂岩					
5F－C9	Ⅲ	完形	安山岩	10.0	8.7	4.8	663	
5F－C11	Ⅲ	破片	安山岩					
5F－C12	Ⅲ	破片	砂岩					
5F－C17	Ⅲ	½欠	安山岩			5.0		
5F－C18	Ⅲ	完形	砂岩	10.3	9.0	1.9	252	
5G－C5	Ⅱ	⅓欠	凝灰質流紋岩		5.2	3.8		
5G－C14	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	14.4	6.2	3.8	513	
5G－C20	Ⅲ	⅓欠	砂岩	12.3		4.3		
5H－C2	Ⅱ	完形	閃緑岩	11.0	6.0	3.6	394	
5H－C3	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	10.9	4.1	1.9	138	
5I－C1	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	14.5	5.0	4.0	573	
5I－C2	Ⅱ	完形	閃緑岩	8.3	7.2	4.6	442	
5I－C3	Ⅱ	完形	砂岩	10.2	9.4	4.9	699	
6F－C4	Ⅱ	完形	安山岩	13.0	4.8	2.6	265	
6F－C5	Ⅱ	⅔欠	安山岩					
6F－C6	Ⅲ	½欠	頁岩			2.9		
6F－C16	Ⅲ	一部欠	閃緑岩	10.4	8.7	3.6		
6F－C17	Ⅲ	一部欠	安山岩	8.6		4.8		
6F－C18	Ⅲ	⅔欠	安山岩					
6G－C7	Ⅱ	完形	砂岩	10.8	9.5	5.8	864	
6G－C8	Ⅱ	完形	砂岩	8.6	5.6	4.0	279	
6G－C9	Ⅱ	完形	砂岩	14.3	6.0	3.4	448	
6H－C6	Ⅱ	完形	安山岩	12.0	6.8	3.4	440	
6H－C7	Ⅱ	⅓欠	輝緑凝灰岩		10.8	3.0		
6H－C8	Ⅱ	⅔欠	安山岩					
6H－C14	Ⅱ	⅓欠	安山岩			3.4		
6H－C15	Ⅱ	破片	砂岩					
6I－C2	Ⅰ·Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.0	7.9	5.3	629	
6I－C3	Ⅰ·Ⅱ	完形	安山岩	8.9	6.4	3.5	300	
6I－C4	Ⅰ·Ⅱ	完形	安山岩	6.6	4.7	2.0	97	
6I－C5	Ⅰ·Ⅱ	破片	砂岩					
6I－C6	Ⅰ·Ⅱ	破片	安山岩					
6J－C1	Ⅰ·Ⅱ	完形	安山岩	11.5	7.5	3.8	502	
6J－C2	Ⅰ·Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.2	5.3	4.1	321	
6J－C3	Ⅰ·Ⅱ	完形	安山岩	9.4	8.3	5.6	601	
6J－C4	Ⅰ·Ⅱ	一部欠	安山岩	17.6		4.5		
6J－C5	Ⅰ·Ⅱ	⅓欠	安山岩		5.9	5.3		
6K－C2	Ⅰ	⅓欠	飛騨片麻岩		6.7			
6K－C8	Ⅰ	完形	砂岩	10.8	6.6	3.7	402	
6K－C9	Ⅰ	完形	安山岩	12.2	5.2	3.1	309	
6K－C14	Ⅰ	完形	砂岩	11.5	4.9	4.5	292	
6K－C15	Ⅰ	完形	頁岩	10.5	6.3	2.3	226	
6K－C16	Ⅰ	一部欠	安山岩		5.9	3.1		
6K－C17	Ⅰ	⅔欠	閃緑岩					
6K－C37	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	13.8	8.0	4.4	658	
6K－C38	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	11.3	7.3	2.1	339	
6K－C39	Ⅱ	一部欠	砂岩			3.5		
7C－C15	Ⅱ	完形	安山岩	6.9	5.1	2.2	109	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
7C－C16	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.0	9.7	4.0	639	
7C－C17	Ⅱ	完形	安山岩	11.3	6.7	2.7	317	
7C－C18	Ⅱ	完形	砂岩	10.0	9.0	5.1	679	
7C－C19	Ⅱ	一部欠	安山岩		4.4	3.7		
7C－C20	Ⅱ	½欠	安山岩					
7C－C22	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	8.7	7.0	2.6	277	
7C－C23	Ⅱ	破片	安山岩					
7C－C29	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	14.2	5.6	4.3	562	
7C－C30	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	13.9	4.9	4.5	441	
7D－C3	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	14.5	5.7	4.8	560	
7D－C4	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	13.9	6.9	3.6	552	
7D－C11	Ⅱ	完形	安山岩	13.0	6.6	3.7	509	
7D－C12	Ⅱ	完形	安山岩	9.7	8.2	2.1	275	
7D－C13	Ⅱ	½欠	安山岩					
7D－C19	Ⅱ	完形	砂岩	9.3	4.2	2.7	158	
7D－C20	Ⅱ	完形	安山岩	6.7	3.9	2.1	88	
7D－C22	Ⅱ	完形	安山岩	12.0	10.4	5.3	1018	
7D－C23	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.2	10.1	5.2	1013	
7D－C24	Ⅱ	完形	安山岩	12.1	7.7	6.1	759	
7D－C25	Ⅱ	完形	安山岩	12.6	5.9	2.6	336	
7D－C26	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	5.4	4.2	402	
7D－C27	Ⅱ	完形	砂岩	10.1	5.2	4.0	321	
7D－C28	Ⅱ	完形	安山岩	8.4	5.3	2.6	181	
7E－C13	Ⅱ	完形	安山岩	10.4	5.6	2.8	255	
7E－C14	Ⅱ	完形	安山岩	11.5	6.1	3.5	420	
7E－C15	Ⅱ	破片	安山岩					
7E－C17	Ⅱ	完形	安山岩	15.2	9.3	5.0	1108	
7E－C18	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	11.1	9.9	4.0	689	
7E－C19	Ⅱ	完形	安山岩	11.5	5.6	4.5	398	
7E－C20	Ⅱ	½欠	砂岩					
7E－C21	Ⅱ	⅔欠	安山岩					
7E－C22	Ⅱ	破片	砂岩					
7F－C4	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	12.8	5.5	3.4	366	
7F－C5	Ⅰ・Ⅱ	⅓欠	頁岩		5.0	2.6		
7F－C6	Ⅰ・Ⅱ	½欠	砂岩					
7F－C16	Ⅱ	完形	安山岩	9.7	8.7	2.3	349	
7F－C17	Ⅱ	完形	安山岩	15.1	9.2	4.6	1052	
7F－C18	Ⅱ	完形	安山岩	10.6	10.2	5.2	890	
7F－C19	Ⅱ	一部欠	頁岩		6.5	3.2		
7G－C3	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	14.9	6.8	3.2	521	
7G－C4	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	12.7	6.6	3.8	470	
7G－C5	Ⅰ・Ⅱ	破片	砂岩					
7H－C10	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	11.5	6.4	3.3	384	
7H－C11	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	13.3	6.1	4.2	548	
7H－C12	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	8.5	6.4	4.0	325	
7H－C13	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	8.6	5.7	3.2	240	
7H－C14	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	7.2	6.8	5.8	413	
7H－C15	Ⅰ・Ⅱ	½欠	砂岩					
7H－C16	Ⅰ・Ⅱ	½欠	安山岩			3.8		
7H－C17	Ⅰ・Ⅱ	⅔欠	砂岩					

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
7H－C18	I・II	破片	砂岩					
7H－C27	II	完形	安山岩	7.8	5.0	2.4	127	
7H－C28	II	完形	安山岩	7.3	7.2	3.7	283	
7H－C29	II	完形	凝灰質流紋岩	16.0	7.2	3.7	779	
7H－C30	II	完形	砂岩	11.5	10.2	6.6	1083	
7H－C31	II	完形	安山岩	9.9	6.2	4.0	396	
7H－C32	II	一部欠	安山岩			3.6		
7I－C1	I・II	完形	安山岩	8.4	6.5	2.4	202	
7I－C2	I・II	完形	安山岩	7.8	6.5	2.3	174	
7I－C3	I・II	1/3欠	安山岩		3.4	1.0		
7I－C4	I・II	破片	安山岩					
7I－C9	II	1/2欠	砂岩					
7I－C10	II	破片	安山岩					
7K－C8	I	完形	砂岩	13.9	6.2	4.2	538	
7K－C9	I	完形	砂岩	7.5	6.7	3.2	252	
7K－C10	I	完形	安山岩	3.9	3.7	2.8	62	
7K－C11	I	1/3欠	安山岩			4.6		
7K－C12	I	1/2欠	砂岩			3.6		
7K－C13	I	2/3欠	砂岩					
7K－C14	I	2/3欠	安山岩					
7K－C18	II	完形	濃飛流紋岩	13.3	6.8	4.4	681	同7
7L－C1	II	完形	砂岩	6.2	5.4	3.7	179	
7L－C2	II	完形	安山岩	5.9	5.2	2.0	102	
7L－C3	II	完形	飛騨片麻岩	12.7	4.0	2.6	239	
7O－C6	I	完形	凝灰質流紋岩	11.5	7.3	3.2	394	
7O－C7	I	完形	安山岩	13.5	8.4	3.1	598	
7O－C8	I	完形	輝緑凝灰岩	14.6	8.8	4.2	874	
7O－C9	I	完形	閃緑岩	10.7	6.0	3.1	282	
7O－C10	I	完形	砂岩	11.4	7.9	2.7	412	
7O－C11	I	一部欠	安山岩		4.7			
7O－C12	I	一部欠	砂岩		5.0	3.2		
8F－C3	II	完形	安山岩	16.9	7.4	3.9	894	
8G－C21	II	完形	安山岩	12.8	6.7	3.6	427	
8G－C22	II	完形	凝灰質流紋岩	12.0	9.1	5.7	818	
8G－C23	II	完形	砂岩	11.5	10.0	6.5	1042	
8G－C24	II	完形	安山岩	12.9	4.8	4.5	428	
8G－C25	II	完形	安山岩	12.3	4.9	2.0	186	
8G－C26	II	完形	砂岩	7.3	5.7	2.0	141	
8G－C27	II	一部欠	濃飛流紋岩		7.3	6.3		
8G－C28	II	2/3欠	凝灰質流紋岩					
8G－C32	II	2/3欠	安山岩					
8G－C33	II	完形	安山岩	14.2	7.5	3.6	623	同6
8H－C4	I・II	完形	安山岩	12.3	4.6	3.6	290	
8H－C5	I・II	完形	安山岩	10.2	4.6	3.1	229	
8H－C6	I・II	完形	安山岩	8.7	3.6	2.5	122	
8H－C7	I・II	一部欠	砂岩	9.0	6.5	2.6		
8J－C6	I	完形	石英斑岩	9.4	6.7	4.4	412	
8J－C7	I	完形	安山岩	8.9	5.0	4.5	320	
8J－C8	I	完形	安山岩	12.7	6.1	3.8	494	
8J－C9	I	一部欠	安山岩	13.8		3.0		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8 J－C10	I	1/3 欠	砂岩		9.7	3.4		
8 J－C11	I	1/3 欠	安山岩			3.2		
8 J－C24	II	完形	砂岩	11.0	6.5	2.7	281	同11
8 J－C25	II	完形	飛騨片麻岩	13.9	9.3	5.0	1182	
8 J－C26	II	完形	頁岩	9.2	4.8	2.2	176	
8 J－C27	II	2/3 欠	安山岩					
8 J－C28	II	破片	濃飛流紋岩					
8 K－C4	I	完形	砂岩	19.0	8.4	6.5	1670	
8 K－C5	I	完形	砂岩	15.4	7.3	4.5	840	
8 K－C6	I	完形	安山岩	10.4	5.3	2.9	252	
8 K－C7	I	完形	安山岩	8.4	5.1	1.8	85	同1
8 K－C8	I	2/3 欠	頁岩					
8 K－C9	I	完形	安山岩	11.4	8.8	4.4	755	
8 L－C3	I・II	完形	安山岩	13.3	10.8	2.5	455	
8 L－C4	I・II	完形	安山岩	8.0	5.0	1.9	111	
8 M－C19	I・II	完形	安山岩	15.0	6.1	5.0	703	
8 M－C20	I・II	完形	飛騨片麻岩	13.4	8.9	3.5	702	
8 M－C21	I・II	破片	砂岩					
8 M－C22	I・II	2/3 欠	安山岩					
8 M－C27	III	完形	砂岩	7.7	5.1	3.8	220	
8 M－C36	III	完形	砂岩	9.5	3.0	2.4	116	
8 M－C37	III	1/2 欠	安山岩					
8 N－C7	I・II	完形	安山岩	5.9	5.2	1.7	87	
8 N－C8	I・II	完形	安山岩	12.8	8.8	5.6	952	
8 N－C9	I・II	完形	砂岩	11.8	6.8	3.0	387	
8 N－C10	I・II	完形	凝灰質流紋岩	11.7	7.6	3.5	478	
8 N－C11	I・II	1/3 欠	安山岩		9.4	5.0		
8 N－C12	I・II	1/2 欠	砂岩			4.4		
8 N－C13	I・II	2/3 欠	安山岩					
8 N－C14	I・II	破片	閃緑岩					
8 N－C31	I・II	完形	砂岩	7.1	5.3	1.1	61	同2
8 N－C35	II	完形	砂岩	8.5	6.0	2.4	192	
8 N－C36	II	完形	安山岩	11.4	8.7	5.5	788	
8 N－C37	II	完形	安山岩	16.0	10.8	4.7	1350	
8 N－C38	II	完形	砂岩	10.4	9.5	3.3	375	
8 N－C39	II	完形	安山岩	10.4	5.8	3.0	202	
8 N－C40	II	1/3 欠	凝灰質流紋岩	10.8		4.2		
8 N－C41	II	一部欠	凝灰質流紋岩		6.9	2.9		
8 N－C42	II	1/2 欠	濃飛流紋岩		10.8	3.4		
8 N－C43	II	1/2 欠	濃飛流紋岩			4.3		
8 N－C44	II	2/3 欠	安山岩					
8 N－C45	II	2/3 欠	安山岩					
8 N－C63	II	破片	安山岩					
8 O－C13	II	完形	濃飛流紋岩	15.3	7.8	4.2	768	
8 O－C14	II	完形	安山岩	11.0	8.5	4.3	628	
8 O－C15	II	完形	砂岩	8.2	3.0	2.7	101	
8 O－C16	II	一部欠	閃緑岩	18.9		3.5		
8 O－C17	II	一部欠	安山岩		3.8	3.4		
8 O－C18	II	一部欠	凝灰質流紋岩	10.1		4.2		
8 O－C19	II	1/3 欠	砂岩		8.4	3.0		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8O－C20	II	½ 欠	安山岩					
8O－C21	II	½ 欠	砂岩					
8O－C22	II	½ 欠	凝灰質流紋岩					
8O－C23	II	½ 欠	凝灰質流紋岩			6.1		
8O－C24	II	½ 欠	安山岩			3.5		
8O－C25	II	破片	砂岩					
8O－C26	II	破片	凝灰質流紋岩					
8O－C27	II	破片	砂岩					
8O－C61	III	完形	安山岩	5.2	4.0	1.5	55	
8O－C62	III	完形	安山岩	4.8	4.8	2.3	81	
8O－C63	III	完形	安山岩	10.7	5.8	1.9	219	
8O－C64	III	完形	安山岩	13.3	5.5	3.3	413	
8O－C65	III	⅓ 欠	安山岩		5.5	3.5		
8O－C66	III	破片	安山岩					
9F－C6	I・II	完形	凝灰質流紋岩	10.0	6.0	4.4	378	
9F－C7	I・II	完形	安山岩	10.8	10.2	2.7	479	
9F－C8	I・II	完形	安山岩	14.4	9.6	5.7	1220	
9F－C9	I・II	½ 欠	安山岩			3.5		
9F－C20	II	完形	砂岩	14.8	5.4	4.2	489	
9F－C21	II	完形	安山岩	9.3	6.6	2.5	228	
9F－C22	II	完形	砂岩	8.5	6.0	2.8	219	
9F－C23	II	完形	砂岩	12.3	7.1	3.7	531	
9F－C24	II	完形	砂岩	9.4	5.5	2.5	194	
9F－C25	II	完形	砂岩	10.8	9.1	3.9	660	図4
9F－C26	II	完形	安山岩	11.5	9.2	3.0	515	
9F－C27	II	完形	安山岩	11.7	9.0	5.4	855	
9F－C28	II	完形	飛騨片麻岩	12.7	6.8	4.0	520	
9F－C29	II	完形	安山岩	14.2	9.7	5.4	1099	
9F－C30	II	完形	閃緑岩	16.5	8.5	4.8	998	
9F－C31	II	破片	閃緑岩					
9F－C32	II	⅔ 欠	飛騨片麻岩					
9F－C38	II	完形	安山岩	6.0	4.4	1.3	58	
9F－C39	II	完形	安山岩	4.4	3.1	1.3	31	
9F－C40	II	完形	凝灰質流紋岩	13.7	6.2	3.3	484	
9F－C41	II	完形	砂岩	14.0	4.9	4.6	404	
9F－C42	II	完形	安山岩	12.6	5.2	2.9	310	
9F－C43	II	完形	砂岩	5.4	4.4	2.6	90	
9F－C44	II	½ 欠	凝灰質流紋岩		5.6	2.5		
9F－C45	II	½ 欠	砂岩					
9G－C8	II	完形	砂岩	15.0	10.3	3.9	940	
9G－C9	II	完形	石英斑岩	14.7	5.9	4.6	587	
9G－C10	II	完形	安山岩	12.7	7.3	3.8	591	
9G－C11	II	完形	凝灰質流紋岩	10.7	9.7	7.4	1073	
9G－C12	II	完形	砂岩	8.4	4.8	3.1	185	
9G－C13	II	完形	砂岩	9.5	4.6	2.8	185	
9G－C14	II	完形	砂岩	10.0	7.2	5.3	558	
9G－C15	II	完形	砂岩	15.2	7.8	3.2	668	
9G－C16	II	完形	安山岩	16.2	5.2	3.8	606	
9G－C17	II	完形	砂岩	13.8	6.5	5.0	660	
9G－C18	II	完形	砂岩	11.8	5.8	3.7	395	

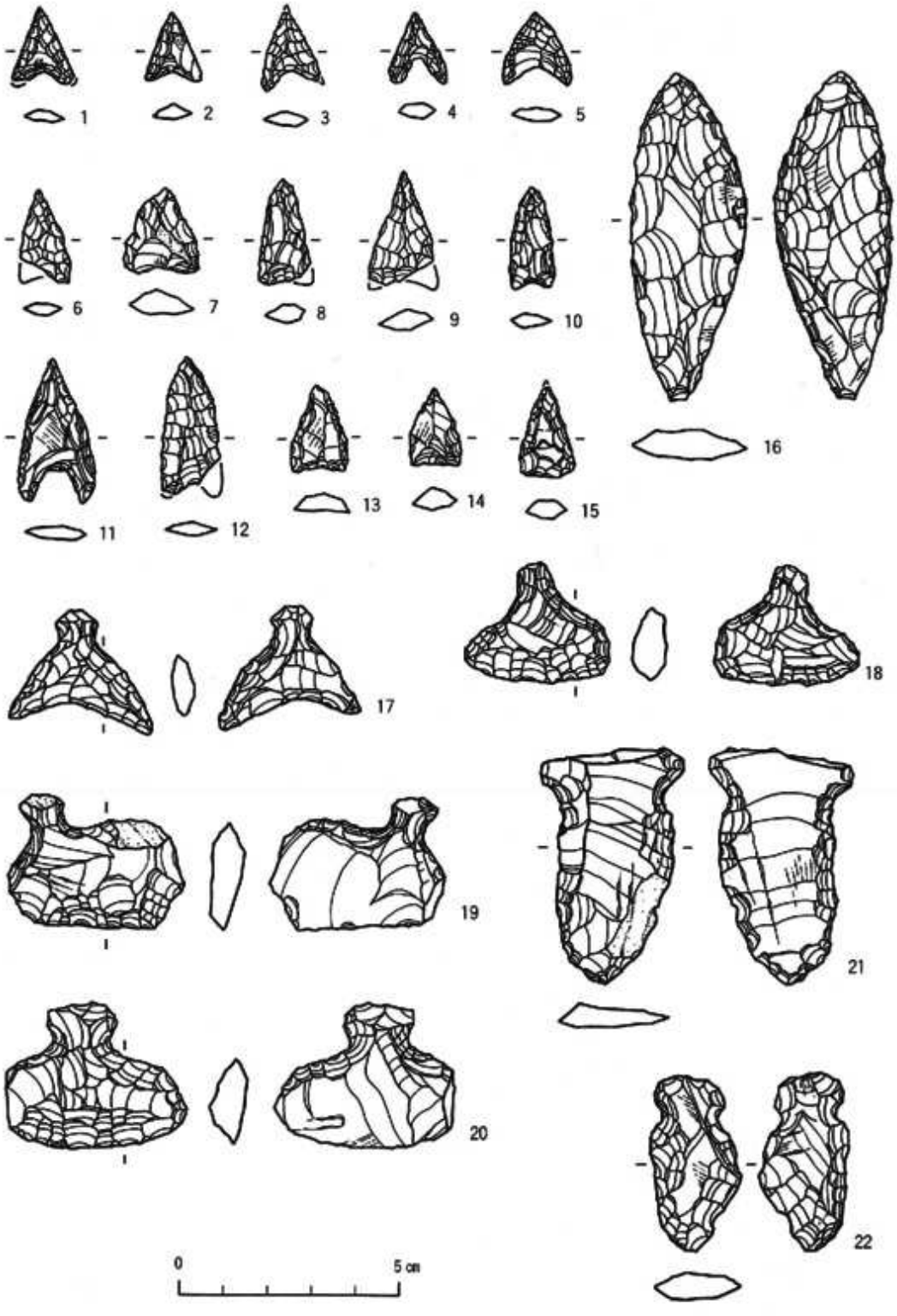
遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9G－C19	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	8.7	4.4	2.8	152	
9G－C20	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	4.0	3.2	1.2	23	
9G－C21	Ⅱ	一部欠	安山岩		4.5	1.5		
9G－C22	Ⅱ	一部欠	凝灰質流紋岩		8.4			
9G－C23	Ⅱ	一部欠	安山岩		3.6	1.3		
9G－C24	Ⅱ	一部欠	安山岩	6.5		1.9		
9G－C25	Ⅱ	1/3欠	砂岩			5.0		
9G－C26	Ⅱ	2/3欠	砂岩					
9G－C27	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
9G－C28	Ⅱ	一部欠	凝灰質流紋岩		7.4	2.5		
9G－C29	Ⅱ	完形	安山岩	5.7	5.1	1.6	67	
9H－C7	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	8.8	5.5	2.3	191	
9H－C8	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	11.0	8.2	6.3	860	
9H－C9	Ⅰ・Ⅱ	1/2欠	安山岩			3.2		
9H－C16	Ⅱ	完形	安山岩	13.5	9.8	5.9	1220	
9H－C17	Ⅱ	完形	砂岩	10.6	8.4	4.1	550	
9H－C18	Ⅱ	完形	砂岩	12.5	9.0	5.2	879	
9H－C19	Ⅱ	完形	安山岩	9.2	5.3	3.3	231	
9H－C20	Ⅱ	完形	安山岩	10.3	5.8	3.0	320	
9H－C21	Ⅱ	1/2欠	飛騨片麻岩					
9H－C22	Ⅱ	1/2欠	石英斑岩					
9H－C23	Ⅱ	1/2欠	砂岩					
9H－C24	Ⅱ	破片	凝灰質流紋岩					
9H－C48	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	13.2	5.2	3.1	348	
9H－C49	Ⅱ	完形	安山岩	8.8	4.9	2.4	158	
9H－C50	Ⅱ	1/2欠	閃緑岩					
9H－C51	Ⅱ	2/3欠	飛騨片麻岩					
9J－C19	Ⅰ	完形	安山岩	11.9	6.6	2.9	343	
9J－C20	Ⅰ	完形	飛騨片麻岩	10.0	6.8	2.6	306	
9J－C21	Ⅰ	完形	安山岩	9.8	4.0	3.2	187	
9J－C22	Ⅰ	完形	砂岩	8.3	6.6	3.4	284	
9J－C23	Ⅰ	完形	濃飛流紋岩	9.0	5.0	3.7	268	
9J－C24	Ⅰ	完形	頁岩	7.0	5.6	2.2	138	
9J－C33	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	13.3	3.8	3.2	238	
9J－C34	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	8.1	7.4	2.5	282	
9J－C35	Ⅱ	完形	砂岩	10.2	6.7	4.1	349	
9J－C36	Ⅱ	一部欠	砂岩		4.5	1.3		
9J－C37	Ⅲ	1/2欠	濃飛流紋岩					
9K－C10	Ⅱ	完形	安山岩	11.2	6.3	3.0	359	
9K－C11	Ⅱ	完形	砂岩	12.7	5.5	3.0	333	
9K－C12	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	11.9	5.4	3.2	381	
9K－C13	Ⅱ	完形	安山岩	11.1	5.6	3.0	273	
9K－C14	Ⅱ	完形	安山岩	15.4	6.2	3.2	598	
9K－C15	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	12.7	4.4	3.5	401	
9K－C16	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.0	8.3	4.2	664	
9K－C17	Ⅱ	完形	安山岩	12.2	5.7	4.2	555	
9K－C18	Ⅱ	1/2欠	濃飛流紋岩		4.7	3.5		
9K－C19	Ⅱ	1/2欠	凝灰質流紋岩		6.2			
9K－C20	Ⅱ	1/2欠	安山岩					
9K－C21	Ⅱ	2/3欠	安山岩					

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9K－C22	Ⅱ	破片	頁岩					
9L－C9	Ⅰ	完形	安山岩	10.4	6.1	3.7	371	
9L－C10	Ⅰ	1/3欠	安山岩			2.6		
9L－C14	Ⅱ	完形	安山岩	8.8	7.6	4.5	403	
9L－C15	Ⅱ	完形	安山岩	9.7	7.8	4.3	454	
9L－C16	Ⅱ	完形	安山岩	7.0	3.1	1.9	65	
9L－C17	Ⅱ	完形	砂岩	10.7	3.8	2.2	150	
9L－C18	Ⅱ	完形	砂岩	10.5	8.2	3.4	453	
9L－C19	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	13.7	7.3	3.8	617	
9L－C20	Ⅱ	破片	砂岩					
9M－C4	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	13.4	6.4	3.8	503	
9M－C5	Ⅱ	完形	安山岩	14.0	5.4	3.4	409	
9N－C42	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	11.0	5.2	3.5	296	
9N－C43	Ⅱ	完形	石英斑岩	8.8	7.8	3.1	343	
9N－C44	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	13.8	5.2	3.9	482	
9N－C45	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.0	6.0	3.9	407	
9N－C46	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.7	9.8	3.1	660	
9N－C47	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	17.0	7.1	5.3	1103	
9N－C48	Ⅱ	完形	安山岩	5.0	4.0	2.2	75	
9N－C49	Ⅱ	完形	安山岩	6.9	5.1	1.7	88	
9N－C50	Ⅱ	完形	砂岩	12.1	6.9	6.7	749	
9N－C51	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	8.8	4.8	2.1	156	
9N－C52	Ⅱ	完形	安山岩	7.8	7.7	3.0	334	
9N－C53	Ⅱ	完形	安山岩	9.3	5.5	3.5	291	
9N－C54	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	5.7	4.7	1.9	81	
9N－C55	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	14.5	6.2	3.7	495	
9N－C56	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	8.8	8.4	7.1	971	
9N－C57	Ⅱ	完形	安山岩	10.4	6.9	3.6	382	
9N－C58	Ⅱ	一部欠	安山岩	9.8	6.9	4.3		
9N－C59	Ⅱ	一部欠	飛騨片麻岩		6.8	3.0		
9N－C60	Ⅱ	一部欠	石英斑岩	10.5	6.4	3.8		
9N－C61	Ⅱ	1/3欠	安山岩			2.4		
9N－C62	Ⅱ	1/2欠	安山岩					
9N－C63	Ⅱ	1/2欠	砂岩					
9N－C64	Ⅱ	1/2欠	安山岩					
9N－C65	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
9N－C66	Ⅱ	2/3欠	飛騨片麻岩					
9N－C67	Ⅱ	破片	安山岩					
9N－C68	Ⅱ	破片	砂岩					
9N－C69	Ⅱ	破片	安山岩					
9O－C12	Ⅲ	完形	濃飛流紋岩	12.6	6.8	3.1	451	
9O－C13	Ⅲ	完形	安山岩	11.6	3.5	2.7	207	
9O－C14	Ⅲ	一部欠	安山岩	11.3	6.7	3.0		
9O－C15	Ⅲ	1/3欠	濃飛流紋岩		7.0	5.2		
10F－C33	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	17.1	9.2	4.2	1097	
10F－C34	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	9.5	8.1	2.5	345	
10F－C35	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.3	6.5	3.7	499	
10F－C36	Ⅱ	完形	安山岩	12.0	4.2	4.2	387	
10F－C37	Ⅱ	完形	安山岩	6.1	4.8	3.4	155	
10F－C38	Ⅱ	完形	安山岩	11.2	4.6	2.7	238	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10F－C39	Ⅱ	完形	安山岩	12.1	5.0	2.8	302	
10F－C40	Ⅱ	完形	安山岩	9.7	7.8	3.9	459	
10F－C41	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	17.2	8.7	4.7	1178	
10F－C42	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	13.4	7.8	5.0	819	
10F－C43	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	14.9	7.3	5.0	745	
10F－C44	Ⅱ	完形	安山岩	4.8	4.3	1.5	53	
10F－C45	Ⅱ	完形	石英斑岩	10.7	9.7	4.3	712	
10F－C46	Ⅱ	完形	安山岩	15.2	5.0	4.0	530	
10F－C47	Ⅱ	完形	安山岩	10.5	9.3	3.7	572	
10F－C48	Ⅱ	完形	安山岩	8.5	4.6	1.7	110	
10F－C49	Ⅱ	完形	安山岩	7.3	6.7	2.7	208	
10F－C50	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	10.3	4.5	739	
10F－C51	Ⅱ	完形	砂岩	16.3	14.5	3.9	1303	
10F－C52	Ⅱ	1/2欠	安山岩			3.3		
10F－C53	Ⅱ	1/2欠	安山岩		5.3	2.9		
10F－C54	Ⅱ	1/2欠	輝緑凝灰岩			4.6		
10F－C55	Ⅱ	1/2欠	砂岩					
10F－C56	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
10F－C57	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
10F－C58	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
10G－C1	Ⅰ・Ⅱ	完形	砂岩	10.8	7.7	3.4	426	
10G－C2	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	9.7	6.6	2.8	282	
10G－C3	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	安山岩			3.6		
10G－C4	Ⅰ・Ⅱ	一部欠	飛騨片麻岩	12.3	7.2	4.5		
10G－C25	Ⅱ	完形	石英斑岩	10.5	8.5	4.9	691	
10G－C69	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.3	7.1	3.1	426	
10G－C70	Ⅱ	完形	安山岩	12.2	7.6	3.1	488	
10G－C71	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	12.8	7.9	4.0	619	
10G－C72	Ⅱ	完形	安山岩	12.2	5.9	3.4	334	
10G－C73	Ⅱ	完形	安山岩	13.0	5.4	4.5	498	
10G－C74	Ⅱ	完形	砂岩	20.8	16.1	6.2	2959	
10G－C75	Ⅱ	完形	砂岩	15.1	13.6	4.0	1351	
10G－C76	Ⅱ	完形	砂岩	10.2	8.9	6.1	797	
10G－C77	Ⅱ	完形	安山岩	9.4	6.5	1.7	194	
10G－C78	Ⅱ	完形	安山岩	7.6	4.7	2.2	127	
10G－C79	Ⅱ	完形	安山岩	5.1	4.0	2.0	62	
10G－C80	Ⅱ	完形	安山岩	11.4	4.3	2.8	222	
10G－C81	Ⅱ	完形	安山岩	13.4	4.0	3.5	292	
10G－C82	Ⅱ	完形	安山岩	11.9	10.4	5.4	1036	
10G－C83	Ⅱ	完形	石英斑岩	12.5	8.2	6.6	931	
10G－C84	Ⅱ	完形	輝緑凝灰岩	9.1	8.2	3.0	501	
10G－C85	Ⅱ	1/2欠	砂岩					
10G－C86	Ⅱ	1/2欠	安山岩					
10G－C87	Ⅱ	破片	安山岩					
10G－C88	Ⅱ	2/3欠	凝灰質流紋岩					
10G－C89	Ⅱ	破片	安山岩					
10G－C90	Ⅱ	2/3欠	安山岩					
10G－C91	Ⅱ	破片	濃飛流紋岩					
10H－C1	Ⅰ	完形	濃飛流紋岩	12.1	4.9	4.3	411	
10H－C2	Ⅰ	完形	安山岩	9.6	5.0	4.0	290	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10H－C3	I	完形	飛騨片麻岩	13.1	6.2	5.3	641	
10H－C4	I	完形	安山岩	13.0	5.2	2.5	269	
10H－C5	I	完形	安山岩	15.0	7.0	2.3	450	
10H－C29	II	完形	安山岩	12.2	10.2	6.5	1212	
10H－C30	II	完形	砂岩	9.2	7.1	4.0	392	
10H－C31	II	完形	濃飛流紋岩	10.0	8.3	6.6	818	
10H－C32	II	完形	安山岩	8.9	8.4	3.0	320	
10H－C33	II	完形	安山岩	11.4	4.3	2.4	182	
10H－C34	II	2/3 欠	閃緑岩					
10H－C35	II	1/2 欠	安山岩			2.7		
10H－C41	II	完形	安山岩	12.0	7.2	4.8	695	同8
10J－C8	II	完形	凝灰質流紋岩	4.8	4.5	1.3	39	
10J－C9	II	1/2 欠	頁岩		4.0	1.6		
10J－C10	II	破片	安山岩					
10K－C11	II	完形	飛騨片麻岩	13.2	6.3	4.2	594	
10K－C12	II	完形	安山岩	13.7	8.2	5.5	1031	
10K－C13	II	完形	安山岩	10.7	7.8	3.8	478	
10K－C14	II	完形	安山岩	7.7	7.4	2.1	199	
10K－C15	II	1/3 欠	安山岩			5.7		
10K－C16	II	2/3 欠	安山岩					
10K－C22	I・II	完形	砂岩	14.1	5.9	3.2	453	
10K－C33	II	完形	安山岩	17.1	7.6	4.1	861	
10K－C34	II	完形	安山岩	8.5	6.2	4.2	304	
10K－C35	II	完形	安山岩	11.3	8.4	5.3	876	
10K－C36	II	完形	安山岩	14.5	7.0	4.5	750	
10K－C37	II	完形	砂岩	9.4	8.9	2.4	330	
10K－C38	II	完形	安山岩	11.4	6.9	2.7	358	
10K－C39	II	1/3 欠	安山岩		4.8	3.8		
10L－C1	I	完形	安山岩	10.2	8.5	4.7	720	
10L－C2	I	1/3 欠	砂岩		9.9	5.4		
10L－C3	I	1/2 欠	安山岩		2.0			
10L－C4	I	1/3 欠	砂岩					
10M－C14	I	完形	濃飛流紋岩	12.8	6.1	3.9	509	
10M－C15	I	完形	安山岩	11.7	6.5	2.5	302	
10M－C16	I	完形	砂岩	14.4	10.2	6.3	1351	
10M－C17	I	完形	砂岩	11.5	8.2	6.7	870	
10M－C18	I	完形	飛騨片麻岩	16.2	8.3	3.2	780	
10M－C19	I	完形	安山岩	10.2	7.0	4.9	486	
10M－C20	I	完形	安山岩	12.0	7.4	2.8	394	
10M－C21	I	完形	安山岩	8.4	6.8	1.9	176	
10M－C22	I	一部欠	安山岩		7.0	4.5		
10M－C23	I	一部欠	安山岩			4.7		
10M－C24	I	1/2 欠	安山岩			5.6		
10M－C25	I	1/2 欠	安山岩			3.5		
10M－C49	II	完形	安山岩	15.0	10.2	5.5	1279	
10M－C50	II	完形	安山岩	12.8	7.9	5.4	868	
10M－C51	II	完形	安山岩	11.9	9.2	5.9	998	
10M－C52	II	完形	濃飛流紋岩	7.0	5.1	2.3	157	
10M－C53	II	完形	安山岩	13.2	9.2	5.8	1040	
10M－C54	II	完形	安山岩	17.3	5.0	3.6	481	

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10M－C55	Ⅱ	完形	砂岩	11.5	7.9	6.0	884	
10M－C56	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	9.0	6.8	3.2	286	
10M－C57	Ⅱ	完形	安山岩	10.9	5.4	2.8	264	
10M－C58	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	10.1	9.7	4.5	719	
10M－C59	Ⅱ	完形	石英斑岩	11.9	9.4	3.7	632	
10M－C60	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	12.0	8.5	3.2	331	
10M－C61	Ⅱ	1/2 欠	砂岩					
10M－C62	Ⅱ	1/2 欠	安山岩					
10M－C63	Ⅱ	2/3 欠	砂岩					
10M－C68	Ⅲ	完形	凝灰質流紋岩	10.1	4.7	2.5	209	
10M－C69	Ⅲ	完形	安山岩	8.3	8.1	2.6	284	
10M－C70	Ⅲ	2/3 欠	砂岩					
10M－C71	Ⅲ	2/3 欠	安山岩					
10N－C1	Ⅰ	完形	安山岩	11.0	4.5	2.5	180	
10N－C16	Ⅲ	完形	濃飛流紋岩	13.0	7.0	4.3	521	
10N－C17	Ⅲ	完形	凝灰質流紋岩	14.5	6.3	5.3	704	
10N－C18	Ⅲ	完形	安山岩	13.1	5.9	3.1	398	
10N－C19	Ⅲ	完形	安山岩	12.6	6.1	3.6	435	
10N－C20	Ⅲ	完形	安山岩	12.5	6.8	2.3	352	
10N－C21	Ⅲ	完形	安山岩	12.4	8.5	5.0	812	
10N－C22	Ⅲ	完形	安山岩	9.3	6.7	3.8	337	
10N－C23	Ⅲ	完形	安山岩	10.1	6.5	3.2	284	
10N－C24	Ⅲ	完形	凝灰質流紋岩	11.5	6.6	3.3	315	
10N－C25	Ⅲ	完形	安山岩	12.0	9.5	5.3	916	図10
10N－C26	Ⅲ	完形	砂岩	8.1	5.6	4.1	231	
10N－C27	Ⅲ	完形	頁岩	8.4	6.2	2.3	197	
10N－C28	Ⅲ	完形	石英斑岩	10.4	6.5	3.3	396	
10N－C29	Ⅲ	完形	安山岩	12.7	7.1	4.6	630	
10N－C30	Ⅲ	完形	安山岩	13.2	7.6	4.7	709	
10N－C31	Ⅲ	1/2 欠	砂岩			3.2		
10N－C32	Ⅲ	1/3 欠	安山岩			3.4		
10N－C33	Ⅲ	2/3 欠	安山岩					
10O－C10	Ⅰ	完形	安山岩	13.2	6.5	3.3	430	
10O－C11	Ⅰ	完形	安山岩	9.5	6.6	3.5	345	
10O－C12	Ⅰ	完形	安山岩	11.7	10.1	4.1	720	
10O－C13	Ⅰ	完形	濃飛流紋岩	11.0	4.0	2.8	182	
10O－C14	Ⅰ	完形	安山岩	11.4	3.9	3.6	298	
10O－C15	Ⅰ	2/3 欠	安山岩					
10O－C16	Ⅰ	完形	砂岩	14.0	9.6	5.4	1313	
10O－C17	Ⅰ	1/2 欠	砂岩					
10O－C18	Ⅰ	1/2 欠	石英斑岩		5.7	2.9		
10O－C19	Ⅲ	完形	砂岩	6.3	5.5	2.1	112	
10O－C20	Ⅲ	完形	安山岩	6.2	5.7	3.8	205	
10O－C21	Ⅲ	破片	凝灰質流紋岩					



第84図　石鏃(1～15)・石槍(16)・石匙(17～22)実測図

第10表　石錐一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
上域35－C1		完形	頁岩	3.3	1.8	0.3	1.5	第84図11
表採－C164		完形	下呂石	1.6	1.2	0.2	0.3	同2
表採－C165		先·片脚欠	下呂石			0.2		同3
表採－C166		先·片脚欠	下呂石			0.2		
表採－C167		片脚欠	下呂石			0.4		同8
表採－C168		片脚欠	チャート			0.4		
表採－C169		先·片脚欠	チャート			0.3		
2B－C1	Ⅱ	完形	下呂石	2.3	1.8	0.3	1.0	同10
4I－C31	Ⅰ	脚部欠	チャート			0.6		
6K－C5		片脚欠	下呂石	2.2		0.2		同6
7M－C1	Ⅱ	先端欠	チャート		1.5	0.3		
8H－C18	Ⅰ·Ⅱ	完形	チャート	1.7	1.6	0.2	0.5	同5
8J－C17	Ⅱ	脚部片	玉髄					
8J－C37	Ⅰ	脚部欠	チャート			0.4		同9
8M－C25	Ⅰ·Ⅱ	先端欠	下呂石		1.7	0.6		
9H－C15	Ⅱ	脚部欠	下呂石			0.3		同12
9M－C13	Ⅱ	先端欠	下呂石		1.2	0.4		同14
9N－C40	Ⅱ	完形	黒曜石	2.0	1.3	0.3	1.2	同13
9N－C70	Ⅰ	完形	下呂石	1.9	1.7	0.4	1.2	同7
10F－C6	Ⅱ	完形	下呂石	1.6	1.3	0.3	0.4	同4
10F－C7	Ⅱ	完形	黒曜石	1.7	1.2	0.4	0.6	同14
10F－C59	Ⅱ	脚部欠	チャート			0.2		同1
10H－C43	Ⅱ	先·片脚欠	下呂石			0.2		
10H－C45	Ⅱ	先端欠	チャート		1.4	0.4		
10I－C1	Ⅰ	脚部片	下呂石					

大きさは、用途に応じて様々で、長さを見ると5～18cmまでの巾がある。

石質は、蛇紋岩が129点と最も多く、全体の77%を占める。このあと安山岩（12%）・凝灰岩（5%）・閃緑岩（4%）が続く。

第87図7・8は、欠損品を磨製石斧として再利用した例である。また同9・14・17は欠損後打製石斧状の刃部が作り出されている。

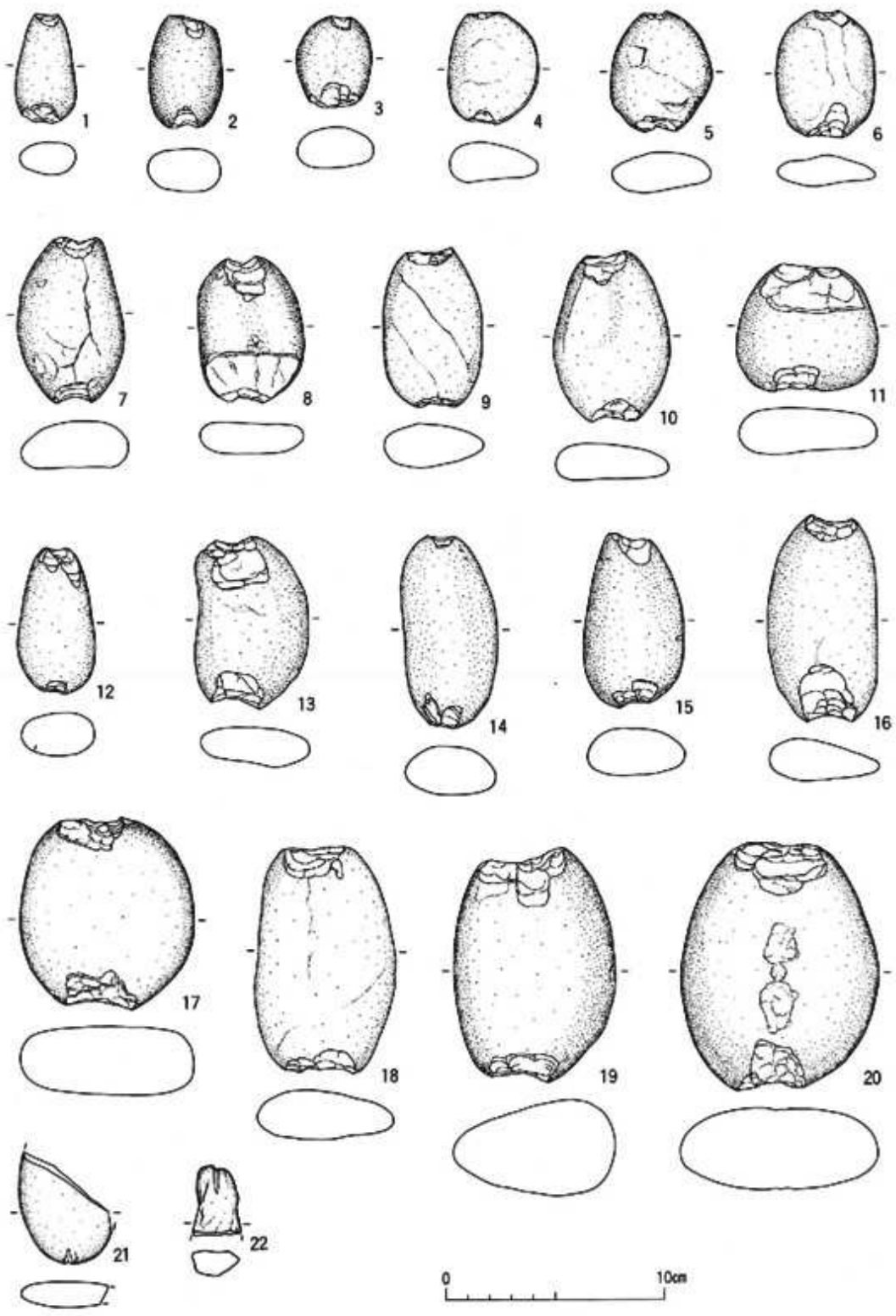
13. 石匙（第13表、第84図17～22）

7点出土している。縦長の石匙（同21・22）が2点、横長の石匙（同17～20）が4点で、残りの1点は不明である。

石質は、チャートが4点、下呂石が3点である。

14. スクレイパー（第14表、第88図）

136点出土している。ここではスクレイパーを次のように区分した。Ⅰ型：剥離調整による明瞭な刃部を持つ狭義のスクレイパー（第88図1～8）。Ⅱ型：剥片を加工しないで、その縁辺を適宜使用するもので、刃こぼれを留めるもの（同9～15）。Ⅲ型：平面形はおおむね四角形を呈し、側面観は菱形に近く、相対する辺に剥離面がつぶれたように集中する石器で、ピエス・エス

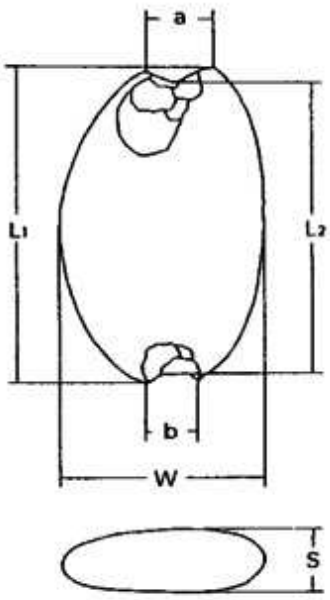


第85図　礫石錘（1～20）・切目石錘（21・22）実測図

第11表　礫石錘一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	a	b	L1	L2	w	s	重さ	挿図番号
土壙179－C2		一部欠	安山岩	0.9		5.2	4.9	3.3	2.0		第85図2
表採－C1		完形	飛騨片麻岩	2.2	1.9	8.6	8.2	5.2	2.4	178.4	
表採－C2		完形	安山岩	1.3	0.8	6.5	6.4	4.7	2.2	107.2	
表採－C3		完形	安山岩	2.8	3.5	8.6	8.3	7.0	2.4	211.0	
表採－C4		完形	安山岩	2.5	2.1	11.1	10.7	9.0	3.5	559.0	同20
表採－C5		完形	安山岩	0.7	0.7	5.6	5.4	3.4	1.2	38.7	
表採－C6		1/3欠	安山岩	1.6				4.9	2.1		
表採－C7		1/2欠	砂岩	1.1					3.8		
表採－C151		完形	飛騨片麻岩	2.0	1.3	5.6	5.1	5.5	1.7	82.3	
表採－C152		完形	安山岩	0.6	0.9	4.3	4.1	3.4	1.7	39.1	同3
表採－C153		1/2欠	安山岩	1.8							
表採－C154		完形	安山岩	1.6	1.7	6.6	6.3	3.9	1.2	51.1	
3D－C3	Ⅱ	完形	安山岩	2.2	1.5	7.2	6.7	4.5	1.9	111.6	同9
3D－C4	Ⅱ	完形	安山岩	2.3	2.7	5.7	5.5	6.3	2.1	119.0	同11
3H－C7	Ⅱ	完形	安山岩	0.9	2.2	11.3	11.1	5.2	2.4	128.0	
3H－C8	Ⅲ	完形	閃緑岩	1.6	1.5	7.9	7.4	4.5	2.3	118.4	同15
4E－C5	Ⅱ	完形	安山岩	2.3	4.0	9.8	9.3	6.5	3.9	308.0	
4G－C4	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	1.6	2.2	8.5	7.9	6.5	1.8	157.8	
4G－C23	Ⅲ	完形	安山岩	1.7	1.6	6.4	6.3	4.6	2.1	96.7	
4I－C10	Ⅱ	完形	安山岩	0.9	2.5	7.0	6.6	3.9	1.4	63.0	
4I－C11	Ⅱ	完形	頁岩	1.7	1.9	6.0	5.7	5.1	2.1	107.8	
4I－C12	Ⅱ	完形	砂岩	1.1	1.4	5.1	4.9	4.1	1.7	56.3	同4
4I－C13	Ⅱ	完形	頁岩	0.8	1.6	9.1	8.9	4.3	1.6	98.3	
5G－C23	Ⅲ	完形	頁岩	1.9	1.4	7.6	7.6	5.3	2.2	141.2	
6F－C9	Ⅱ	完形	石英斑岩	1.3	2.0	8.5	8.3	6.0	2.6	211.0	
6F－C10	Ⅱ	完形	頁岩	1.9	2.1	6.8	6.6	5.8	1.6	100.7	
6F－C11	Ⅱ	完形	濃飛流紋岩	1.0	1.0	5.7	5.5	4.4	1.4	55.2	同6
6F－C12	Ⅱ	一部欠	濃飛流紋岩	1.6				3.9	2.5		
6F－C15	Ⅲ	完形	安山岩	0.8	1.1	9.2	8.9	6.4	2.0	162.4	
6G－C12	Ⅱ	完形	安山岩	1.6	2.0	8.1	7.9	5.5	2.4	177.1	
6G－C13	Ⅱ	完形	安山岩	2.4	2.9	8.8	8.2	7.9	3.0	340.0	同17
6G－C14	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	2.5	3.0	8.9	8.6	7.6	2.7	248.0	
6G－C15	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	1.1	1.5	6.9	6.0	4.7	1.5	75.4	同8
6H－C1	Ⅱ	完形	安山岩	0.9	1.0	5.3	5.1	4.1	2.0	64.4	
6H－C17	Ⅱ	完形	安山岩	2.5	3.0	10.4	10.1	6.4	2.4	265.0	同18
6K－C4	Ⅰ	完形	安山岩	1.0	1.4	4.8	4.6	4.3	2.5	74.1	
7E－C3	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	1.1	1.1	5.0	4.9	2.7	1.5	29.1	同1
7E－C24	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	1.5	1.5	8.1	7.7	7.5	2.7	259.0	
7F－C10	Ⅰ・Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	2.0	1.9	7.0	6.3	5.7	1.4	94.2	
7H－C20	Ⅰ・Ⅱ	完形	頁岩	1.1	1.2	5.6	5.1	4.7	1.7	68.8	同5
7H－C21	Ⅰ・Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	1.6	2.0	6.9	6.0	5.5	2.0	113.4	
7K－C5	Ⅰ	完形	安山岩	1.0	1.1	6.3	6.2	4.8	2.2	98.0	
7K－C19	Ⅱ	1/2欠	安山岩	3.2							
8F－C4	Ⅱ	1/3欠	安山岩	1.2					2.0		
8G－C5	Ⅰ	完形	安山岩	1.7	1.7	7.7	7.2	4.9	2.5	155.6	同7
8G－C6	Ⅰ	完形	チャート	1.5	1.9	6.4	6.1	5.0	2.7	133.2	
8L－C5	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	2.0	1.8	7.9	7.5	6.5	2.5	186.8	
8M－C6	Ⅰ・Ⅱ	完形	石英斑岩	1.6	1.4	6.6	6.4			144.0	
8N－C54	Ⅱ	完形	飛騨片麻岩	1.3	1.5	8.7	7.8	7.2	1.8	183.0	

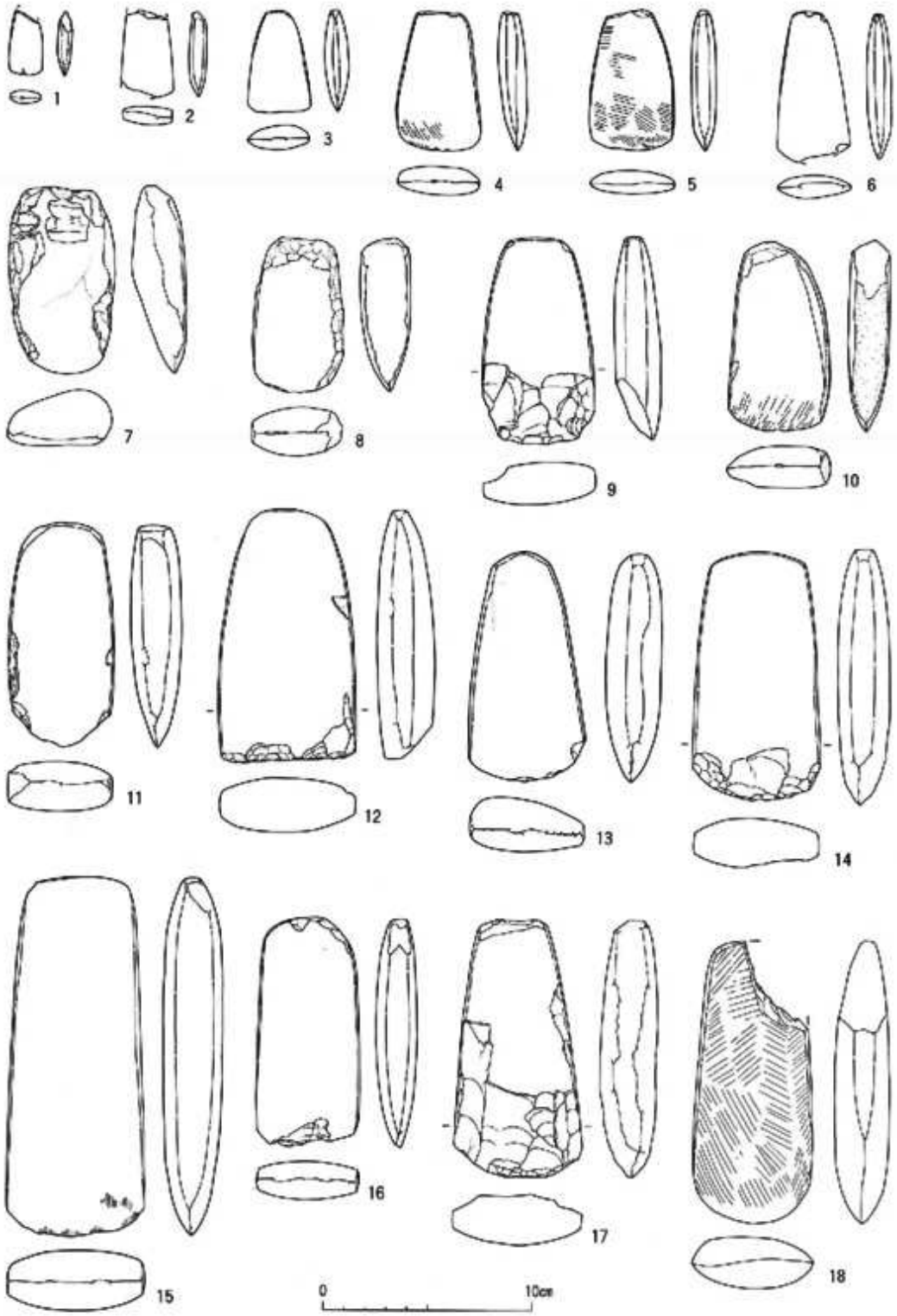
遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	a	b	L1	L2	w	s	重さ	挿図番号
8O－C38	Ⅱ	完形	安山岩	1.3	1.8	14.0	13.9	6.9	3.6	539.0	
8O－C39	Ⅱ	完形	安山岩	2.0	2.0	10.7	9.6	7.5	3.9	465.0	同19
8O－C40	Ⅱ	⅓欠	濃飛流紋岩	1.0							
9G－C49	Ⅱ	完形	安山岩	1.7	1.9	9.3	8.8	5.0	2.0	150.6	同16
9G－C50	Ⅱ	一部欠	安山岩	1.1	1.3	5.5	5.3	5.0	1.9		
9H－C25	Ⅱ	一部欠	安山岩	1.5	1.9	5.7	5.4	4.3			
9H－C47	Ⅱ	⅓欠	頁岩	0.8				3.2	1.3		
9J－C40	Ⅲ	完形	安山岩	1.5	1.4	5.8	5.5	4.8	1.8	88.3	
9K－C1	Ⅱ	完形	頁岩	1.1	1.0	8.9	8.6	4.2	2.2	131.1	同14
9L－C1	Ⅰ	完形	飛騨片麻岩	2.0	2.6	9.2	9.1	5.2	2.7	220.0	
9L－C2	Ⅰ	完形	安山岩	1.3	1.7	8.0	7.7	4.0	2.2	116.4	
9L－C12	Ⅰ	完形	安山岩	1.8	3.5	7.4	7.0	6.9	2.3	195.0	
9N－C1	Ⅱ	完形	安山岩	2.3	3.5	6.2	5.8	6.1	2.3	143.4	
9O－C1	Ⅲ	完形	凝灰質流紋岩	1.5	2.0	7.9	7.0	5.0	2.0	125.8	同13
10F－C3	Ⅱ	完形	安山岩	1.8	3.2	9.8	9.5	7.0	3.1	339.0	
10F－C4	Ⅱ	完形	輝緑凝灰岩	0.7	0.9	6.6	6.5	3.5	1.8	64.0	同12
10F－C5	Ⅱ	完形	頁岩	1.7	1.8	7.8	7.3	5.2	1.8	119.5	同10
10G－C10	Ⅰ・Ⅱ	完形	安山岩	1.0	0.8	5.4	5.3	4.6	1.7	69.8	
10G－C17	Ⅱ	完形	砂岩	1.7	2.1	6.2	5.6	5.2	1.6	80.3	
10G－C18	Ⅱ	完形	凝灰質流紋岩	1.3	1.4	6.3	6.1	3.6	1.7	63.1	
10K－C10	Ⅱ	完形	安山岩	1.3	1.5	12.7	11.8	7.5	3.0	455.0	
10K－C31	Ⅱ	完形	頁岩	1.4	1.9	6.1	5.6	5.1	1.6	70.8	
10M－C10	Ⅰ	⅓欠	飛騨片麻岩	1.5				6.0	2.2		
10M－C66	Ⅱ	完形	安山岩	1.1	1.3	6.6	6.5	4.6	2.1	99.3	
10M－C67	Ⅱ	½欠	安山岩	1.4				6.1	2.3		
10N－C3	Ⅰ	⅓欠	安山岩	0.9					2.5		
10O－C32	Ⅲ	完形	飛騨片麻岩	1.4	2.2	7.5	7.2	5.7	2.4	171.3	



礫石錘を漁網錘とせず編み物用錘具とする立場からの数値の記載部位は、左図の6カ所と重量（W）である。まず長軸方向を上下に置くことは、後者の立場からくることであるが、前者の立場でも長さ（L_1）と巾（W）の測定は同じである。しかし後者の立場からは、厚み（S）の差による重心のかかる部位を下にすることを原則とする。そして糸または紐をまく部分ということで、打欠き間の最短距離（L_2）を測定する。後者の見解からの必然として、糸をまく部分としての打欠き部分の巾（上部の打欠きをa、下部のそれをbとする）が問題になる。粗く打ち欠いたままにしておくことの必然性は、後者の見解からは無理なく説明できることになる。前者の見解をとる場合、これらの計測箇所を省略して活用できることがあっても、逆は不可能である。したがって見解の差異を越えて、計測方式の統一を提唱したい。

（渡辺　誠）

第86図　礫石錘計測部位説明図



第87図　磨製石斧実測図

第12表　磨製石斧一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
5号住－C2		定角式	完形	蛇紋岩	6.6	4.0	1.5	64	第87図4
6号住－C5		定角式	完形	蛇紋岩	9.1	4.8	2.0	170	同10
6号住－C6		定角式	頭部片	蛇紋岩					
土坑17－C3		定角式	刃部欠	蛇紋岩			1.6		
土坑70－C1		定角式	刃部欠	凝灰岩			2.2		同9
土坑140－C1		定角式	完形	蛇紋岩	6.9	4.1	1.0	59	同5
土坑156－C1		定角式	頭部片	蛇紋岩					
土坑163－C1		定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.4		
土坑171－C2		定角式	刃部欠	蛇紋岩		4.9	2.1		同17
土坑187－C1		定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.7	2.5		同18
土坑224－C1		定角式	刃部欠	石英斑岩			2.3		
土坑232－C1		定角式	頭部欠	蛇紋岩		3.8	1.5		
表採－C79		その他	完形	蛇紋岩	8.8	4.4	2.5	152	
表採－C80		定角式	完形	蛇紋岩	4.5	1.5	0.7	8	
表採－C81		その他	刃部欠	安山岩			4.0		
表採－C82		定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.1		
表採－C83		定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.7	2.1		
表採－C84		定角式	頭部欠	蛇紋岩		1.6	0.6		同1
表採－C85		定角式	刃部片	蛇紋岩					
表採－C86		定角式	刃部片	蛇紋岩		4.6			
表採－C87		定角式	刃部片	蛇紋岩		4.2	1.7		
表採－C88		定角式	刃部片	安山岩					
表採－C89		定角式	頭部片	蛇紋岩					
表採－C90		定角式	頭部片	安山岩					
表採－C91		定角式	胴部片	蛇紋岩					
表採－C92		その他	胴部片	蛇紋岩					
表採－C93		定角式	胴部片	蛇紋岩					
表採－C94		不明	刃部片	蛇紋岩					
2C－C3	Ⅱ	定角式	頭部欠	安山岩		4.1	2.4		
2C－C4	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
3D－C1	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		4.9	2.3		
3D－C2	Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
3F－C2	Ⅱ	定角式	刃部片	蛇紋岩		5.5			
3G－C8	Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩			2.5		
3H－C3	Ⅱ	その他	頭部欠	安山岩		5.2	2.6		
3H－C21	Ⅲ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
3H－C22	Ⅲ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
3H－C23	Ⅲ	定角式	胴部片	蛇紋岩			2.1		
3H－C24	Ⅲ	その他	刃部欠	蛇紋岩			2.8		
4E－C6	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			1.8		
4E－C7	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		4.9			
4F－C11	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩					
4F－C24	Ⅲ	定角式	刃部欠	安山岩			1.8		
4G－C20	Ⅲ	定角式	刃部欠	蛇紋岩					
4G－C21	Ⅲ	定角式	頭部欠	蛇紋岩					
4G－C22	Ⅲ	定角式	頭部片	蛇紋岩			2.3		
4I－C14	Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
5F－C4	Ⅲ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		2.5	0.7		同2
5F－C5	Ⅲ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		4.6	2.0		

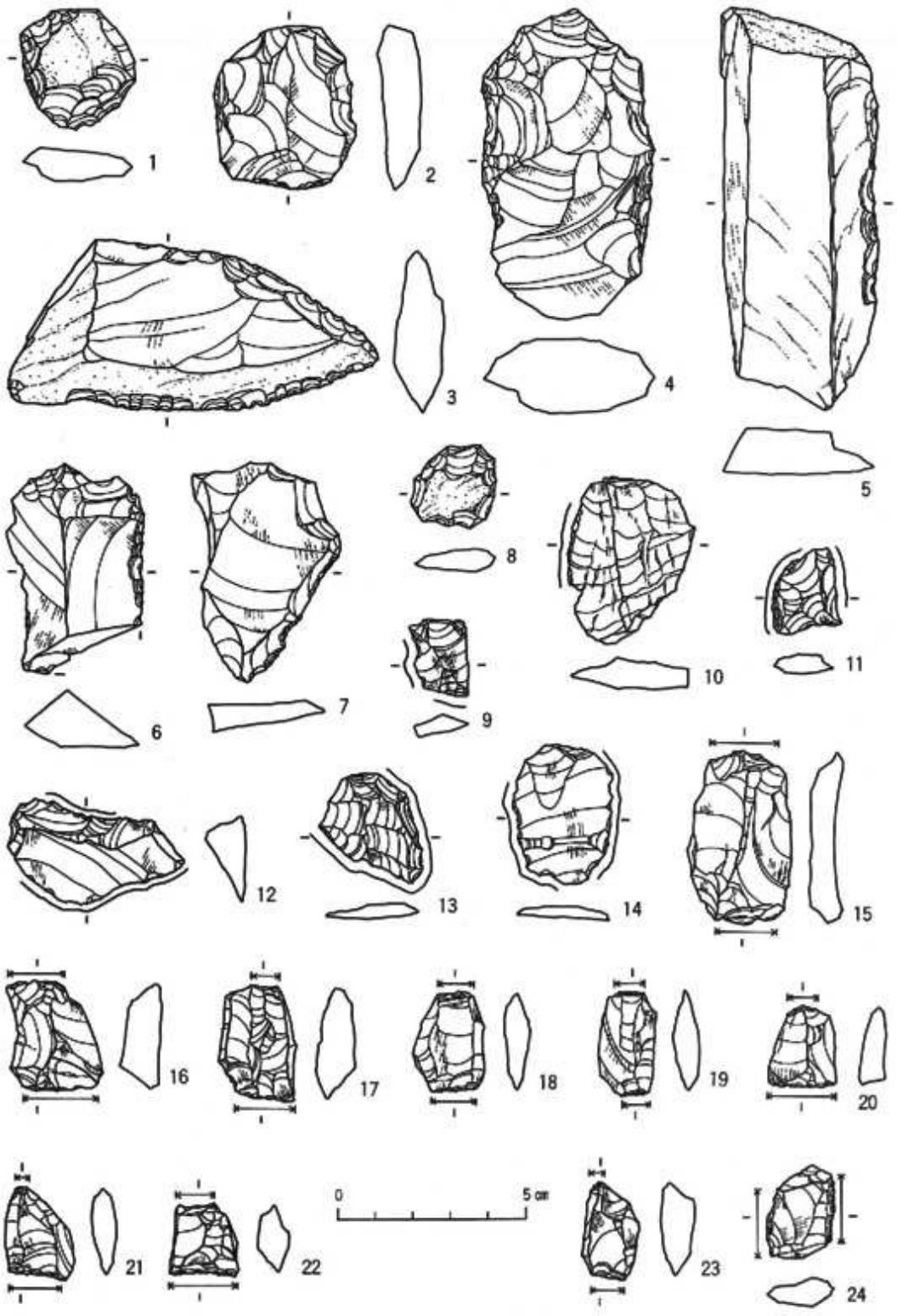
遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
5G－C6	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
5G－C21	Ⅲ	定角式	刃部欠	蛇紋岩					
6F－C7	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩					
6F－C8	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩			1.7		
6G－C10	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.0			
6G－C11	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
6H－C2	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩					
6H－C3	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
6K－C21	Ⅰ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
6K－C22	Ⅰ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
7C－C9	Ⅱ	定角式	一部欠	凝灰岩		15.9	4.3		
7D－C8	Ⅱ	定角式	完形	蛇紋岩	10.9	5.6	2.6	276	同13
7D－C9	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩		5.5	1.6		
7D－C15	Ⅱ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
7D－C17	Ⅱ	定角式	刃部片	凝灰岩					
7D－C30	Ⅱ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.5	2.2		
7E－C7	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
7E－C8	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
7F－C9	Ⅰ・Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
7F－C11	Ⅱ	定角式	完形	蛇紋岩	9.3	4.1	2.9	96	
7F－C15	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			1.0		
7G－C6	Ⅰ・Ⅱ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
7G－C7	Ⅰ・Ⅱ	定角式	頭部片	濃飛流紋岩					
7G－C8	Ⅰ・Ⅱ	その他	頭部欠	蛇紋岩		2.7			
7H－C5	Ⅰ・Ⅱ	定角式	完形	安山岩	9.7	4.3	2.2	145	
7I－C12	Ⅱ	その他	完形	蛇紋岩	9.0	5.0	2.5	176	同7
7I－C13	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩		5.7	2.5		
7K－C1	Ⅰ	定角式	頭部欠	蛇紋岩					
7K－C2	Ⅰ	定角式	頭部欠	蛇紋岩			1.1		
7K－C3	Ⅰ	定角式	胴部片	安山岩					
7K－C4	Ⅰ	定角式	刃部片	閃緑岩					
7K－C20	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
7O－C15	Ⅰ	定角式	頭部欠	蛇紋岩					
8F－C2	Ⅱ	その他	刃部欠	凝灰岩			2.4		
8G－C7	Ⅰ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8G－C8	Ⅰ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
8H－C12	Ⅰ・Ⅱ	定角式	刃部欠	安山岩			2.0		
8J－C3	Ⅰ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			1.8		
8J－C4	Ⅰ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8J－C5	Ⅰ	定角式	頭部片	蛇紋岩			1.3		
8J－C29	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩			2.3		
8J－C30	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8J－C31	Ⅱ	定角式	刃部片	安山岩					
8J－C32	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩		3.3	1.1		
8J－C33	Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
8M－C9	Ⅰ・Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8M－C10	Ⅰ・Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.0		
8M－C11	Ⅰ・Ⅱ	定角式	刃部欠	安山岩		6.5	2.9		同12
8M－C12	Ⅰ・Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
8M－C13	Ⅰ・Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			3.0		

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
8M－C14	I・II	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8M－C29	III	定角式	刃部欠	凝灰岩					
8M－C30	III	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8N－C21	I・II	定角式	頭部片	蛇紋岩					
8N－C22	I・II	定角式	頭部片	安山岩					
8N－C52	II	定角式	刃部欠	安山岩			2.5		
8N－C53	II	定角式	胴部片	安山岩					
8N－C64	II	その他	刃部片	閃緑岩		4.9	2.6		
8N－C65	II	定角式	胴部欠	安山岩			2.7		
8O－C41	II	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.3		
8O－C42	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩			2.7		
8O－C43	II	定角式	胴部片	蛇紋岩					
8O－C44	II	その他	胴部片	閃緑岩					
8O－C45	II	その他	刃部片	凝灰岩		5.7	2.7		
8O－C56	III	その他	刃部欠	閃緑岩			2.2		
9F－C1	I・II	定角式	刃部欠	蛇紋岩		4.5	1.7		
9F－C2	I・II	定角式	頭部片	蛇紋岩					
9F－C13	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩			3.0		
9G－C30	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.7			
9G－C31	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩		3.9	1.9		
9G－C32	II	定角式	刃部欠	蛇紋岩					
9G－C33	II	定角式	刃部欠	蛇紋岩		4.5	1.2		図6
9G－C34	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩			1.0		
9G－C35	II	定角式	刃部欠	蛇紋岩		4.0	2.0		
9G－C36	II	定角式	刃部片	蛇紋岩					
9G－C37	II	定角式	胴部片	蛇紋岩			1.5		
9G－C38	II	定角式	頭部欠	閃緑岩		4.3	2.8		
9G－C39	II	定角式	頭部欠	閃緑岩		4.3	2.5		図8
9H－C3	I・II	定角式	完形	蛇紋岩	4.8	3.0	1.1	26	図3
9H－C4	I・II	定角式	完形	安山岩	17.6	6.5	2.8	678	図15
9H－C28	II	定角式	胴部片	蛇紋岩					
9H－C29	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩		3.1	1.2		
9K－C5	II	定角式	頭部片	蛇紋岩					
9L－C4	II	定角式	完形	蛇紋岩	10.6	4.8	2.4	245	図11
9L－C5	I	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.1		
9L－C6	I	定角式	刃部欠	安山岩			3.1		
9L－C23	II	定角式	頭部欠	蛇紋岩		5.7			
9M－C10	II	その他	頭部片	安山岩					
9N－C27	II	不明	完形	蛇紋岩	11.8	4.0	1.7	125	
9N－C31	II	定角式	刃部片	蛇紋岩		8.3			
9N－C32	II	定角式	刃部欠	蛇紋岩		4.6	1.8		
9N－C33	II	その他	頭部欠	凝灰岩		4.2	2.7		
9O－C2	III	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.3		
9O－C3	III	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.3		
9O－C4	III	定角式	胴部片	蛇紋岩					
10F－C1	II	定角式	胴一部欠	蛇紋岩	9.4		1.9		
10F－C2	II	定角式	頭部片	蛇紋岩					
10G－C11	I・II	定角式	刃部欠	凝灰岩			2.7		
10G－C13	II	定角式	完形	蛇紋岩	9.8	5.5	2.0	234	
10G－C14	II	定角式	刃部片	蛇紋岩		5.0	2.1		

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10G－C15	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
10G－C16	Ⅱ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
10H－C17	Ⅱ	定角式	刃部片	蛇紋岩					
10H－C18	Ⅱ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.5		
10H－C19	Ⅱ	定角式	刃部欠	凝灰岩			2.5		同14
10K－C18	Ⅰ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
10K－C19	Ⅰ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
10K－C32	Ⅱ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
10L－C8	Ⅰ	定角式	頭部欠	蛇紋岩		3.6	1.3		
10L－C9	Ⅰ	定角式	胴部片	蛇紋岩					
10M－C7	Ⅰ	定角式	胴部片	閃緑岩			3.3		
10M－C8	Ⅰ	定角式	刃部片	蛇紋岩		6.0			
10M－C9	Ⅰ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.5		
10M－C47	Ⅱ	定角式	刃部片	蛇紋岩		6.5			
10N－C6	Ⅲ	定角式	刃部欠	蛇紋岩			2.4		
10N－C7	Ⅲ	定角式	刃部欠	安山岩			2.9		
10O－C30	Ⅲ	定角式	頭部片	蛇紋岩					
10O－C31	Ⅲ	定角式	頭部欠	安山岩		7.1			

第13表　石匙一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	つまみ部 高さ	つまみ部 巾	胴高さ	部巾	厚さ	重さ	挿図番号
表採－C174		完形	チャート	0.7	0.5	2.5	4.0	0.6	9.9	第84図19
表採－C175		一部欠	チャート	1.0	1.5	2.4		0.9		同20
7E－C26	Ⅱ	完形	下呂石	1.0	1.6	3.0	2.2	0.7	6.5	同22
7F－C13	Ⅱ	完形	チャート	0.7	0.7	2.0	3.3	0.6	5.9	同18
8O－C72	Ⅱ	完形	チャート	1.2	3.3	4.1	2.7	1.0	12.9	同21
9N－C41	Ⅱ	完形	下呂石	0.7	0.9	2.0	3.2	0.4	2.9	同17
10H－C46	Ⅱ	胴部片	下呂石							



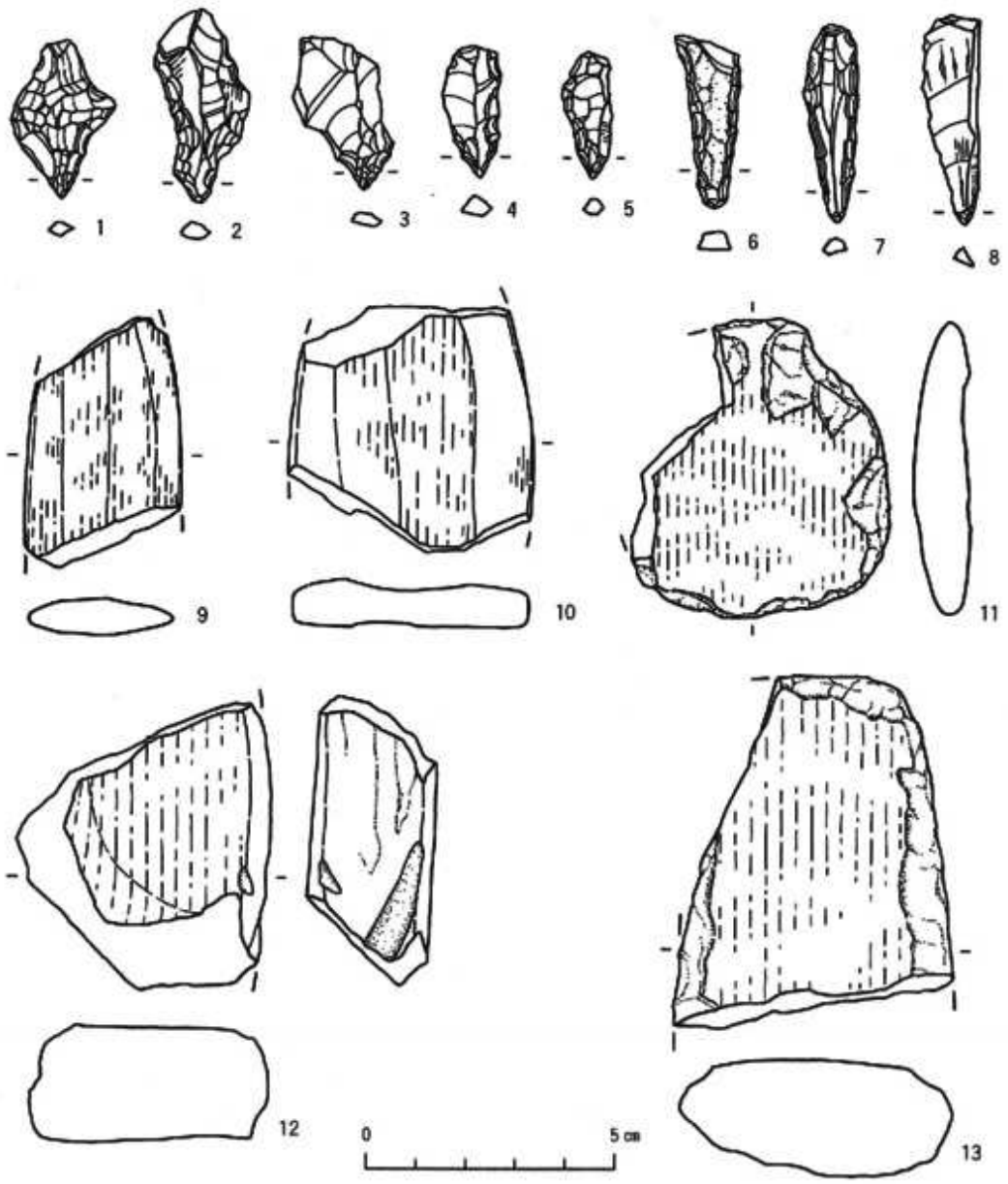
第88図　スクレイパー実測図（Ⅰ類：1～8、Ⅱ類：9～14、Ⅲ類：15～24）

第14表　スクレイパー一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
土坑41－C1		Ⅲ	一端欠	チャート		3.0			
土坑90－C1		Ⅱ	完形	チャート	3.9	1.8	0.5	4.6	
土坑112－C4		Ⅲ	完形	下呂石	1.8	2.4	0.7	3.3	第88図24
土坑227－C1		Ⅱ	完形	チャート	2.1	2.1	0.7	3.3	
表採－C95		Ⅲ	完形	下呂石	2.0	1.4	0.6	1.8	
表採－C96		Ⅲ	完形	下呂石	3.1	2.2	0.9	7.0	同17
表採－C97		Ⅲ	完形	下呂石	2.2	1.1	0.6	1.9	
表採－C98		Ⅲ	完形	下呂石	3.3	1.5	0.8	3.6	
表採－C99		Ⅲ	完形	下呂石	2.8	3.4	0.7	9.7	
表採－C100		Ⅲ	完形	下呂石	2.0	3.5	0.3	1.8	
表採－C101		Ⅲ	完形	下呂石	2.4	1.6	0.5	2.6	
表採－C102		Ⅲ	一端欠	下呂石		1.8	0.7		
表採－C103		Ⅲ	一端欠	下呂石		2.4	0.5		
表採－C104		Ⅲ	一端欠	下呂石		2.1	0.6		
表採－C105		Ⅲ	一端欠	下呂石		3.0	0.8		
表採－C106		Ⅲ	一端欠	下呂石					
表採－C107		Ⅲ	完形	チャート	2.5	1.1	0.3	1.9	
表採－C108		Ⅲ	完形	チャート	4.0	1.7	1.2	6.5	
表採－C109		Ⅲ	完形	チャート	2.3	1.4	0.6	2.8	
表採－C110		Ⅲ	完形	チャート	2.5	1.8	0.4	2.3	
表採－C111		Ⅲ	完形	チャート	3.6	4.0	0.3	14.0	
表採－C112		Ⅲ	一端欠	チャート		3.7	0.4		
表採－C113		Ⅲ	一端欠	チャート		1.1	0.6		
表採－C114		Ⅲ	一端欠	チャート		1.9	0.9		
表採－C115		Ⅲ	完形	玉髄	2.5	1.9	0.4	3.5	
表採－C116		Ⅰ	完形	下呂石	2.9	3.2	0.6	5.6	
表採－C117		Ⅰ	一部欠	下呂石		2.2	0.5		
表採－C118		Ⅰ	完形	チャート	4.5	5.1	1.8	40.5	
表採－C119		Ⅰ	完形	チャート	3.5	2.5	0.9	10.8	
表採－C120		Ⅰ	完形	チャート	3.8	3.5	0.9	12.6	
表採－C121		Ⅰ	完形	チャート	3.2	2.4	0.9	11.3	同1
表採－C122		Ⅰ	完形	チャート	2.9	2.4	0.4	3.1	
表採－C123		Ⅰ	刃部片	チャート					
表採－C124		Ⅰ	完形	チャート	3.2	2.5	0.8	5.1	
表採－C125		Ⅱ	完形	下呂石	4.0	4.5	0.8	12.4	
表採－C126		Ⅱ	完形	下呂石	3.7	2.8	0.9	9.4	
表採－C127		Ⅱ	完形	チャート	2.3	2.5	0.5	2.4	
表採－C128		Ⅰ	完形	チャート	2.8	1.1	0.2	1.2	
表採－C129		Ⅱ	一部欠	チャート		2.0	0.8		
表採－C130		Ⅱ	一部欠	頁岩		2.7	0.3		
表採－C177		Ⅲ	完形	下呂石	3.2	0.6	0.6	1.6	
表採－C202		Ⅲ	一端欠	下呂石		3.2	1.6		
3F－C3	Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	2.3	1.4	0.5	1.7	
3H－C9	Ⅲ	Ⅰ	1/3欠	玉髄		3.6	1.7		同6
3H－C10	Ⅲ	Ⅱ	1/2欠	下呂石					
3H－C11	Ⅲ	Ⅲ	完形	下呂石	3.0	2.3	1.2	7.1	同16
3H－C12	Ⅲ	Ⅲ	完形	下呂石	2.0	1.6	0.7	2.8	
4F－C29	Ⅲ	Ⅰ	1/2欠	安山岩					
4F－C30	Ⅲ	Ⅰ	完形	安山岩	10.0	4.0	1.1	75.7	同5

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
4F－C31	Ⅲ	Ⅱ	完形	下呂石	4.8	3.1	1.0	9.9	同12
4G－C8	Ⅲ	Ⅰ	完形	下呂石	3.1	2.7	0.8	8.7	
4G－C9	Ⅲ	Ⅱ	完形	下呂石	3.6	2.7	0.5	5.9	同14
4G－C10	Ⅲ	Ⅱ	完形	黒曜石	2.1	1.6	0.4	1.9	図9
5F－C7	Ⅲ	Ⅲ	一端欠	下呂石			0.9		
5G－C13	Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	2.5	2.0	0.6	3.4	
6K－C25	Ⅰ	Ⅱ	完形	チャート	3.9	3.0	0.5	6.6	
6K－C26	Ⅰ	Ⅲ	完形	下呂石	2.0	1.8	0.7	3.1	同22
6K－C45	Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	5.6	4.5	0.7	16.0	図7
7C－C1	Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	2.5	2.5	0.5	3.2	
7E－C2	Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	3.2	2.8	1.0	10.5	
7E－C25	Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	6.1	2.7	1.0	14.7	
7G－C13	Ⅱ	Ⅱ	完形	玉髄	2.2	2.0	0.3	1.8	
7K－C21	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	チャート			0.7		
8H－C15	Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	2.3	1.6	0.3	1.8	
8H－C16	Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	2.4	1.8	0.6	2.4	図11
8H－C17	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.2	1.8	0.7	2.9	同20
8J－C14	Ⅰ	Ⅰ	完形	チャート	4.3	3.6	1.1	21.7	図2
8J－C15	Ⅰ	Ⅱ	完形	下呂石	2.5	1.5	0.3	1.4	
8J－C16	Ⅰ	Ⅱ	完形	チャート	4.5	3.4	0.8	14.0	図10
8J－C18	Ⅱ	Ⅰ	刃部片	黒曜石					
8J－C19	Ⅱ	Ⅱ	完形	黒曜石	3.0	2.6	0.4	2.5	同13
8J－C20	Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	5.0	1.9	1.0	8.9	
8J－C21	Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	2.3	2.3	0.5	3.0	
8L－C1	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ	一部欠	下呂石					
8L－C2	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ	刃部片	チャート					
8M－C23	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.4	1.3	0.8	3.4	図23
8M－C24	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	一部欠	チャート		2.1	0.9		
8M－C26	Ⅲ	Ⅱ	完形	下呂石	3.9	3.0	0.5	6.1	
8M－C33	Ⅲ	Ⅲ	一部欠	硅質凝灰岩	4.1		1.0		
8N－C1	Ⅰ・Ⅱ	Ⅱ	一部欠	チャート		2.5	1.2		
8O－C46	Ⅱ	Ⅰ	完形	チャート	3.3	2.5	0.9	10.2	
8O－C47	Ⅱ	Ⅰ	完形	頁岩	2.8	2.2	0.5	3.6	
8O－C48	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.1	1.9	0.6	2.8	
9G－C88	Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	4.2	4.8	0.5	11.0	
9G－C89	Ⅱ	Ⅱ	完形	黒曜石	1.8	1.4	0.2	0.7	
9H－C2	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	4.6	2.8	0.9	12.6	同15
9H－C11	Ⅱ	Ⅰ	刃部片	下呂石			0.6		
9H－C12	Ⅱ	Ⅰ	刃部片	下呂石			0.6		
9H－C13	Ⅱ	Ⅱ	完形	下呂石	3.7	1.6	0.6	4.6	
9H－C14	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石			0.5		
9H－C52	Ⅱ	Ⅰ	一部欠	下呂石		2.2	0.4		
9H－C53	Ⅱ	Ⅱ	刃部片	チャート					
9H－C54	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	1.8	1.1	0.7	1.5	
9H－C55	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.7	1.4	0.5	2.3	同19
9H－C56	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	3.6	1.2	0.8	3.2	
9H－C57	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.5	1.8	0.6	2.9	同21
9H－C58	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	チャート					
9J－C1	Ⅰ	Ⅲ	一端欠	下呂石		2.0	0.5		
9J－C2	Ⅰ	Ⅱ	完形	下呂石	2.8	2.2	0.8	5.0	

遺物番号	出土層位	形態分類	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
9J－C3	Ⅰ	Ⅱ	完形	チャート	2.8	1.5	0.7	2.6	
9L－C11	Ⅰ	Ⅰ	完形	下呂石	4.2	5.4	0.8	19.8	
9L－C24	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	1.9	0.7	0.5	1.0	
9L－C25	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石					
9M－C11	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石			0.7		
9M－C12	Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	2.4	2.0	0.5	2.7	
9N－C34	Ⅱ	Ⅰ	完形	チャート	2.2	2.2	0.5	3.5	同8
9N－C35	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	3.1	1.8	0.8	4.8	
9N－C36	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	3.5	3.0	0.7	6.3	
9N－C37	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	2.9	2.5	0.6	5.2	
9N－C38	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	1.5	1.2	0.6	1.4	
9N－C39	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	チャート			0.6		
10F－C8	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.5	1.8	0.6	3.7	同18
10F－C9	Ⅱ	Ⅱ	完形	黒曜石	3.2	1.5	0.6	2.3	
10F－C10	Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	2.0	1.6	0.4	2.4	
10F－C11	Ⅱ	Ⅱ	完形	チャート	3.0	3.7	0.8	8.4	
10G－C9	Ⅰ・Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	6.1	4.2	1.2	31.1	
10G－C41	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.9	2.1	0.6	3.9	
10G－C42	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.1	2.3	0.5	3.4	
10G－C43	Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	3.1	2.2	0.8	5.8	
10G－C44	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	2.9	1.2	0.6	2.3	
10G－C45	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	2.6	1.3	0.6	2.4	
10G－C46	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石		1.7	0.7		
10G－C47	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石					
10G－C48	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	下呂石					
10J－C1	Ⅱ	Ⅰ	完形	下呂石	9.8	4.7	1.2	56.4	同3
10J－C2	Ⅱ	Ⅲ	完形	チャート	4.1	2.4	0.7	10.8	
10J－C3	Ⅱ	Ⅲ	一端欠	チャート					
10K－C2	Ⅰ・Ⅱ	Ⅲ	完形	下呂石	2.1	2.0	0.8	3.3	
10M－C12	Ⅰ	Ⅰ	完形	下呂石	8.3	4.6	2.1	83.3	同4
10M－C13	Ⅰ	Ⅲ	完形	下呂石	2.0	1.4	0.7	2.4	
10M－C77	Ⅲ	Ⅰ	完形	チャート	4.1	4.0	0.9	17.9	
10M－C78	Ⅲ	Ⅱ	完形	チャート	3.7	3.7	0.8	10.3	
10M－C79	Ⅲ	Ⅲ	完形	チャート	3.6	2.7	1.2	8.1	
10M－C80	Ⅲ	Ⅲ	一端欠	チャート					
10O－C8	Ⅰ	Ⅲ	一端欠	チャート		1.9	0.6		
10O－C9	Ⅰ	Ⅰ	完形	チャート	2.9	2.8	0.4	4.3	



第89図　石錐（1～8）・砥石（9～13）実測図

第15表　石錐一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
表採－C170		先端欠	下呂石		2.5	0.6		
3G－C12	Ⅲ	完形	下呂石	4.0	1.2	0.7	3.6	第89図7
9N－C70	Ⅱ	完形	下呂石	2.6	1.2	0.6	2.1	同4
9N－C71	Ⅱ	完形	チャート	4.2	1.1	0.5	2.5	同8
9O－C25	Ⅲ	完形	安山岩	3.2	2.1	0.7	3.5	同1
10G－C38	Ⅱ	完形	下呂石	3.9	1.8	0.8	5.0	同2
10G－C39	Ⅱ	完形	下呂石	3.5	1.3	0.5	2.7	同6
10G－C40	Ⅱ	完形	下呂石	3.2	1.9	0.7	3.8	同3
10I－C2	Ⅰ	完形	下呂石	2.5	1.0	0.4	1.2	同5

第16表　砥石一覧表（単位cm、g）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
6号住－C7		½欠	砂岩					第89図10
8L－C8	Ⅰ・Ⅱ	⅓欠	砂岩	6.0		1.1		同11
8O－C54	Ⅲ	破片	砂岩					同12
9H－C59	Ⅱ	破片	砂岩					同13
10L－C13	Ⅰ	½欠	砂岩		3.0	0.8		同9

・キーユと呼ばれる一群（同16～24）。各形態の占める割合は、Ⅰ型が24%、Ⅱ型が27%、Ⅲ型が49%である。

石質は、Ⅰ型が下呂石41%・チャート44%、Ⅱ型が下呂石41%・チャート43%、Ⅲ型が下呂石60%・チャート37%で、この2つの石材を合わせると石質の8割以上を占めることになる。また黒曜石は全体の4%程度に過ぎない。

15. 石錐（第15表、第89図1～8）

9点出土している。精巧に作り出されたつまみ部を持つものはない。

石質は、下呂石が7点で、チャートと安山岩が各1点である。

16. 砥石（第16表、第89図9～13）

5点出土している。すべてが破片で、全体の形状は不明である。平盤な素材を使い、側面は第89図9・10・12が面取りされ、同11・13には調整痕が認められる。

石質は、すべて砂岩である。

17. 小結

これまで個々の石器についてみてきたが、岐阜県の美濃と飛騨の両地域で発掘調査に携わってきたものとして、石器組成の比較を簡単ではあるが行ってみたい。

比較対象にあげたのは、中津川市の「阿曽田遺跡」と「久須田遺跡」である。阿曽田遺跡は、

縄文時代早期から晩期、弥生時代および古墳時代後期におよぶ遺跡である。縄文時代では中期後半を中心に集落が営まれていた。地理的に隣接する久須田遺跡は、縄文時代前期から晩期、弥生時代および古墳時代にかけての遺跡で、縄文時代では後期の遺物が主体を占めている。東美濃地方において、阿曽田遺跡は縄文時代中期を代表する遺跡であり、久須田遺跡は後期を代表する遺跡である。多少乱暴な言い方ではあるが、瑞穂遺跡が最盛期を迎えたころ、ほぼ同時期に営まれた遺跡といえる。

なお、あらかじめ考慮に入れておいていただきたい点が3つある。今回の調査で出土した石器の総数が2000点弱なのに対して、中津川市の2つの遺跡から出土した石器の総数は17,000点を超えること、中津川市の両遺跡には良好な状態で遺構や遺物包含層が残っていたこと、瑞穂遺跡の調査では遺跡の一部を発掘したに過ぎないことである。

それでは瑞穂遺跡と中津川市の2つの遺跡から出土した石器の組成を比較する。縄文時代の生産活動の柱の1つであった石鏃は、瑞穂遺跡では1%程度に過ぎないのに対して、中津川市の2つの遺跡では30%近くを占めている。スクレイパーについても同様に前者が7%に対して、後者では40%近くを占めている。

次に縄文時代の植物食を考える上で重要な、石皿・敲石・凹石・磨石について見てみる。この4者の合計が瑞穂遺跡では石器組成の50%を超えるのに対して、阿曽田遺跡と久須田遺跡では1%程度に過ぎない。なお、打製石斧は両者ともに20%近くを占めている。

調査方法や報告者の違いで、石器組成の数値に若干のズレは生じるであろうが、動物食と植物食にかかわるとされる石器でこれだけ大きな差異が生じることは、両地域の生産活動に隔たりがあったことを想定させるものである。

第4節　石製品

本遺跡からは、石棒をはじめ石冠・硬玉製大珠・垂飾が出土している。

このうち石棒には、2㎞ほど南にある「塩屋金清神社遺跡」から大量に出土している「塩屋石」が多く使われ、両遺跡の関連性が注目される。

1．石冠（第90図1・2）

石冠とこれに類する石製品が2点出土している。

同1の頭部は、磨製石斧の刃部のように作られているが、厚みがあって、磨製石斧の刃部のような鋭さが欠けている。底面は球状で、安定感に欠けている。石質は凝灰岩で、高さ6.8㎝、長さ6.9㎝、巾5.1㎝、重さ235ｇである。表面には敲石と同様の敲打痕が2つある。

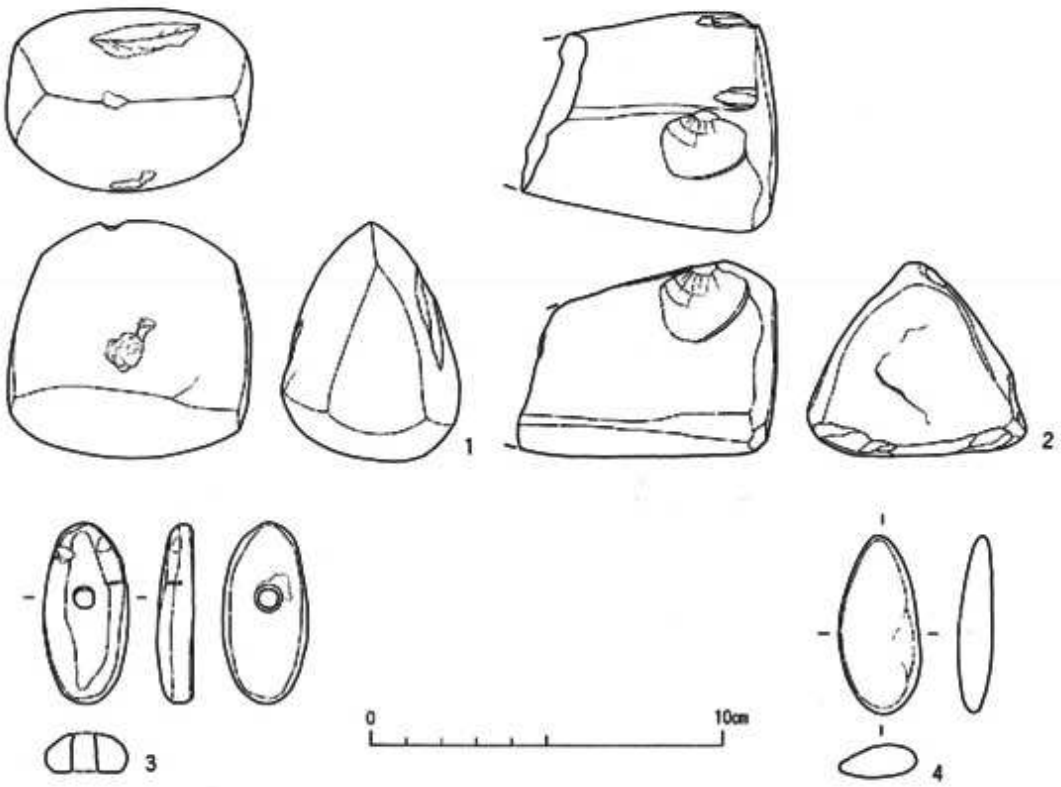
同2は三角錐状の石製品で、一端が欠損している。石質はフォルンフェルスで、高さ5.6㎝、長さの現存値7.4㎝、巾6.3㎝、重さの現存値325ｇである。

2．硬玉製大珠（同3）

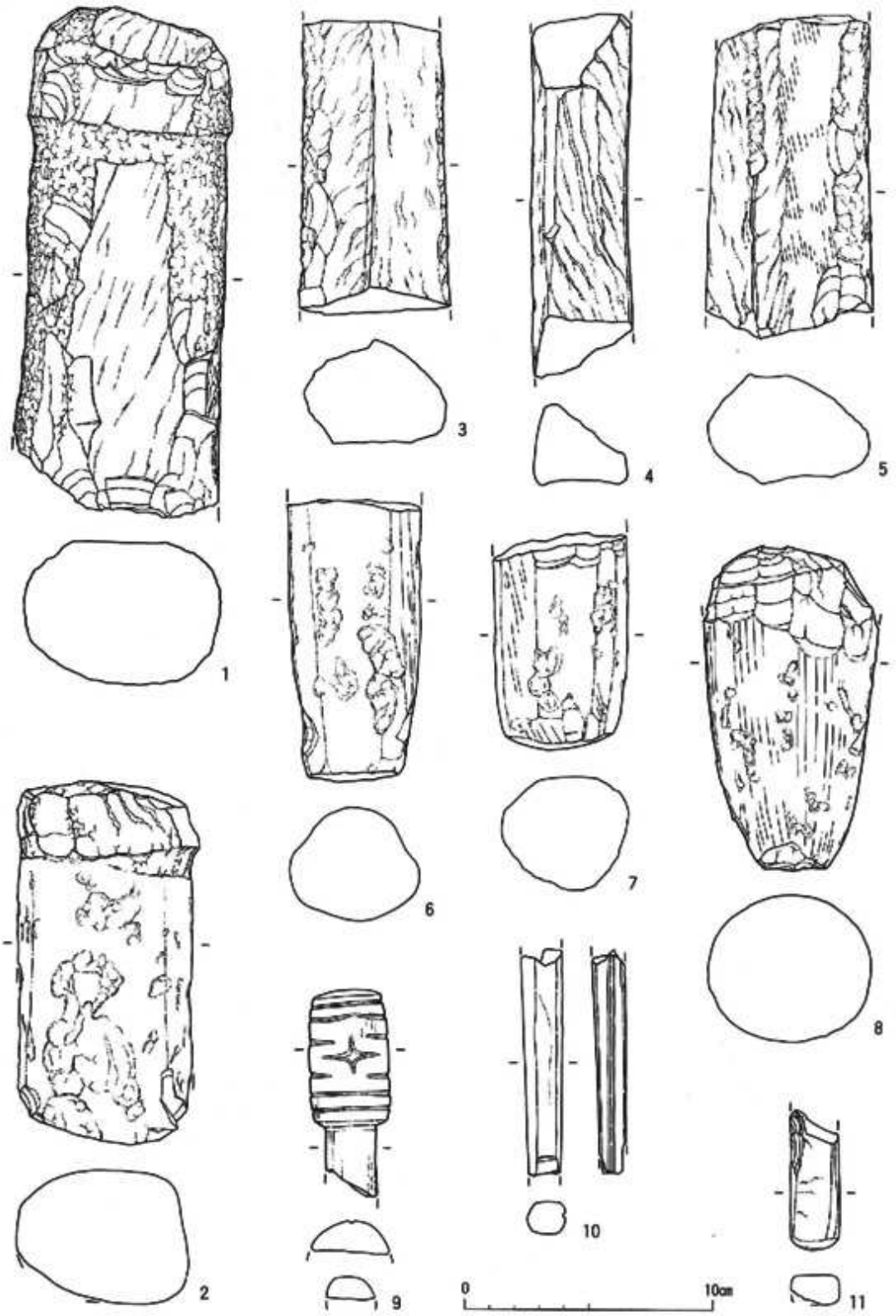
平面形は長円形だが、整った形ではない。扁平に作られているが、上面はやや丸みを持ち、下面はほぼ平坦である。全体の色調は淡い緑色で、一部濃い緑色の部分もある。

長さ5.2㎝、巾2.4㎝、厚さ1.2㎝で、重さは26ｇである。

3．垂飾（同4）



第90図　石冠(1・2)・硬玉製大珠(3)・垂飾(4)実測図



第91図　石棒実測図

第17表　石棒一覧表（単位cm、g・カッコ内は現存値）

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
上坑6－D1		頭部片	塩基岩	(30.4)	(11.6)	(9.2)	(3569)	
表採－D1		軸部片	塩基岩	(29.5)	(12.5)	(11.8)		
表採－D2		軸部片	粘板岩				(12)	
表採－D2		頭部片	塩基岩	(14.2)	(7.1)	(5.8)	(863)	第91図2
3G－D1		頭部片	塩基岩	(20.6)	(8.0)	(6.4)	(1772)	同1
3H－D1	Ⅲ	端部片	粘板岩				(26)	同11
4F－D1	Ⅲ	軸部片	塩基岩	(11.3)	(4.8)	(4.6)	(375)	
4F－D2		頭部片	粘板岩	(8.4)	(3.1)		(52)	同9
4G－D1	Ⅲ	軸部片	塩基岩	(12.5)	(6.5)	(6.0)	(522)	
4I－D1	Ⅲ	端部片	塩基岩	(6.4)	(3.0)	(1.7)	(57)	
4I－D2	Ⅲ	軸部片	塩基岩	(11.3)	(5.7)	(4.0)	(462)	
5I－D1	Ⅱ	頭部片	塩基岩	(7.5)	(4.9)	(4.2)	(213)	
5I－D2	Ⅱ	軸部片	粘板岩				(25)	
5J－D1		軸部片	塩基岩	(19.0)	(6.8)	(5.9)	(1161)	
6F－D1		軸部片	塩基岩	(9.2)	(7.5)	(9.0)	(1599)	
6K－D1	Ⅰ	軸部片	塩基岩	(8.0)	(4.2)	(3.3)	(131)	
6K－D2		軸部片	塩基岩	(9.9)	(6.9)	(4.3)	(401)	
7D－D1	Ⅰ・Ⅱ	軸部片	塩基岩	(12.9)	(6.1)	(4.5)	(589)	同5
7F－D1	Ⅰ・Ⅱ	頭部片	安山岩	(8.3)	(3.5)	(3.4)	(138)	
7I－D1		軸部片	粘板岩	(6.1)	(1.6)		(23)	
7J－D1		軸部片	塩基岩	(18.0)	(6.1)	(4.6)	(773)	
7K－D1	Ⅰ	軸部片	塩基岩	(9.2)	(6.0)	(4.5)	(371)	
7L－D1	Ⅱ	頭部片	塩基岩	(10.5)		(2.6)	(151)	
7L－D2		軸部片	塩基岩	(8.0)	(10.5)	(8.8)	(803)	
8F－D1	Ⅰ・Ⅱ	軸部片	塩基岩	(7.3)	(5.7)		(204)	
8H－D1	Ⅰ・Ⅱ	頭部片	塩基岩	(8.9)	(5.2)	(5.0)	(325)	同7
8M－D1	Ⅰ・Ⅱ	軸部片	塩基岩	(12.9)	(4.8)	(3.6)	(183)	
8M－D2	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(17.9)	(11.1)	(9.4)	(2572)	
8N－D1	Ⅱ	頭部片	塩基岩	(8.8)	(7.5)	(5.7)	(456)	
8N－D2	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(8.3)	(6.0)	(3.5)	(248)	
8N－D3	Ⅱ	軸部片	砂岩	(10.5)	(6.2)	(4.9)	(505)	
8N－D4	Ⅰ・Ⅱ	軸部片	塩基岩	(14.6)	(12.3)	(10.5)	(2363)	
8N－D5	Ⅰ・Ⅱ	端部片	塩基岩	(13.0)	(6.9)	(5.6)	(605)	同8
8Q－D1	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(11.6)	(5.8)	(4.0)	(430)	同3
8Q－D2	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(14.8)	(3.8)	(3.0)	(197)	同4
8Q－D3		軸部片	塩基岩	(29.8)	(14.9)	(13.0)		
9F－D1	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(8.6)	(6.7)	(6.2)	(466)	
9F－D2	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(13.2)	(5.0)	(4.5)	(499)	
9G－D1	Ⅱ	軸部片	粘板岩	(9.0)	(1.6)	(1.3)	(39)	同10
9G－D2	Ⅱ	軸部片	安山岩	(12.0)	(2.2)	(1.4)	(69)	
9G－D3	Ⅱ	軸部片	安山岩	(10.6)	(3.6)	(2.2)	(148)	
9G－D4		軸部片	塩基岩	(8.0)	(5.9)	(3.5)	(242)	
9G－D5		軸部片	塩基岩	(11.9)	(5.0)	(4.6)	(412)	
9I－D1	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(6.9)	(2.2)	(1.9)	(52)	
9J－D1	Ⅰ	軸部片	塩基岩	(7.1)	(3.0)	(2.9)	(81)	
9L－D1	Ⅰ	軸部片	粘板岩	(6.5)	(2.8)	(1.8)	(56)	
9N－D1	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(8.8)	(5.8)	(4.2)	(338)	
9M－D2	Ⅱ	軸部片	塩基岩	(8.5)	(5.4)	(5.2)	(365)	
9Q－D1	Ⅲ	頭部片	塩基岩	(28.3)	(13.8)	(13.6)		

遺物番号	出土層位	遺存状態	石質	長さ	巾	厚さ	重さ	挿図番号
10F－D1	Ⅱ	軸部片	塩屋石	(9.2)	(6.1)	(4.4)	(364)	
10F－D2		端部片	塩屋石	(9.2)	(5.2)	(4.7)	(413)	同6
10F－D3		軸部片	塩屋石	(7.7)	(6.3)	(5.6)	(419)	
10G－D1	Ⅱ	軸部片	塩屋石	(14.4)	(5.6)	(3.6)	(324)	
10G－D2		軸部片	塩屋石	(7.5)	(6.3)	(3.8)	(292)	
10G－D3		軸部片	塩屋石	(12.9)	(5.7)	(4.4)	(573)	
10H－D1		頭部片	塩屋石	(13.3)	(4.8)	(3.2)	(355)	
10H－D2		軸部片	塩屋石	(16.0)	(7.5)	(6.0)	(1101)	
10I－D1		軸部片	塩屋石	(6.5)			(125)	
10I－D2		軸部片	塩屋石	(15.8)	(6.7)	(4.9)	(761)	
10J－D1		軸部片	塩屋石	(35.2)	(6.0)	(4.8)	(1923)	
10J－D2		軸部片	塩屋石	(6.0)	(3.9)	(3.2)	(131)	
10L－D1		軸部片	塩屋石	(4.7)	(2.6)	(2.3)	(54)	
10Q－D1	Ⅲ	軸部片	安山岩	(11.3)	(8.0)	(5.1)	(812)	
10Q－D2		軸部片	塩屋石	(9.8)	(3.9)	(3.3)	(199)	

石質は蛇紋岩で、磨製石斧の未製品とも考えられるが、平面形は同3の硬玉製大珠に近く、垂飾の未製品と見られる。

長さ6.0cm、巾2.3cm、厚さ0.9cmで、重さは16gである。

4．石棒（第17表、第91図）

石棒は、瑞穂遺跡が最盛期を迎えたと見られる中期後葉の、主に安山岩を素材にした大型の石棒と、数量では主体を占める後期中葉の塩屋石を素材にした石棒、それ以降の粘板岩を素材にした小型の石棒に大別できる。

塩屋石の石棒（第91図1～8）は、52点出土している。すべて破片で、完形品は出土していない。柱状節理面をそのまま留めている例が6点、柱状節理の稜線などに敲打痕のある例が25点、さらに研磨されている例が21点ある。柱状節理面をそのまま留めている場合、石製品としての加工が加わっていないので石棒と呼ぶのはふさわしくないが、石棒を製作するという意志のもとにこの遺跡に持ち込まれたことが予想できることから、ここへ含めた。

同1・2は、頭部の資料である。同1は敲打の段階で、一部に節理面がそのまま残っている。頭部のくぼみや節理の稜線への細かな敲打の状況が良く分かる資料である。同2は研磨の段階であるが、敲打痕が残っている。断面の形状は、隅丸の四角形である。

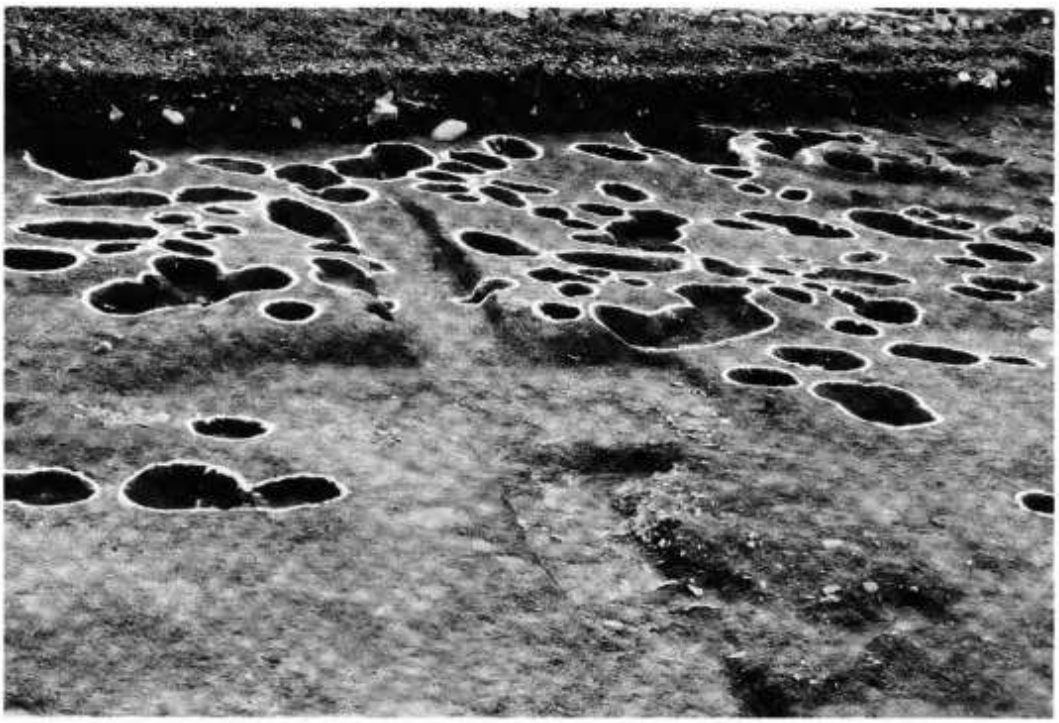
同3～5は軸部の資料である。いずれも節理の稜線だけが加工されているため、断面から塩屋石の柱状節理の様子を伺うことができる。同3は敲打、同4は稜線の研磨、同5は敲打と一部研磨の段階である。

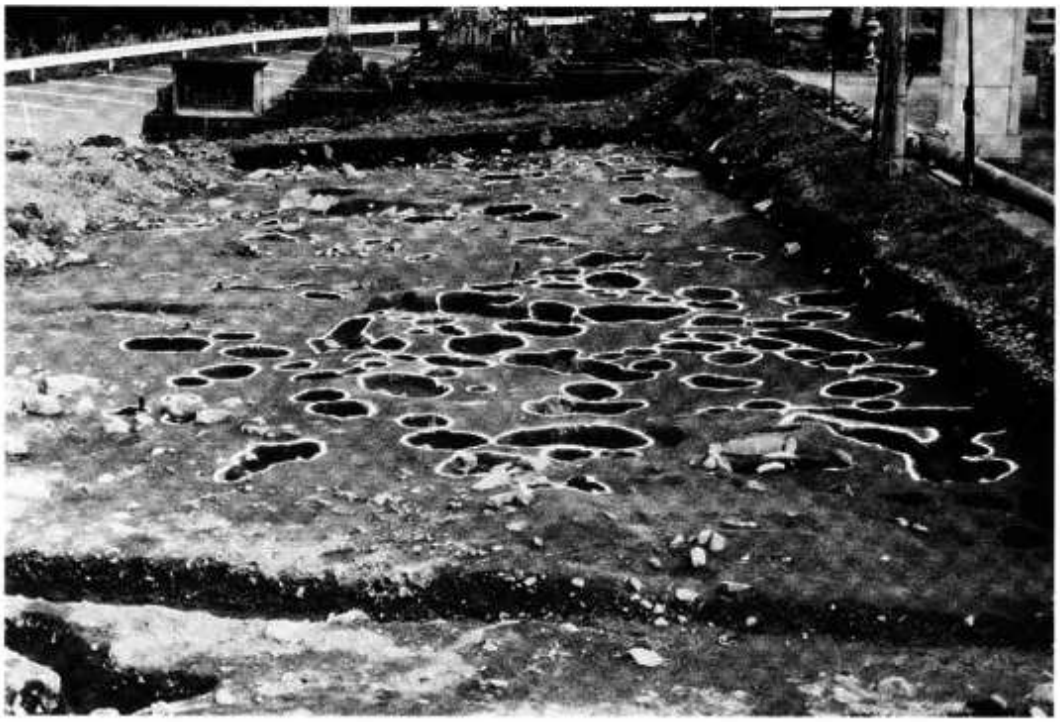
同6～8は端部の資料である。この3点は比較的ていねいに研磨されている例で、断面の形状が円形に近い。同6・7の端部はやや丸みを帯びているものの平坦で、円柱状であるのに対し、同8の端部は円錐状に尖っている。

同9～11は、粘板岩製の石棒である。同9の頭部には、中央に「Ⅰ」字状の図形が刻まれ、その上下に沈線が巡っている。同10は軸部で、ふくらみのある側面に沈線が刻まれている。同11は端部で、断面の形状は四角形に近い。

上：遺跡遠景（北より）
下：遺跡近景（西より）

図版二

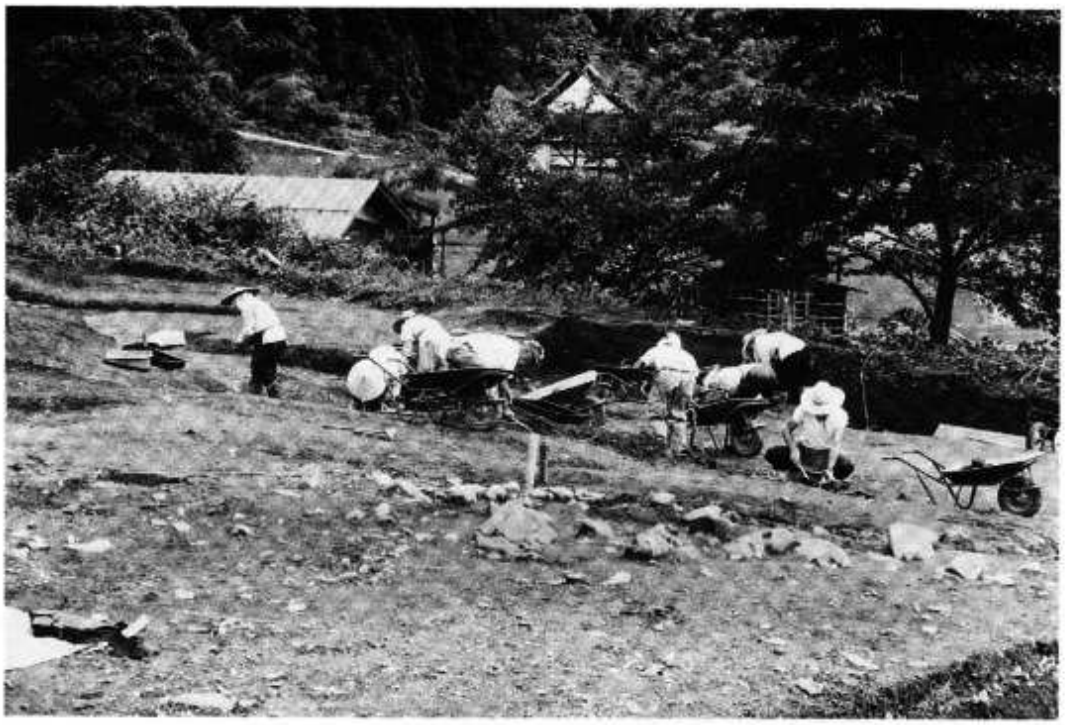




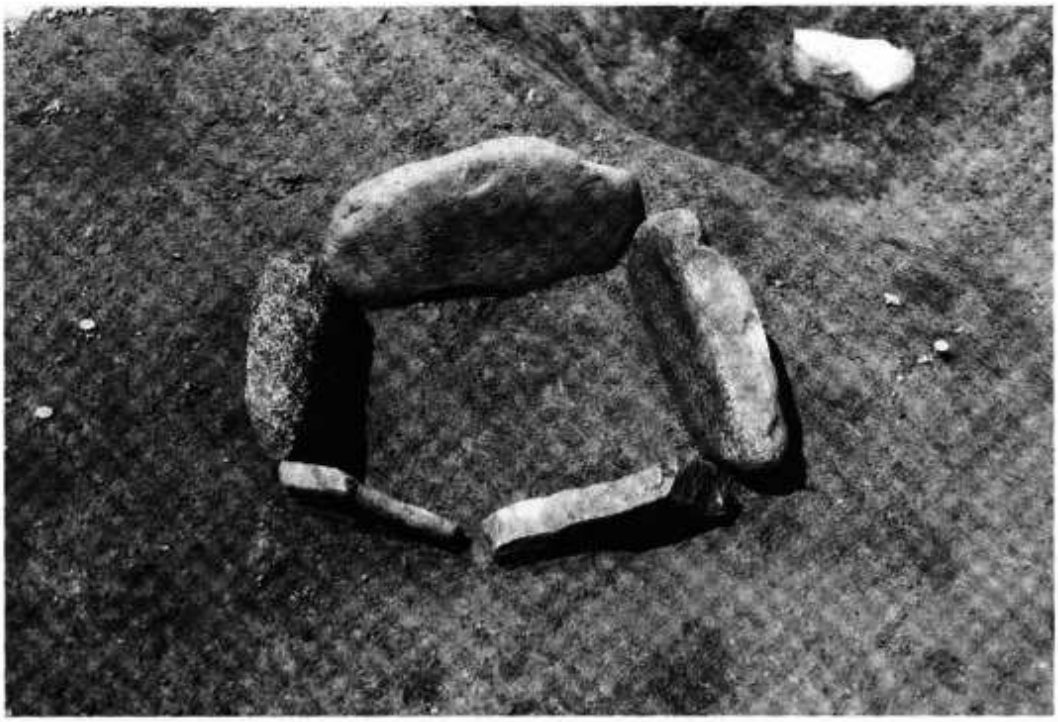
上：南部完掘状態（北より）
下：東部・南部完掘状態（西より）

上：中央部完掘状態（南より）
下：北部完掘状態（南より）

図版四



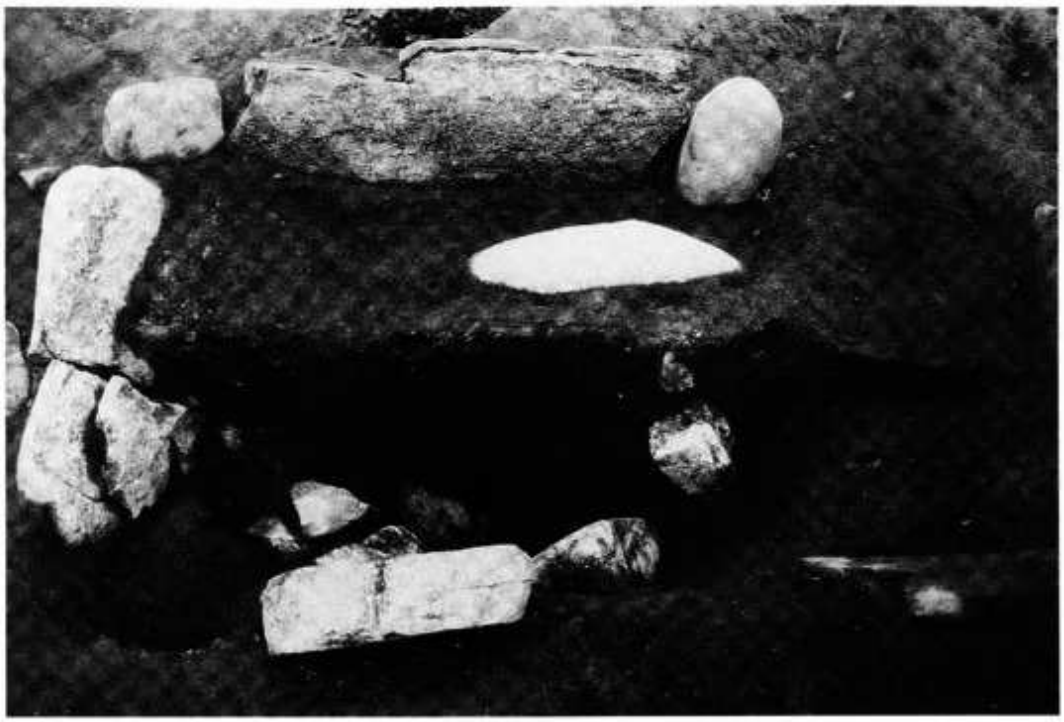
上：調査風景（遺物包含層掘り下げ）
下：調査風景（遺構検出）



上：第１号住居址炉址完掘状態（東より）
下：第２号住居址炉址完掘状態（西より）

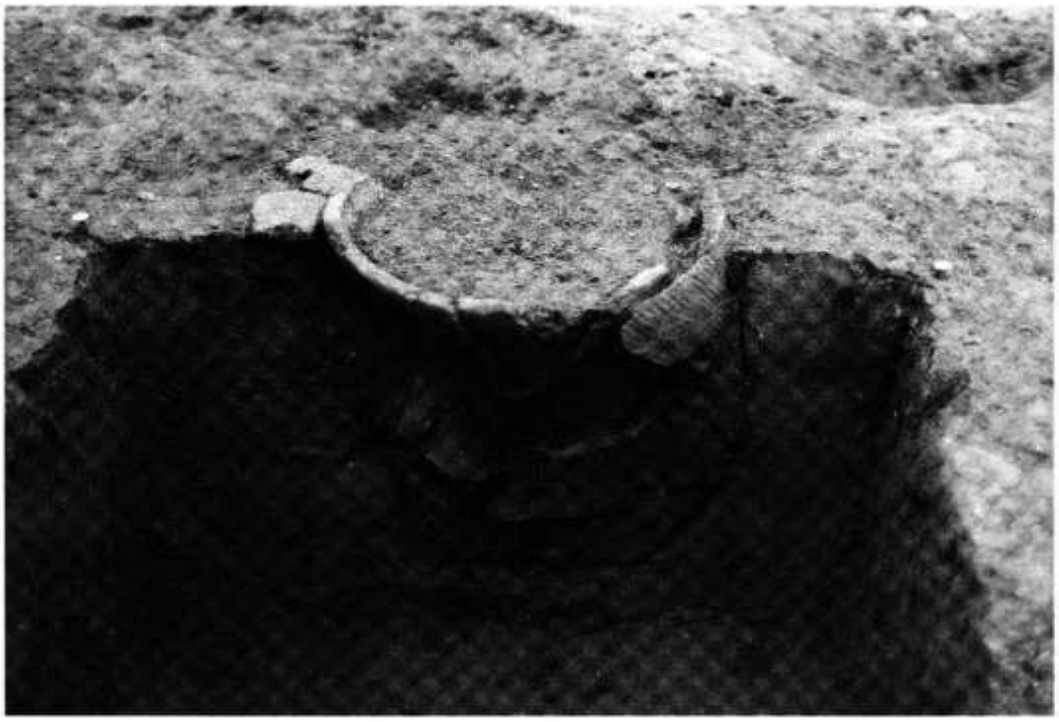
図版六

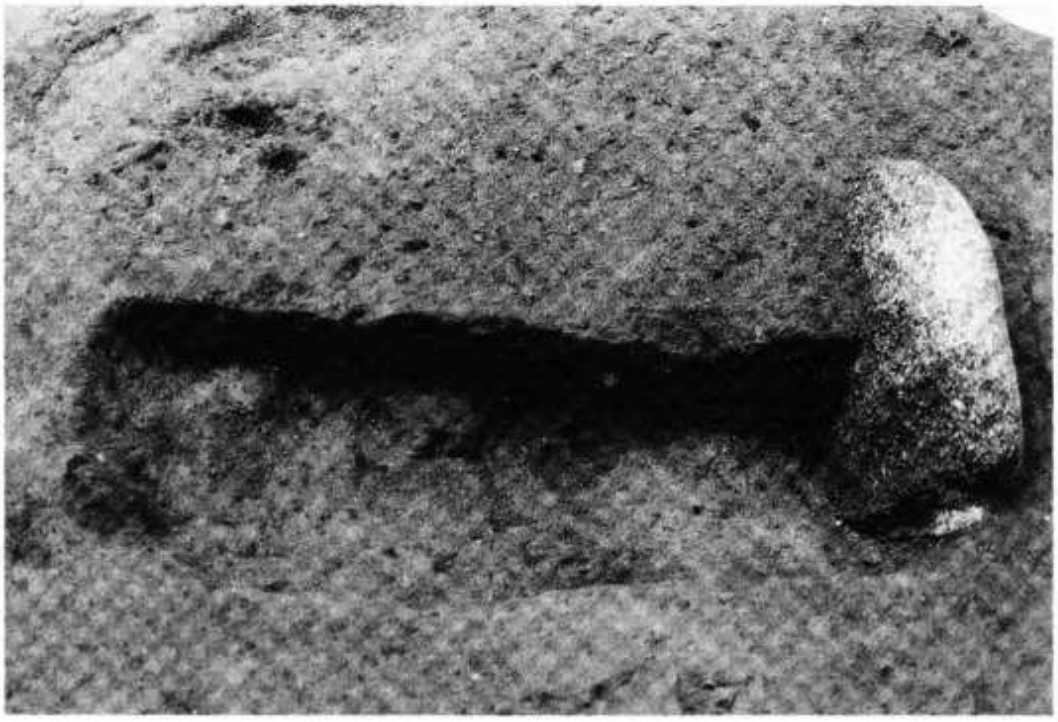
上：第３・４号住居址完掘状態（南より）
下：第３号住居址炉址断面（東より）



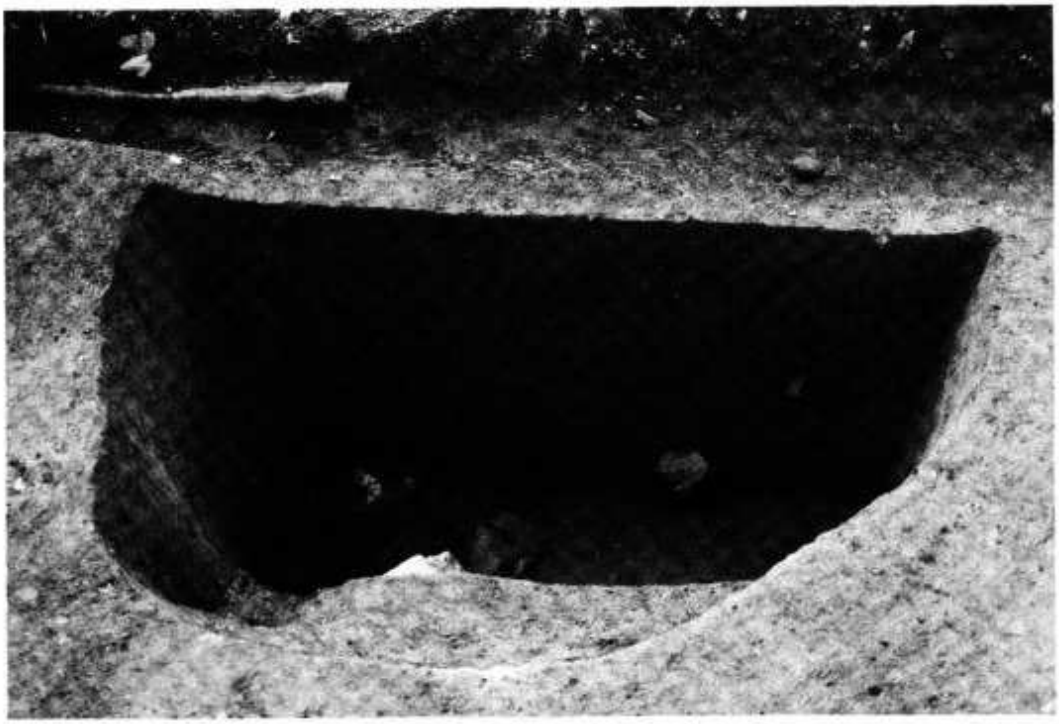
上：第４号住居址炉址断面（西より）
下：第５号住居址完掘状態（東より）

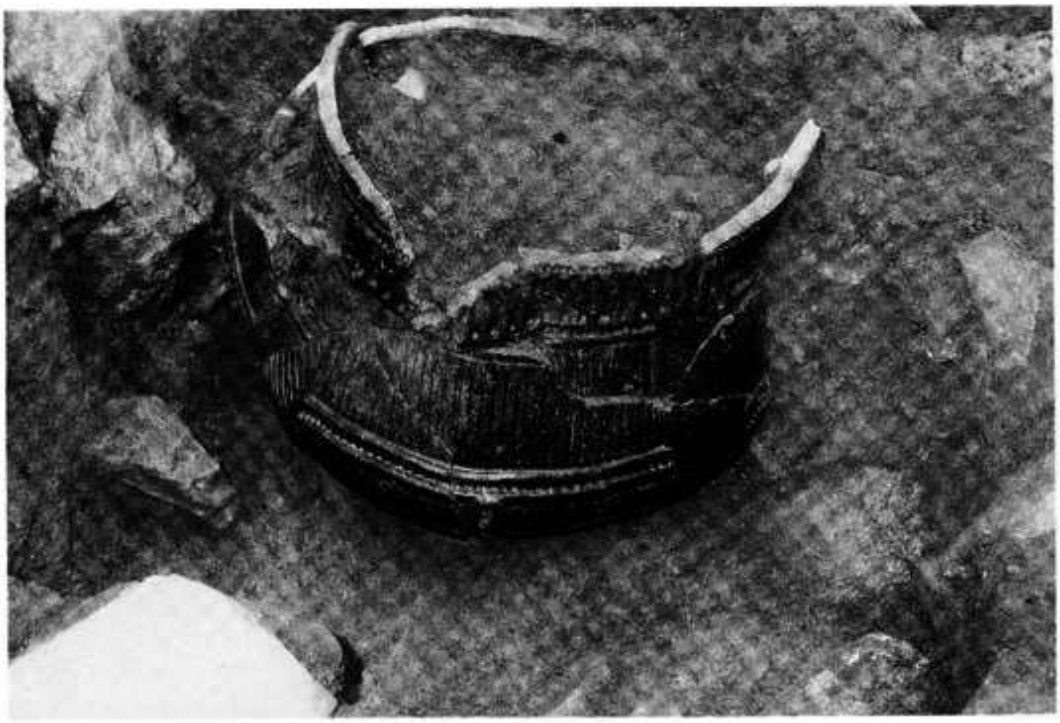
図版八





上：第５号住居址炉址断面（南より）
下：第６号住居址炉址断面（南より）





上：土壙253断面（東より）
下：埋設土器1断面（南より）

図版一〇

上：埋設土器3断面（西より）
下：埋設土器4断面（西より）

報告書抄録

書　名	岐阜県吉城郡宮川村 杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書
副書名	山村都市交流環境総合整備モデル事業に伴う 埋蔵文化財調査報告
編集者	早川正一・河野典夫
編集機関	宮川村埋蔵文化財調査室
所在地	〒509-45 岐阜県吉城郡宮川村塩屋104番地 飛騨みやがわ考古民俗館 TEL 0577-62-3251
発行日	1996年3月29日
遺跡名	杉原瑞穂遺跡（すぎはらみずほいせき）
所在地	岐阜県吉城郡宮川村大字杉原
時　代	縄文時代中・後・晩期（中期中心）
主な遺構	中期住居址5基・土坑268基・埋設土器4基
主な遺物	縄文土器・土製品・石器・石製品

岐阜県吉城郡宮川村

杉原瑞穂遺跡発掘調査報告書

山村都市交流環境総合整備モデル事業に
伴う埋蔵文化財調査報告

発行日　1996年3月29日
発行者　岐阜県・宮川村教育委員会
編　集　宮川村埋蔵文化財調査室
印刷者　㈲村坂印刷